

静岡県富士郡芝川町

大鹿窪遺跡 窪 B 遺跡

— 泉宮中山間地域総合整備事業 柚野の里地区ほ場整備に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 —

(遺構編)

2003年
芝川町教育委員会



大鹿塚遺跡遺景（西方上空から）



大鹿塚遺跡透景 3-1 調査区 (西方上空から)

序 文

霊峰富士の山麓では、富士山に降る雨水や雪解け水が地下を伏流し、再び地上に顔を出す湧水が数多く見られます。その湧水を集めて流れる芝川が、本州中央を南下してきた富士川に合流する地点、静岡県と山梨県の境に芝川町があります。芝川をはじめとする美しい水と豊かな自然に恵まれたわが町には、原始・古代より人々が生活してきた痕跡が数多く残されています。

「大鹿窪遺跡」は、発掘調査当時「窪A遺跡」と呼ばれた遺跡で、中山間地域総合整備事業に伴う試掘調査でその存在が明らかとなり、平成13年度に発掘調査が行われました。調査が進むにつれて、縄文時代草創期に属する大量の遺物や10基以上の住居跡が出土するなど、この時代としては類のない大規模な遺跡であることが判明しました。

住居跡は自然地形を利用した集落の形を成していて、縄文時代最古の集落跡として全国的な注目を集めました。町の総人口を超えるほどの多くの方が遺跡を訪れるなど、山あいの静かな町は思いがけない遺跡騒動に沸き上がるとともに、一躍「縄文のまち」として全国に名を知られることとなりました。現在、町内には40以上の遺跡が確認されていますが、今まで埋蔵文化財の調査があまり行われなかったこともあり、まだまだ貴重な遺跡が残っている可能性があります。

悠久の歴史の中で祖先が残してきた貴重な文化財を後世に伝えていくことは、現代を生きる我々の使命であります。近年、開発行為に伴い遺跡が発掘され、長い年月の間眠り続けてきた遺跡がやむを得ず破壊されていることは、近代化に伴う弊害ともいえるでしょう。地域の歴史を考える上で価値のある遺跡については、なるべく現状のまま保存されることを望んでやみません。

今回、この「大鹿窪遺跡」と、同時に発掘した「窪B遺跡」の調査結果を合わせて報告書としてまとめ、今年度は「遺構編」、次年度以降に「遺物編」を刊行することとなりました。この報告書が、旧石器時代から縄文時代への移り変わり、遊動・移動する生活から定住化していく過程を考える上で貴重な史料になることを期待しています。

最後になりましたが、今回の調査がこれだけの大きな成果をあげることができましたのも、関係各位の御理解と御協力のおかげと深くお礼申し上げます。また、発掘調査から本書の刊行まで、御協力、御支援賜りました地権者並びに地域の皆様にも、心より感謝申し上げます。

平成15年3月20日

芝川町教育委員会

教育長 佐野 實

例 言

1. 本書は静岡県富士郡芝川町大鹿窟に所在する大鹿窟遺跡・窟B遺跡の発掘調査報告書である。
大鹿窟遺跡は従来、窟A遺跡と名付けられていたが、本報告書の刊行をもって大鹿窟遺跡で名称を統一する。既に報告されたものに関してはそのまま窟A遺跡で記載する。
2. 本書に係わる調査は、平成13年10月27日から平成14年3月22日まで大鹿窟遺跡・窟B遺跡発掘調査を実施した。平成14年9月27日から平成15年3月20日まで遺構編の整理事業と報告書（遺構編）の作成を実施した。
平成16年3月に報告書（遺物・分析編）の刊行を予定している。その中で遺構・遺物の考察及び総合的自然科学分析の記述を行う。

3. 発掘調査にあたっては静岡県教育委員会文化課の指導のもと、芝川町教育委員会が調査主体者となり、調査を進めた。

調査主体者	芝川町教育委員会	教育長	佐野 恒美（平成13年度）
	同	同	佐野 實（平成14年度）
調査事務局	同	事務局長	遠藤 明男
	同	主幹	政野 勝樹
	同	担当	保竹 貴幸（平成14年度）
事業主体者	静岡県富士農林事務所	所長	落合 喜光（平成13年度）
	同	同	戸塚 博夫（平成14年度）
	同	担当	亀崎 茂男
指導機関	静岡県教育委員会文化課	課長	下山 峰雄
	同	主席指導主事	渡瀬 治（平成13年度）
	同	同	及川 司（平成14年度）
		担当	中嶋 郁夫（平成13年度）
		同	中川 律子
調査実施機関	（株）東日文化財調査室	室長	小金澤保雄
	同	調査員	武田 英俊
	同	同	小谷 亮二

4. 整理・報告書の作成は小金澤・武田・小谷・瀬川裕市郎が中心となり、小金澤彩可・渡邊恩・神田綾美・田中洋子・井倉洋子・南雲淳子・長谷川順子・鍵山友里・成岡直美・秋山富士子の補助を得て行った。
5. 発掘調査・報告書作成においては、次の方々のご助言を賜った。（敬称略、五十音順）
新井正樹・池谷信之・伊藤恒彦・植松章八・漆畑聡・江坂輝弥・大塚達朗・大塚淑夫・岡村道雄・加藤勝仁・金子直行・金子浩之・河合修・北垣俊明・柳原功一・小林賢一・小林達雄・坂井秀弥・

笹原芳郎・笹原千賀子・佐野五十三・柴田睦・杉山宏夫・鈴木敏中・鈴木保彦・高尾良之・
建部恭宣・辻真人・鶴田晴徳・富樫孝志・戸田哲也・中村大・保坂康夫・堀越知道・前島秀張・
馬飼野行雄・増島淳・松本一男・宮尾亮・宮崎朝雄・向坂綱二・村松佳幸・関間俊明・望月明彦・
守屋豊人・山本恵一・山田昌久・若林淳之・渡井英誉・渡井義彦

6. 本書に係わる発掘調査の記録は、芝川町教育委員会で保管している。

7. 発掘調査参加者は以下の通りである。

測量調査員 玉井彰一・坂下 晃

作 業 員 市川勲・深澤嘉作・阿倍稔男・天野秀男・勝俣利雄・斎藤之弘
佐藤法大・佐野未芳・田中稔・堤健一・古郡善明・村野立巳
依田佐太郎・渡辺剛・渡辺敏雄・市川佐一・遠藤徳・遠藤宗政
勝俣さち子・勝又義行・榊原文夫・佐野勇・篠原栄一・篠原武司
篠原常夫・清光彦・深沢広・深沢國義・深沢徳治・望月彦市
望月まゆみ・山本忠・山本かね子・山本さつき・渡邊伴儀・渡邊藤夫

凡 例

- ・本報告書は大鹿窪遺跡と窪B遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書の合本であるため、以下の内容は共通とした。
 - 1 はじめに
 - 2 遺跡の地理的環境と歴史的環境
 - 7 まとめ
- ・グリッド配置は基点を南西に置き、大鹿窪遺跡・窪B遺跡の調査範囲全体を表現している。
- ・測地系日本国内を使っている。
- ・遺構は調査区単位に掲載し、その各遺構番号は調査時の番号を改め、掲載順に1から付すことを基本としている。また大鹿窪遺跡・窪B遺跡は別遺跡であるから遺跡毎に遺構番号を1から付した。
- ・引用・参考文献の編者名は敬称等を略させていただいた。
- ・遺構遺物出土分布・層別遺構分布・遺物出土状況等は遺物編に記載するため掲載していない。

目次

序文	
例言	
凡例	
大鹿窪遺跡・窪B遺跡	
1 はじめに	3
(1)調査の経緯	3
2 遺跡の地理的環境と歴史的環境	5
(1)地理的環境	5
(2)歴史的環境	6
(3)静岡県史の縄文時代草創期	9
(4)芝川町の遺跡	10
大鹿窪遺跡	17
3 調査概要	19
(1)調査の経過	19
(2)層序	22
4 調査結果	35
(1)遺構	35
窪B遺跡	157
5 調査概要	159
(1)調査の経過	159
(2)層序	159
6 調査結果	159
(1)遺構	159
7 まとめ	178
引用・参考文献	192
報告書抄録	194
写真図版	195
自然科学分析編	219
芝川大鹿窪遺跡と富士山芝川溶岩流	221
大鹿窪遺跡・窪B遺跡に堆積するテフラについて	226
年代測定分析の結果	231

挿図目次

図1	大鹿窪・窪B遺跡の位置と周辺の地形	4
図2	大鹿窪・窪B遺跡と周辺の遺跡	13
図3	大鹿窪・窪B遺跡範囲図	14
図4	大鹿窪・窪B遺跡調査対象区域図	15
図5	土層セクション図① 2-2・2-3調査区	24
図6	土層セクション図② 2-4調査区	25
図7	土層セクション図③ 2-5調査区	26
図8	土層セクション図④ 3-1調査区	27
図9	土層セクション図⑤ 3-2A・3-2B調査区	28
図10	土層セクション図⑥ 3-2C調査区①	29
図11	土層セクション図⑦ 3-2C調査区②	30
図12	土層セクション図⑧ 3-3A・3-3B調査区	31
図13	土層セクション図⑨ 3-3C調査区	32
図14	土層セクション図⑩ 3-3D・3-3E調査区	33
図15	土層セクション図⑪ 3-4調査区	34

大鹿窪遺跡

図16	2-1調査区 縄文時代 平面図	38
図17	2-2調査区 縄文時代 遺構分布図	39
図18	2-2調査区 縄文時代 溝状遺構実測図	40
図19	2-2調査区 縄文時代 土坑・ピット実測図①	41
図20	2-2調査区 縄文時代 土坑・ピット実測図②	42
図21	2-2調査区 縄文時代 ピット実測図①	43
図22	2-2調査区 縄文時代 ピット実測図②	44
図23	2-3調査区 縄文時代 平面図	45
図24	2-3調査区 弥生時代以降 遺構分布図	50
図25	2-3調査区 弥生時代以降 1号柱穴列跡実測図	51
図26	2-3調査区 弥生時代以降 土坑実測図	51
図27	2-4調査区 縄文時代 遺構分布図	52
図28	2-4調査区 縄文時代 土坑実測図	53
図29	2-4調査区 弥生時代以降 遺構分布図	54
図30	2-4調査区 弥生時代以降 土坑実測図①	55
図31	2-4調査区 弥生時代以降 土坑実測図②	56
図32	2-4調査区 弥生時代以降 土坑実測図③	57
図33	2-4調査区 弥生時代以降 ピット実測図	58
図34	2-5調査区 縄文時代 1号埋没谷平面図	59
図35	2-5調査区 弥生時代以降 遺構分布図	60

图36	2-5 调查区	弥生时代以降	1号孤立柱建物跡実測図	61
图37	2-5 调查区	弥生时代以降	2号柱穴列跡実測図	62
图38	2-5 调查区	弥生时代以降	1号土城跡実測図	62
图39	3-1 调查区	縄文时代草創期	遺構分布図	63
图40	3-1 调查区	縄文时代草創期	竖穴状遺構分布図	74
图41	3-1 调查区	縄文时代草創期	1号竖穴状遺構実測図①	75
图42	3-1 调查区	縄文时代草創期	1号竖穴状遺構実測図②	77
图43	3-1 调查区	縄文时代草創期	1号竖穴状遺構実測図③	79
图44	3-1 调查区	縄文时代草創期	2号竖穴状遺構実測図①	81
图45	3-1 调查区	縄文时代草創期	2号竖穴状遺構実測図②	83
图46	3-1 调查区	縄文时代草創期	3号竖穴状遺構実測図	85
图47	3-1 调查区	縄文时代草創期	4・5・14号竖穴状遺構、53号土坑実測図	87
图48	3-1 调查区	縄文时代草創期	4号竖穴状遺構実測図①	89
图49	3-1 调查区	縄文时代草創期	4号竖穴状遺構実測図②	89
图50	3-1 调查区	縄文时代草創期	5号竖穴状遺構実測図①	91
图51	3-1 调查区	縄文时代草創期	5号竖穴状遺構実測図②	91
图52	3-1 调查区	縄文时代草創期	6号竖穴状遺構実測図①	93
图53	3-1 调查区	縄文时代草創期	6号竖穴状遺構実測図②	95
图54	3-1 调查区	縄文时代草創期	7号竖穴状遺構実測図①	97
图55	3-1 调查区	縄文时代草創期	7号竖穴状遺構実測図②	99
图56	3-1 调查区	縄文时代草創期	7号竖穴状遺構実測図③	101
图57	3-1 调查区	縄文时代草創期	9号竖穴状遺構実測図①	103
图58	3-1 调查区	縄文时代草創期	9号竖穴状遺構実測図②	103
图59	3-1 调查区	縄文时代草創期	11号竖穴状遺構実測図	105
图60	3-1 调查区	縄文时代草創期	12号竖穴状遺構実測図	106
图61	3-1 调查区	縄文时代草創期	土坑実測図①	107
图62	3-1 调查区	縄文时代草創期	土坑実測図②	108
图63	3-1 调查区	縄文时代草創期	土坑実測図③	109
图64	3-1 调查区	縄文时代草創期	土坑実測図④	110
图65	3-1 调查区	縄文时代草創期	烧土跡	111
图66	3-1 调查区	縄文时代草創期	1号配石遺構、1号集石遺構実測図	112
图67	3-1 调查区	縄文时代草創期	2・3号配石遺構、2・3号集石遺構実測図	113
图68	3-1 调查区	縄文时代草創期	4・5号配石遺構実測図	114
图69	3-1 调查区	縄文时代草創期	4号集石遺構実測図	115
图70	3-1 调查区	縄文时代草創期	5・6号集石遺構実測図	116
图71	3-1 调查区	縄文时代草創期	7号集石遺構実測図	117
图72	3-1 调查区	縄文时代草創期	8・9号集石遺構実測図	118
图73	3-1 调查区	縄文时代草創期	10号集石遺構実測図	119

図74	3-1 調査区	縄文時代草創期	11号集石遺構実測図	119
図75	3-1 調査区	縄文時代早期	遺構分布図	121
図76	3-1 調査区	縄文時代早期	3号焼土跡実測図	121
図77	3-1 調査区	縄文時代早期	6・7・8号配石遺構実測図	121
図78	3-1 調査区	弥生時代以降	遺構分布図	123
図79	3-1 調査区	弥生時代以降	2号掘立柱建物跡実測図	124
図80	3-1 調査区	弥生時代以降	3号柱穴列跡、41号ビット実測図	125
図81	3-1 調査区	弥生時代以降	3号溝状遺構実測図	126
図82	3-1 調査区	弥生時代以降	土坑実測図	127
図83	3-2 A調査区	縄文時代草創期	遺構分布図	133
図84	3-2 A調査区	縄文時代草創期	9号配石遺構、13号集石遺構実測図	134
図85	3-2 A調査区	縄文時代草創期	12号集石遺構実測図	135
図86	3-2 A調査区	縄文時代早期	遺構分布図	136
図87	3-2 A調査区	縄文時代早期	4・5号焼土跡実測図	137
図88	3-2 A調査区	縄文時代早期	10号配石遺構・14号集石遺構実測図	137
図89	3-2 B調査区	縄文時代	平面図	139
図90	3-2 C調査区	縄文時代	平面図	140
図91	3-3 A調査区	縄文時代	平面図	141
図92	3-3 A調査区	弥生時代以降	遺構分布図	142
図93	3-3 A調査区	弥生時代以降	4・5号柱穴列跡実測図	143
図94	3-3 A調査区	弥生時代以降	土坑実測図	144
図95	3-3 B調査区	弥生時代以降	平面図	145
図96	3-3 C調査区	縄文時代草創期	遺構分布図	146
図97	3-3 C調査区	縄文時代草創期	10号竪穴状遺構実測図	147
図98	3-3 C調査区	縄文時代草創期	11号配石遺構実測図	147
図99	3-3 C調査区	弥生時代以降	遺構分布図	149
図100	3-3 C調査区	弥生時代以降	3号掘立柱建物跡、6号柱穴列跡実測図	150
図101	3-3 C調査区	弥生時代以降	7号柱穴列跡、42号ビット、67号土坑、4号溝状遺構実測図	151
図102	3-3 D調査区	縄文時代	平面図、3-3 E調査区 縄文時代草創期 遺構分布図	152
図103	3-3 E調査区	縄文時代草創期	8号竪穴状遺構実測図	153
図104	3-3 E調査区	縄文時代草創期	13号竪穴状遺構実測図	153
図105	3-4 調査区		遺構分布図	155
図106	3-4 調査区		12号配石遺構、6号焼土跡実測図	156

窪B遺跡

図107	窪B遺跡	土層セクション(北面・東面)	162
図108	窪B遺跡	縄文時代 遺構分布図①	163
図109	窪B遺跡	縄文時代 遺構分布図②	164

図110	窪B遺跡	縄文時代	土坑実測図①	165
図111	窪B遺跡	縄文時代	土坑実測図②	166
図112	窪B遺跡	縄文時代	土坑実測図③	167
図113	窪B遺跡	縄文時代	ピット実測図①	168
図114	窪B遺跡	縄文時代	ピット実測図②	169
図115	窪B遺跡	縄文時代	ピット実測図③	170
図116	窪B遺跡	縄文時代	ピット実測図④	171
図117	窪B遺跡	縄文時代	1・2号集石遺構実測図	173
図118	窪B遺跡	弥生時代以降	遺構分布図	175
図119	窪B遺跡	弥生時代以降	1号掘立柱建物跡実測図、59・60号ピット実測図	176
図120	窪B遺跡	弥生時代以降	土坑実測図	177

表目次

表1	周辺の遺跡一覧	12
----	---------	----

大鹿窪遺跡・窪B遺跡

表2	大鹿窪遺跡	縄文時代	竪穴状遺構一覧	179
表3	大鹿窪遺跡	縄文時代	土坑一覧	180
表4	大鹿窪遺跡	縄文時代	溝状遺構一覧	181
表5	大鹿窪遺跡	縄文時代	焼土跡一覧	181
表6	大鹿窪遺跡	縄文時代	ピット一覧	182
表7	大鹿窪遺跡	縄文時代	配石遺構一覧	183
表8	大鹿窪遺跡	縄文時代	集石遺構一覧	184
表9	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	掘立柱建物跡一覧	184
表10	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	柱穴列跡一覧	185
表11	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	溝状遺構一覧	185
表12	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	土坑一覧	186
表13	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	土壌墓一覧	187
表14	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	焼土跡一覧	187
表15	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	ピット一覧	187
表16	窪B遺跡	縄文時代	土坑一覧	188
表17	窪B遺跡	縄文時代	ピット一覧	189
表18	窪B遺跡	縄文時代	集石遺構一覧	191
表19	窪B遺跡	弥生時代以降	掘立柱建物跡一覧	191
表20	窪B遺跡	弥生時代以降	土坑一覧	191
表21	窪B遺跡	弥生時代以降	ピット一覧	191

写真図版目次

大鹿窟遺跡

写真1	2-1 調査区	調査前風景(南から)	197
写真2	2-1 調査区	重機掘削(東から)	197
写真3	2-1・2・3 調査区	空中写真(左が北)	197
写真4	2-2 調査区	遺構検出状況(北西から)	197
写真5	2-2 調査区	遺構検出状況(南東から)	197
写真6	2-2 調査区	1号土坑検出状況(南西から)	198
写真7	2-2 調査区	1号土坑完掘状況(南西から)	198
写真8	2-2 調査区	2号溝状遺構完掘状況(東から)	198
写真9	2-2 調査区	完掘状況(南から)	198
写真10	2-3 調査区	1号柱穴列跡完掘状況(西から)	198
写真11	2-4 調査区	遺物出土状況(石鏃2点)	198
写真12	2-4 調査区	土坑完掘状況(北西から)	198
写真13	2-4 調査区	36号土坑完掘状況(北から)	198
写真14	2-4 調査区	弥生時代以降遺構検出状況(上が北)	199
写真15	2-5 調査区	1号土壌墓完掘状況(北から)	199
写真16	2-5 調査区	1号土壌墓遺物出土状況(銭貨)	199
写真17	2-5 調査区	1号埋没谷完掘状況(溶岩帯)	199
写真18	2-5 調査区	1号埋没谷完掘状況(底)	199
写真19	2-5 調査区	遺構検出状況 右1号埋没谷(上が北)	200
写真20	2-5 調査区	1号埋没谷から 3-1 調査区 土層セクション(南から)	200
写真21	同左		200
写真22	3-1 調査区	1号竪穴状遺構完掘状況(東から)	200
写真23	同左	(西から)	200
写真24	3-1 調査区	縄文時代草創期遺構検出状況 左に1号埋没谷・右に溶岩帯(上が北)	201
写真25	3-1 調査区	1号竪穴状遺構検出状況(西から)	201
写真26	同左	炉跡と石皿検出状況(南から)	201
写真27	3-1 調査区	2号竪穴状遺構検出状況(西から)	201
写真28	同左	完掘状況(東から)	201
写真29	3-1 調査区	3号竪穴状遺構遺物検出状況(南から)	202
写真30	同左	石皿・磨石他(東から)	202
写真31	3-1 調査区	4号竪穴状遺構遺物検出状況(西から)	202
写真32	同左	石皿・磨石	202
写真33	3-1 調査区	4・5号竪穴状遺構検出状況(東から)	202
写真34	同左	(南から)	202
写真35	3-1 調査区	5号竪穴状遺構検出状況(西から)	202
写真36	同左	完掘状況(北から)	202
写真37	3-1 調査区	近景(南西から)	203
写真38	同左	近景・溶岩帯と富士山(南西から)	203
写真39	3-1 調査区	近景(南東から)	203
写真40	同左	近景(北西から)	203
写真41	3-1 調査区	近景(北西から)	203
写真42	同左	近景(南西から)	203

写真43	3-1 調査区と富士山	203
写真44	3-1 調査区脇の石塔と富士山	203
写真45	3-1 調査区 6号竪穴状遺構検出状況(南から)	204
写真46	同左 石皿検出状況(東から)	204
写真47	3-1 調査区 7号竪穴状遺構確認状況(南から)	204
写真48	同左 検出状況(南から)	204
写真49	3-1 調査区 7号竪穴状遺構検出状況(北西から)	204
写真50	同左(南から)	204
写真51	3-1 調査区 9号竪穴状遺構確認状況(南西から)	204
写真52	同左 検出状況(南から)	204
写真53	3-1 調査区 2・11号竪穴状遺構検出状況(東から)	205
写真54	同左(東から)	205
写真55	3-1 調査区 12号竪穴状遺構検出状況(東から)	205
写真56	同左 竪穴状遺構検出状況(南東から)	205
写真57	3-1 調査区 遠景・空中写真(西から)	205
写真58	3-1 調査区 46号土坑検出状況(西から)	206
写真59	3-1 調査区 47号土坑完掘状況(南から)	206
写真60	3-1 調査区 48号土坑完掘状況(南東から)	206
写真61	3-1 調査区 49号土坑完掘状況(南西から)	206
写真62	3-1 調査区 50号土坑半載状況(西から)	206
写真63	3-1 調査区 51(左)・52号土坑(北から)	206
写真64	3-1 調査区 51(右)・52号土坑(南から)	206
写真65	3-1 調査区 52号土坑(東から)	206
写真66	3-1 調査区 1号焼土跡セクション(東から)	207
写真67	3-1 調査区 2号焼土跡セクション(南から)	207
写真68	3-1 調査区 1号配石遺構検出状況(東から)	207
写真69	3-1 調査区 1号配石遺構検出状況(西から)	207
写真70	3-1 調査区 4号配石遺構検出状況(北から)	207
写真71	3-1 調査区 集石遺構検出状況(南から)	207
写真72	3-1 調査区 4号集石遺構検出状況(西から)	207
写真73	3-1 調査区 11号集石遺構検出状況(東から)	207
写真74	3-1 調査区 11号集石遺構と溶岩帯検出状況	208
写真75	3-1 調査区 縄文時代早期包含層遺物出土状況(南西から)	208
写真76	同左(西から)	208
写真77	3-1 調査区 3号焼土跡確認状況(西から)	208
写真78	3-1 調査区 3号焼土跡半載状況(西から)	208
写真79	3-1 調査区 弥生時代以降遺構検出状況	209
写真80	3-1 調査区 2号掘立柱建物跡遺構検出状況(西から)	209
写真81	3-1 調査区 3号柱穴列跡と土坑検出状況(東から)	209
写真82	3-1 調査区 3号溝状遺構検出状況(北から)	209
写真83	3-1 調査区と3-2 調査区 遠景(北から)	210
写真84	3-2 A 調査区 12号集石遺構検出状況(西から)	210
写真85	3-2 A 調査区 遺物出土状況(尖頭器)	210
写真86	3-2 B 調査区 完掘状況(北から)	210
写真87	3-2 B 調査区 東壁セクション	210

写真88	3-2 C調査区	完掘状況(北から)	211
写真89	3-2 C調査区	完掘状況(南から)	211
写真90	3調査区	完掘状況(上が北)	211
写真91	3-3 A調査区	柱穴列跡完掘状況(南西から)	211
写真92	3-3 B調査区	完掘状況(東から)	211
写真93	3-3 B調査区	完掘状況(上が北)	212
写真94	3-3 C調査区	北壁土層セクション(南から)	212
写真95	3-3 C調査区	完掘状況(西から)	212
写真96	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構完掘状況(北から)	212
写真97	3-3 C調査区	10号竪穴状遺構完掘状況(西から)	212
写真98	3-3 C調査区	3号掘立柱建物跡完掘状況(南から)	213
写真99	3-3 C調査区	4号溝状遺構完掘状況(北から)	213
写真100	3-3 C調査区	67号土坑完掘状況(北から)	213
写真101	3-3 C調査区	完掘状況(上が北)	213
写真102	3-3 D・E調査区	遺構検出状況(上が北)	214
写真103	3-3 D調査区	完掘状況(南から)	214
写真104	3-3 E調査区	完掘状況(西から)	214
写真105	3-3 E調査区	8号竪穴状遺構完掘状況(南から)	214
写真106	同左	(南西から)	214
写真107	3-3 E調査区	8号竪穴状遺構遺物出土状況(尖頭器)	215
写真108	3-3 E調査区	13号竪穴状遺構遺構検出状況(南から)	215
写真109	3-4調査区	完掘状況(左が北)	215
写真110	3-4調査区	6号検土跡半載状況(東から)	215
写真111	3-3 E調査区	保存埋め戻し状況(南西から)	215
写真112	窪B遺跡	遠景(南西から)	216
写真113	窪B遺跡	遠景(上が北)	216

窪B遺跡

写真114	窪B遺跡	調査前風景(南から)	217
写真115	窪B遺跡	重機掘削(南東から)	217
写真116	窪B遺跡	北壁土層セクション(南から)	217
写真117	窪B遺跡	縄文時代遺構検出状況(東から)	217
写真118	窪B遺跡	縄文時代遺構検出状況(北東から)	217
写真119	窪B遺跡	1号掘立柱建物跡検出状況(東から)	217
写真120	窪B遺跡	完掘状況(西から)	217

大 鹿 窪 遺 跡
窪 B 遺 跡

1 はじめに

(1)調査の経緯

静岡県富士郡芝川町の北西、天子山地と羽鉾丘陵に囲まれた比較的平坦な地形に、柚野地区がある。この地区は町内を縦断する芝川のほか、富士山麓の湧水を水源とする豊かな水を利用した水田地帯が広がり、町の農産業を支える基盤となっている。

この地区に、静岡県富士農林事務所（以下「富士農林」という。）が開発者となり、町の基幹産業である農業の基盤整備を目的とした、中山間地域総合整備事業柚野の里地区は場整備が計画された。平成12年1月には、4工区分約36haにおよぶ事業計画が、静岡県教育委員会（以下「県教委」という。）に提出された。

計画地は周知の遺跡とその周辺に計画されていたため、県教委の指導を受けて、平成12年10月に県教委と芝川町教育委員会（以下「町教委」という。）が現地踏査を行った。その結果、対象地の地形と、過去に町内で埋蔵文化財の分布調査が十分に行われていないことなどから、周知の遺跡の確認調査だけでなく、計画地全域の試掘調査の必要があると判断した。その後、富士農林、県教委、町教委で埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、計画地を対象に試掘・確認調査を行うこととなった。

調査は、県教委の指導により、調査箇所として110箇所約544㎡を選定し、富士農林の委託を受けて、町教委が実施することとなった。町教委は、調査を担当できる埋蔵文化財専門員がいなかったため民間の専門業者に委託し、平成13年1月22日から平成13年3月23日に試掘・確認調査を行った。調査の結果、大鹿窪遺跡、窪B遺跡を含む8遺跡が新たに確認された。

この結果を受けて関係者間で協議を重ね、事業を進めるにあたり遺跡全域の現状保存は不可能であると判断し、発掘調査が必要となった。事業工程を考え、4工区のうち久保工区約9haの計画地内にある大鹿窪遺跡及び窪B遺跡については、平成13年度中に発掘調査が行われることとなった。調査範囲については、県教委の指導により、周知の範囲内を通る水路部分及び道路部分は約3,846㎡が対象となった。試掘・確認調査と同様に、富士農林から町教委が調査の委託を受け、町教委が民間の専門業者に委託して、平成13年10月27日から平成14年3月22日にかけて発掘調査を実施した。

また、当初は調査後1年間で報告書を作成する予定であったが、調査の成果が予想以上のものであったため、報告書の作成について関係者で協議を行った。その結果、「遺構編」、「遺物編」と分けて、複数年をかけて報告書を作成することとなった。

なお、大鹿窪遺跡は調査当時「窪A遺跡」という遺跡名であったが、県教委の助言もあり、遺跡周辺の大字名である印象的な固有名詞をつけて、平成15年2月に「大鹿窪遺跡」と改名している。

(保竹)



図1 大鹿窪・窪B遺跡の位置と周辺の地形

2 遺跡の地理的環境と歴史的環境

(1) 地理的環境

大鹿窪・窪B遺跡が所在するのは静岡県富士郡芝川町大鹿窪である。駿河湾の最奥部では富士川が海に流れ込んでいる。その富士川を河口から約13km遡ると支流の一つである芝川が芝川町船島で合流する。その合流地点から北約6km遡った左岸の水田地帯に遺跡が広がっている。

周辺の地形・地質は新第3紀礫岩質からなる天子山地、古富士火山の泥流からなる羽鮎丘陵、天子山地と羽鮎丘陵に挟まれた芝川谷に大きく3分類できる。本遺跡は羽鮎丘陵に接する芝川谷の北東から南西に向かって緩やかに傾斜する標高約175mに位置する。本遺跡の北東方向に古富士の山体である羽鮎丘陵越しに富士山を見ることができる。

本遺跡周辺は富士山の火山活動を直接・間接的に受けてきた。富士山の年代が確実な記録は奈良時代末葉の781年であるが、地質学では富士山の火山活動によって供給された降下火山灰や溶岩を調査し、また年代測定によって土層に年代が与えられている。

地質学では約10,000年前を境にそれより古い富士山を古富士火山、新しい富士山を新富士火山と呼んでいる。富士山は約80,000年前頃から古富士火山が活動を始め、約66,000年前を境に前・後期に2分されるが、古富士火山は大量のスコリアを噴出する火山活動をしていたと考えられている。

愛鷹山麓では火山活動によって堆積した愛鷹上部ローム層から旧石器時代以降の遺構・遺物が検出されているが、現在はB層の約29,000年前から県内最古級の石器が出土している。

古富士火山は溶岩が少なく玄武岩質泥流からできており、その炭素14年代は約24,000～16,000年BPとされる。

約10,000年前からの新富士火山の前半期は溶岩流を主体とする火山活動で、広範囲には降下火山灰が認められていない。この溶岩は噴出順に旧・中・新时期に分けられている。この旧期溶岩流に三島溶岩流があり、約10,490年BPの年代が測られている。

この時期の土層はFB層と呼ばれる。FB層は古富士黒土と新富士黒土の間に黄褐色土のスコリア(FBsc)層があり、縄文時代草創期の隆起線文土器や押圧縄文土器の包含層となっている。この直上からは縄文時代草創期の表裏縄文土器が出土していることから古富士黒土相当層を縄文時代草創期前半、新富士黒土相当層を縄文時代草創期後半とすることも可能になってきている。これ以降の大きな火山活動に中期溶岩流にともなった大沢火砕流(約3,000年BP)、新时期溶岩の青沢溶岩(約2,000年BP)等の火山活動がある。

他方、富士山北側の当該期については、都留市に所在する中谷遺跡第13層がS-0期の新期富士黒土層でふかふかした淡黒色の腐植土で、S-0-1～2期の約10,500～9,200年前のものとして推定している。下位の第14層は全黒色腐植土で締まっており、このテフラ層Y-141-3は、古期富士黒土層中の赤色スコリアをさしている。この層の概略の腐植土年代は11,700～11,200年BPである。第15層は暗黄褐色風化帯で赤褐色スコリア礫を含んでいる。テフラはY-141-1～2で、12,500～11,700年BPとされる。

また富士火山は約14,000～8,000年前にかけて大量の古期溶岩類が流出し、梨が原溶岩・猿橋溶岩等と呼ばれている。

注 参考・引用文献

池谷信之 2001 「第Ⅱ章 遺跡の環境」(『葛原沢第Ⅳ遺跡(a・b区)発掘調査報告書1』)

上杉陽 1996 「第5節 都留市小形山中中谷遺跡のテフラ層序」(『中谷遺跡』)

- 静岡県 1990 「第一章 先土器」(『静岡県史 資料編1 考古一』)
- 静岡県 1996 「第2章 静岡県の自然災害史」(『静岡県史 別編2 自然災害史』)
- 高橋豊 1995 「第1節 小塚遺跡(第3次調査)の地質柱状断面にみる火山灰層序と遺跡層序」(『小塚遺跡 —金指建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次発掘調査報告書 一』)
- 土隆一 1995 「芝川流域の地形・地質と水環境」(『芝川町芝川流域の水環境 —芝川町地域開発環境配慮指針策定事業報告一』)
- 前島秀張 2001 「1 愛鷹山麓の旧石器と後期古墳 —第二東名No.25地点遺跡一」(『静岡の原像をさぐる —発掘調査報告会一』)
- 山梨県 1999 「1 年代・層位」(『山梨県史 資料編2 原始・古代2』)
- 由比将男 1995 「愛鷹火山と箱根火山の形成と愛鷹ローム層」(『静岡県考古学会シンポジウムⅩ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』)

(2)歴史的環境

古代

芝川町の町域は富士川の左岸が古代より富士郡、右岸は庵原郡に属するが、芝川町内が古代史の記録に確実に登場するのは平安時代末期を待たなければならない。ここでは富士郡に関わる記事を中心に述べる。

富士に関係する史料がまず見られるのは『聖德太子伝曆上』推古天皇六年(598)九月条に聖德太子が甲斐国から献上された黒駒に乗って附神(富士)岳に登った記事である。

次は『日本書紀』皇極天皇三年(644)七月条の記事で、不尽河(富士川)の辺の人、大生部多が常世神を祭り民を惑わしているとして、秦造河勝が大生部多を打ち懲らすことが記載されている。この前者と後者の記事に共通する人物が秦造河勝で、秦造河勝は推古天皇十一年(603)十一月に聖德太子の呼びかけに応じて仏像を受けて、蜂岡寺を造営した人物である。この秦氏一族の秦造田來津は軍人であったことが『日本書紀』天智天皇即位前記条に記載されている。この記事に関連する人物は白村江の戦いに日本国教将として参戦した廬原君である。これらの記事との関係から渡米系秦氏と駿河国の富士山・富士川を中心とした地域との関係が指摘できる。

富士郡を象徴する富士山が史料で確認できるのは火山活動を記載した記事で、『続日本紀』天応元年(781)七月癸亥条の記事に富士山が噴火して灰を降らし植物が枯れたと書かれている。それ以前には奈良時代前半に富士山を記したものは『万葉集』巻三の三一八番歌の山部赤人「田子の浦ゆうち出て見れば真白にそ不尽の高嶺に雪は降りける」と三一九番歌の高橋虫麻呂の「燃ゆる火を雪もち消え降る雪を火もち消ちつつ」である。前者は火山活動が静まった時を詠んだと思われる。後者は富士山が噴火し山頂に降る雪が溶けて消えてしまう様子の火山活動を詠んだものである。

平安時代になると延暦十九年(800)六月癸酉条(日本紀略)には「富士山嶺自焼、昼則烟気暗蔽、夜則火光照天」と書かれている。延暦二十一年(802)正月乙丑条(日本紀略)には富士山が噴火したことが書かれ、同年五月甲戌条(日本紀略)の記事には富士山の噴火によって塞がれた足柄路を廢して、箱根路を開くと記されている。

貞観六年(864)五月二十五日庚戌条・七月二十七日辛丑条(日本三代実録)の記事には富士山の噴火によって焙岩が甲斐の国に流れて地形を大きく変えたことが書かれ、山梨県側に大きな被害が及び、青木

ヶ原樹海や富士五湖がこれによってできた。

火山活動を繰り返す富士山と信仰については、平安時代前期の都良香による漢詩文「富士山記」(本朝文粹)のなかで、「常見煙火」と書かれ、火山活動が続いていることがわかる。またその他に周辺人民の畏敬の念、信仰や祭祀について書かれている。

富士山を御神体とする浅間神社は火山活動が起こることによって神階が昇叙していくことが貞観六年(864)「正三位浅間大神」(日本三代実録)と延喜七年(907)の「富士明神従二位」(諸社根記)により記載されている。

記録に残る富士山の噴火のなかでは延暦十九年(800)、貞観六年(864)、宝永四年(1707)の噴火が特に大規模であったと推定されている。

記録に残る主な富士山の火山活動の記録を下記に一覧する。

西暦	和暦	内容
781	天応元年七月六日	噴火して、灰を降らせる
800	延暦十九年六月六日	噴火して、灰を雨のように降らせる
802	延暦二十一年正月八日	噴火して、砂礫を降らせる
802	同年五月十九日	噴火によって塞がれた足柄路を廃し、箱根路を開く
864	貞観六年五月二十五日	噴火して、熔岩が本栖水海に流れ込む
999	長保元年三月七日	噴火についての神祀官・陰陽寮の卜を議した
1033	長元六年二月十日	去年十二月十六日噴火する
1083	永保三年三月二十八日	噴火する
1707	宝永四年十一月二十三日	噴火する

(静岡県1989・1994・1996から作成)

また平安時代には既に富士山は山岳信仰の修験の地として知られていた。富士宮市の村山浅間神社の確認調査では平安時代10世紀代の緑釉陶器素地が出土し、山岳宗教との関連の可能性があると考えられた。また富士宮市浅間大社内の発掘調査では平安時代末期の12世紀代の竪穴状遺構と遺物が検出された。

源頼朝と富士郡

治承四年(1180)十月十八日源頼朝は大軍を率いて箱根山を越え、駿河郡木瀬河宿に着いた。この宿で甲斐源氏武田軍と北条時政軍が合流した。十月二十日に源頼朝軍が富士川下流の富士郡加島で平維盛軍と対峙した。

建久四年(1193)五月十五日には源頼朝による富士山周辺で富士の巻狩りが六月七日まで行われた。この間の五月十六日には源頼朝の長子頼家が初めて鹿を射止めたこと、五月二十七日には源頼朝の眼前に大鹿が現れたことが書かれている。

中世を通じて本町域は富士上方と呼ばれた。鎌倉時代には富士郡は日蓮の布教の中心地で、その駿河門徒に西山殿・三沢氏・内房尼がいた。三沢氏は大鹿望の在地領主で屋敷を三沢寺と称していたとされる。

富士宮市元城町に所在する元富士大宮司館跡から12～16世紀かけての遺構と遺物が検出され、富士宮浅間宮の大宮司職の居館跡とされるものの発見があり、当該期の調査事例が少ないこともあり貴重な考古学資料を提供した。

戦国時代の富士郡

戦国時代は相模の北条・甲斐の武田・駿河の今川3氏の境目にあたり、争いの場となった。駿河国と甲斐国の境の葛谷峠には武田氏が改修した葛谷城、白鳥山には今川氏の白鳥山城があった。

富士宮市浅間大社には、浅間大社に関わりをもった時の権力者が発給した中世文書が残されており、境目としての実状を知ることができる。ここでは浅間大社（大宮司富士氏文書）に発給された中世文書の一部を下記に一覧する。

西暦	和暦	発給者
1362	康安二年正月十一日	今川範氏
1384	至徳元年十二月十二日	今川泰範
1435	永享六年十月廿五日	今川範忠
1523	大永三年十二月十九日	今川氏親
1532	天文元年十一月廿七日	今川氏輝
1537	(天文六年)三月八日	今川義元
1547	天文十六年二月初二日	武田信友
1561	永禄四年七月廿七日	今川氏真
1568	(永禄十一年)十二月十九日	北条氏政
1569	永禄十二年二月廿五日	北条氏康
1571	元亀二年十月廿六日	北条氏真
1572	元亀三年卯月二日	武田信玄
1573	元亀四年七月廿五日	武田勝頼
1590	天正十八年十二月廿八日	豊臣秀吉
1591	天正十九年卯月日	中村一氏
1599	慶長四年九月六日	横田村詮

(浅間神社社務所1973より作成)

近世の芝川町

近世は富士郡に属する上袖野・下袖野・大鹿窪・鳥並・猫沢・上稲子・下稲子・羽榎・大久保・西山・長貫11ヶ村と鹿原郡に属する内房1ヶ村の計12ヶ村であった。

近世における富士山は宝永四年(1707)に大爆発を起こしている。この時の模様を浅間大社の「富士山噴火記」では、「凄き大火となり、大空へ積り、拾丈餘計りも火の玉飛あがり、其火山上へ落ちれば、微塵と散乱する事おそろし、又見事なり。・・・諸俗は見て神事かと思ひけり。・・・夜は富士面の村里明るき事燈いらす、家内まで聞き事なし。」と書いている。

明治元年(1868)には駿河藩、明治4年(1872)には静岡県に属した。昭和32年(1957)に富原村と袖野村が合併して芝川町となった。

注 引用・参考文献

「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1982 「角川日本地名辞典 22 静岡」角川書店

坂本太郎他 1965 「日本書記 下 日本古典文学大系68」岩波書店

坂本太郎他 1967 「日本書記 上 日本古典文学大系67」岩波書店

静岡県 1989 「静岡県史 資料編4 古代」

- 静岡県 1990 『静岡県史 資料編1 考古一』
 静岡県 1992 『静岡県史 資料編3 考古三』
 静岡県 1994 『静岡県史 通史編1 原始・古代』
 静岡県 1996 『静岡県史 別編2 自然災害史』
 『静岡県の地名』編集委員会 2000 『日本歴史地名体系第二二巻 静岡県の地名』平凡社
 浅間神社事務所 1973 『浅間文書纂』名著刊行会
 富士市史編纂委員会 1969 『富士市史 上巻』富士市
 富士市史編纂委員会 1972 『吉原市史 上巻』富士市
 富士宮市教育委員会 2000 『元富士大宮町階階 一大宮城にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書一』
 富士宮市教育委員会 2003 『村山浅間神社』
 富士宮市教育委員会 2003 『浅間大社』

(3) 静岡県の縄文時代草創期

静岡県史で1989年度末までの静岡県における縄文時代の遺跡の実数値を、県内を3地区に分けて集計した。静岡県東部地区で1,245遺跡、中部地区で163遺跡、西部地区で293遺跡の計1,701遺跡である。時期区分は土器型式で六期の時代別に集計し、そのうち縄文時代草創期に属する遺跡は4遺跡であるとした。縄文時代の遺跡の地域的・年代的傾向は、古い遺跡は東部地区に多く、新しい遺跡は西部地区が多く、その変化の時期は後期の中頃である。その変化の要因としては後期以降次第に多くの遺跡が地形的に低地に移動する傾向がある。実際、地形的に西部地区は東部地区に比較して低地の占める面積が多いのである。また自然環境では富士山をはじめとする伊豆半島の火山活動が大きく関与していると考えている。縄文時代を通じて箱根西南山麓と愛鷹東南山麓～富士西南山麓に遺跡の密度が高いことが指摘されている。縄文時代の集落と住居跡は、縄文時代早期から環状・馬蹄形と推定される集落が検出されている。

縄文時代草創期から早期にかけての遺跡から検出された住居跡・住居状遺構の集成または分析は瀬川(1990)、小野(1992)、関野(1998)、松本(1998)によって行われている。

瀬川は初めて静岡県史のなかで縄文時代全期間の住居跡を集成した。そのなかから縄文時代早期の遺跡から断定できた住居跡・住居状遺構は14遺跡、86基である。西部地区では菊川町三沢に所在する三沢西原遺跡の早期の住居跡が2基検出されたのが、県内では最も西から検出された事例である。東部地区の富士宮市小泉に所在する若宮遺跡では早期に属する28基の住居跡・住居状遺構が検出されている。沼津市足高に所在する清水柳北遺跡では早期～前期初頭の79基の住居跡・住居状遺構が検出された事例が最大数である。

小野は1991年までの縄文時代早期・前期の遺跡から検出された住居跡・住居状遺構は38遺跡、264軒、早期に属する住居跡・住居状遺構は179基であるとした。

関野は縄文時代初期の定住化を示す主要な堅穴住居跡を東海地方で集成し、縄文時代初期の集落・遺構の特色を分析している。分析対象として県東部地区の12遺跡・30基、西部地区2遺跡・4基の計14遺跡・34基を取り上げている。東部地区では燃糸文土器(稲荷台期)段階では、集落が安定し形成されたことを指摘する。

松本は1997年までに発掘調査報告書が刊行された県内の縄文時代全期間を通じての集成を行った。遺跡から住居跡が検出されたのは78遺跡、明確に断定できる住居跡を245軒とした。うち縄文時代草創期から早期にかけての住居跡は西部地方で3軒、中部地方では2軒、東部地方では41軒の計46軒で、東部

地方での検出事例が圧倒的に多く地域的偏りがある。縄文時代草創期に時期を限ると西・中部地方では0軒、東部地方では3軒の計3軒である。

4人の集成した住居跡・住居状遺構の集計に相違があるのは、単に集成の時期が相違するだけではなく、検出された遺構を住居跡・住居状遺構であるとする判断基準の相違、遺構の年代を決める土器の時期区分が相違するためである。このように縄文時代草創期から早期かけての住居跡・住居状遺構については研究者による差があり未解決な点が依然と残されている。

本報告書では縄文時代草創期と早期の土器時期区分を本遺跡の土器から、縄文時代草創期は隆起線文土器・爪形文土器・押圧縄文、早期は捺糸文土器・押型文土器からとする土器編年に基づいている。

池谷(1996)は初めて縄文時代草創期の遺物が出土した遺跡の県内東部地区を集成している。

県内の縄文時代草創期の遺跡は、その多くが尖頭器・有茎尖頭器等の遺物が出土・採取された遺跡が中心である。遺構のなかで明確な住居跡が検出されたのは大鹿窪遺跡が発見されるまでは、葛原沢第IV遺跡の1遺跡・1軒だけである。

注 引用・参考文献

池谷留之 1996 「愛鷹・箱根山麓の縄文時代草創期」(『静岡県考古学会シンポジウムⅩ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 収録集』所収)

小野真一 1992 「特論2 静岡県における縄文時代早、前期の住居址」(伊東市教育委員会「東大室クズレ遺跡」所収)

静岡県 1990 「静岡県史 資料編1 考古一」

瀬川裕市郎 1990 「縄文時代 住居跡一覧」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)

関野晋夫 1998 「東海地方の縄文時代初期の定住化」(『月刊 考古学ジャーナル 4』所収)

松本一男 1998 「静岡県内検出の縄文時代住居の時代的変遷と地域的特性について 一住居を構成する属性から時代的変遷と地域性を探る一」(『静岡県考古学研究 No.30』所収)

(小金澤)

(4)芝川町の遺跡

本町内には最近の新発見8遺跡を除く34遺跡が所在する。これまでの発掘調査事例は2遺跡と多くなく、最近の開発によって新発見の遺跡、発掘調査数が増加しているのが現状である。

旧石器時代～縄文時代の複合遺跡である西山の小塚A・B遺跡(16・17)はこれまで第1～5次調査が実施されてきている。1971年の第1次調査ではナイフ形石器・石核等が出た。石核の中に舟底型石核が出土している。1992年の第3次調査では縄文時代草創期の細隆起線文土器が尖頭器・有茎尖頭器等の石器を伴って出土した。石器製作跡が検出された。

長貫の南原遺跡は富士川左岸の段丘上に位置する。1984年に発掘調査が実施され、縄文時代中期中葉～後期前葉の遺構として堅穴住居跡・配石遺構・土坑が検出され、縄文土器・円盤状土製品と石斧・石錐・石錘・石皿・凹石・石匙・磨石・蔽石等が出土した。

上稲子字宮地には中世山城の稲子城(3)が所在する。上柚野の定林寺遺跡(4)は縄文時代後期の土器が確認されている。上柚野の中才遺跡(5)は縄文時代中期末葉の加曾利EⅣ式土器と打製石斧、上柚野の和原遺跡(6)は縄文時代後期の堀之内式から加曾利B式土器がそれぞれ確認されている。上柚野の森林遺跡(7)は縄文時代中期末葉の加曾利EⅣ式土器と打製石斧・石錐・石皿・磨石、下柚野の辻遺跡(8)は縄文時代中期が勝坂式・加曾利EⅠ式・加曾利EⅢ式・堀之内式の土器、打製石斧・磨製石斧が出土した。弥生時代中期～後期の弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器がそれぞれ出した複合遺跡で

ある。猫沢遺跡(9)は縄文時代中・後期の加曾利EⅠ式・加曾利EⅡ式・加曾利EⅢ式・堀之内式土器、打製石斧・石匙・石棒、下柚野の東原A遺跡(10)は縄文時代早期の押型文土器、下柚野の東原B遺跡(11)は縄文時代中期の勝坂式・加曾利E式の土器が確認されている。小森遺跡(12)は旧石器時代～縄文時代にかけてで、ナイフ形石器・尖頭器・有茎尖頭器が確認されているが詳細は不明である。西山の久保遺跡(13)は縄文時代後期の堀之内式と推定される土器、西山の踊場A遺跡(14)は縄文時代と推定される土器、西山の踊場B遺跡(15)は縄文時代と推定される土器と石鏃、西山の下条下垣戸遺跡(18)は縄文時代早期の茅山式土器、大久保の東久保遺跡(19)は縄文時代後期と推定される土器、大久保の向ヶ谷戸遺跡(20)は縄文時代中期の加曾利EⅠ式・EⅡ式・Ⅲ式の土器、打製石斧・石鏃がそれぞれ確認されている。

大久保の大明神A遺跡は縄文時代後期の土器、大久保の大明神B(若宮)遺跡は縄文時代早期と後期の土器、羽謝の坂本遺跡は縄文時代中期の阿玉台式・加曾利EⅠ式・EⅡ式・EⅢ式土器と打製石斧・石鏃、羽謝の平野遺跡は縄文時代早期の子母口式・茅山・木島・加曾利E式の土器、上稲子門野遺跡は縄文時代後期の堀之内Ⅰ式の土器と石匙、長貫の宮ヶ谷戸遺跡は縄文時代中期の加曾利EⅢ式土器と打製石斧・石鏃・磨石・石皿、長貫の橋場遺跡は打製石斧、内房の本成寺遺跡は時期不明の土器、内房の上ノ山遺跡は縄文時代後期と推定される土器と打製石斧、内房の大和沢A遺跡は縄文時代の土器、内房の大和沢B遺跡は縄文時代の土器、内房の和平遺跡は縄文時代中期の加曾利EⅠ式と後期の称名寺式・堀之内式の土器と石棒・磨製石斧、内房の仲上遺跡は縄文時代後期と推定される土器がそれぞれ確認された。内房と山梨県境には白鳥山城が存在する。

引用・参考文献

- 小野真一 1990 「小塚遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
栗野克美 1990 「南原遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
静岡県 1990 「静岡県史 資料編1 考古一」
芝川町教育委員会 1972 「駿河小塚」
芝川町教育委員会 1981 「(駿河)小塚遺跡第2次調査報告書」
芝川町教育委員会 1985 「芝川町の文化財」
芝川町教育委員会 1995 「小塚遺跡—金指建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次発掘調査報告書—」
芝川町教育委員会 1995 「小塚遺跡—個人住宅建設に伴う埋蔵文化財第5次発掘調査報告書—」
高尾好之 1981 「駿河小塚出土の舟底形石核」(『静岡県考古学研究 10』所収)
富士宮市教育委員会 1993 「富士宮市の遺跡—富士宮市遺跡詳細分布報告書—」

表1 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	種別	所在地	地目	遺構・遺物
1	大庭窪					
2	窪B					
3	稲子城	中世	城跡	上稲子字宮地	山林	曲輪・塀
4	定林寺	縄文(後)	散布地	上袖野字西村	林・畑	縄文土器・石器
5	中才	縄文(中)	散布地	上袖野字中才	林・畑	縄文土器・打製石斧
6	和原	縄文(後)	散布地	上袖野字和原	田・畑	縄文土器
7	森林	縄文(中)	散布地	上袖野字森林	畑・宅	縄文土器
8	辻	縄文・弥生・古墳	散布地	下袖野字辻・天神	畑・宅	縄文土器・土師器・須恵器・石器
9	猫沢	縄文(中・後)	散布地	猫沢字上ヶ谷戸	田・畑	縄文土器・石器
10	東原A	縄文(早)	散布地	下袖野字東原	畑	縄文土器
11	東原B	縄文(中)	散布地	下袖野字東原	畑	縄文土器
12	小森	旧石器・縄文	散布地	西山字小森	境内	尖頭器・有舌尖頭器
13	久保	縄文(後)	散布地	西山字久保	境内	縄文土器・石器
14	踊場A	縄文	散布地	西山字踊場	畑	縄文土器
15	踊場B	縄文	散布地	西山字踊場	田・畑	縄文土器・黒曜石
16	小塚A	旧石器・縄文(早・前)	散布地	西山字小塚	畑	ナイフ形石器・尖頭器・縄文土器
17	小塚B	縄文(早)	散布地	西山字小塚	畑	縄文土器・石器
18	下条下垣戸	縄文(早)	散布地	西山字下垣戸	田・畑	縄文土器
19	東久保	縄文(後)	散布地	大久保字東久保	林・畑	縄文土器
20	向ヶ谷戸	縄文(中)	散布地	大久保字向ヶ谷戸	畑・宅	縄文土器・石器
21	大林	縄文・中世	散布地	猫沢字上ヶ谷戸	畑・山林	縄文土器・陶磁器

注 小塚遺跡・南原遺跡・稲子城・白鳥山城以外は主に「駿河小塚」掲載の周辺の遺跡を引用した。

(小金澤)

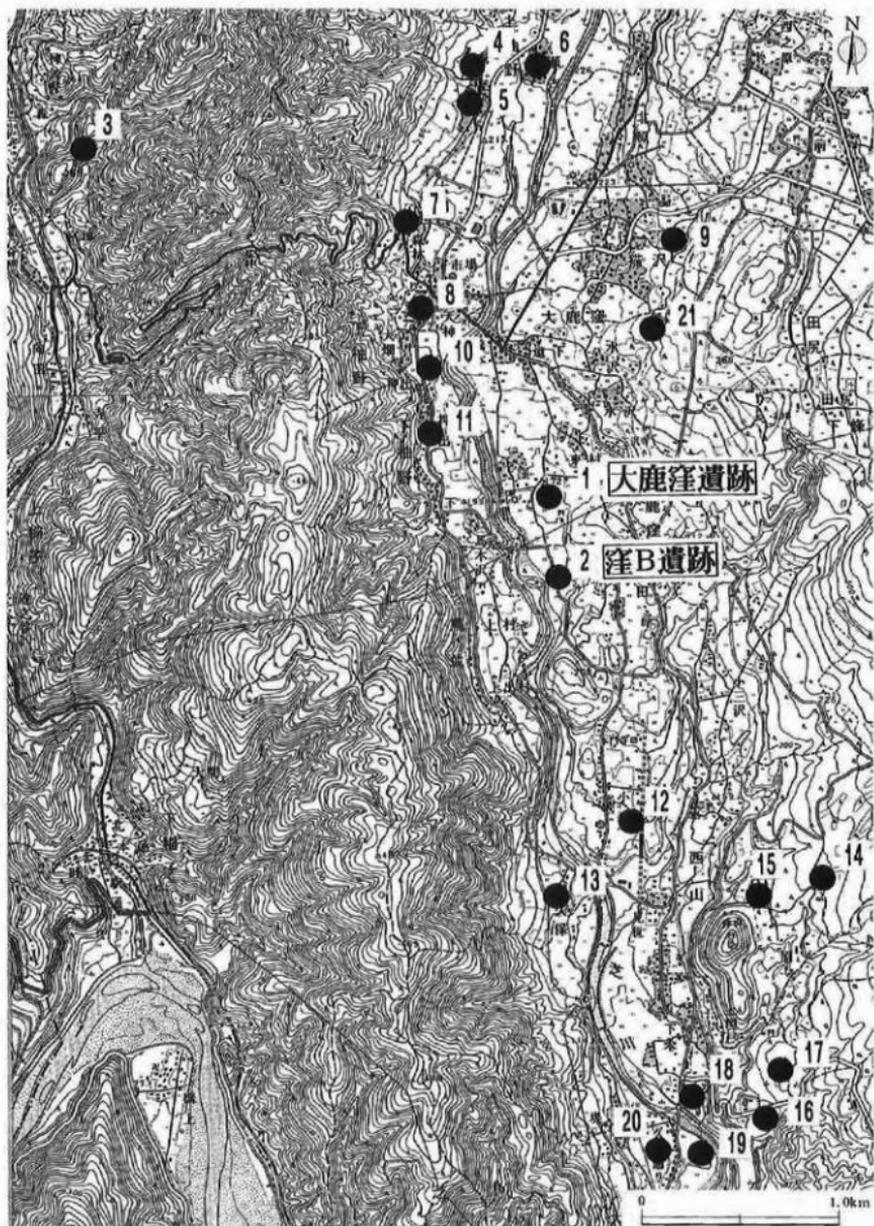


図2 大鹿窪・窪B遺跡と周辺の遺跡

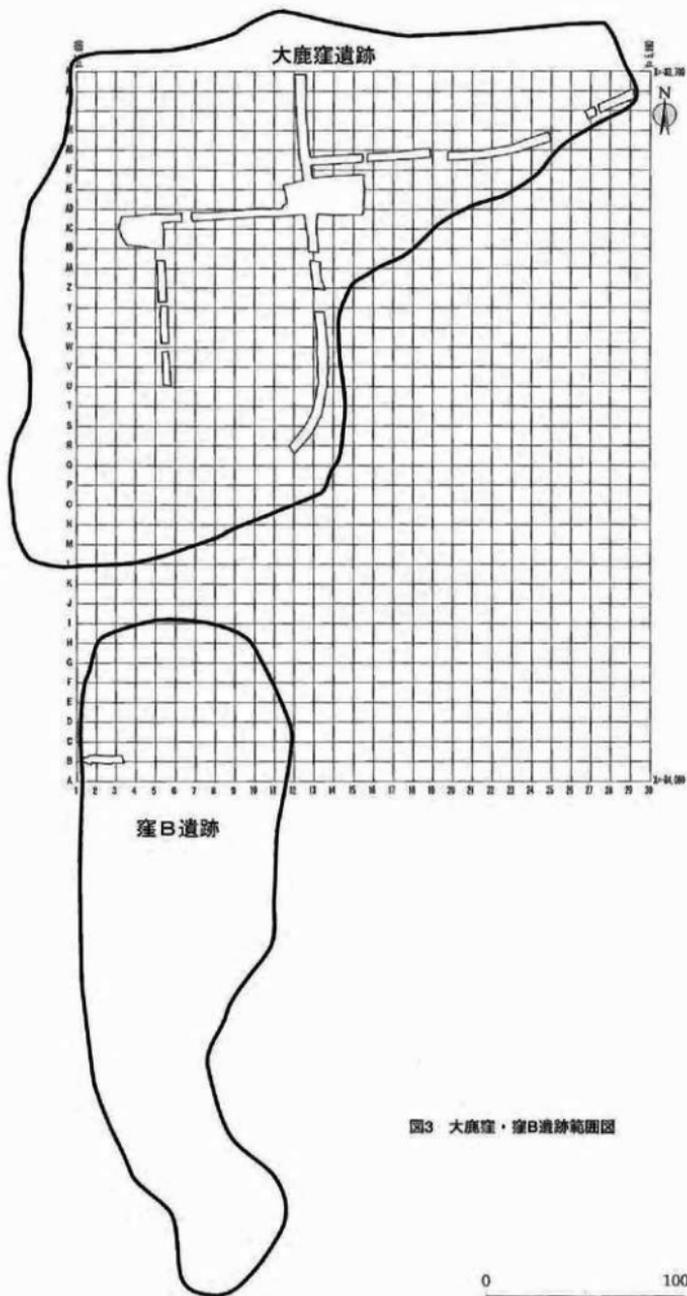


図3 大鹿窪・窪B遺跡範囲図

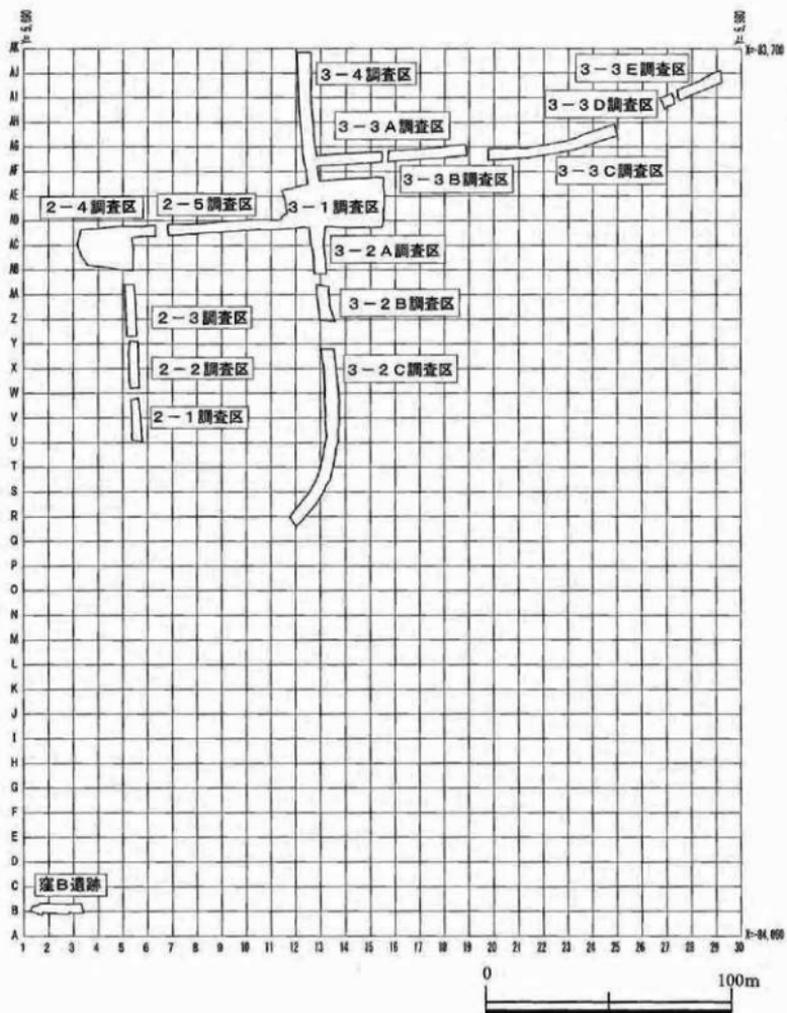


图4 大鹿窟・窟B遺跡調査対象区域図

大鹿窪遺跡

3 調査概要

(1)調査の経過

大鹿窟遺跡は平成13年11月7日～平成14年3月22日まで現地調査を実施した。

平成13年

11月7日(水)～9日(金)

調査前風景の撮影、安全のためのフェンス設置、重機による表土剥ぎ作業及び稼動状況の撮影等を行う。

2-1調査区の作業員による精査作業によって、南側部分で溶岩帯を確認する。2-2調査区の作業員による精査作業によって土坑・溝状遺構を検出する。2-3調査区の作業員による精査作業を行う。

11月12日(月)～16日(金)

2-2調査区の作業員による精査作業によって溝状遺構を検出し、写真撮影、実測図作成を行う。2-3調査区の作業員による精査作業を行う。2-4調査区の重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業によって土坑を検出し、写真撮影を行う。2-5調査区の重機による表土剥ぎ作業を行う。

11月19日(月)～22日(木)

2-2調査区の下位層までの重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業によって遺構を検出し、土層断面・遺物出土状況・写真撮影、実測図作成等を行う。2-3調査区のサブトレレンチの設定、作業員による精査作業を行う。2-4調査区の作業員による精査作業によって遺構を検出し、土層断面・遺物の出土状況写真撮影を行う。

2-5調査区の作業員による精査作業により土壙墓を検出し、遺物(銭貨)の出土状況写真撮影を行う。重機による掘削作業を行う。

11月26日(月)～11月30日(金)

2-2調査区の土層断面写真撮影を行う。2-3調査区の作業員による精査作業及び遺物測量を行う。2-4調査区の作業員による精査作業、遺構精査、土層断面写真撮影、遺構実測図作成等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、溝状遺構検出、土層断面写真撮影等を行う。3-2調査区の重機による表土剥ぎ作業、立木伐採作業、作業員による精査作業等を行う。

12月3日(月)～7日(金)

2-2調査区の作業員による精査作業、遺構検出状況写真撮影を行う。2-3調査区の作業員による精査作業、遺構精査、遺物出土状況写真撮影等を行う。2-5調査区の作業員による精査作業によって掘建柱建物跡を検出、遺物測量、遺物出土状況写真撮影等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業を行う。3-2調査区の重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業を行う。

12月10日(月)～14日(金)

空中写真撮影を行う。

2-3調査区の作業員による精査作業、実測図作成等を行う。2-4調査区の作業員による精査作業、遺構検出状況写真撮影、遺構実測図作成等を行う。2-5調査区の作業員による精査作業、実測図作成、遺物測量等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、実測図作成、遺構検出状況写真撮影等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、遺構検出状況写真撮影等を行う。

12月17日(月)～21日(金)

2-4調査区の作業員による精査作業、土層断面写真撮影、遺物測量、実測図作成等を行う。2-5

調査区の作業員による精査作業、遺構精査、遺物測量等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、調査区外周測量等を行う。

12月25日(火)～28日(金)

発掘調査連絡会を行う。2-4調査区の作業員による精査作業、遺物測量、実測図作成等を行う。2-5調査区の作業員による精査作業、遺物測量、遺物出土状況写真撮影等を行う。3-1調査区の調査区域の測量を行う。

平成14年

1月7日(月)～11日(金)

2-4調査区の作業員による精査作業、遺物測量、実測図作成等を行う。2-5調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業により、黒曜石製の石鏃・剥片・チップが出土、縄文土器片が出土する。遺物測量、遺物出土状況写真撮影を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、焼土跡を検出、遺物測量を行う。

1月15日(火)～18日(金)

2-4調査区の作業員による精査作業を行う。2-5調査区の作業員による精査作業を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、黒曜石の剥片・チップが出土、縄文土器片が出土する。遺物測量、遺物出土状況写真撮影等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、遺物測量、実測図作成、遺物出土状況写真撮影、土層断面写真撮影等を行う。3-3調査区の重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業、土坑の検出、遺構検出状況写真撮影等を行う。

1月21日(月)～25日(金)

2-5調査区の排水作業を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。縄文時代早期の遺物包含層を完掘する。写真撮影をする。引き続き下位層の精査を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、遺物測量、実測図作成等を行う。3-3調査区の重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業、地形測量等を行う。

1月28日(月)～2月1日(金)

2-5調査区の作業員による精査作業を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺物取り上げ、遺物出土状況写真撮影等の作業を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、遺物測量等の作業を行う。3-3調査区の重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業等を行う。3-4調査区の重機による表土剥ぎ作業、作業員による精査作業、遺物測量、地形測量等の作業を行う。

2月4日(月)～8日(金)

町議会議員により遺跡の視察が行われた。

2-4調査区の作業員による精査作業を行う。2-5調査区の作業員による精査作業を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺構検出、遺物測量、遺物出土状況写真撮影、遺構検出状況写真撮影等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。

2月12日(火)～15日(金)

芝川町立柚野小学校5年生が遺跡を見学する。

2-5調査区の作業員による精査作業、遺物測量、実測図作成、地形測量等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺物測量、遺構検出、実測図作成等を行う。3-2調査区の作業員による精査

作業、遺物測量を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺物測量、地形測量、調査区域測量、遺構検出状況写真撮影等を行う。

2月18日（月）～22日（金）

2-5調査区の作業員による精査作業、遺構検出、実測図作成等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、堅穴状遺構・集石遺構検出、遺物測量、実測図作成等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺構検出、遺物測量等を行う。

2月25日（月）～3月1日（金）

県教育委員会文化課による遺跡の視察が行われる。

2-5調査区の作業員による精査作業、遺構検出等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺構検出、遺物測量、実測図作成、遺構検出状況写真撮影等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-4調査区の作業員による精査作業、遺構検出、遺物測量等を行う。

3月4日（月）～8日（金）

空中写真撮影を行う。

2-5調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-1調査区の作業員による精査作業、遺構検出、遺物測量、実測図作成、遺構検出状況写真撮影等を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-4調査区の作業員による精査作業、遺構検出、遺物測量、実測図作成等を行う。

3月11日（月）～15日（金）

県教育委員会文化課により遺跡の視察が行われる。

3-1調査区の作業員による精査作業、遺構精査、遺物測量、実測図作成、遺構検出状況写真撮影等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺物測量等を行う。3-4調査区の作業員による精査作業、遺物測量を行う。

3月18日（月）～22日（金）

3-1調査区の作業員による精査作業、遺構精査、遺物測量、実測図作成、遺物出土状況写真撮影等を行う。3-2調査区の作業員による精査作業を行う。3-3調査区の作業員による精査作業、遺物測量を行う。

現場機材等の搬出作業を行う。

（小谷・武田・小金澤）

(2)層序(図5-15)

本遺跡層序の第1の鍵層となるのが、調査区全体で確認された大沢スコリア層である。大沢スコリア(S-12・OS)は、富士山西南麓に広く分布しているが、富士山中央火口を供給源とする考えと、寄生火山の御庭を供給源とする考え方がある。大沢スコリア層の降下年代は約3,000年～2,500年前である。今回の調査では、この大沢スコリア層を挟んで3文化層に分けられ、上位は弥生時代以降、下位は縄文時代早期、縄文時代草創期である。この大沢スコリア層は通称マサと呼ばれており、通常の耕作はこの層より上位で行われる。そのため縄文時代の遺構面・遺物包含層に達することが少なかった。

大鹿窪遺跡の調査区域が東西に広いため、調査区ごとに層序が相違するが、縄文時代の遺構・遺物が確認された大沢スコリア層より下位の堆積状況は比較的安定している。

各層における文化層は、10層の橙褐色土層が大沢スコリア層で弥生時代以降遺構確認面、15層の明褐色土層(6B)が縄文時代早期の遺物包含層、18層の褐色土層(7B)が縄文時代草創期の遺物包含層、20層の黄褐色ローム層(8)が縄文時代草創期の遺構確認面である。

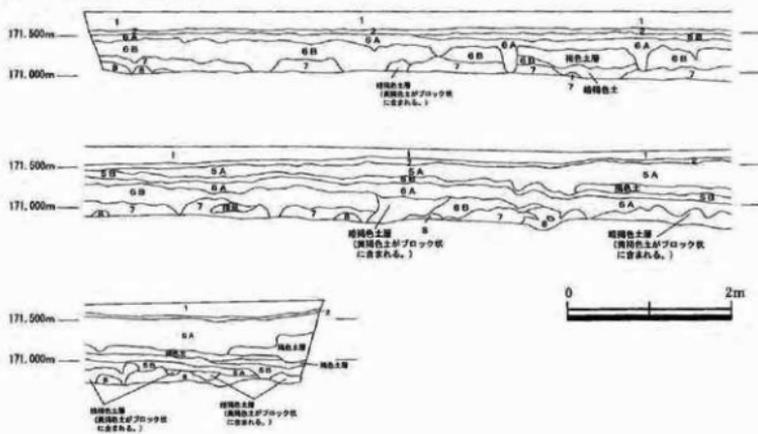
以下に基本層序を示す。()内は現地調査時の層名である。

- 1層 灰褐色土層
主に水田耕作土。
- 2層 赤褐色土層
水田耕作の床土。
- 3層 褐色土層
粒径1mm以下のスコリア(オレンジ、白色)を多く含む。締まり・やや強く、粘性はやや弱い。
- 4層 暗褐色土層
粒径1mm以下のスコリア(オレンジ、白色)を少量含む。締まり・粘性ともにやや弱い。
- 5層 黒褐色土層
スコリアを微量含む。
- 6層 明黒褐色土層
粘土質。ブロック上に割がれる。締まりはやや強い。
- 7層 暗褐色土層
粒径1～3mmの大沢スコリアを少量含む。締まり・粘性ともにやや強い。
- 8層 暗褐色土層
粒径1～3mmの大沢スコリアをやや多く含む。締まり・粘性ともにやや強い。
- 9層 暗褐色土層
粒径1～3mmの大沢スコリアを多く含む。締まりは強く、粘性はやや弱い。
- 10層 橙褐色土層 弥生時代以降遺構確認面
大沢スコリア層。締まりは非常に強く、粘性は弱い。
- 11層 暗褐色土層
粒径1～3mmの大沢スコリアをやや多く含む。締まりは強く、粘性はやや強い。
- 12層 黒褐色土層(5A)
粒径1mmのオレンジスコリアを多く含む。締まりはやや強く、粘性は強い。2～3・2～4調査区では、層中に白色粒が微量見られる。

- 13層 褐色土層 (5 B)
粒径1～3mmのオレンジスコリアをやや多く含む。締まり・粘性ともに強い。
- 14層 褐色土層 (6 A)
スコリアをほとんど含まない。締まり・粘性ともに強い。
- 15層 明褐色土層 (6 B) 縄文時代早期の遺物包含層
締まり・粘性ともに強い。
- 16層 褐色土層 (7)
締まり・粘性ともに強い。
- 17層 黒褐色土層 (7 A)
粒径1～2mmのオレンジスコリアを微量含む。締まり・粘性ともに強い。
- 18層 褐色土層 (7 B) 縄文時代草創期の遺物包含層
粒径1～3mmのオレンジスコリアをやや多く含む。締まり・粘性ともに強い。
- 19層 褐色土層 (7 C)
粒径1～3mmのオレンジスコリアを多く含む。締まりは非常に強く粘性は強い。
- 20層 黄褐色ローム層 (8) 縄文時代草創期の遺構確認面
地山層。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 21層 礫層
2-5・3-3C・3-3E調査区の埋没谷の底で見られる。

(小谷・小金澤)

[2-2 区東壁の土層断面]



[2-3 区東壁の土層断面]

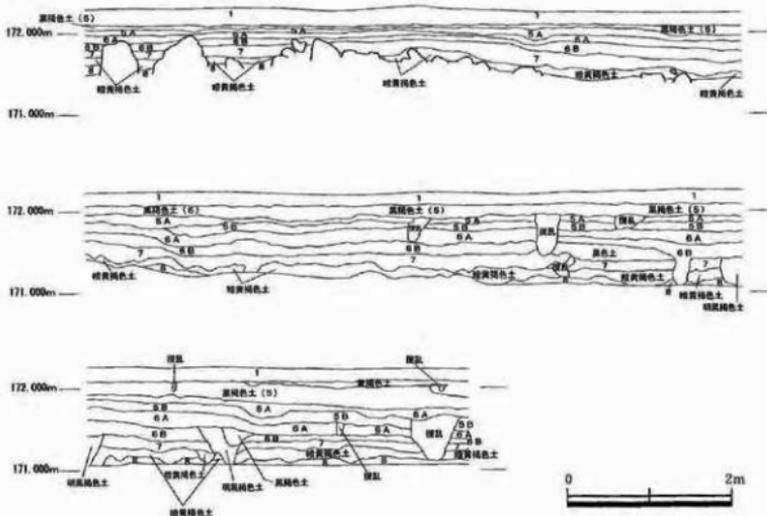
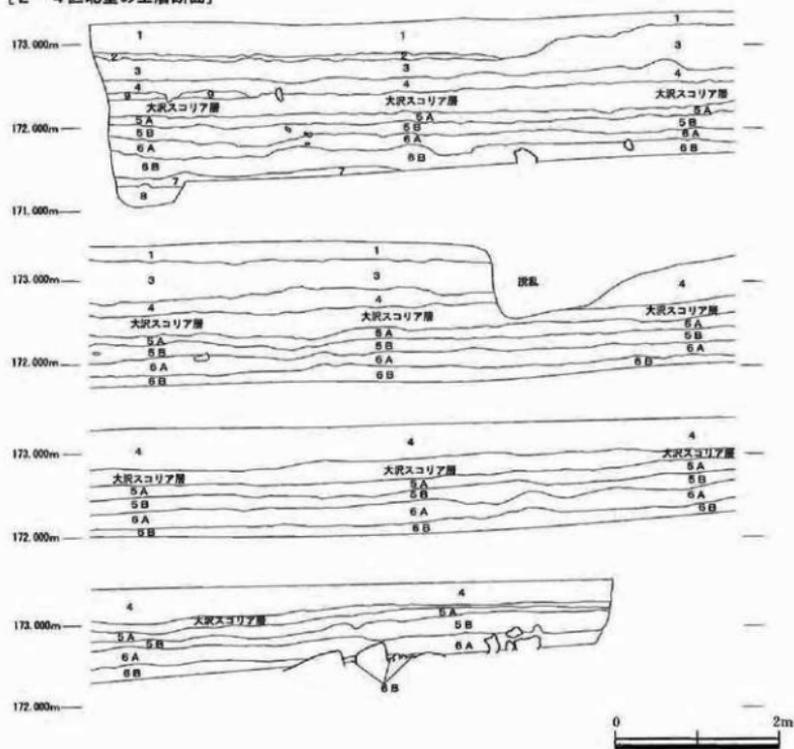


図5 土層セクション図① 2-2・2-3 調査区

[2-4 区北壁の土層断面]



[2-4 区東壁の土層断面]

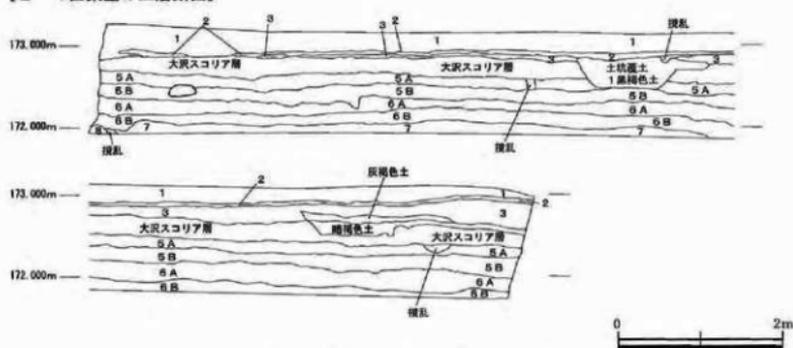


図6 土層セクション図② 2-4 調査区

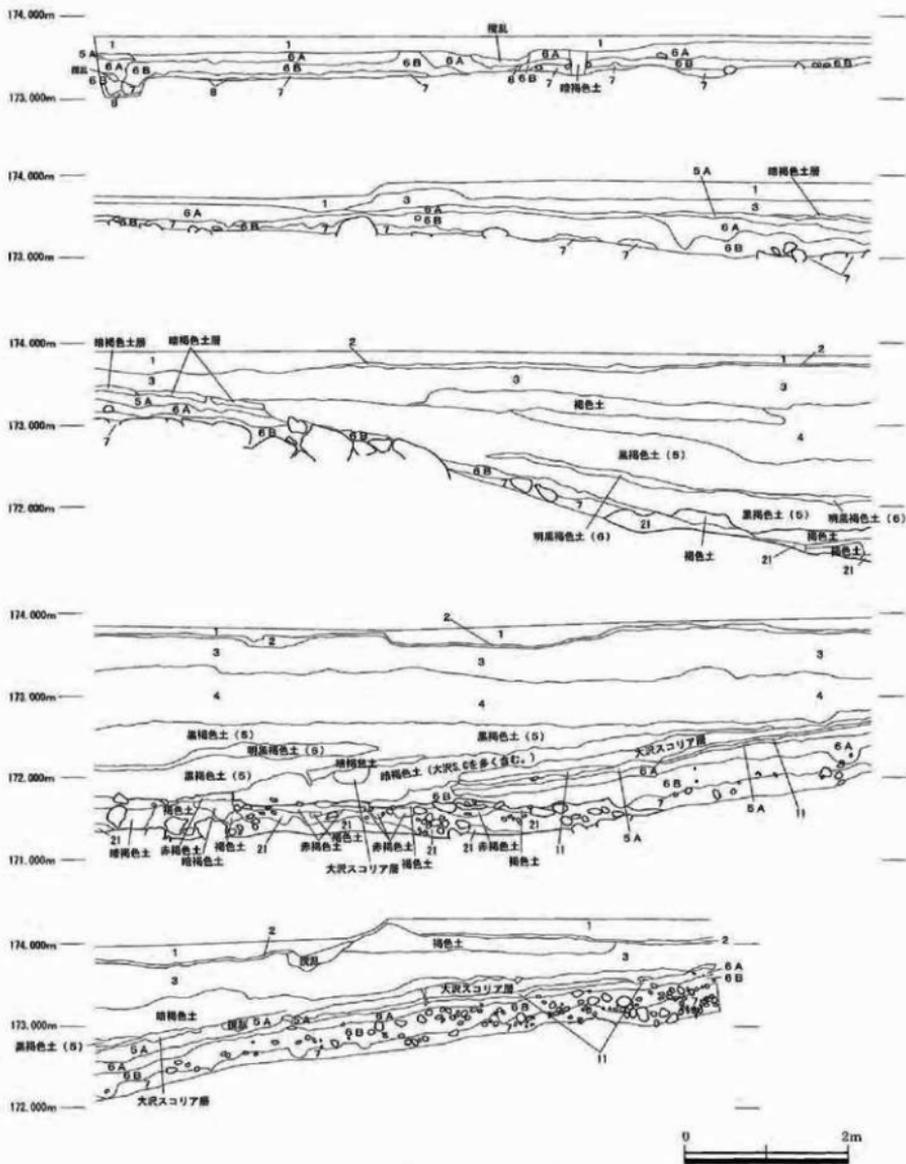
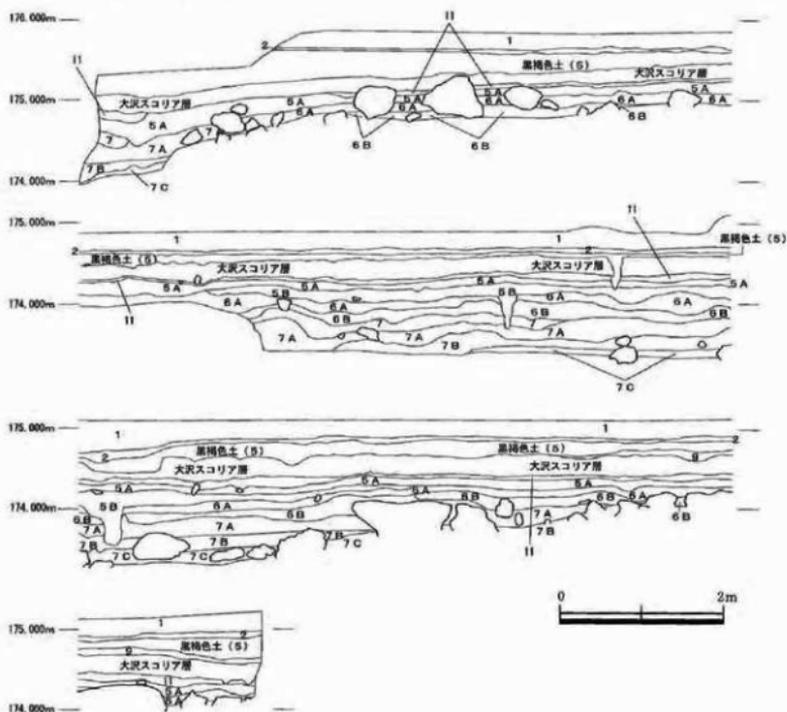


図7 土層セクション図③ 2-5調査区

[3-1区北壁の土層断面]



[3-1区南壁の土層断面]

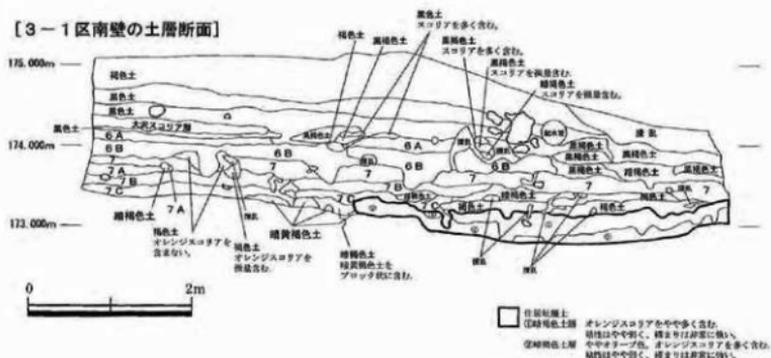
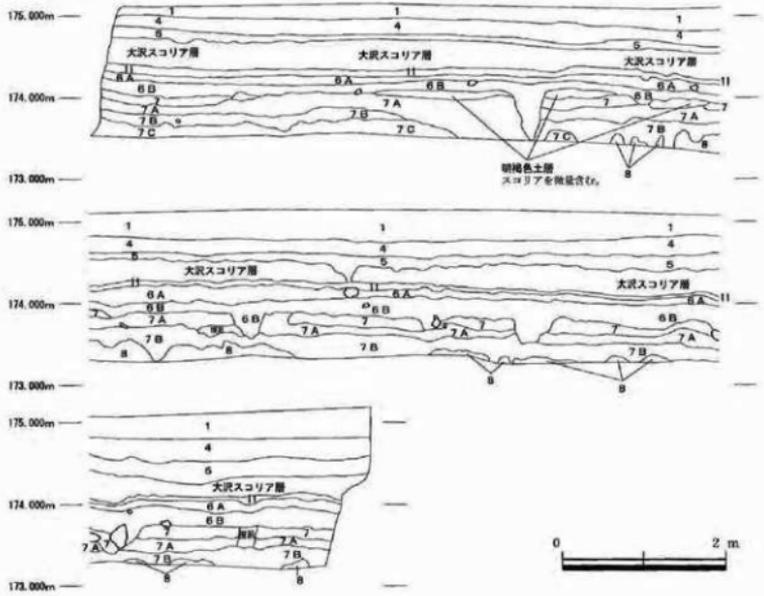


図8 土層セクション図④ 3-1調査区

[3-2 A 区東壁セクション]



[3-2 B 区東壁セクション]

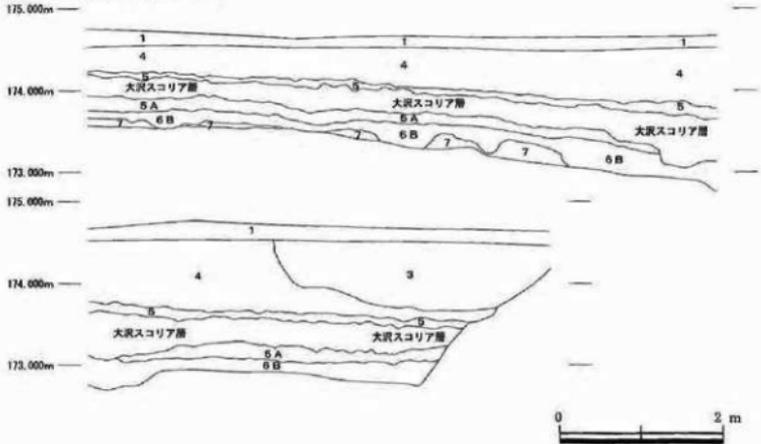


図9 土層セクション図⑤ 3-2 A・3-2 B調査区

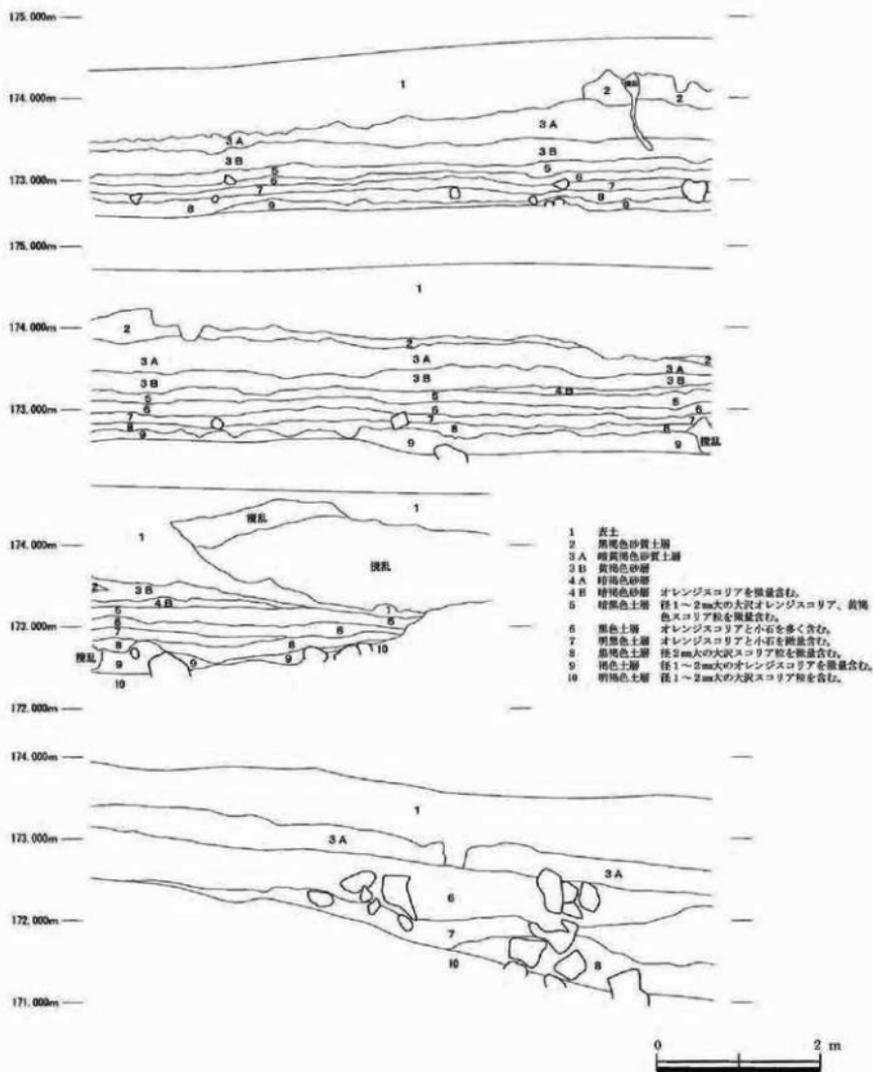


図10 土層セクション図⑥ 3-2 C調査区①

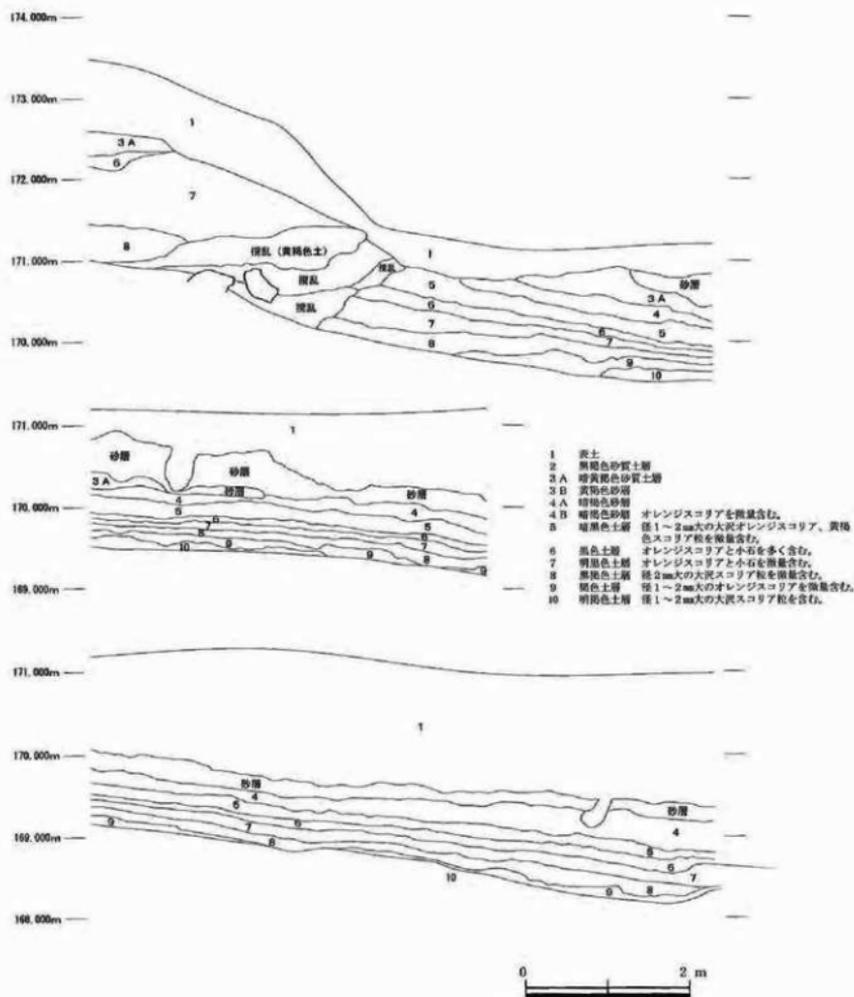
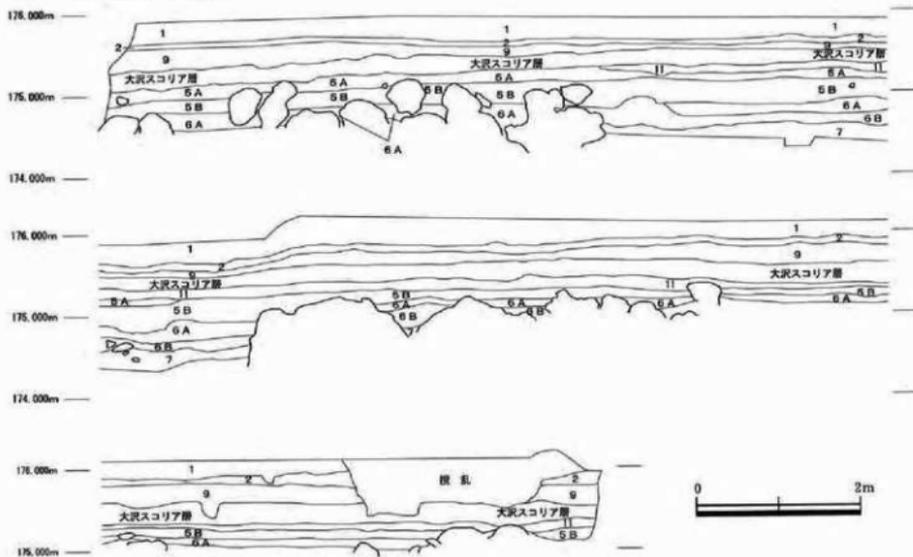


図11 土層セクション図⑦ 3-2C調査区②

[3-3A区北壁の土層断面]



[3-3B区北壁の土層断面]

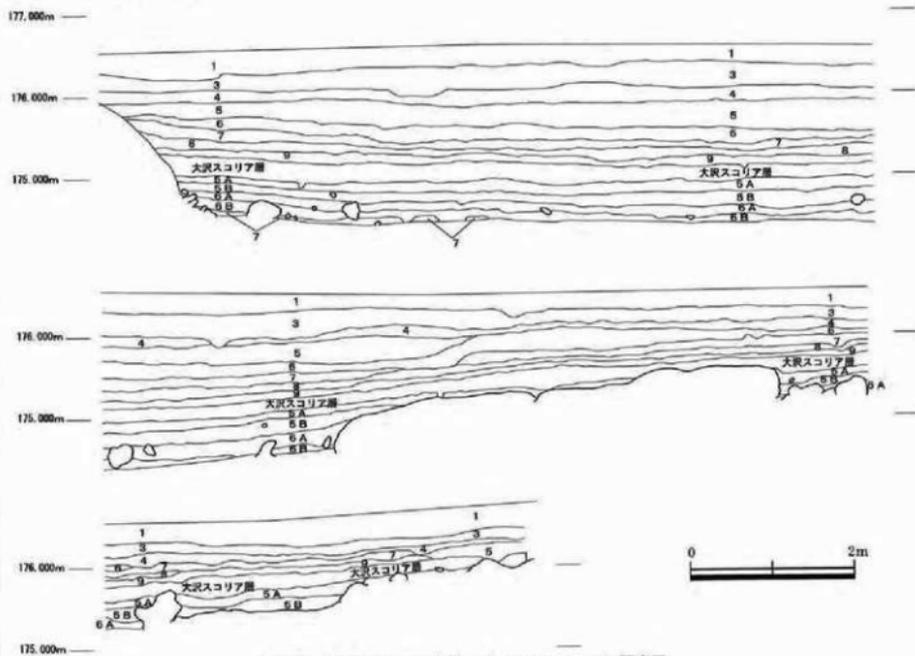


図12 土層セクション図⑧ 3-3A・3-3B調査区

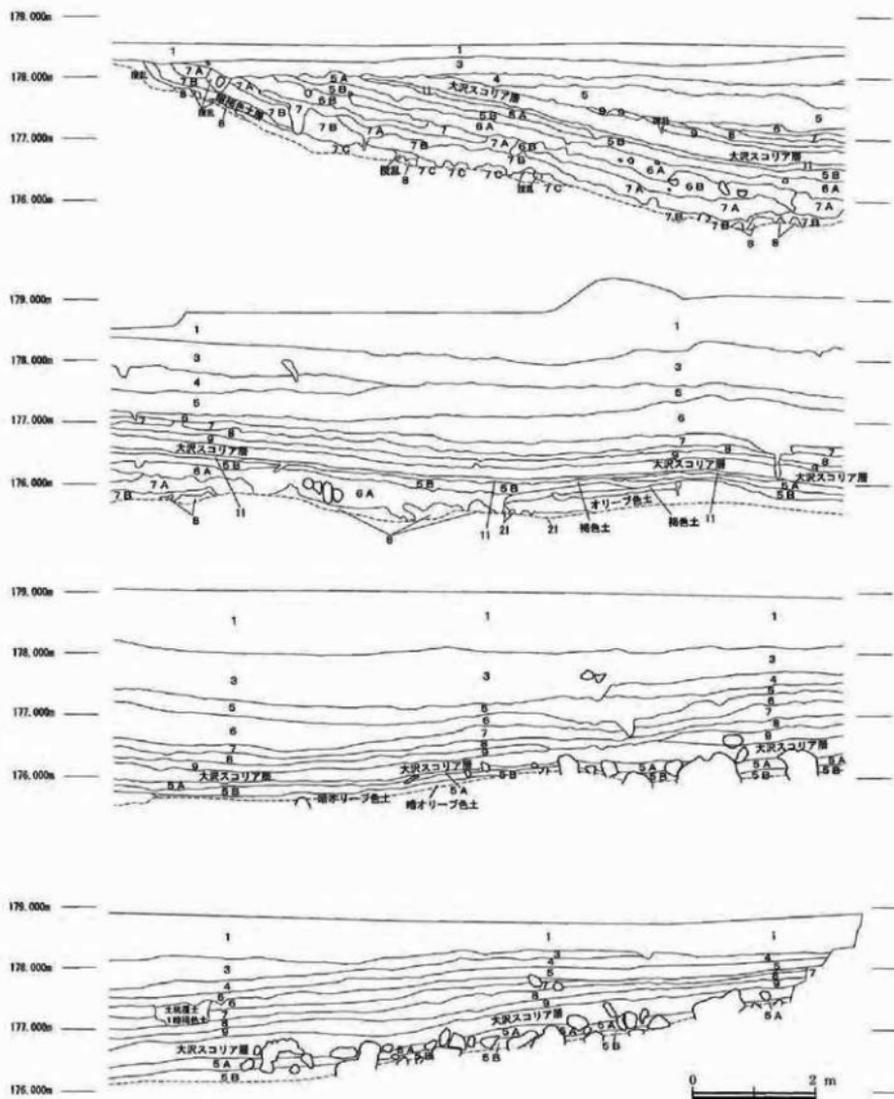
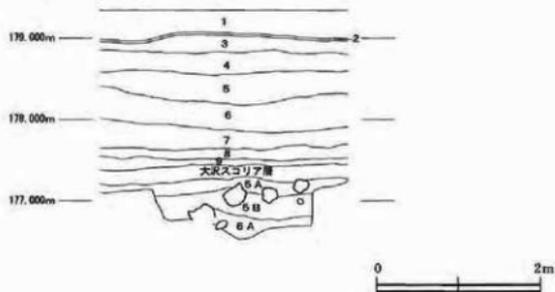


図13 土層セクション図⑨ 3-3C調査区

【3-3D区北壁の土層断面】



【3-3E区南壁の土層断面】

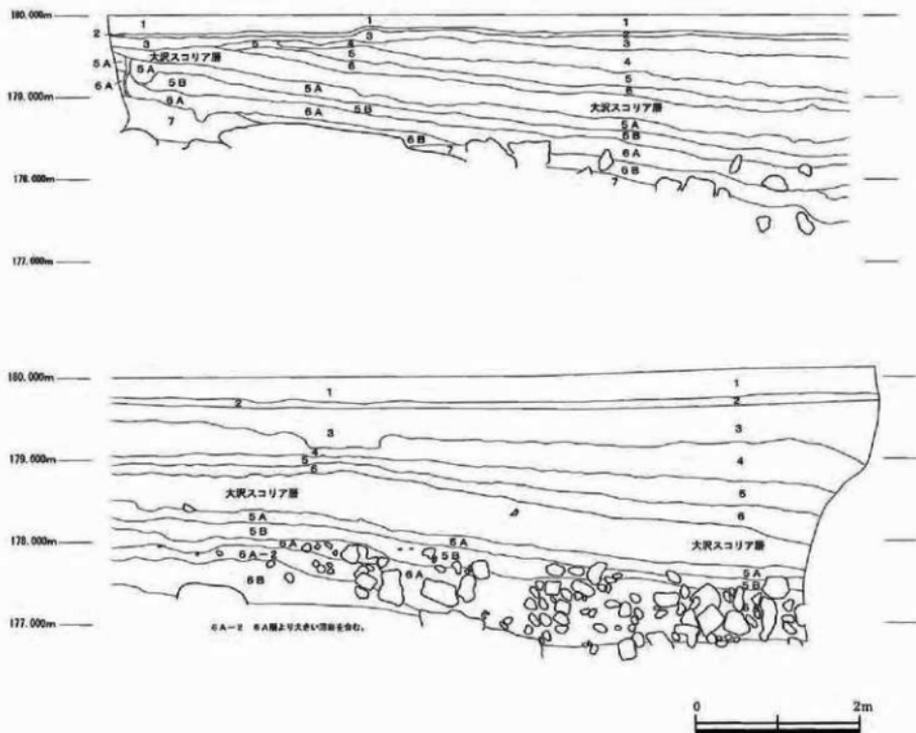


図14 土層セクション⑧ 3-3D・3-3E調査区

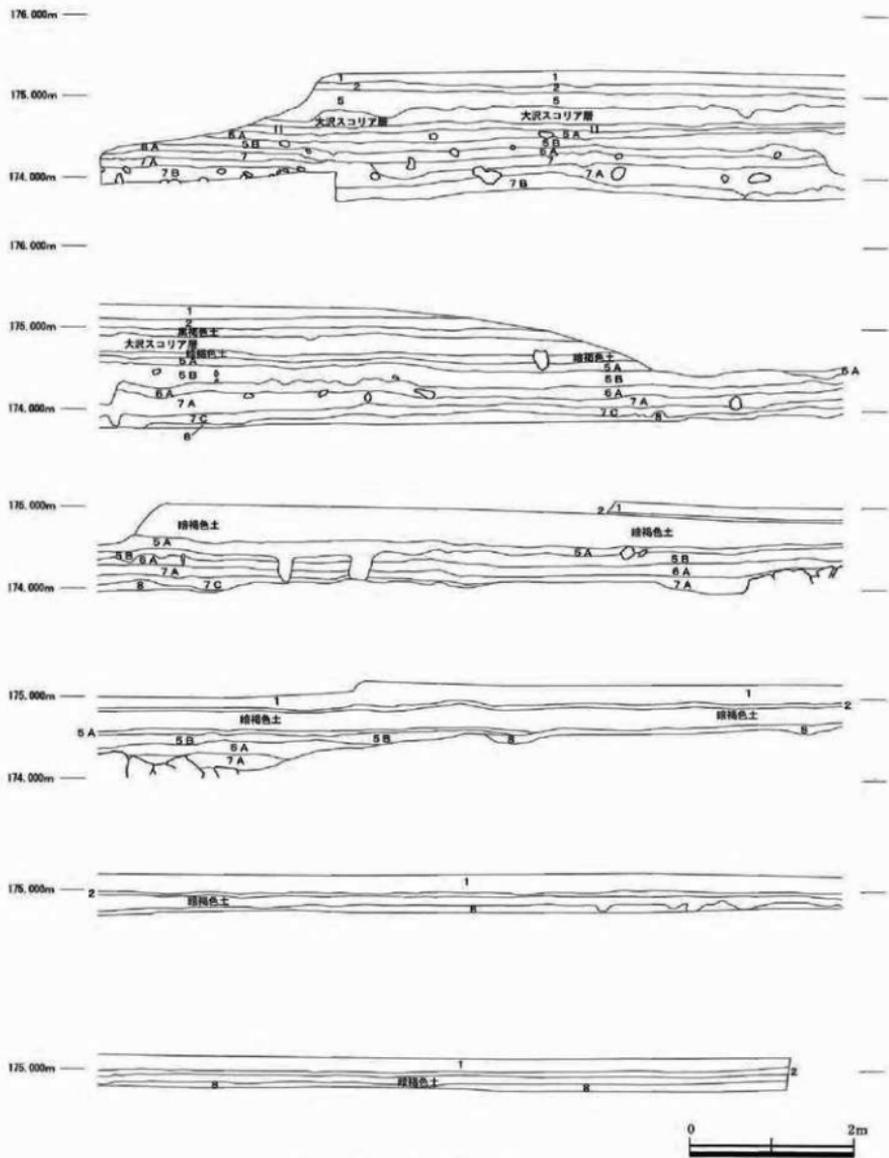


図15 土層セクション図⑪ 3-4調査区

4 調査結果

(1) 遺構

2-1 調査区(図16)

調査範囲の最も南に位置する調査区である。調査区北側から中央付近までは表土層直下で溶岩帯が検出された。溶岩帯がない南側は、調査区南側に隣接する道路の工事の際に攪乱を受けているため遺構・遺物は検出されなかった。

2-2 調査区

2-1 調査区の北側調査区である。遺構は縄文時代の溝状遺構2条、土坑18基、ピット35基が検出された。遺構の時期は明確な時期を示す遺物が出土しなかったことから、遺構確認面の層序によった。

縄文時代(図17)

溝状遺構(表4)

1号溝状遺構(図18)

調査区南西端のW-5グリッドにて検出された。遺構の両端が調査区域外へ延びているため全体は不明である。現況の平面形態はほぼ直線状、断面形態は皿状を呈する。方向はN-31°-W、規模は現況で長さ1.32m、最大幅0.36m、最小幅0.30m、深さ0.06mを測る。

2号溝状遺構(図18)

調査区南側のW・X-5グリッドにて検出された。調査区中央付近から南に向かって流下し、北～南側にかけて27・28・29・30・31・32・33号ピット、2・14号土坑、34・35号ピット、1・11号土坑と切り合っている。方向はN-4°-W、平面形態はほぼ直線状で中央付近にて幅がやや広くなり、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長さ7.70m、最大幅0.73m、最小幅0.30m、深さ0.12mを測る。

土 坑(表3)

1号土坑(図19)

調査区南側のW-5グリッドにて検出された。北側は2号溝状遺構と切り合い関係にあり、東側の一部は調査区外に位置する。平面形態は隅丸長方形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸2.57m、短軸1.20m、深さ0.08mを測り、主軸方向はN-44°-Wである。

2号土坑(図19)

調査南側のW-5グリッドにて検出され2号溝状遺構と切り合っている。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.48m、短軸0.43m、深さ0.13mを測り、主軸方向はN-25°-Eである。

3号土坑(図19)

調査区南側のW-5グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態はU字状を呈する。規模は長軸0.50m、短軸0.34m、深さ0.35mを測り、主軸方向はN-76°-Eである。

4号土坑(図19)

調査区中央付近のX-5グリッドにて検出され、1号ピットと切り合っている。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.74m、短軸0.45m、深さ0.14mを測り、主軸方向はN-44°-Eである。

5号土坑(図19)

調査区中央西側のW-5グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態はU字状を呈する。

規模は長軸0.37m、短軸0.31m、深さ0.31mを測り、主軸方向はN-87°-Eである。

6号土坑(図19)

調査区南側のW-5グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は片側テラス状を呈する。規模は長軸0.51m、短軸0.37m、深さ0.30mを測り、主軸方向はN-34°-Wである。

7号土坑(図19)

調査区南側のW-5グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸0.58m、短軸0.33m、深さ0.35mを測り、主軸方向はN-72°-Eである。

8号土坑(図19)

調査区南側のW-5グリッドにて検出された。西側の一部は調査区外に位置し、また東側では20号ピットと切り合っている。中央付近に攪乱をうけている。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。底にはP1・2のピットがある。規模は現況で長軸1.61m、短軸1.10m、深さ0.08mを測り、主軸方向は南北方向である。

9号土坑(図19)

調査区中央付近のX-5グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態はU字状を呈する。規模は長軸0.46m、短軸0.41m、深さ0.34mを測り、主軸方向はN-49°-Eである。

10号土坑(図20)

中央東壁側のW・X-5グリッドにて検出された。一部は調査区外にかかっている。平面形態は不整楕円形、断面形態は丸底状を呈する。規模は現況で長軸0.60m、短軸0.33m、深さ0.12mを測り、主軸方向は南北である。

11号土坑(図20)

調査区南壁側のW-5グリッドにて2号溝状遺構に切られるかたちで検出された。大部分は2号溝状遺構に切られているためその平面形態は不明、断面形態は残存部分から皿状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸0.52m、短軸0.20m、深さ0.04mを測る。

12号土坑(図20)

調査区南西角のW-5グリッドにて検出された。大部分は調査区外に位置するため形態および規模等は不明であるが、規模は現況で長軸0.46m、短軸0.17、深さ0.04mを測る。

13号土坑(図20)

調査区中央東壁付近のX-5グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は丸底状を呈する。規模は長軸0.47m、短軸0.38m、深さ0.12mを測り、主軸方向はN-19°-Eである。

14号土坑(図20)

調査区南側のW-5グリッドにて2号溝状遺構に切られるかたちで検出された。平面形態は残存部分から不整楕円形と考えられ、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は現況から長軸0.67m、短軸0.26m、深さ0.12mを測る。

15号土坑(図20)

調査区中央東壁側のX-5グリッドにて検出され16・17・18号土坑、2号ピットと切り合っている。残存部分から平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状と考えられる。規模は現況で長軸1.02m、短軸0.53m、深さ0.21mを測る。

16号土坑(図20)

調査区中央東壁側のX-5グリッドにて検出され15・17・18号土坑と切り合っている。残存部分から平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状と考えられる。規模は現況で長軸0.45m、短軸0.43m、深さ0.22mを測り、主軸方向はN-32° -Eである。

17号土坑(図20)

調査区中央東壁側のX-5グリッドにて検出され15・16・18号土坑と切り合っている。平面形態は残存部分から不整楕円形、断面形態は上に開くU字状と考えられる。規模は現況で長軸0.52m、短軸0.27m、深さ0.16mを測り、主軸方向はN-70° -Wである。

18号土坑(図20)

調査区中央東壁側のX-5グリッドにて検出され15・16・17号土坑と切り合っている。平面形態は残存部分から不整楕円形と考えられ、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.79m、短軸0.54m、深さ0.14mを測り、その主軸方向はN-79° -Eである。

ピット (図19-2・表6)

ピットは1～36号までの35基が検出された(17号ピットは欠番とする)。内容は表6のピット一覧表に示す。

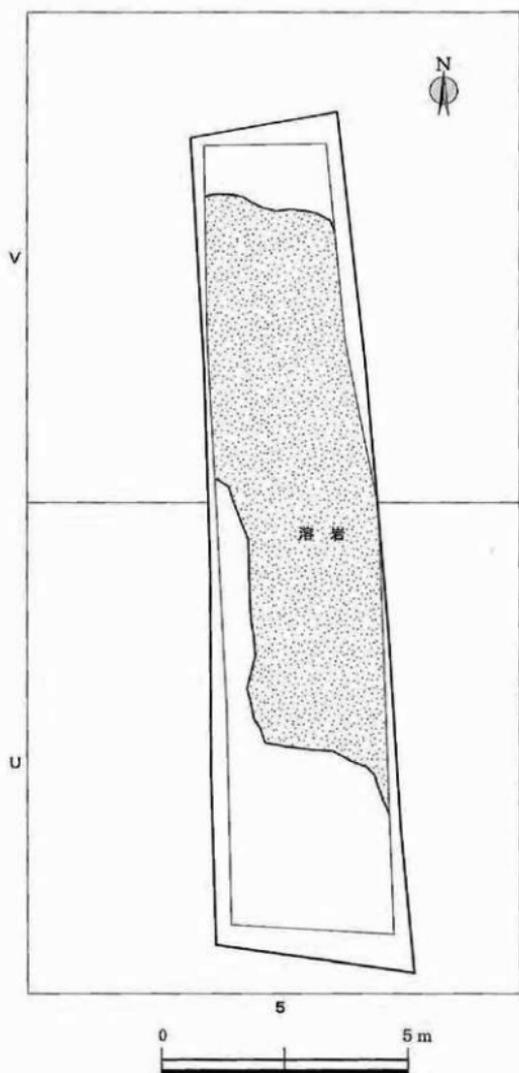


图16 2-1調査区 縄文時代 平面図

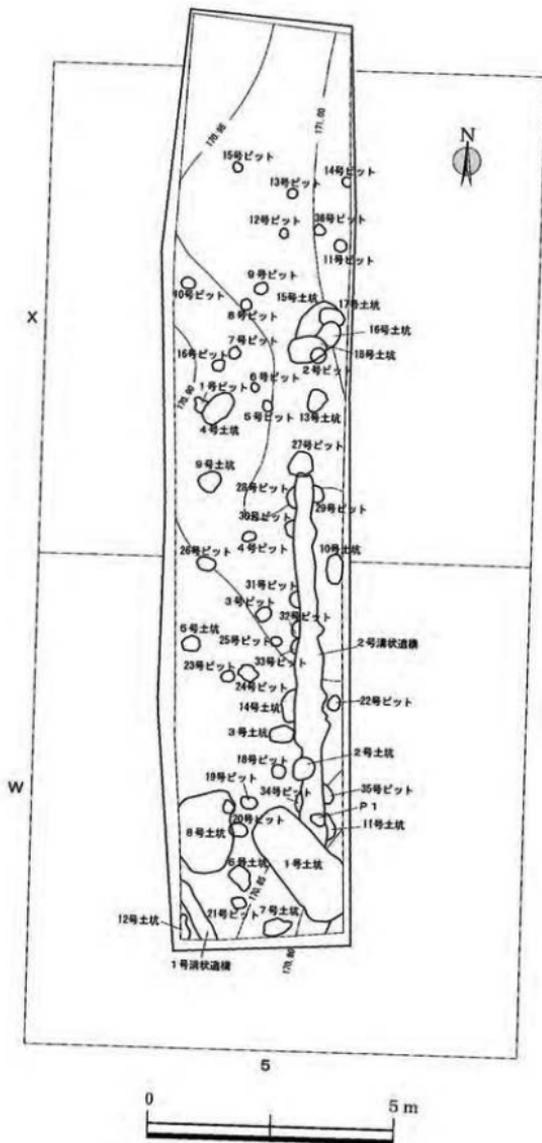


図17 2-2調査区 縄文時代 遺構分布図

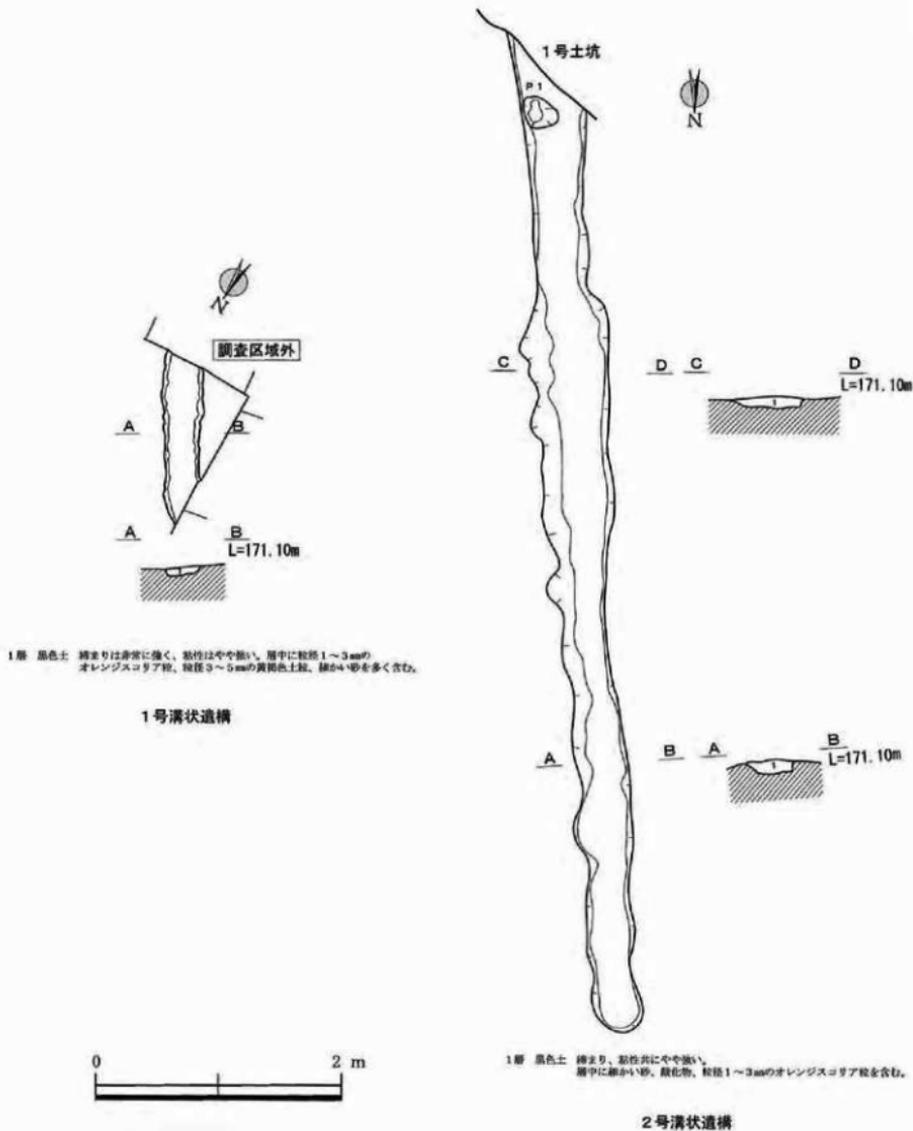


図18 2-2 調査区 縄文時代 溝状遺構実測図

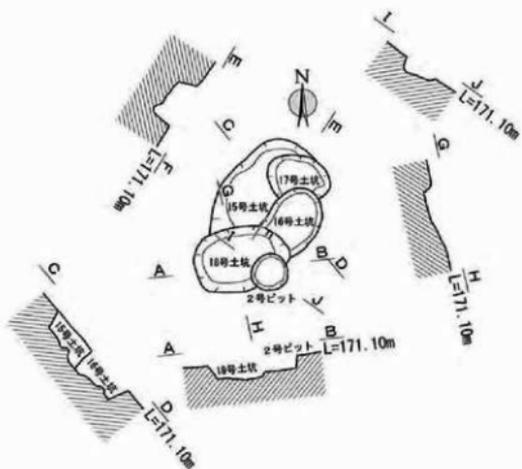
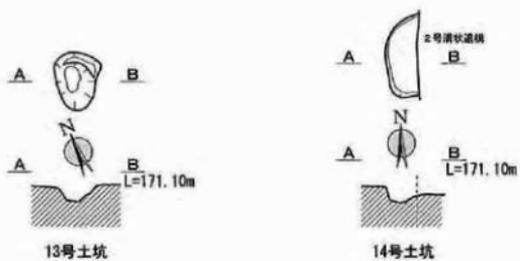
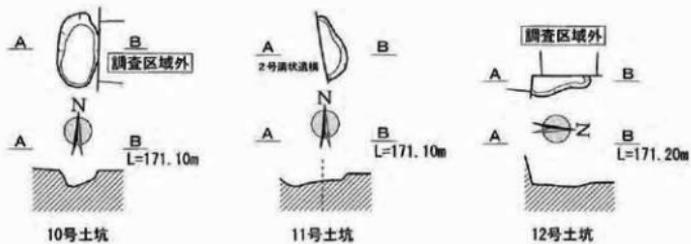


図20 2-2調査区 縄文時代 土坑・ピット実測図②

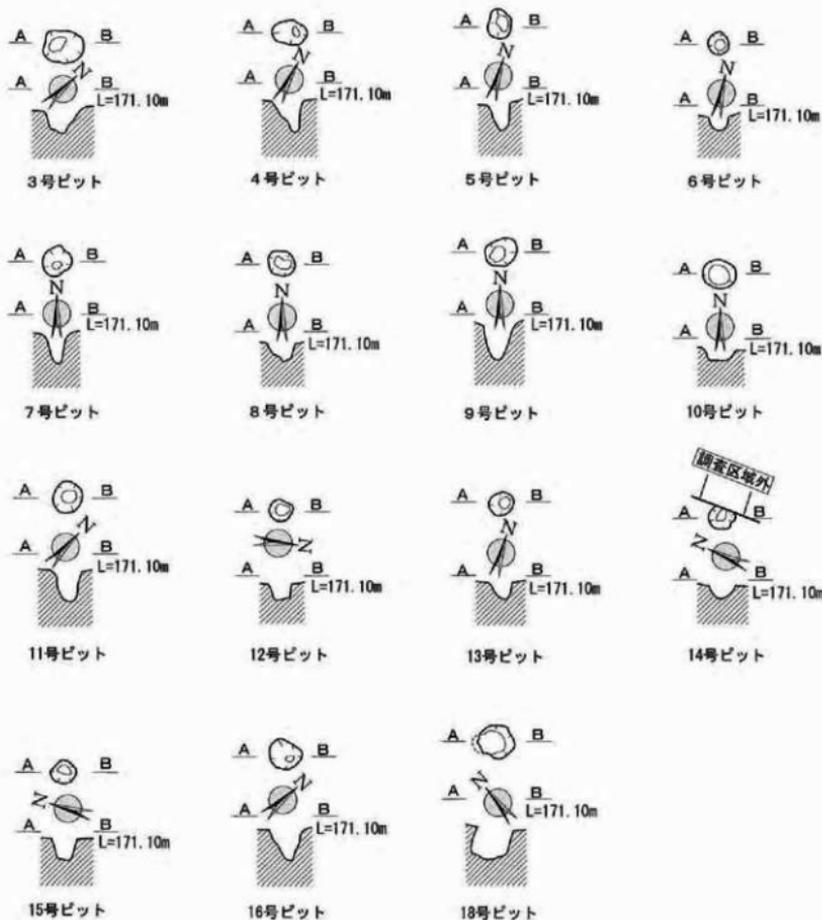


図21 2-2調査区 縄文時代 ビット実測図①

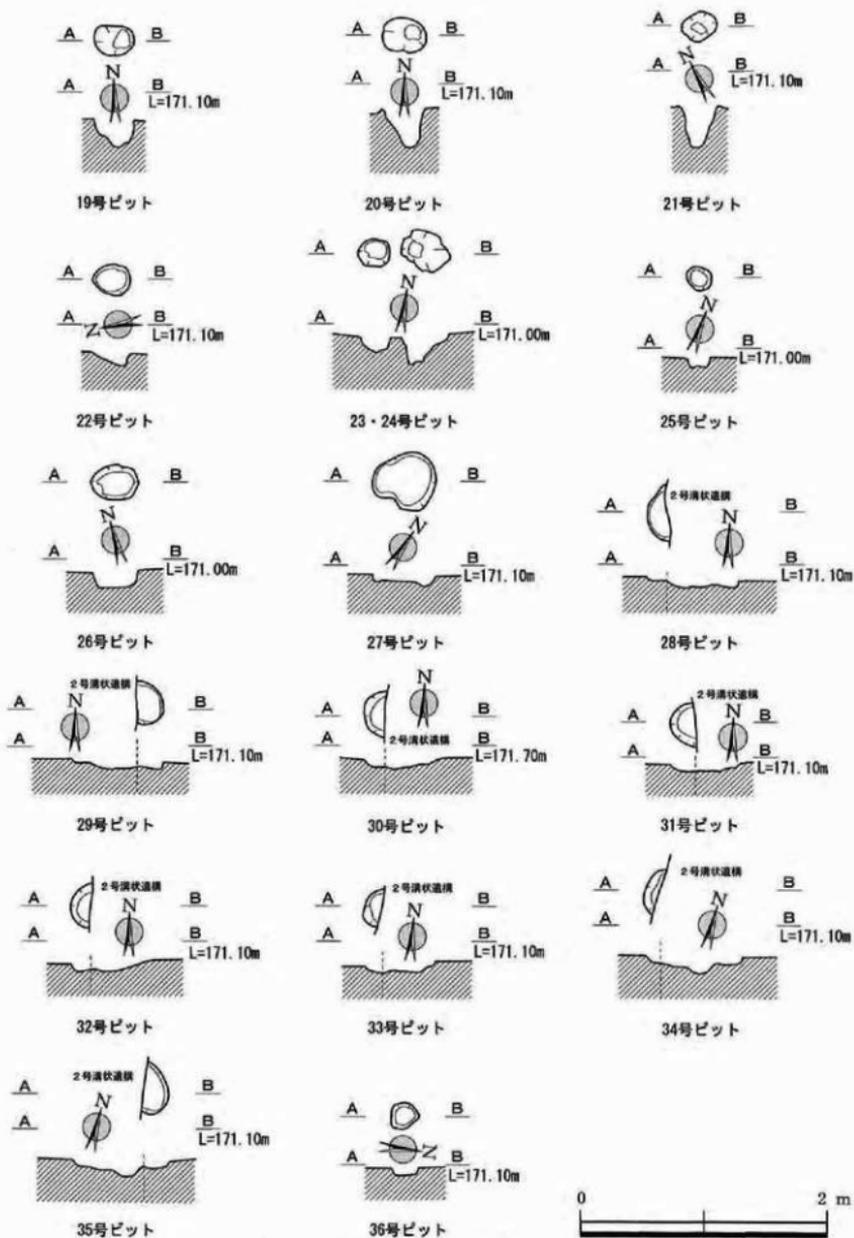
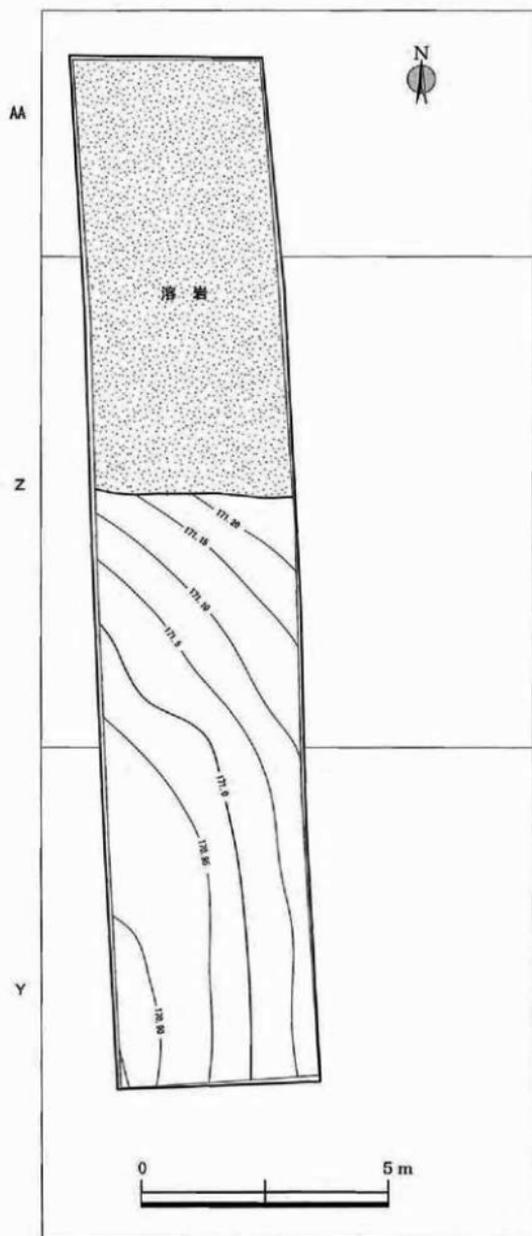


図22 2-2調査区 縄文時代 ピット実測図②



5
 图23 2-3 調査区 縄文時代 平面図

2-3 調査区(図23)

2-2 調査区の北側に位置する。調査区北側から中央付近までは表土層下より2-1 調査区で認められた溶岩が露出し、遺構は調査区南側部分のY-5グリッドから、大沢スコリア層を遺構確認面とする弥生時代以降の柱列跡1基、土坑2基が検出された。

弥生時代以降(図24)

柱穴列跡(表10)

1号柱穴列跡(図25)

調査区南端のY-5グリッドにて検出された。ピットはP1～P3の3基が逆L字状に配置される。ピット間はP1・P2間が1.85m、P2・P3間が1.30mを測る。

土坑(表12)

19号土坑(図26)

調査区南側のY-5グリッドにて検出され、一部は調査区外に位置する。平面形態は不整形円形、断面形態はU字状を呈する。規模は長軸0.53m、短軸0.48m、深さ0.31mを測る。

20号土坑(図26)

調査区南側のY-5グリッドにて検出され、約2/3は調査区外に位置する。平面形態は残存部分から楕円形と考えられる。規模は現況で長軸0.42m、短軸0.13m、深さ0.26mを測る。

2-4 調査区

2-3 調査区の北側、2-5 調査区の西側に位置する。縄文時代の遺構は土坑2基、弥生時代以降の遺構は土坑21基、ピット2基が検出された。

縄文時代(図27)

土坑(表3)

21号土坑(図28)

調査区西側のAC-3グリッドにて検出された。平面形態は不整形円形、断面形態は丸底状を呈する。規模は長軸0.94m、短軸0.76m、深さ0.29mを測り、主軸方向はN-73°-Wである。

22号土坑(図28)

調査区南側のAB-4グリッドにて検出された。テストピットで切られている。平面形態は残存部分から不整形円形、断面形態は皿状と考えられる。規模は現況で長軸1.11m、短軸0.98m、深さ0.13mを測り、主軸方向はN-51°-Wである。

弥生時代以降(図29)

土坑(表12)

23号土坑(図30)

調査区南東角のAB-5グリッドにて検出された。南西側部分は削平されているため、平面形態は不明、断面形態は皿状と考えられる。規模は現況で長軸1.38m、短軸0.54m、深さ0.04mを測る。

24号土坑(図30)

調査区南東角AB-5グリッドにて検出され、東側部分は調査区外に位置する。平面形態は残存部分から

円形、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長軸1.63m、短軸1.46m、深さ0.14mを測る。

25号土坑(図30)

調査区南東角AB-5グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態はU字状を呈する。規模は長軸1.25m、短軸1.14m、深さ0.37mを測る。

26号土坑(図30)

調査区南東側のAB-5グリッドにて検出され、南西側部分は削平されている。平面形態は残存部分から円形、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長軸1.86m、短軸1.28m、深さ0.10mを測る。

27号土坑(図30)

調査区南東側のAB-5グリッドにて検出され、28・30号土坑と切り合う形で検出された。平面形態は不整形円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.23m、短軸1.22m、深さ0.13mを測る。

28号土坑(図30)

調査区南東側のAB-5グリッドにて検出され、27・29・30号土坑と切り合う形で検出された。平面形態は残存部分から不整形円形、断面形態は皿状と考えられる。規模は現況で長軸1.74m、短軸0.80m、深さ0.13mを測る。

29号土坑(図30)

調査区南東側のAB-5グリッドにて28・30号土坑を切る形で検出された。平面形態は不整形円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.70m、短軸1.65m、深さ0.12mを測る。

30号土坑(図30)

調査区南東側AB-5グリッドにて27・28・29号土坑に切り合う形で検出された。平面形態は残存部分から不整形円形、断面形態は皿状と考えられる。規模は現況で長軸1.86m、短軸0.80m、深さ0.09mを測る。

31号土坑(図30)

調査区南東側のAB-4・5グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.50m、短軸1.44m、深さ0.16mを測る。

32号土坑(図31)

調査区南壁付近のAB-4グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.18m、短軸1.10m、深さ0.35mを測る。

33号土坑(図31)

調査区南壁付近のAB-4グリッドにて検出され、一部は調査区外に位置する。平面形態は残存部分から円形、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長軸2.26m、短軸1.84m、深さ0.18mを測る。

34号土坑(図31)

調査区南側のAB-4グリッドにて遺構の一部を35号土坑と切り合う形で検出された。平面形態は不整形円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.14m、短軸1.06m、深さ0.09mを測る。

35号土坑(図31)

調査区南側のAB-4グリッドにて34号土坑と切り合う形で検出された。平面形態は残存部分から円形と考えられ、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸2.29m、短軸2.16m、深さ0.13mを測る。

36号土坑(図31)

調査区南側のAB-4グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.26m、短軸1.21m、深さ0.15mを測る。

37号土坑(図31)

調査区南側のAB-4グリッドにて検出された。西側部分は削平されている。残存部分から平面形態は不整形円形、断面形態は皿状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.49m、短軸0.71m、深さ0.10mを測る。

38号土坑(図32)

調査区西側のAC-4・5グリッドにて検出された。東側部分は削平されている。残存部分から平面形態は不整形円形、断面形態は丸底状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.44m、短軸0.73m、深さ0.06mを測る。

39号土坑(図32)

調査区北側のAC-4グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.55m、短軸0.52m、深さ0.22mを測る。

40号土坑(図32)

調査区北側のAC-4グリッドにて検出された。西側部分は削平されている。残存部分から平面形態は円形、断面形態は皿状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.94m、短軸1.44m、深さ0.08mを測る。

41号土坑(図32)

調査区北側のAC-4・5グリッドにて検出された。南側部分は削平されている。残存部分から平面形態は円形、断面形態は皿状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.80m、短軸1.22m、深さ0.05mを測る。

42号土坑(図32)

調査区西壁付近のAB-3グリッドにて検出された。西側部分は調査区外に位置している。残存部分から平面形態は円形、断面形態は上に開くU字形を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.32m、短軸1.08m、深さ0.54mを測る。

43号土坑(図32)

調査区東側のAC-5グリッドにて検出された。西側の一部分は削平されている。残存部分から平面形態は円形、断面形態は皿状を呈すると考えられる。規模は長軸1.54m、短軸1.51m、深さ0.13mを測る。

ピット (図33、表15)

37～38号の2基が検出され、表15のピット一覧表に記した。

2-5 調査区

2-5 調査区は2-4 調査区の東側、3-1 調査区の西側に位置している。調査区中央付近にて縄文時代の1号埋没谷、弥生時代以降の掘立柱建物跡1棟・柱穴列跡1基・墓跡1基が検出された。

縄文時代

1号埋没谷(図34)

調査区中央付近で北から南方向に流下する。この埋没谷は、土層セクションから大沢スコリア層が堆積した約3,000年前から急速に埋没が始まったことを示している。またこの埋没谷に水が滲水していたことを示す鉄分・ニッケルが沈殿した赤褐色土層がある。規模は上場の幅が約28.5m、下場の幅が9.2m、深さは表土から2.6mを測り、埋没谷の斜面はやや緩やかに立ち上がる。埋没谷には流れ込みによると思われる縄文時代の石器(叩石・磨石・白石等)や剥片(ホルンフェルス・頁岩等)が出土した。

弥生時代以降(図35)

掘立柱建物跡(表9)

1号掘立柱建物跡(図36)

調査区西側のAC-6・7グリッドにて検出された。規模はP5・P3間が4.45m、P6・P2間が5.01m、P5・P6間が2.03m、P4・P1間が2.04m、P3・P2間が2.16mの2×1間の長方形を呈する。柱間寸法はP5・P4間が2.05m、P6・P1間が2.14、P4・P3間が2.38m、P1・P2間が2.88mを測る。主軸方向はN-88°-Wである。

柱穴列跡(表10)

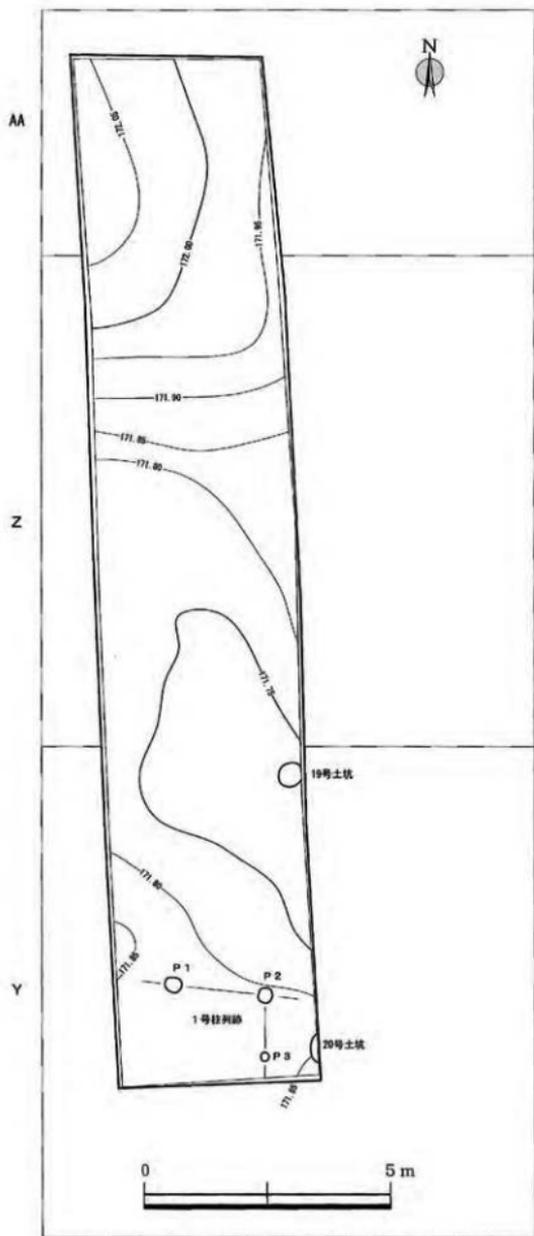
2号柱穴列跡(図37)

調査区西側のAC-7グリッドにて検出された。規模はP2・P4間が3.91m、P1・P2間が1.70mのL字形を呈する。柱間寸法はP2・P3間が2.00m、P3・P4間が1.94mを測る。主軸方向はN-89°-Eである。

墓跡(表13)

1号土墳墓跡(図38)

調査区西側のAC-7グリッドにて検出された。熔岩帯内に構築されているが、後世の土地改変により上部が破壊されており、掘り方が残存しているのみであった。残存部の平面形態は不整形円形、その断面形態は皿状を呈している。規模は長軸1.42m、短軸1.27m、深さ0.18mを測り、その主軸方向はN-2°-Wである。遺物は北側壁面より錢貨が6枚出土していることから副葬品である六文銭と考え土墳墓跡とした。覆土は暗褐色土の1層で締まり・粘性はともにやや強く、粒径1~2mmのオレンジスコリア粒、砂、粒径2~4mmの小石を含んでいる。



5
 图24 2-3調査区 弥生時代以降 遺構分布図

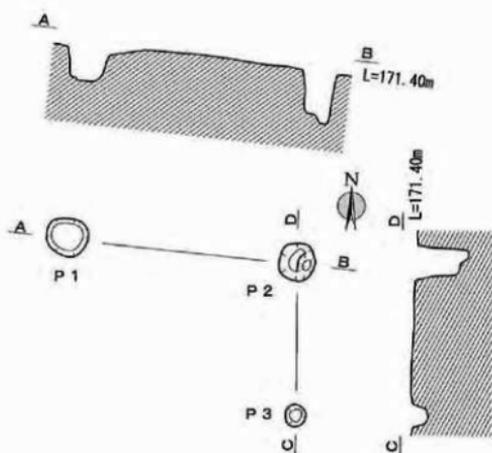


図25 2-3調査区 弥生時代以降 1号柱穴列跡実測図

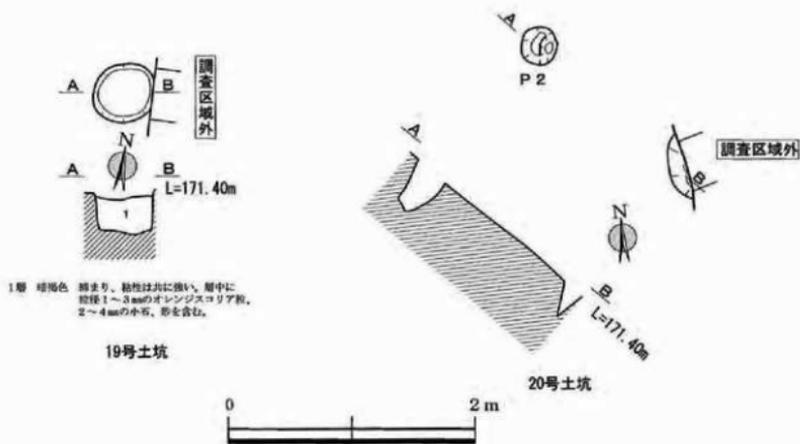
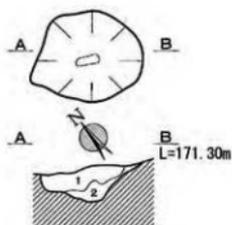


図26 2-3調査区 弥生時代以降 土坑実測図



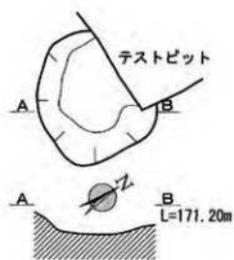
图27 2—4 調查區 縄文時代 遺構分布图



21号土坑

1層 黒色土 土の締まりはやや強い、粒径1~2mmのオレンジスコリア粒を多く含む。

2層 黒褐色土 土の締まりは強く、粘性はやや強い、
粒径1~3mmの黄褐色スコリア粒、黄褐色土のブロックを多く含む。



22号土坑

1層 黒色土 土の締まりはやや強い、粒径1~2mmのオレンジスコリア粒を多く含む。

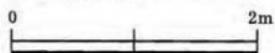
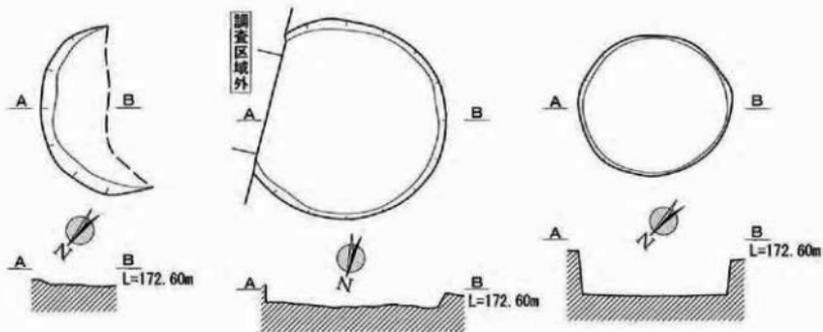


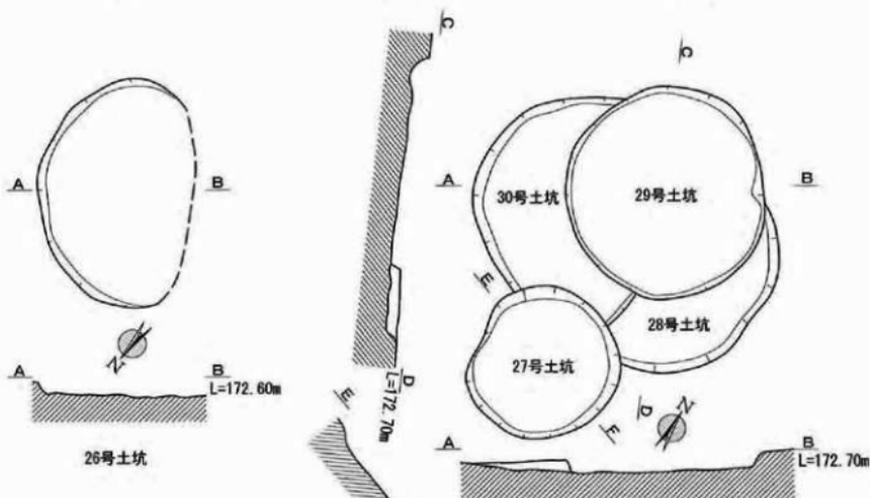
図28 2-4調査区 縄文時代 土坑実測図



23号土坑

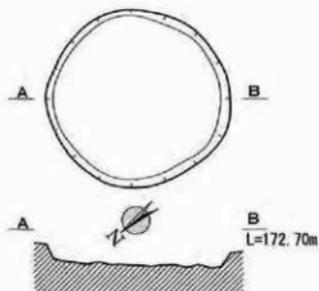
24号土坑

25号土坑



26号土坑

27号・28号・29号・30号土坑



31号土坑

25号～29号・31号土坑

黒色土 跡まわり、粘性は強いやや強い、層中に細かい砂、粒径1～3mmのオレンジスコリア質、小石をやや多く含む。

29号土坑

黒色土 跡まわりは強く、粘性はやや強い、層中に細かい砂、粒径1～3mmの

オレンジスコリア質、小石をやや多く含む。

30号土坑

黒色土 土の跡まわりは非常に強く、粘性は強い、色調はやや暗く、砂、オレンジスコリア質をやや多く含む。



図30 2-4調査区 弥生時代以降 土坑実測図①

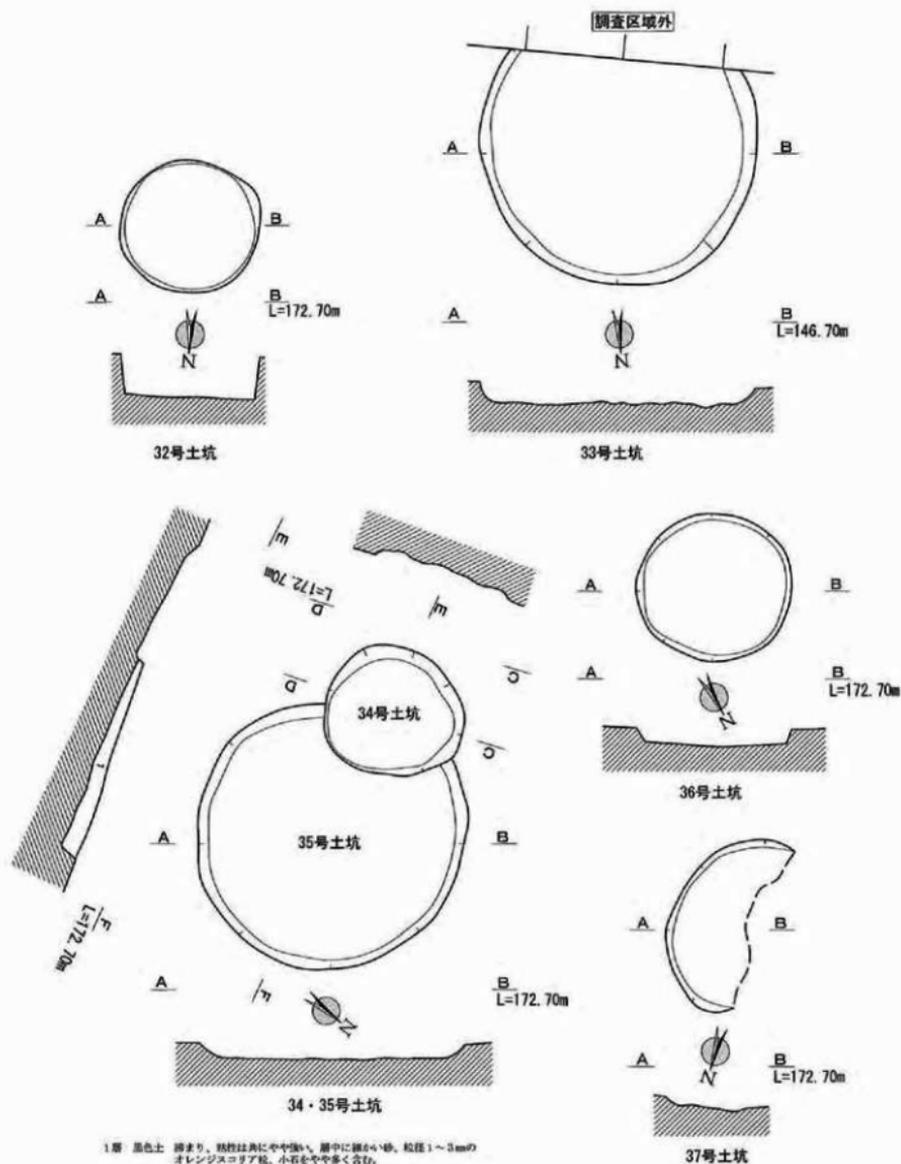
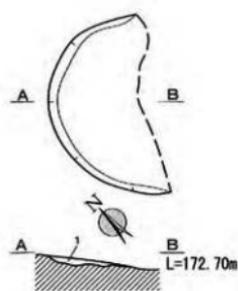
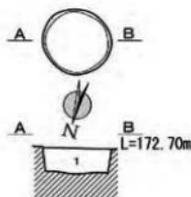


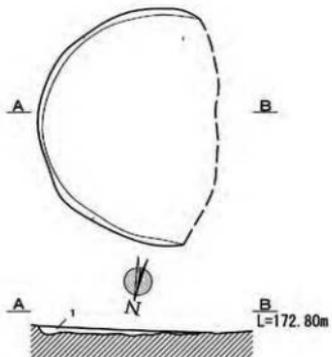
図31 2-4 調査区 弥生時代以降 土坑実測図②



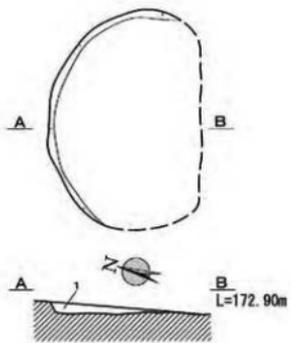
38号土坑



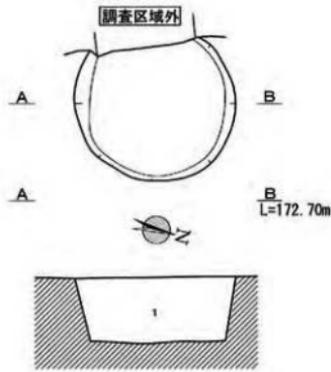
39号土坑



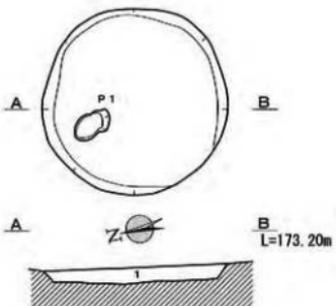
40号土坑



41号土坑



42号土坑



43号土坑

1層 黒色土 粘り、粘性は常にやや強い、層中に細かい砂、粒径1~3mmのオレンジスコリア粒、小石をやや多く含む。



図32 2-4調査区 弥生時代以降 土坑実測図③

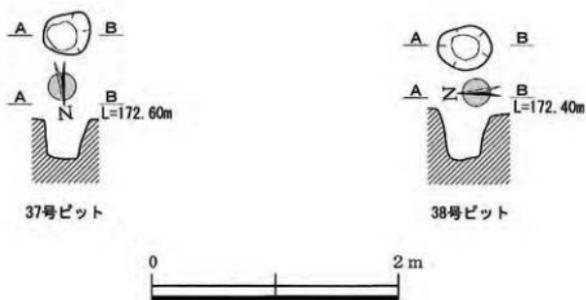


図33 2-4 調査区 弥生時代以降 ビット実測図

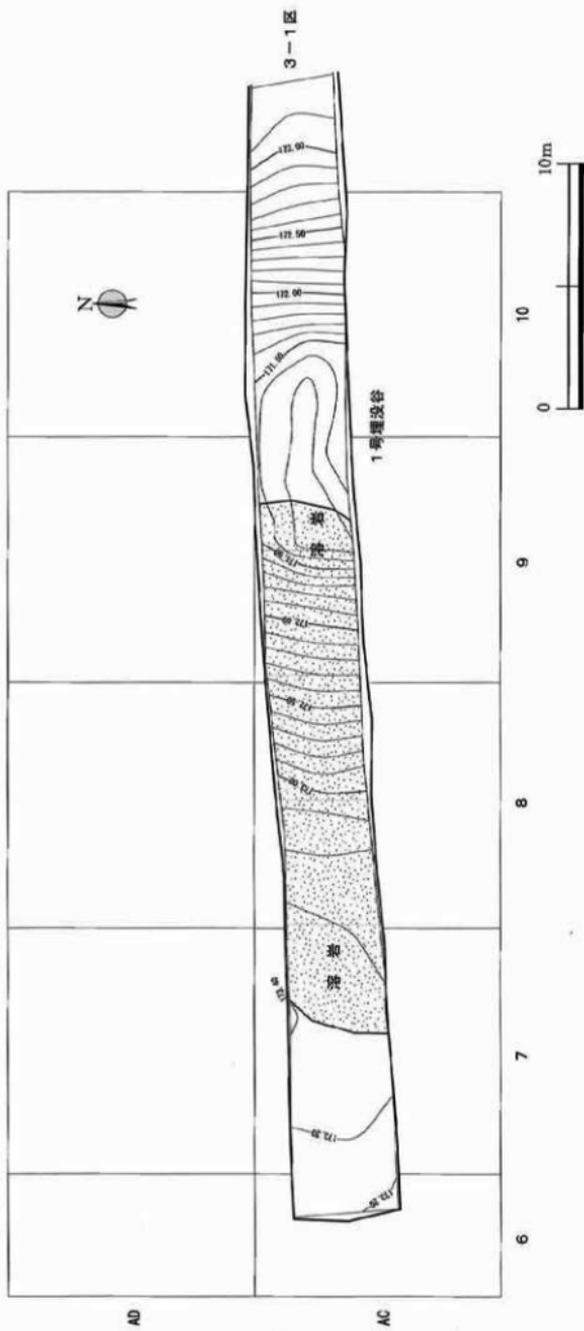


图34 2—5号墓区 1号遗址平面图

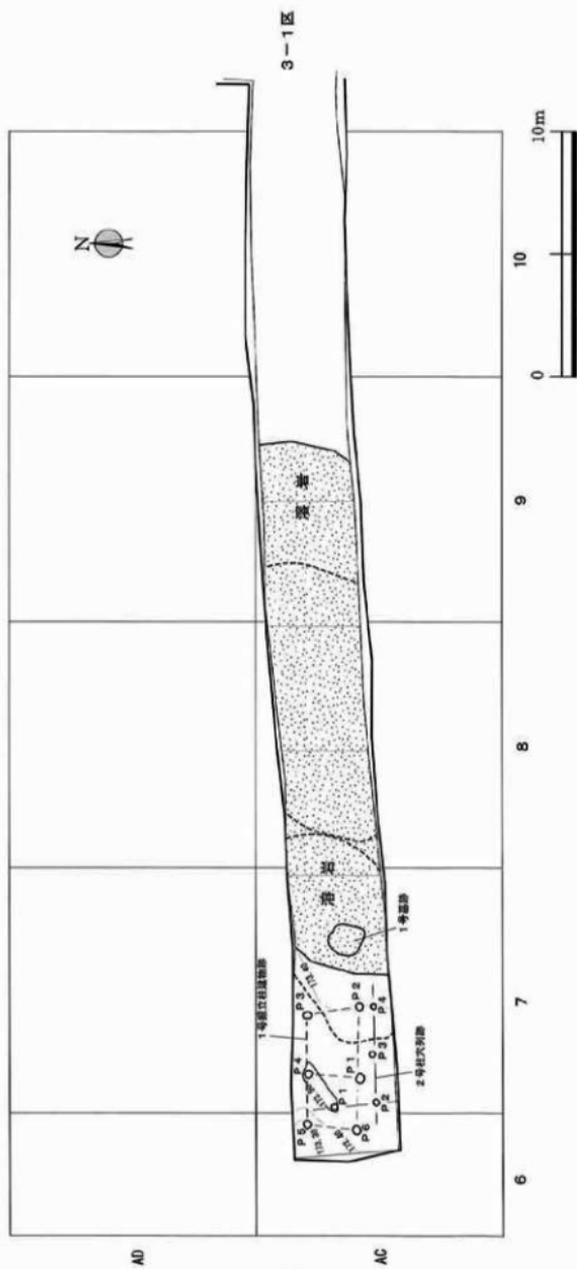


图35 2—5调查区 新石器时代以降 遺構分布図

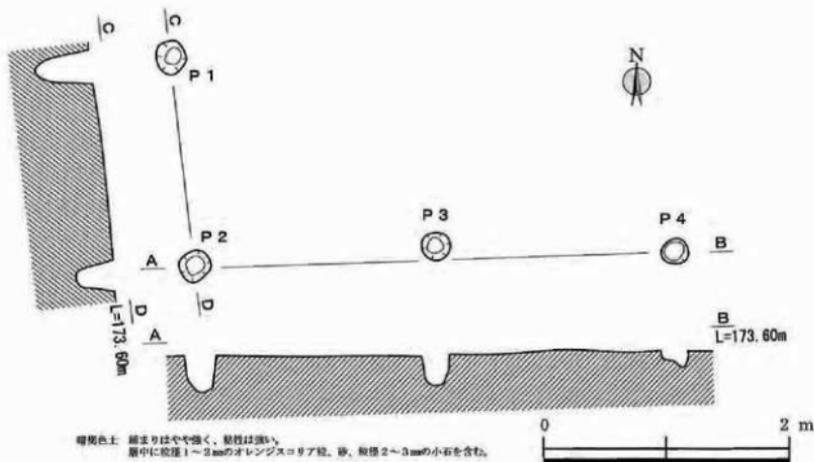


図37 2-5調査区 弥生時代以降 2号柱穴列跡実測図

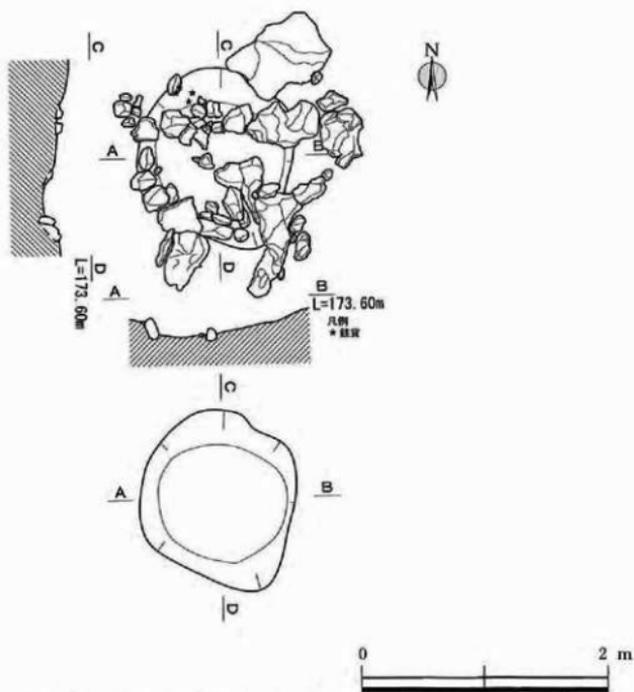


図38 2-5調査区 弥生時代以降 1号土坑跡実測図

3-1 調査区

3-1 調査区は2-5 調査区東側、3-2 A 調査区北側、3-4 調査区南側に位置する。

縄文時代草創期は竪穴状遺構11基、土坑10基、ピット2基、焼土跡2基、配石遺構5基、集石遺構11基が検出された。また、調査区中央を北北西から南南東方向に溶岩流が南下して熔岩帯を形成している。調査区北東側で検出された集石遺構はその溶岩帯が周囲を取り囲むことによって作り出した円形状平場に構築されている。また竪穴状遺構は溶岩帯西側から1号無没谷に向かって標高を下げる緩斜面に平場を取り囲む様に検出された。本調査区は保存のため遺構・遺物の検出作業を行っていない箇所は文章・計測値に未調査と記した。

縄文時代早期の遺構は焼土跡1基、配石遺構3基が検出された。

弥生時代以降は掘立柱建物跡1棟、柱穴列跡1基、溝状遺構1条、土坑11基、ピット1基が検出された。

縄文時代草創期(図39・40)

竪穴状遺構(表2)

1号竪穴状遺構(図41・42・43)

検出状況

調査区北西側のAD・AE-11・12グリッドにて検出された。東側に7・9号竪穴状遺構、南側に2・3・11号竪穴状遺構が隣接する。当初、礫が集中して出土したことから集石遺構として考えていたがサブトレンチを設定して確認の掘り下げを行なった結果、壁が明確に約50cm程立ち上がることで、遺物がトレンチ全体から出土すること等から住居跡を推定させる竪穴状遺構とした。

平面形態・規模

平面形態は不整円四方形を呈し、規模は長軸4.60m、短軸4.22m、深さ0.52mを測り、主軸方向は南北である。

床・壁面

床面は平坦に構築して使用しており硬く硬化している。東側では古富士火山の泥流層である締まりの強い砂層を掘り込み、壁面は比較的急峻な立ち上がり呈している。

柱穴

柱穴と推定される小ピット群が45基検出された。P1～P45は壁面とその周囲を取り囲むかたちで検出されたが、北側部分は調査区境界線にあたりピットの確認が出来なかった。外周のピットは2種類に分類され、一つは壁面にて検出されたピットでやや小型でほぼ垂直に立ち上がる。もう一つは掘方を取り囲むかたちで検出されたピットでやや規模が大きくなり僅かに内側に傾斜している。また壁面および周辺にて検出された個々の柱穴は遺構を挟んで反対側で検出された柱穴と対になると考えられる。

床面から検出されたP41・42の2基は間が65cmを測り、壁面に平行して対に位置することから入口部分に建てたピットと推定される。

炉跡

床面の中央やや西側で石皿が出土した周囲から、黒褐色の覆土に炭化物が混じる浅い掘方を伴う土坑が検出されたことから炉跡とした。規模は長軸0.93m、短軸0.83m、深さ約0.10mを測る。覆土内に含まれる焼土粒の量は少ない。

覆土

7層に分層され、締まりは地山層よりも硬く締まっており、石器・石材・土器片等の他、大小の溶岩礫が多量に含まれていた。この混入している溶岩礫は堆積状況よりみて遺構壁面より中央付近に密度が高くなり、また上層から下層まできれることなく含まれていることから自然堆積というよりも溶岩礫を人為的に投げ込んだと考えられる。

2号竪穴状遺構(図44・45)

検出状況

調査区西側のAD-11・12グリッドにて検出された。11号竪穴状遺構とはほぼ重なるように切り合っ

おり、建て替えによる切り合い関係であると推定される。3・11・12号竪穴状遺構、45・46・51・52号土坑と切り合っている。

平面形態・規模

平面形態は不整形を呈し、規模は長軸4.69m、短軸4.02m、深さ0.30mを測り、主軸方向は南北である。

床・壁面

床面は11号竪穴状遺構の覆土と地山を掘り込んで平坦に構築して使用しており硬く硬化している。床面南壁付近ではこぶし大の溶岩礫がまとまって出土した。遺構壁面は比較的急峻な立ち上がりを呈する。

柱穴

ピットは竪穴状遺構の北側を中心に検出されたが、竪穴状遺構の西側部分は調査区外に位置するためピットの確認は行なうことが出来なかった。ピットは1号竪穴状遺構と同様に2種類に分類され、壁面にて検出されたピットはやや小型でほぼ垂直に立ち上がり、竪穴状遺構を取り囲むかたちで検出されたピットはそれよりも規模が大きくなり、やや内側に傾斜している。11号竪穴状遺構と切り合っていることから11号竪穴状遺構の構築時のピットもあると推定されるが明確に分けられたのは切り合っている部分のみであった。

炉跡

床面中央付近より石皿・台石が出土し、その間に細かい炭化物の分布が僅かに認められたが掘方は認められなかった。

覆土

7層に分層され、締まりは全般に地山層よりも硬く締まっている。堆積状況は1号竪穴状遺構と似ている。

3号竪穴状遺構(図46)

検出状況

調査区西側のAD-11グリッドにて検出され、2・11号竪穴状遺構、47・50土坑と切り合い、北西側部分は調査区外に位置する。保存を前提に精査は実施していないが、一部にトレンチを設定して確認した。

平面形態・規模

平面形態は土層の色調と遺物出土範囲で確認できた部分から不整形を呈すると考えられ、規模は現況で長軸5.91m、短軸1.72mを測る。

床・壁面

未精査であるが、トレンチとその拡張部分内の状況では1・2号竪穴状遺構と同様の床面が確認された。

柱穴

検出されていない。

炉跡

検出されていない。

覆土

トレンチ内の状況では硬く締っており、中小の溶岩礫や石器・石材、土器を含んでいる。

4号竪穴状遺構(図47・48・49)

検出状況

調査区西側のAC・AD-11・12グリッドにて検出され、南西側を5・14号竪穴状遺構、53号土坑と切り合っている。

平面形態・規模

平面形態は検出部分から不整形円形を呈すると考えられ、規模は現況で長軸3.12m、短軸2.40m、深さ0.24mを測り、主軸方向はN-37°-Wである。

床・壁面

床面は地山を掘り込んで平坦な面を構築している。床面下にはこぶし大の溶岩礫を含む砂岩層がみられる。壁面は明瞭な立ち上がりを呈している。

柱穴

4・5号竪穴状遺構からは27基が検出された。壁面と周囲にビットが掘られており、1・2号竪穴状遺構と同様である。床面から2基が検出されたが、1号竪穴状遺構と同様の入口部分のビットかは判断できなかった。

炉跡

検出されなかった。

覆土

4層に分層され、締まりは地山層よりも硬く締まっていた。

5号竪穴状遺構(図47・50・51)

検出状況

調査区西側のAC-11・12グリッドにて検出され、4・14号竪穴状遺構、53号土坑と切り合っている。南側の約1/2は調査区外に位置する。

平面形態・規模

遺構の南側の一部しか検出されていないが平面形態は不整隅丸方形と推定される。規模は現況で長軸3.68m、短軸1.88m、深さ0.24mを測る。

床・壁面

床面は平坦な面を構築して使用している。壁面は比較的急峻な立ち上がりを呈している。

柱穴

4号竪穴状遺構との切り合いから明確には5P1～5の5基のビットである。5P1～5P2・5P3～5P5・5P7～5P8の関係が推定される。

炉跡

検出されなかった。

覆土

覆土は硬く締まっており、層下部には中小の溶岩礫が多く混入している。

6号竪穴状遺構(図52・53)

検出状況

調査区西側のAC・AD-12グリッドにて検出された。西側に4・5・14号竪穴状遺構が隣接する。

平面形態・規模

平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸約3.36m、短軸約3.16m、深さ約0.38mを測り主軸方向は南北方向である。

床・壁面

床面は平坦な面で、床面南側ではテラス状に一段高く構築している。壁面は比較的急峻な立ち上がりを呈する。

柱穴

ビットは南側以外で検出され、1号竪穴状遺構のそれと同様に配置される。掘方を取り囲むかたちでビットは38基が検出された。南側は3-2A調査区の12号集石遺構があり、検出できない状況である。個々のビットは遺構を挟んで反対側で検出されたビットと対になると考えられる。

炉跡

検出されなかった。

覆土

6層に分層され、締まりは地山層よりも硬く、中に大小の溶岩礫が多量に混入している。堆積状況は1号竪穴状遺構と似ている。

7号堅穴状遺構(図54・55・56)

検出状況

調査区北側のAE-12・13グリッドにて検出され、遺構の北側部分は3-4調査区に位置する。1号堅穴状遺構同様に礫が集石状に堆積していたことから、堅穴状遺構である可能性があると推定され検出作業を行った。結果、検出できた堅穴状遺構の中で最大規模のものとなった。

平面形態・規模

平面形態は不整長楕円形を呈し、規模は長軸5.80m、短軸4.56m、深さ0.57m測り、主軸方向は南北である。

床・壁面

床面は地山を掘り込み、床面は中央付近から南西側に向かって傾斜しており、溶岩礫が多く含む地山層である。床面中央付近から南西側部分には貼床と推定される層が検出された。またセクションベルト交点付近では浅い土坑が検出された。セクションベルトは保存しているため、平面形態、規模は不明だが深さは約24mを測る。壁面は比較的急峻な立ち上がり呈している。

柱穴

ピットは取り囲む様に検出された。検出されたピットは小形でほぼ垂直に立ち上がる。また外側にもピットが検出されており、二重に取り囲んでいると考えられる。

炉跡

検出されなかった。

覆土

18層に分層され、締まりは硬く締まっており、土器片、石器・石材等の他こぶし大の溶岩礫を多く含んでいる。

9号堅穴状遺構(図57・58)

検出状況

調査区南西側のAD-AE-12グリッドにて検出され、1・7・2・11号堅穴状遺構が周囲に位置する。

平面形態・規模

平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸2.73m、短軸2.58m、深さ0.52mを測り、主軸方向は南北方向である。

床・壁面

床面は地山を掘り込み平坦な面を構築している。床面の東側・南側には溶岩礫が露出している。壁面は比較的急峻な立ち上がり呈する。

柱穴

遺構の東から南側に壁面に沿ってピット5基が検出された。小形と中形のピットがあり、内側に小形のもの外側に中形が配置される。

炉跡

検出されなかった。

覆土

3層に分層され、締まりは硬く締まっており、こぶし大の溶岩礫を含んでいる。

11号堅穴状遺構(図59)

検出状況

調査区西側のAD-11・12グリッドにて検出され、2号堅穴状遺構とはほぼ重なっており、2号堅穴状遺構の床・壁面精査のなかで検出された。また3号堅穴状遺構と切り合い関係にある。

平面形態・規模

平面形態は不整隅丸方形を呈し、規模は長軸約4.11m、短軸約3.59m、深さ約0.55mを測り、主軸方向はN-89°-Wである。

床・壁面

床面は地山を掘り込んで平坦な面を構築している。壁面は比較的急峻な立ち上がりを呈する。

柱穴

検出されなかった。

炉跡

検出されなかった。

覆土

3層に分層され、締まりは硬く締まる。

12号竪穴状遺構(図60)

検出状況

調査区西側のAD-12グリッドにて検出され、2・11号竪穴状遺構と切り合っている。

平面形態・規模

平面形態は不整長楕円形を呈し、規模は現況で長軸約2.50m、短軸約2.05m、深さ約0.13mを測り、主軸方向はN-36°-Wである。

床・壁面

床面は地山を掘り込んで凹凸である。壁面は比較的緩やかな立ち上がりを呈する。

柱穴

ピットは北側にて検出されているが、2号竪穴状遺構に近接していることから確定はできなかった。

炉跡

検出されなかった。

覆土

5層に分層され、締まりは硬く締まる。

14号竪穴状遺構(図47)

検出状況

調査区南西側のAC・AD-11・12グリッドにて検出され、4・5号竪穴状遺構と切り合っている。現況保存のため覆土の精査を行っていないため、平面形態のみ実測した。

平面形態・規模

平面形態は不明、規模は現況で長軸4.72mを測る。

床・壁面

未調査。

柱穴

4・5号竪穴状遺構との切り合いのため特定されなかった。

炉跡

未調査。

覆土

未調査。

土坑(表3)

44号土坑(図61)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。51号土坑と切り合っている。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.74m、短軸0.67m、深さ0.11mを測り、主軸方向は南北方向である。

覆土は2層に分層された。

45号土坑(図61)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。2号竪穴状遺構、51・52号土坑と切り合っている。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.86m、短軸0.78m、深さ0.06mを測り、主軸方向は南北方向である。

46号土坑(図61)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸2.59m、短軸2.13m、深さ0.19mを測り、主軸方向はN-60°-Eである。

47号土坑(図62)

調査区の東側のAD-11グリッドにて検出された。平面形態は不整形楕円形、断面形態は九底状を呈する。規模は長軸1.49m、短軸1.13m、深さ0.33mを測り、主軸方向は南北方向である。

覆土は4層に分層された。

48号土坑(図62)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形楕円形、断面形態は九底状を呈する。規模は長軸0.83m、短軸0.66m、深さ0.27mを測り、主軸方向はN-47°-Eである。

覆土は2層に分層された。

49号土坑(図62)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形楕円形、断面形態は九底状を呈する。規模は長軸0.57m、短軸0.46m、深さ0.17mを測り、主軸方向はN-47°-Eである。

50号土坑(図63)

調査区の東側のAD-11グリッドにて検出された。平面形態は不整形を、断面形態は凹凸のある皿状を呈する。規模は長軸2.24m、短軸1.75m、深さ0.50mを測り、主軸方向は南北方向である。

覆土は11層に分層された。覆土と形態から風倒木跡であると推定される。

51号土坑(図64)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。2号竪穴状遺構、44・45・52号土坑と切り合っている。残存部分から、平面形態は不整形楕円形、断面形態は鍋底状を呈する。規模は現況で長軸1.43m、短軸1.28m、深さ0.54mを測り、主軸方向は東西方向である。

覆土は3層に分層された。

52号土坑(図64)

調査区の東側のAD-12グリッドにて検出された。2号竪穴状遺構、44・45・51号土坑と切り合っている。平面形態は不整形楕円形を、断面形態はU字状を呈する。規模は現況で長軸1.43m、短軸1.28m、深さ0.54mを測り、主軸方向は南北方向である。

覆土は9層に分層された。

遺構内から一括土器が出土したことや形態から土壙墓と考える。

53号土坑(図47)

調査区の東側のAC-11グリッドにて検出された。4・5・14号竪穴状遺構と切り合い、4・5号竪穴状遺構の床面から検出された。現況保存のため覆土の精査は行っていない。平面形態は現況で不整形を呈する。規模は現況で長軸1.15m、短軸0.95mを測り、主軸方向は東西方向である。

焼土跡(表5)

1号焼土跡(図65)

調査区南西側のAC・AD-11グリッドにて検出された。平面形態は不整形楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長径0.83m、短径0.73m、深さ0.13mを測り、主軸方向はN-65°-Wである。

覆土は3層に分層され、底の2層が焼土層である。

2号焼土跡(図65)

調査区北側のAE-13グリッドにて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は鍋底形を呈する。規模は長径0.59m、短径0.40m、深さ0.23mを測り主軸方向はN-81°-Wである。

覆土は2層に分層された。

配石遺構(表7)

1号配石遺構(図66)

調査区中央のAD-13グリッドにて検出され、遺構東側には溶岩帯が、北～西～南側には配石遺構と

集石遺構が隣接する。平面形態は円形を呈し、規模は長軸1.87m、短軸1.76mを測る。使用している石は約50cm前後大の溶岩礫を円形に組み、その内側に沿って約20cm前後大の角礫状の溶岩礫を組んでいる。中央には小形の溶岩礫が覆土を覆う様に置かれている。

2号配石遺構(図67)

調査区中央のAD-13グリッドにて検出された。遺構東側には溶岩帯が広がり、北側に3号配石遺構、北西側に2号集石遺構・3号集石遺構が、南側には4号集石遺構が隣接する。平面形態は不整形円形を呈し、規模は長軸1.12m、短軸0.88mを測る。中型の溶岩礫を用いて構築されている。遺物は散石が1点出土している。

3号配石遺構(図67)

調査区中央AD-13グリッドにて検出された。遺構東側には溶岩帯が広がり、北側に1号配石遺構、南側に2号配石遺構、南西側に2号集石遺構・3号集石遺構が隣接する。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.04m、短軸0.63mを測り、中型の溶岩礫を用いて構築されている。

4号配石遺構(図68)

調査区中央のAC-12グリッドにて検出され、遺構東側には溶岩帯が広がり、北東側に9号集石遺構が隣接する。平面形態は不整形円形を呈し、規模は長軸0.60m、短軸0.40mを測り、主軸方向はN-29°-Wである。中型の溶岩礫を用いて構築されている。

5号配石遺構(図68)

調査区中央のAD-12グリッドにて検出され、遺構東側には1号集石遺構、北東に7号集石遺構が隣接する。規模は長軸1.26mを測り、2つの礫が東西に配置されている。

集石遺構(表8)

1号集石遺構(図66)

調査区中央AD-13グリッドにて検出され、東側に1号配石遺構が隣接している。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。平面形態は不整形円形を呈し、広がり長軸0.97m、短軸0.42mを測り、主軸方向はN-19°-Eである。小型の溶岩礫を用いて構築されている。

2号集石遺構(図67)

調査区南側のAD-13グリッドにて検出され、北西側に3号集石遺構が、東側に2号配石遺構が隣接している。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.28m、短軸0.94mを測り、主軸方向はN-38°-Eである。小型の溶岩礫で構築されており所々礫の空白部分が認められる。

3号集石遺構(図67)

調査区南側のAD-13グリッドにて検出された。南東側に2号集石遺構が隣接している。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。遺構の平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.55m、短軸0.90mを測り、主軸方向はN-40°-Eである。小型の溶岩礫で構築されておりやや散漫な広がりをみせる。

4号集石遺構(図69)

調査区南側のAC・AD-13グリッドにて検出された。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。平面形態は楕円形を呈し、広がり長軸1.4m、短軸1.14mを測り、主軸方向はN-36°-Eである。断面観察から地山を僅かに掘り穿め、小型の溶岩礫を置きその上にやや大型の溶岩礫を積んで構築されている。

5号集石遺構(図70)

調査区中央のAE-12・13グリッドにて検出され、南側に6号集石遺構が隣接する。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.26m、短軸0.98mを測る。礫は中小の溶岩礫によって構築されている。

6号集石遺構(図70)

調査区中央AD・AE-12・13グリッドにて検出され、北側に5号集石遺構が、南側に7号集石遺構が隣接している。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。平面形態は不整形円形を呈し、広がり

は長軸2.48m、短軸1.80mを測り、主軸方向はN-31° -Eである。中小の溶岩礫を用いて構築されている。

7号集石遺構(図71)

調査区中央AD-12・13グリッドにて検出され、北に6号集石遺構、南に1号集石遺構が隣接している。北東から南西に緩やかに下る斜面上に位置する。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.35m、短軸0.60mを測り、主軸方向はN-35° Eである。小型の溶岩礫を用いて構築されており、北東側には礫の空白部分が認められる。

8号集石遺構(図72)

調査区西側のAD-11グリッドにて検出された。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.28m、短軸0.88mを測り、主軸方向はN-15° -Wである。小型の溶岩礫で構築されており、集石南側には礫の空白部分が認められる。

9号集石遺構(図72)

調査区南側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.57m、短軸1.25mを測り、主軸方向はN-16° -Eである。中央に小型の溶岩礫を、その周りにやや大きめの溶岩礫を用いて構築されており、中央には礫の空白部分が認められる。

10号集石遺構(図73)

調査区南側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸1.20m、短軸1.00mを測り、主軸方向はN-42° -Eである。中央に小型の溶岩礫を、その周りにやや大きめの溶岩礫を用いて構築されており、集石中央には礫の空白部分が認められる。

11号集石遺構(図74)

調査区北東側の溶岩層内にて検出された。平面形態は不整形を呈し、広がり長軸4.20m、短軸3.00mを測り、主軸方向はN-45° -Wである。溶岩層の一部を抜き取り平坦面を形成した後、溶岩礫を用いて構築している。保存の為に平面の確認に留めた為詳細は不明である。

縄文時代早期(図75)

焼土跡(表5)

3号焼土跡(図76)

調査区中央付近のAD-13グリッドにて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は鍋底形を呈する。東北端には台石が置かれている。規模は長径0.63m、短径0.46m、深さ0.24mを測り主軸方向はN-63° -Eである。

覆土は6層に分層された。

配石遺構(表7)

6号配石遺構(図77)

調査区中央のAC-12・13グリッドにて検出された。規模は長軸6.40mを測り、主軸方向はN-48° -Eである。中型の溶岩礫を用いて構築されている。

7号配石遺構(図77)

調査区中央のAD-11・12グリッドにて検出された。規模は長軸4.30mを測り、主軸方向はN-59° -Wである。中型の溶岩礫を用いて構築されている。

8号配石遺構(図77)

調査区中央のAE-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形を呈し、規模は長軸3.70m、短軸1.80mを測り、主軸方向はN-36° -Eである。中型の溶岩礫を用いて構築されている。

弥生時代以降(図78)

掘立柱建物跡(表9)

2号掘立柱建物跡(図79)

調査区南側のAC・AD-13グリッドにて検出された。規模は長軸4.3m、短軸2.28mで長方形を呈す

る。柱間寸法はP1・P2間が2.04m、P2・P3間が2.27m、P4・P5間が2.07m、P5・P6間が2.23m、P1・P4間が2.26m、P2・P5間が2.27m、P3・P6間が2.25mを測る。主軸方向はN-87°-Wである。

柱穴列跡(表10)

3号柱穴列跡(図80)

調査区南東側のAC-14・15グリッドにて検出された。検出された柱穴列は1列だけで対となる柱穴列は調査区外に所在していると考えられる。検出された柱穴列の規模はP1~P5間が5.36mで、柱間寸法はP1・P2間が0.96m、P2・P3間が1.13m、P3・P4間が1.36m、P4・P5間が1.91m、P5・P6間が2.60mを測る。主軸方向はN-86°-Eである。

溝状遺構(表11)

3号溝状遺構(図81)

調査区内西側のAC~AD-12グリッドにて検出された。調査区西側境界から入り調査区内を北西から南に向かって流下し調査区外へと延びている。北側部分でN-32°-Wを、中央付近でN-7°-Wを指向し、規模は長さ14.53m、最大幅が1.10m、最小幅が0.60m、深さ0.14mを測り、平面形態は溝の北側でやや南に曲がりほぼ直線状に流下する。また、溝の中間付近では溝幅が狭くなり調査区南壁付近で再度広くなる。断面形態は皿状を呈する。

土坑(表12)

54号土坑(図82)

調査区の北東側のAE-15グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.97m、短軸0.80m、深さ0.06mを測り、主軸方向は南北である。

55号土坑(図82)

調査区の北東側のAE-14・15グリッドにて検出された。平面形態は不整円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.35m、短軸1.28m、深さ0.11mを測る。

56号土坑(図82)

調査区北東側のAE-15グリッドにて検出された。平面形態は不整円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.34m、短軸1.29m、深さ0.11mを測る。

57号土坑(図82)

調査区東側のAD-15グリッドにて検出された。平面形態は不整円形を、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.37m、短軸1.31m、深さ0.08mを測る。

58号土坑(図82)

調査区北側のAE-14グリッドにて検出された。北側約2/3は調査区外に位置するため平面形態は不明である。残存部分から断面形態は皿状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.21m、短軸0.36m、深さ0.19mを測る。

59号土坑(図82)

調査区北側のAE-14グリッドにて検出された。北側約1/3は調査区外に位置するが、残存部分から平面形態は円形を呈すると考えられ、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.00m、短軸0.66m、深さ0.12mを測る。

60号土坑(図82)

調査区中央付近のAD・AE-14グリッドにて検出された。平面形態は不整円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.03m、短軸0.98m、深さ0.09mを測る。

61号土坑(図82)

調査区西側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.11m、短軸1.09m、深さ0.17mを測る。

62号土坑(図82)

調査区西側のAD-12グリッドにて検出された。平面形態は円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.07m、短軸1.04m、深さ0.37mを測る。

63号土坑(図82)

調査区南東側のAC・AD-14・15グリッドにて検出された。平面形態は不整形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.31m、短軸1.25m、深さ0.06mを測る。

64号土坑(図82)

調査区南東側のAD-15グリッドで検出された。平面形態は不整形を、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.15m、短軸1.13m、深さ0.27mを測る。

ピット(図80、表15)

ピットは41号ピットが検出された。内容は表15のピット一覧表に示す。

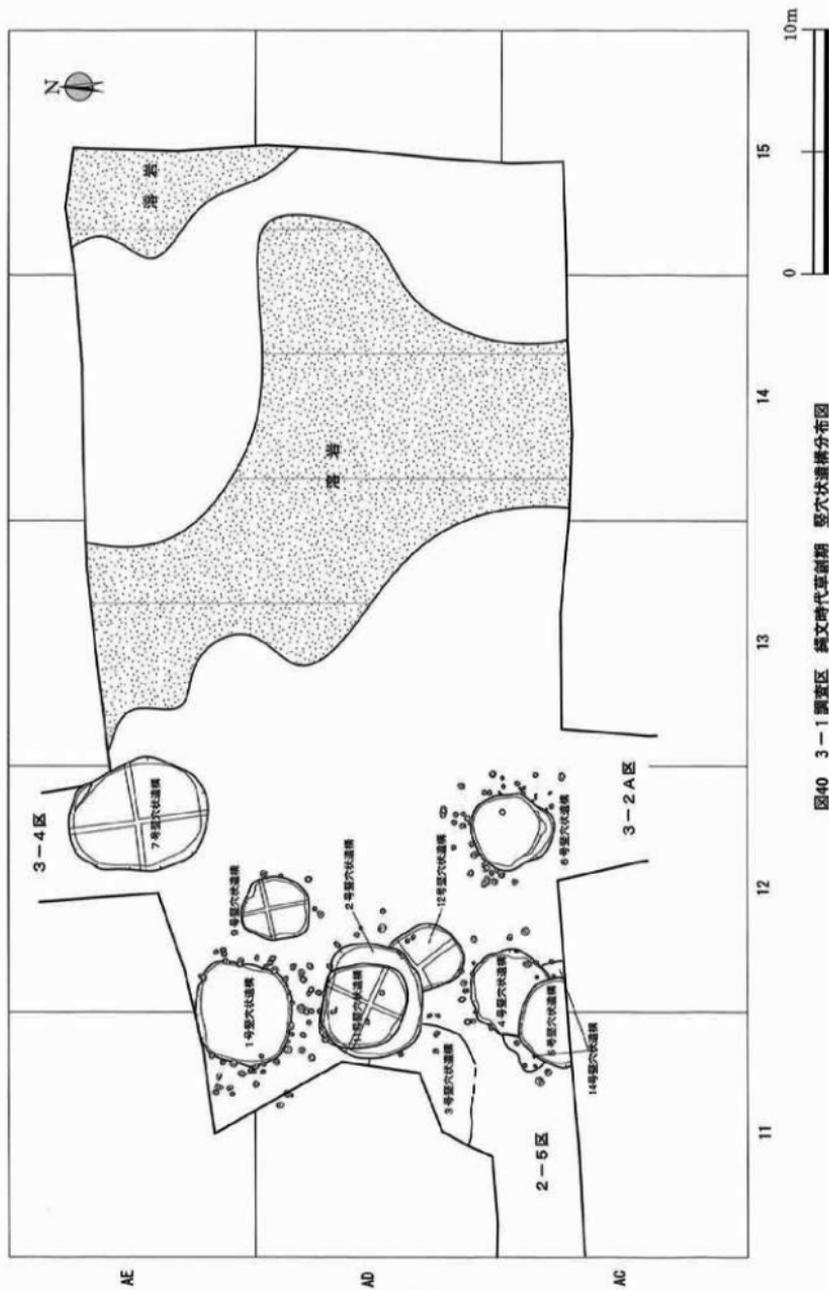


図40 3-1調査区 縄文時代草創期 竪穴状遺構分布図

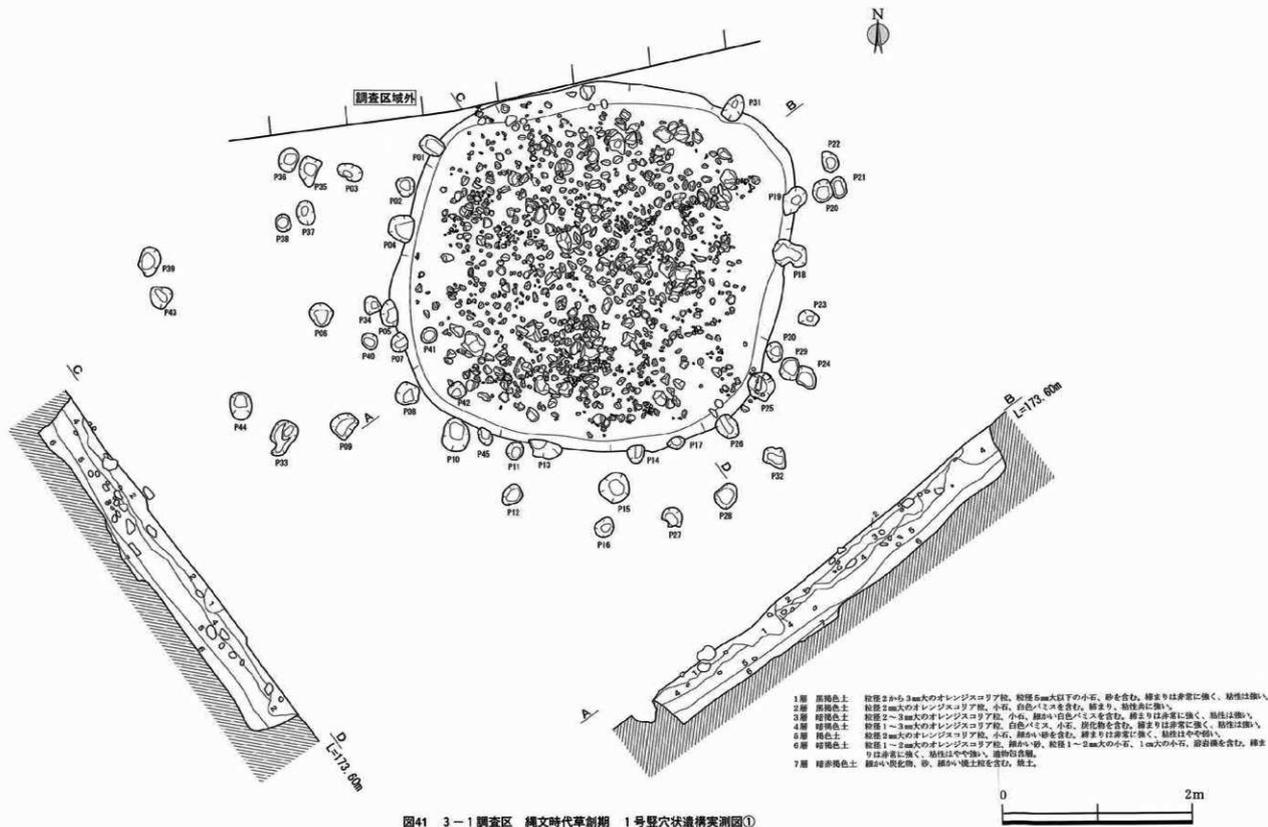


図41 3-1 調査区 縄文時代革新前期 1号竪穴伏遺構実測図①

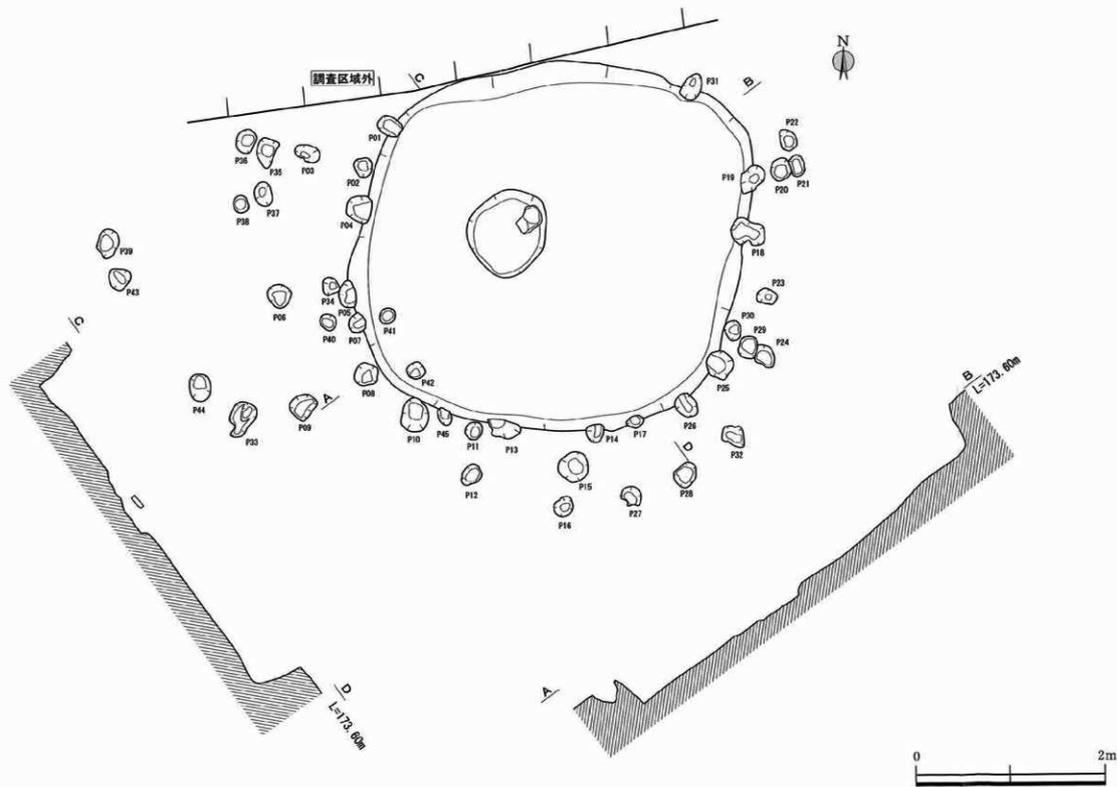


图42 3-1 調査区 縄文時代草創期 1号壘穴状遺構実測図②

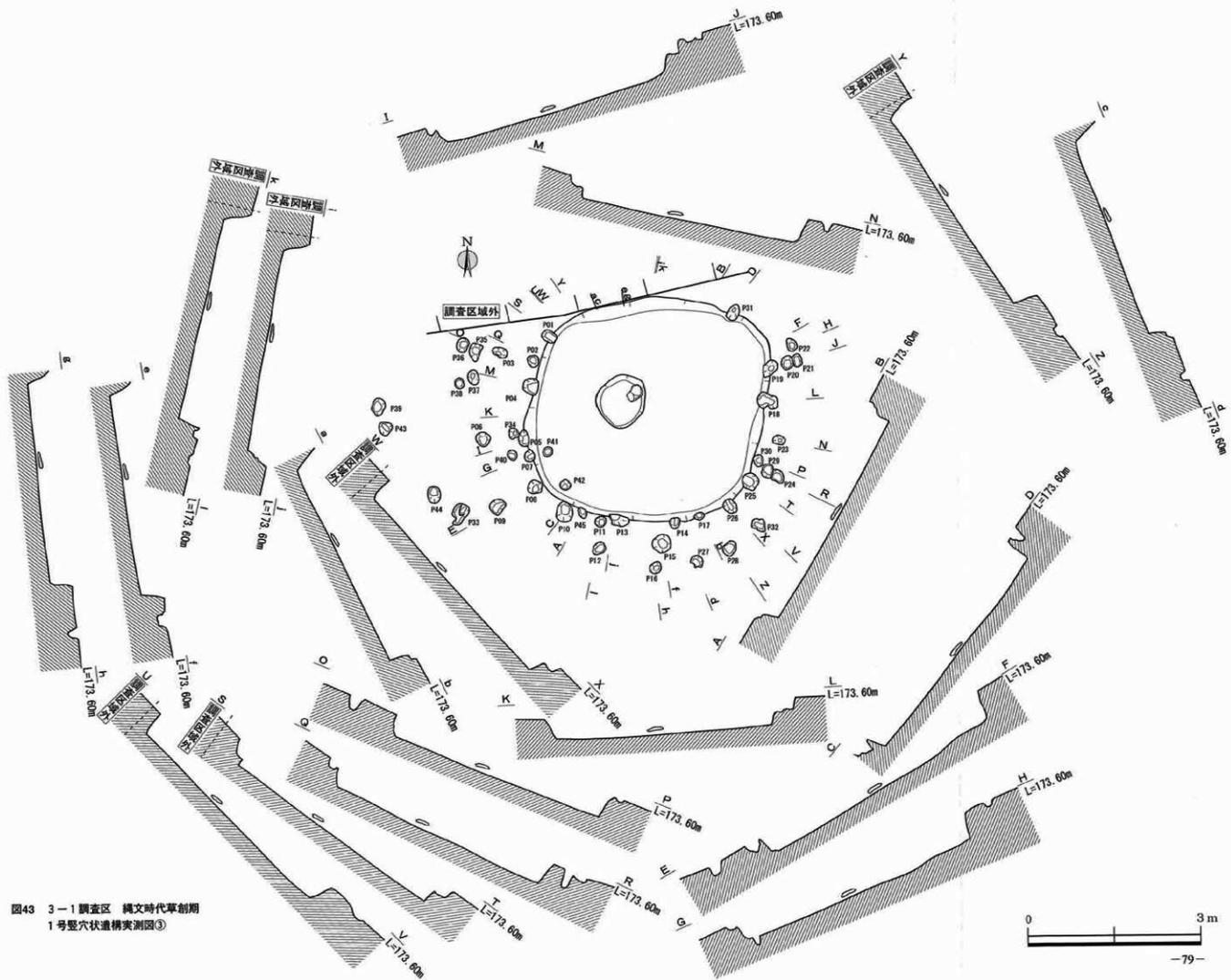
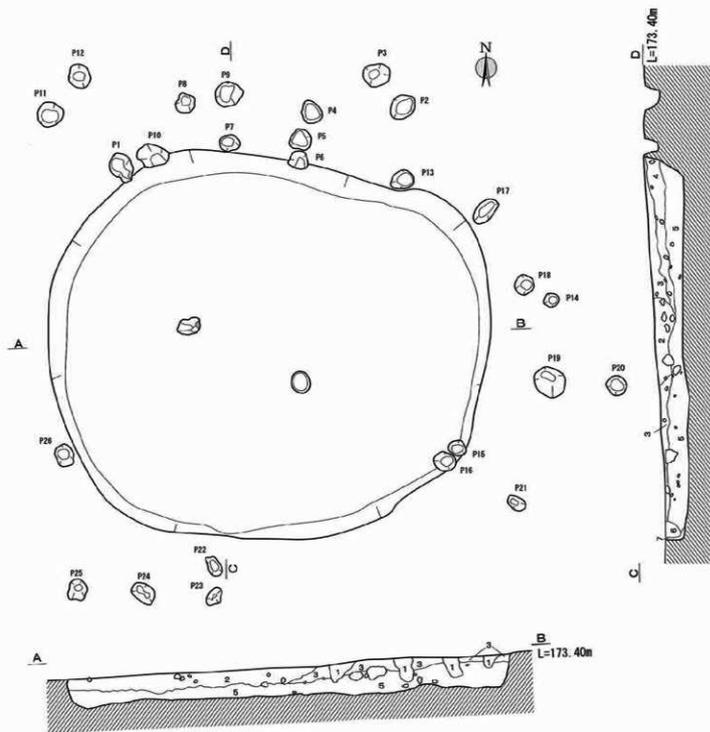


图43 3-1 调查区 绳文时代草创期
1号竖穴状遺構実測图③



- 1層 黒色土 締まりは非常に強く、粘性は強い。層中に2~3mmのオレンジスコリア粒、小石を含む。
- 2層 黄褐色土 締まり、粘性共に強い。層中に1~3mmのオレンジスコリア粒、粒径1白色バミス粒、粒径2~4mmの小石を含む。
- 3層 黄褐色土 締まりは非常に強く、粘性は強い。層中に粒径1~2mmのオレンジスコリア粒を多く含む。細かい白色バミス粒、小石を含む。
- 4層 黒色土 締まりは非常に強く、粘性は中程度。層中に粒径2~3mmのオレンジスコリア粒、小石、細かい白色バミス粒を多く含む。
- 5層 黄褐色土 締まりは非常に強く、粘性は中程度。層中に粒径2~4mmのオレンジスコリア粒、粒径4~8φ、小石を多く含む。
- 6層 黄褐色土 締まり、粘性共に強い。層中に粒径2~3mmのオレンジスコリア粒、粒径1~2mmの黄褐色スコリア、粒径4~8φ、粒径2~3mmの小石を含む。
- 7層 黄褐色土 締まりは非常に強く、粘性は中程度。層中に粒径2mmのオレンジスコリア粒、粒径4~8φ、粒径2~3mmの小石を含む。

図44 3-1 調査区 縄文時代草創期 2号壘穴状遺構実測図①



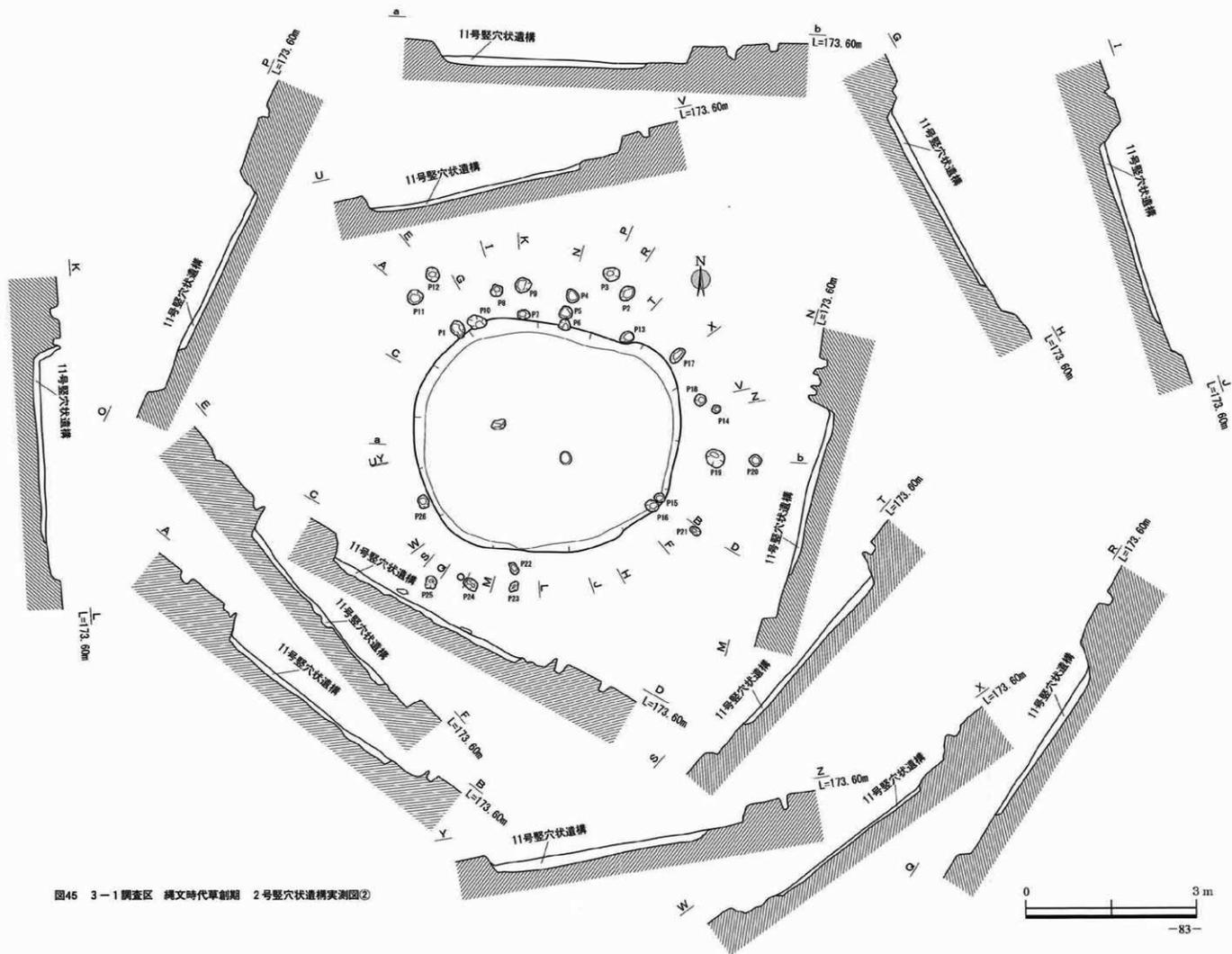
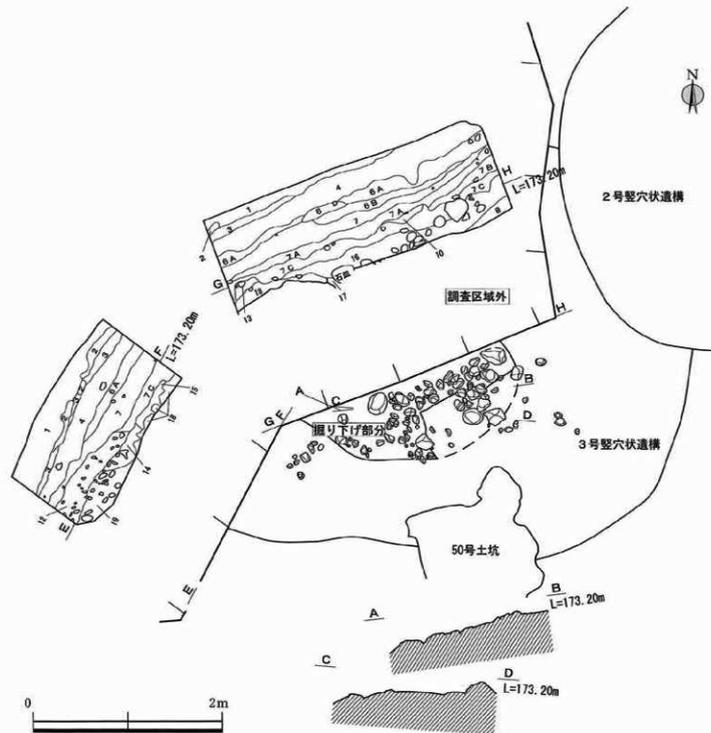


图46 3—1 調査区 縄文時代草創期 2号壑穴状遺構実測図②



- 1層 黒色土 粒径1mm以下のオレンジスコリア粒、細かい砂をやや多く含む。締まりは強く、粘性はやや強い。
- 2層 黄褐色土 締まりは非常に強く、粘性は強い。細かい砂を多く含む。
- 3層 暗褐色土 細かいオレンジスコリア粒、粒径2～3mmの小石をやや多く含む。締まり、粘性共に強い。
- 4層 黒褐色土 粒径1～5mmのオレンジスコリア粒、粒径5mm程度の小石をわずかに含む。締まり、粘性共に強い。
- 5層 暗褐色土 粒径3mm程度のオレンジスコリア粒、細かい砂をわずかに含む。締まり、粘性共に強い。
- 6A層 褐色土 スコリアはほとんど含まない。締まり、粘性共に強い。
- 6B層 暗褐色土 縄文時代早期の礫物を含む。締まり、粘性共に強い。
- 7層 褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒、細かい砂をわずかに含む。締まり、粘性共に強い。
- 7A層 黒褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒を微量含む。締まり、粘性共に強い。
- 7B層 褐色土 粒径1～5mmのオレンジスコリア粒を多く含む。締まりは非常に強い。
- 7C層 褐色土 粒径1～3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。締まりは非常に強い。
- 8層 褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒、粒径5mm程度の礫物粒、細かい砂を含む。締まり、粘性共に強い。
- 9層 黄褐色土 粒径1～3mmのオレンジスコリア粒、粒径5mm程度の礫物粒、細かい砂を含む。また細かい炭化物粒をわずかに含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 10層 褐色土 粒径0～10mmの礫物粒を多く含む。締まり、粘性共に強い。
- 11層 暗褐色土 粒径1～4mmのオレンジスコリア粒、細かい砂、粒径5mm程度の礫物粒を含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 12層 暗褐色土 粒径2～4mmのオレンジスコリア粒、粒径0.4～6mmの礫物粒、細かい砂を含む。締まり、粘性共に強い。
- 13層 暗褐色土 粒径1～3mmのオレンジスコリア粒、粒径5mm程度の礫物粒、細かい砂を含む。締まりは強く、粘性はやや強い。
- 14層 暗褐色土 粒径1～4mmのオレンジスコリア粒、細かい砂、細かい炭化物粒を含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 15層 褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒、粒径2～3mmの礫物粒を含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 16層 褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒、粒径2～3mmの礫物粒を含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 17層 暗褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒、細かい砂、細かい炭化物粒を含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 18層 褐色土 粒径1～2mmのオレンジスコリア粒、粒径2～3mmの礫物粒を含む。締まりは非常に強く、粘性は強い。
- 19層 褐色土 粒径2～3mmのオレンジスコリア粒、黄褐色スコリア粒、細かい砂、粒径10mm程度の礫物粒を含む。締まり、粘性共に強い。

図46 3-1 調査区 縄文時代草創期 3号竪穴状遺構実測図

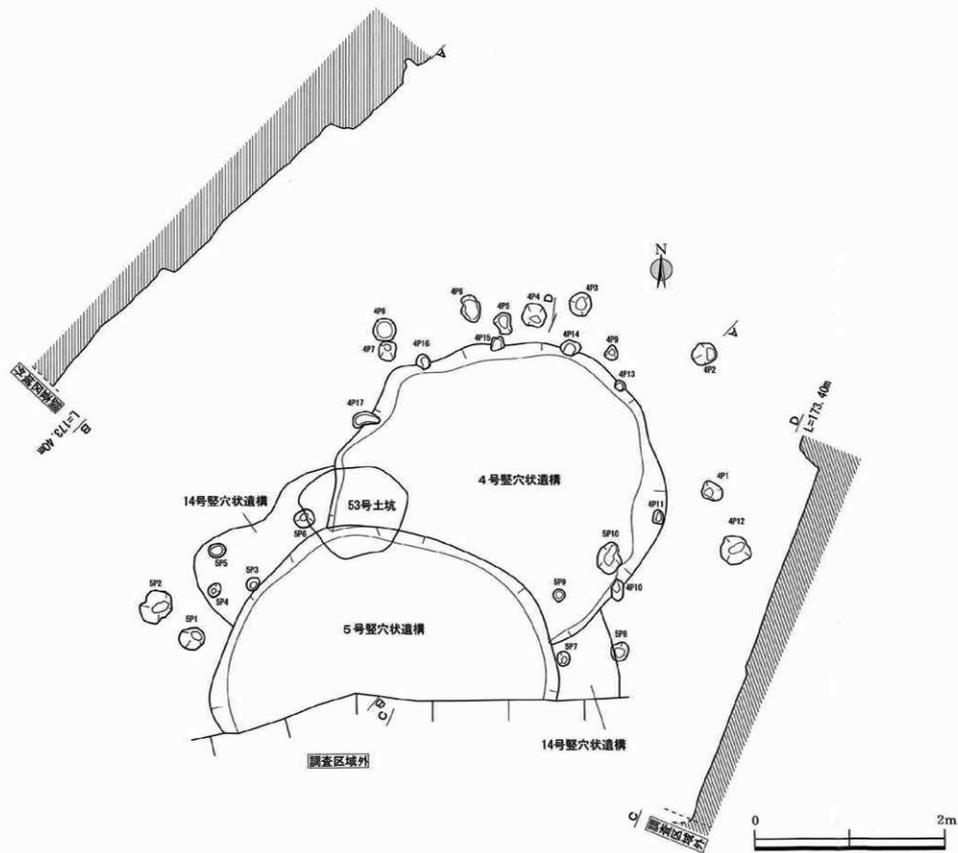
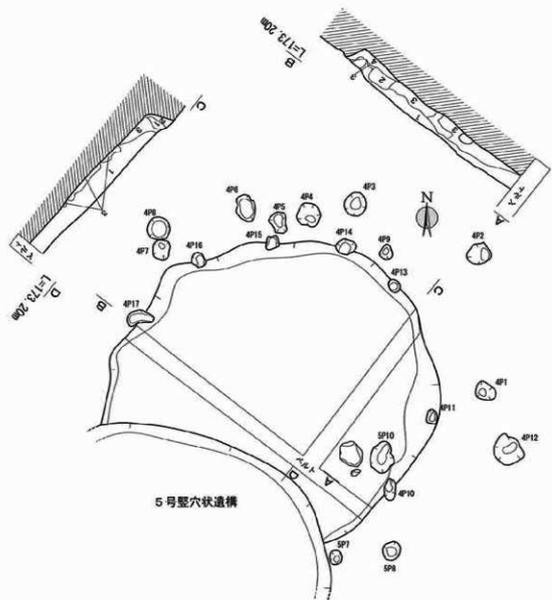


图47 3-1 調査区 縄文時代草創期 4・5・14号竖穴状遺構、53号土坑実測図

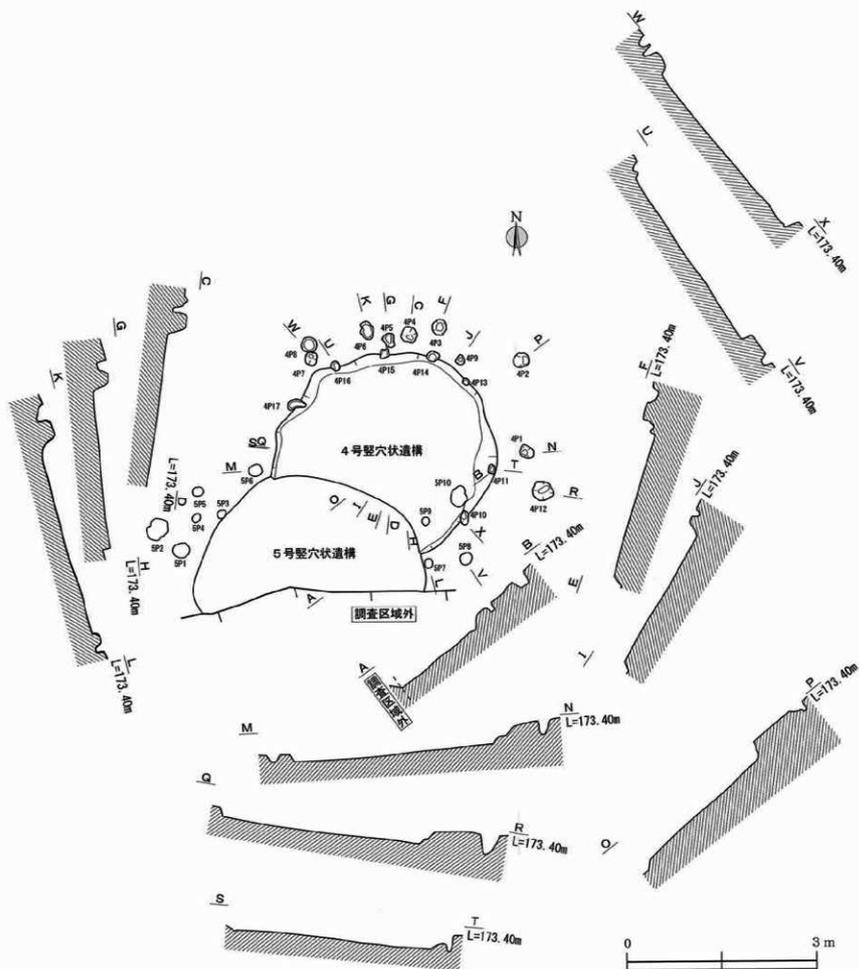


5号壑穴状遺構

- 1層 暗褐色土 オレレンジユリア類を含む中多量含む。腐植は中や多く、腐まりは非常に強い。
- 2層 暗褐色土 中やオリーブ色。オレレンジユリア類を多く含む。腐植は中や多く、腐まりは非常に強い。
- 3層 暗褐色土 腐植は中や多く、腐まりは非常に強い。
- 4層 暗褐色土 腐植は多く、腐まりは非常に強い。腐植1～2mmのオレレンジユリア。腐植1～2mmの長楕円オレリア。腐植は中や多く含む。



図48 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号壑穴状遺構実測図①



調査区域外

調査区域外

4号壑穴状遺構

5号壑穴状遺構



図49 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号壑穴状遺構実測図②

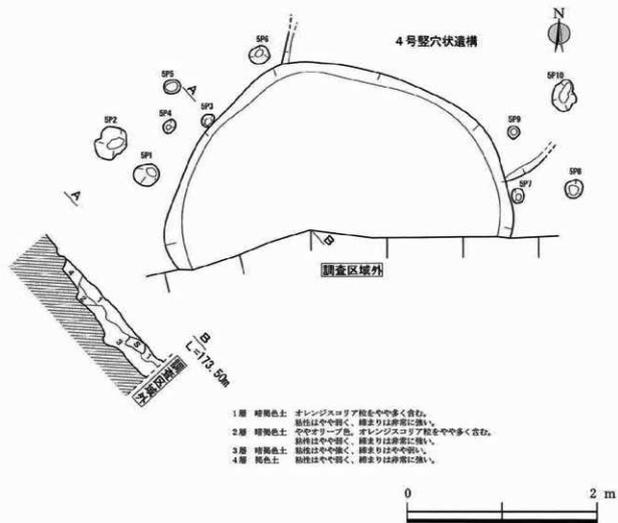


図50 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号壑穴状遺構実測図①

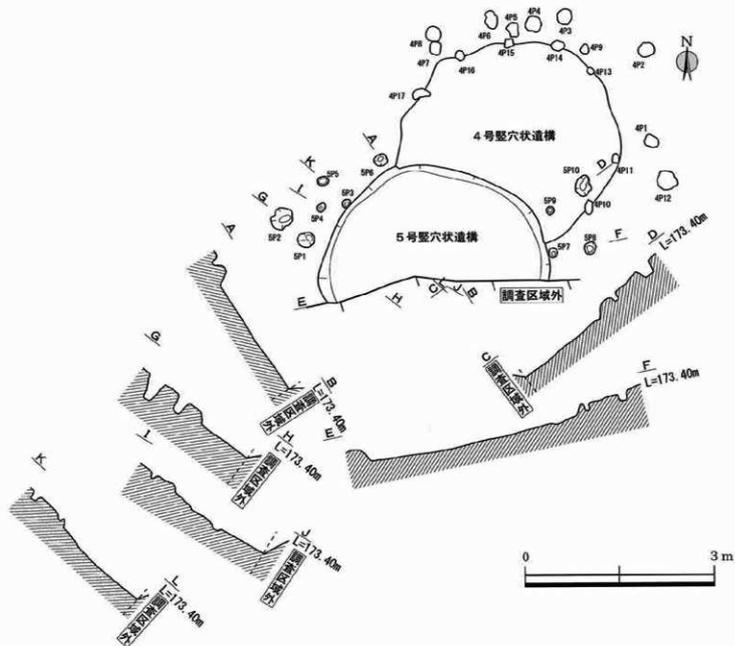


図51 3-1 調査区 縄文時代草創期 5号壑穴状遺構実測図②

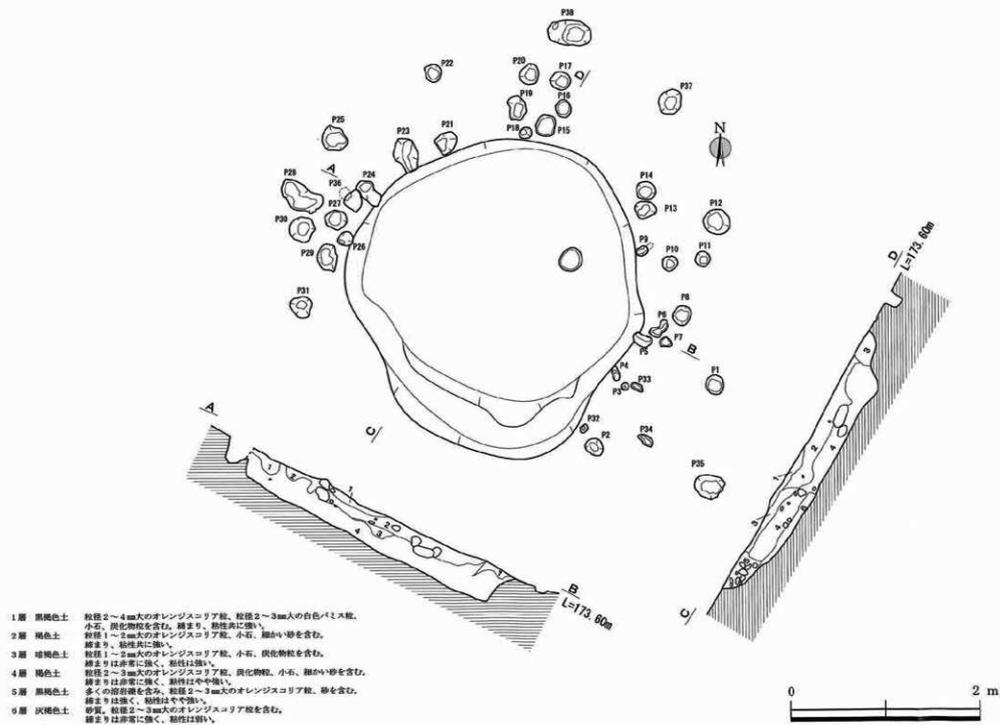


図52 3-1調査区 縄文時代草創期 6号竪穴状遺構実測図①



图53 3-1 調査区 縄文時代草創期 6号壑穴状遺構実測図②

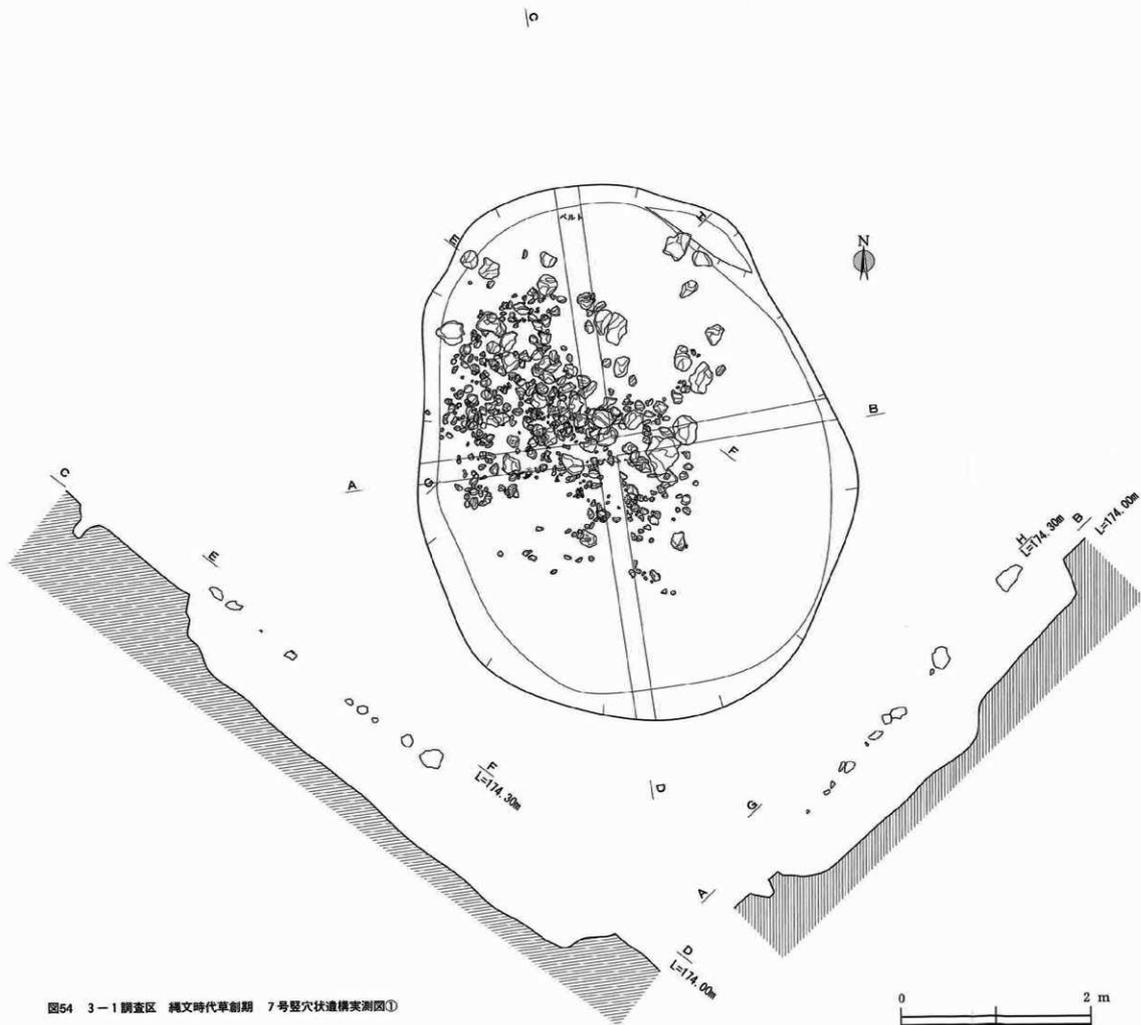
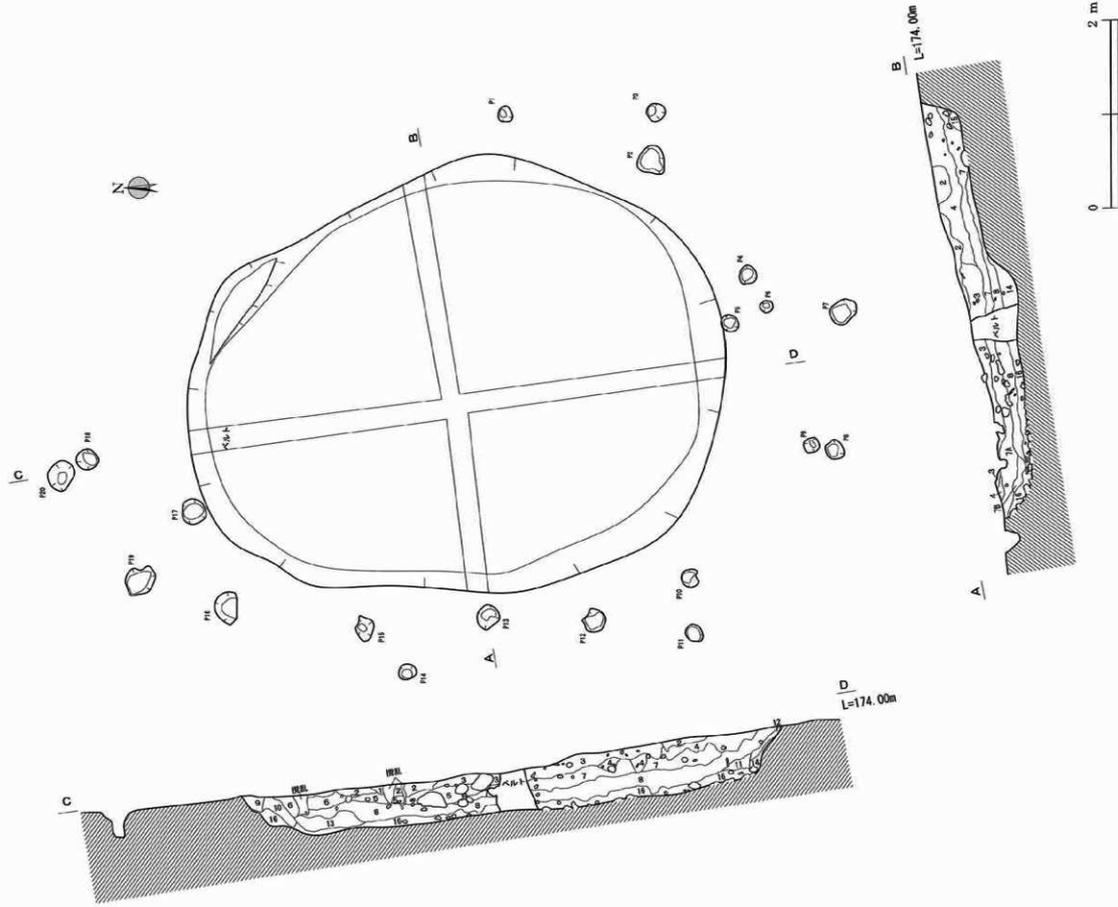


图54 3-1 調査区 縄文時代早期 7号竖穴状遺構実測図①



- 1層 黒色土 断面1-2間の中心部より下層、断面3-4間を多く含む。断面5-6間位に埋積層あり。
- 2層 灰褐色土 断面1-2間を多く含む。
- 3層 灰褐色土 断面1-2間を多く含む。断面5-6間位を多く含む。
- 4層 灰褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 5層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 6層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 7層 褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 7A層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 8層 褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 9層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 10層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 11層 褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 12層 褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 13層 褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 14層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 15層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。
- 16層 暗褐色土 断面1-2間の中心部より下層、断面5-6間位を多く含む。

図55 3-1 調査区 縄文時代前期 7号型穴住遺構発掘区②

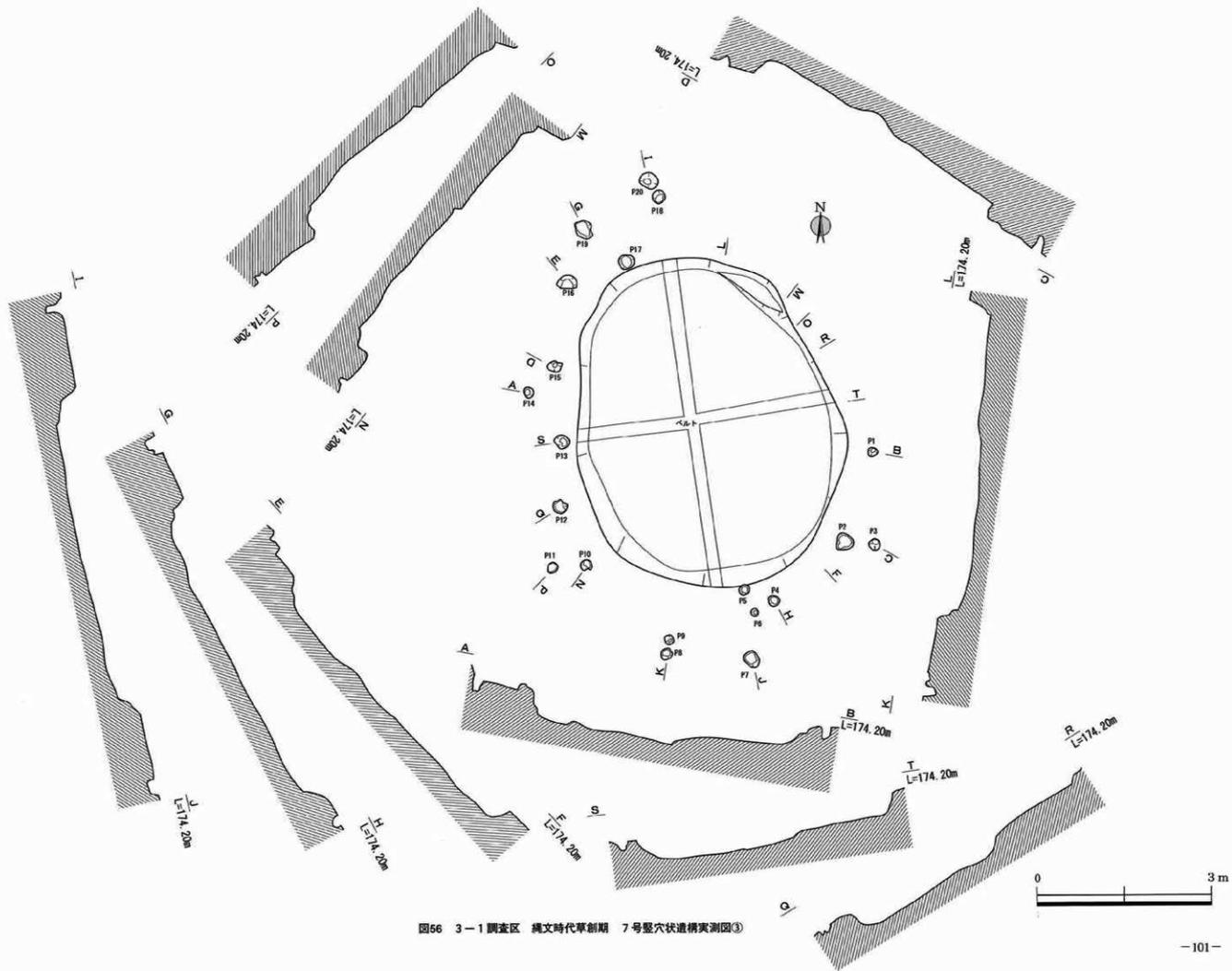
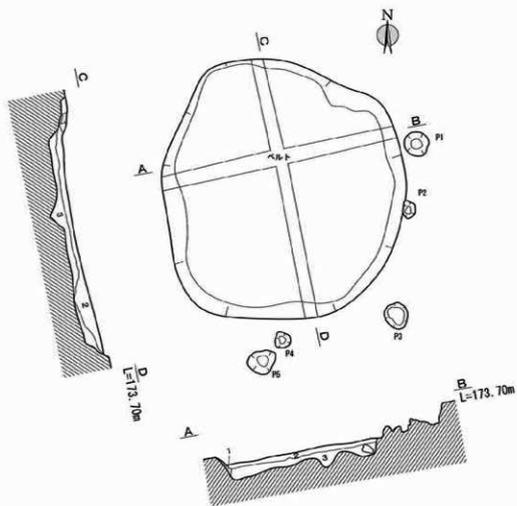


图56 3-1 调查区 绳文时代草创期 7号整穴状遺構実測図③



- 1層 褐色土 雑草、粘土片に多い、層中に粒径2mm位のオレンジコリア粒、緑の小石、小石を含む。
 2層 褐色土 雑草、粘土片に多い、層中に粒径2～3mmのオレンジコリア粒、粒径3mm位の小石、緑の小石を多く含む。

図57 3-1調査区 縄文時代草創期 9号型穴状遺構実測図①

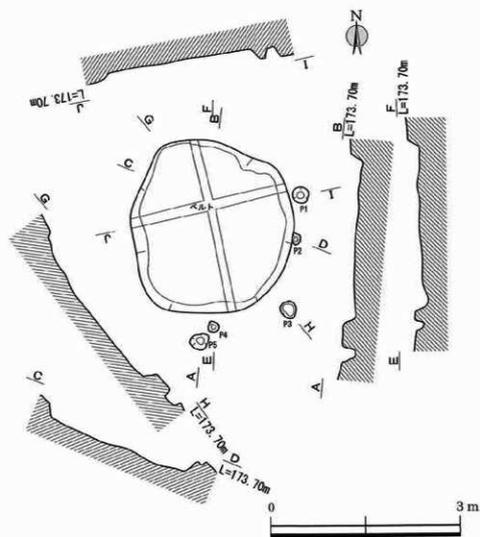


図58 3-1調査区 縄文時代草創期 9号型穴状遺構実測図②

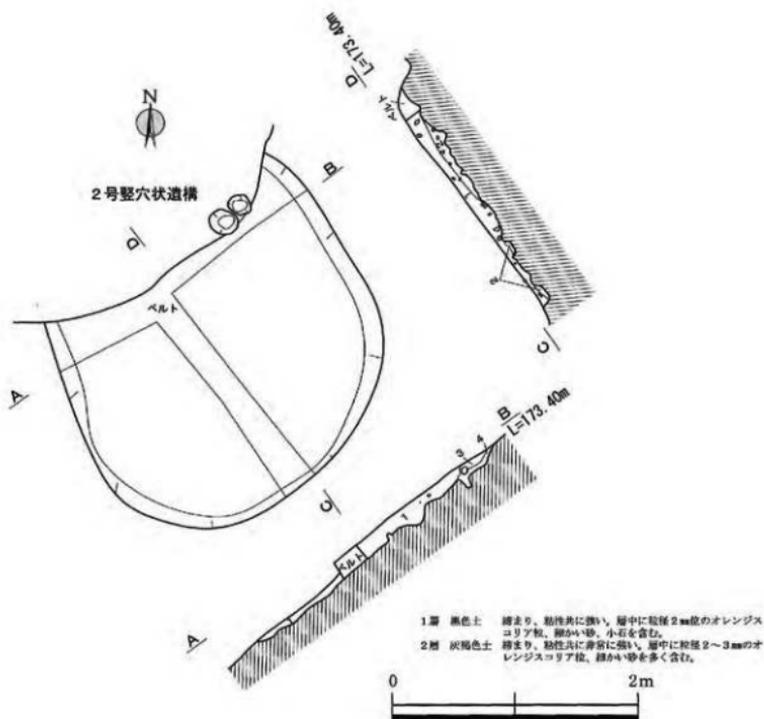
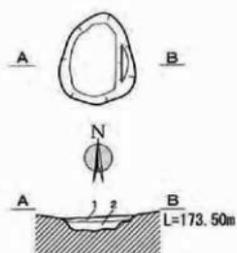
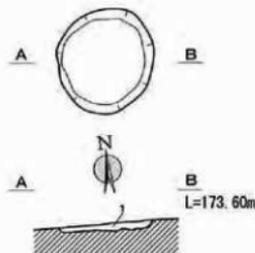


図60 3-1 調査区 縄文時代草創期 12号竪穴状遺構実測図



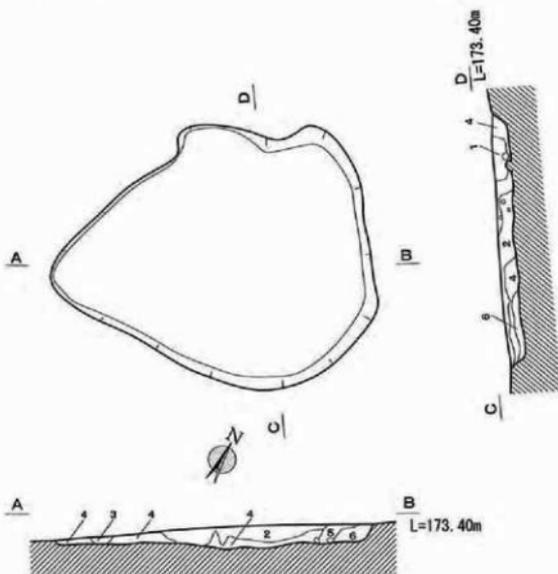
- 1層 褐色土 締まりはやや強く、粘性は強い。
 粒径1~2mmのオレンジスコリア粒、細かい砂、
 粒径2~4mmの小石を含む。
- 2層 暗黄褐色土 締まり、粘性共にやや強い。
 粒径1~2mmのオレンジスコリア粒をやや含む。
 細かい砂、粒径2~3mmの小石を含む。

44号土坑



51・52号土坑セクション参照

45号土坑

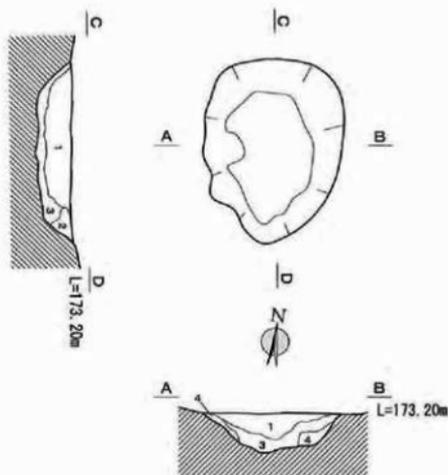


- 1層 褐色土 締まりはやや強く、粘性は強い。
 層中に粒径2mm位のオレンジスコリア粒、細かい砂を含む。
- 2層 黒褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。層中に粒径1~2mmのオレンジ
 コリア粒、小石、炭化物、細かい土色粒を含む。
- 3層 黒褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。層中に粒径2~3mmのオレンジ
 コリア粒を多く含む。
- 4層 明褐色土 締まりは非常に強く、粘性はやや強い。層中に粒径1~2mmのオ
 レンジスコリア粒、小石、細かい砂を含む。
- 5層 褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。層中に粒径2~3mmのオレンジ
 コリア粒を多く含む。
- 6層 暗褐色土 締まりは非常に強く、粘性はやや強い。
 粒径2~3mmのオレンジスコリア粒、粒径3~5mmの小石、砂を含む。

46号土坑

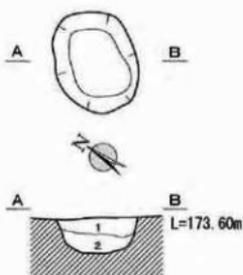


図61 3-1 調査区 縄文時代草創期 土坑実測図①



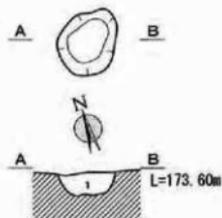
- | | |
|----------|--|
| 1層 淡黒褐色土 | 締まり、粘性共に強い。
粒径2~4mmのオレンジスコリア粒、粒径1~4mmの粘粒粒、細かい砂を含む。
砂入り、粘性共に強い。 |
| 2層 黄褐色土 | 粒径1~3mmの粘粒粒を多く含む。
粒径2~4mmのオレンジスコリア粒を含む。
締まりは非常に強く、粘性は強い。 |
| 3層 暗褐色土 | 粒径2mm位のオレンジスコリア粒、細かい粘土粒・白色スコリア粒をやや含む。
締まりは非常に強く、粘性は強い。 |
| 4層 暗黄褐色土 | 粒径2~4mmのオレンジスコリア粒、細かい砂、細かい磁石粒をやや多く含む。 |

47号土坑



- | | |
|---------|---|
| 1層 暗褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。
粒径1~3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。
粒径2mm位の炭化植物、粒径2~4mmの小石をやや多く含む。 |
| 2層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。
粒径1~3mmのオレンジスコリア粒、小石を含む。 |

48号土坑

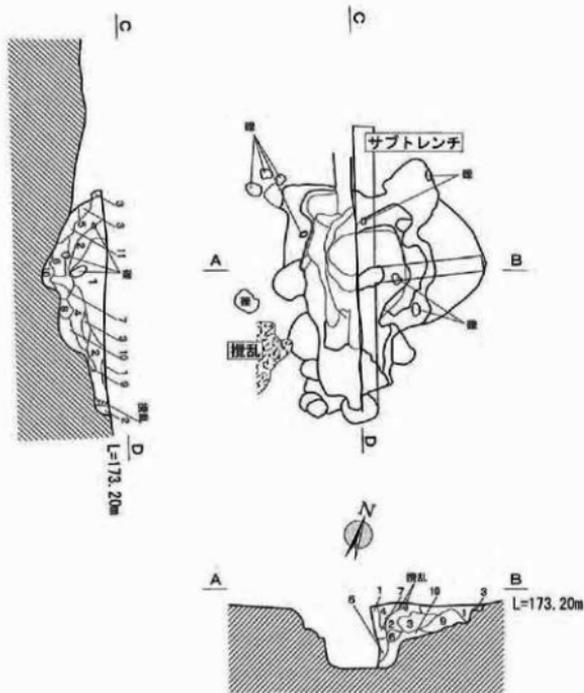


- | | |
|---------|--|
| 1層 暗褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。
粒径1~3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。
白色スコリア粒を多く含む。
粒径2mm位の炭化植物、粒径2~4mmの小石をやや多く含む。 |
|---------|--|

49号土坑



図62 3-1調査区 縄文時代草創期 土坑実測図②

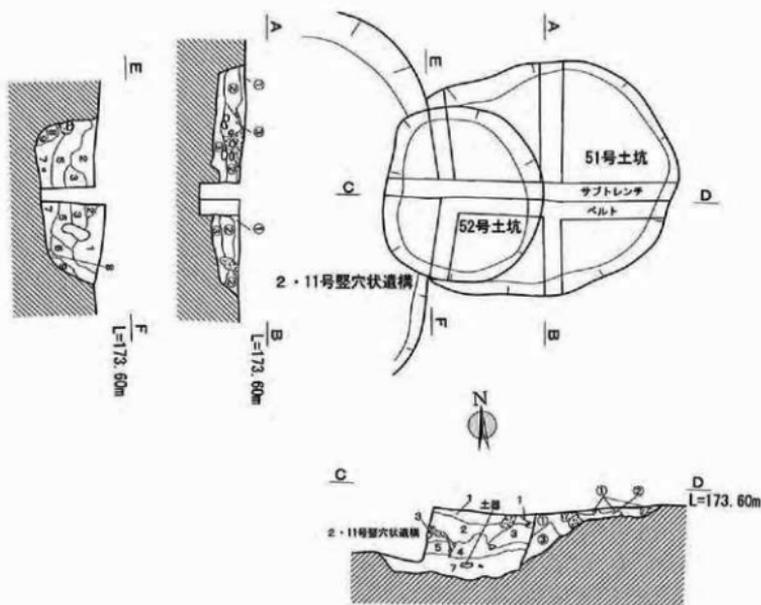


50号土坑

- | | |
|----------|---|
| 1層 淡黄褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性は弱い、粒径1~3cmの礫を含む。 |
| 2層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや強い、粒径1cmのオレンジスコリア粒を多く含む、粒径10cmの礫を含む。 |
| 3層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや強い、粒径1cmのオレンジスコリア粒を含む。 |
| 4層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや強い、粒径1cmのオレンジスコリア粒を含む、粒径3cmの礫を含む。 |
| 5層 暗褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性は強い、オレンジスコリア粒を少し含む、遺物を含む。 |
| 6層 暗褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性は強い、オレンジスコリア粒を少し含む、粒径3cmの礫を含む。 |
| 7層 暗褐色土 | 淡黄色土をブロック状に含む、締まりは非常に強く、粘性は強い。 |
| 8層 暗褐色土 | 淡黄色土をブロック状に含む、オレンジスコリア粒を含む。 |
| 9層 暗褐色土 | 淡黄色土をブロック状に含む。 |
| 10層 暗褐色土 | 淡黄色土をブロック状に含む、粒径2cmの礫を含む。 |
| 11層 褐色土 | 締まりは強く、粘性はやや強い、オレンジスコリア粒を多く含む、粒径3~4cmの礫を多く含む。 |



図63 3-1 調査区 縄文時代草創期 土坑実測図③



52号土坑

- | | |
|-----------|---|
| 1層 暗褐色土 | 締まり、粘性共に強い。45号土坑頂上。オレンジスコリア粒を多く含む。炭化物を微量含む。 |
| 2層 暗褐色土 | 締まりは強く、粘性はやや強い。オレンジスコリア粒を非常に多く含む。1層よりは明るい土色。土器片を含む。 |
| 3層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。オレンジスコリア粒を多く含む。粒径2cmの礫を含む。 |
| 4層 灰褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。粒径2mmの礫を含む。 |
| 5層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。2層よりは暗い色。オレンジスコリア粒を多く含む。炭化物を微量含む。一拵土器（隅起線文土器）を含む。 |
| 6層 暗褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。粒径2~5mmのオレンジスコリア粒を多く含む。 |
| 7層 褐色土 | 締まりは非常に強く、粘性はやや弱い。粒径2~5mmのオレンジスコリア粒を多く含む。粒径3cmの礫を含む。 |
| 8層 オリーブ色土 | 締まり、粘性共に強い。砂質。 |
| 9層 灰褐色土 | 砂質。 |

51号土坑

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| ①暗褐色土 | 締まり、粘性共に強い。オレンジスコリア粒を多く含む。炭化物を微量含む。 |
| ②暗黄褐色土 | 締まり、粘性共にやや弱い。 |
| ③暗黄褐色土 | 地山。締まり、粘性共にやや弱い。粒径3~10cmの礫を含む。 |

断面—C—

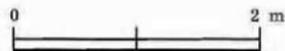
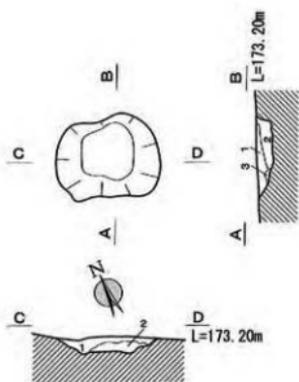
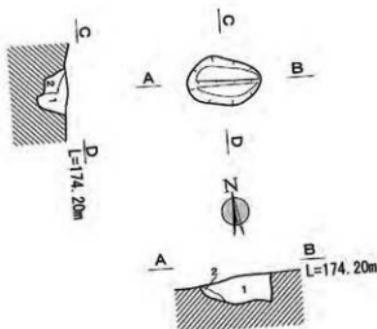


図64 3-1調査区 縄文時代草創期 土坑実測図④



- 1層 黒褐色土 結まりは非常に強く、粒性は強い。
 粒径1〜2mmの焼土粒、細かい砂を含む。
- 2層 淡赤褐色土(焼土) 結まりは強く、粒性はやや弱い。
 焼土層、炭灰粒を層底に含む。
- 3層 黄褐色土 結まりは強く、粒性はやや弱い。
 細かい焼土粒、粒径1〜3mmの小石、スコリア粒を含む。

1号焼土跡



- 1層 黒褐色土 結まり、粒性に強い。
 粒径2〜4mmの焼土粒を含み、下部になる程その粒子は大きくなる。
 また粒径2mmくらいの炭灰も層底に含む。
- 2層 暗黄褐色土 結まりは強く、粒性はやや強い。
 粒径2〜3mmの焼土粒、細かい砂、粒径5〜10mmの黄褐色砂岩粒を含む。

2号焼土跡

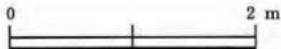


図65 3-1 調査区 縄文時代草創期 焼土跡

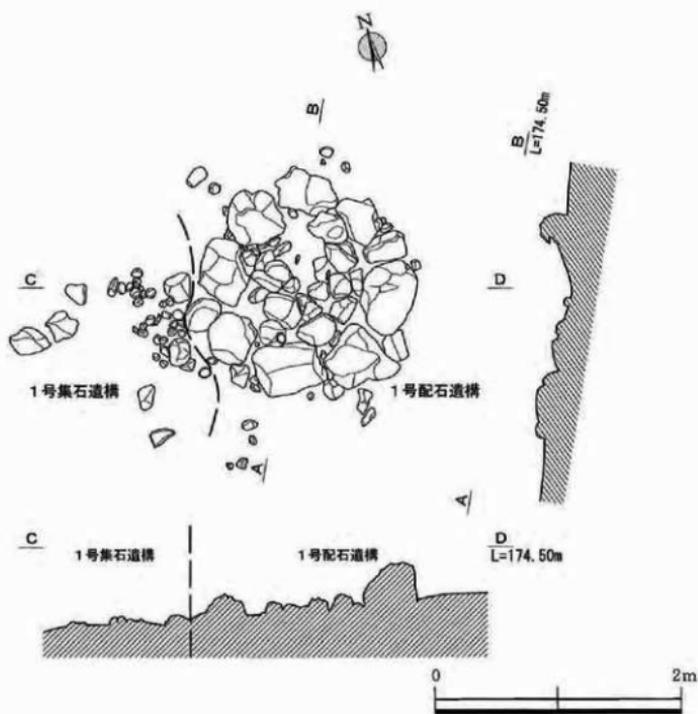


図66 3-1調査区 縄文時代草創期 1号配石遺構、1号集石遺構実測図

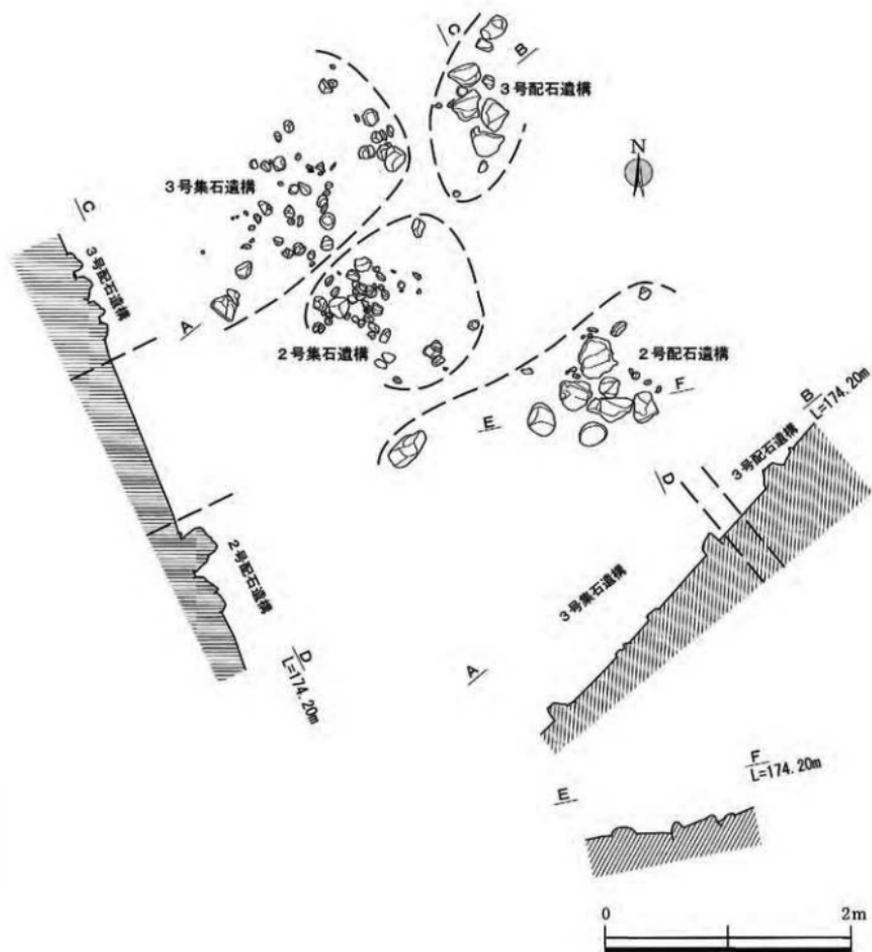
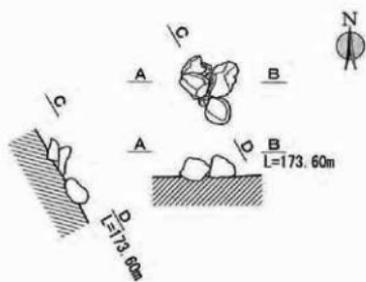
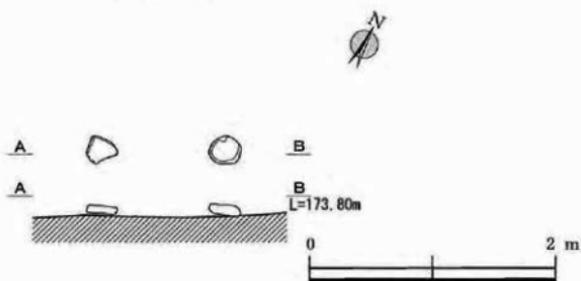


图67 3-1 調査区 縄文時代草創期 2・3号配石遺構、2・3号集石遺構実測図

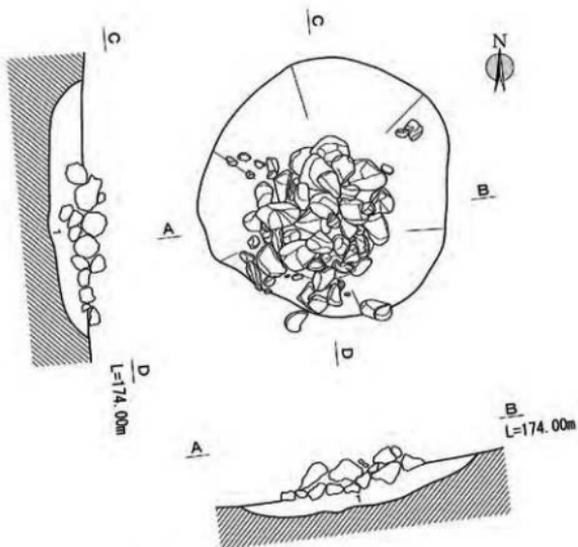


4号配石遺構



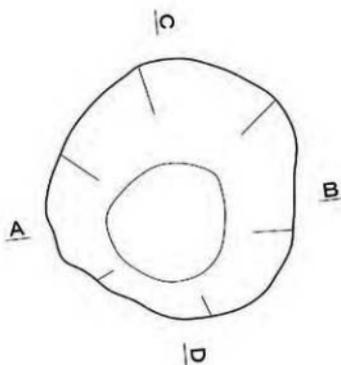
5号配石遺構

図68 3-1 調査区 縄文時代草創期 4・5号配石遺構実測図



1層 緑黄褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。
 粒径1~3mmのオレンジスコリア泥、粒径4~6mmの砂を含み、
 また粒径2mm位のカーボン粒をわずかに含む。

4号集石遺構



4号集石遺構 掘方平面図



図69 3-1 調査区 縄文時代草創期 4号集石遺構実測図

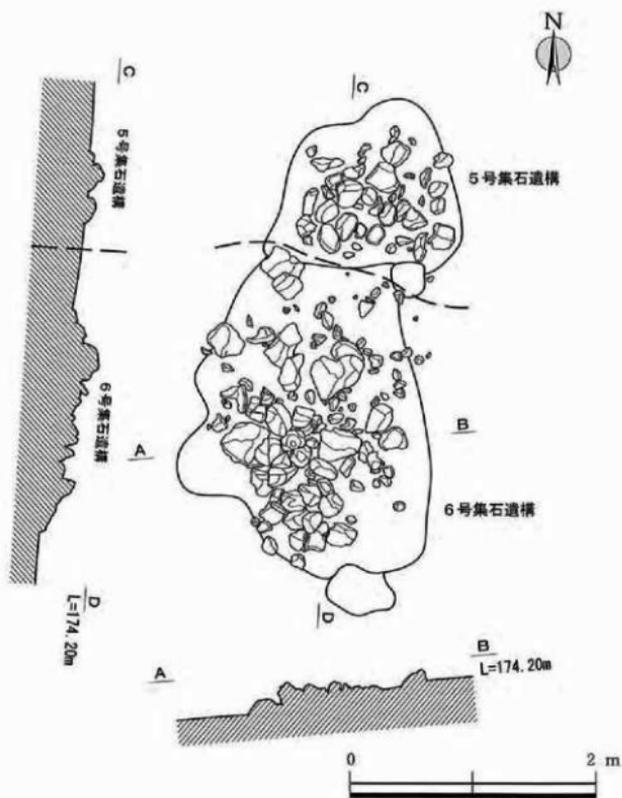


图70 3-1 調査区 縄文時代草創期 5・6号集石遺構実測図

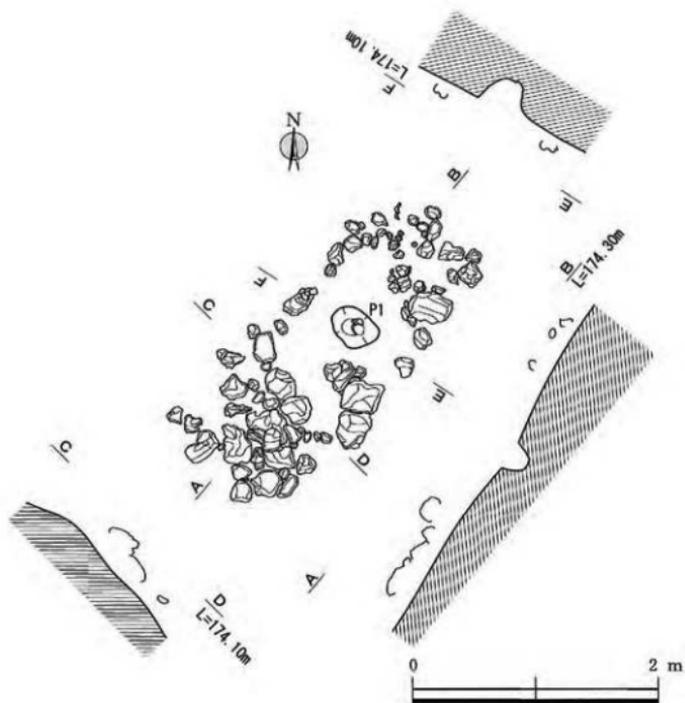
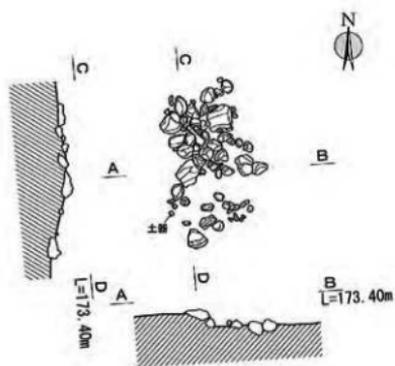


图71 3—1 調査区 縄文時代草創期 7号集石遺構実測図



8号集石遺構



9号集石遺構



图72 3-1 調査区 縄文時代草創期 8・9号集石遺構実測図

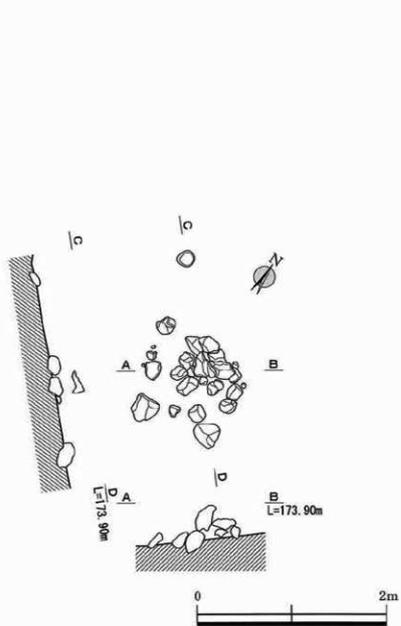


图73 3-1 調査区 縄文時代草創期 10号集石遺構実測図

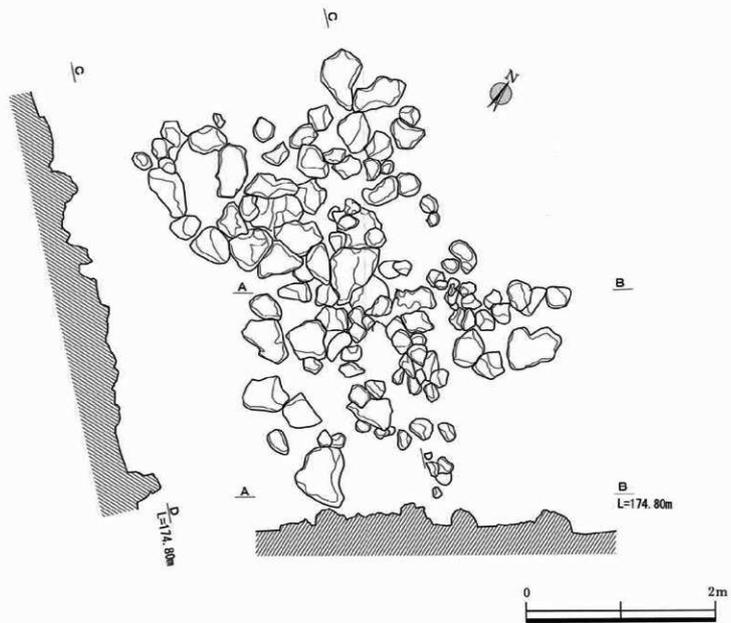


图74 3-1 調査区 縄文時代草創期 11号集石遺構実測図

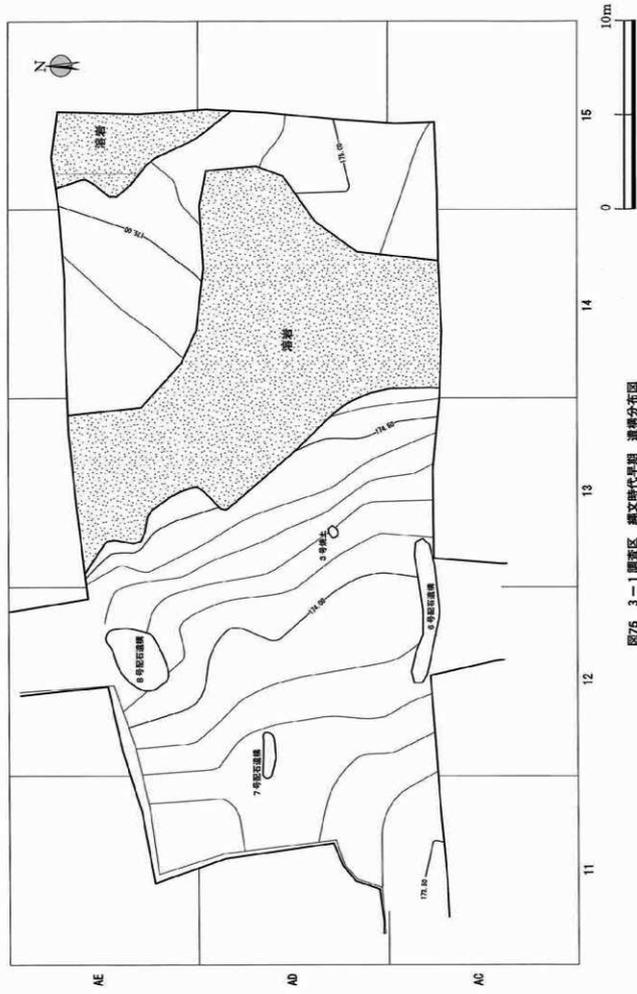


図76 3-1-1調査区 縄文時代早期 遺構分布図

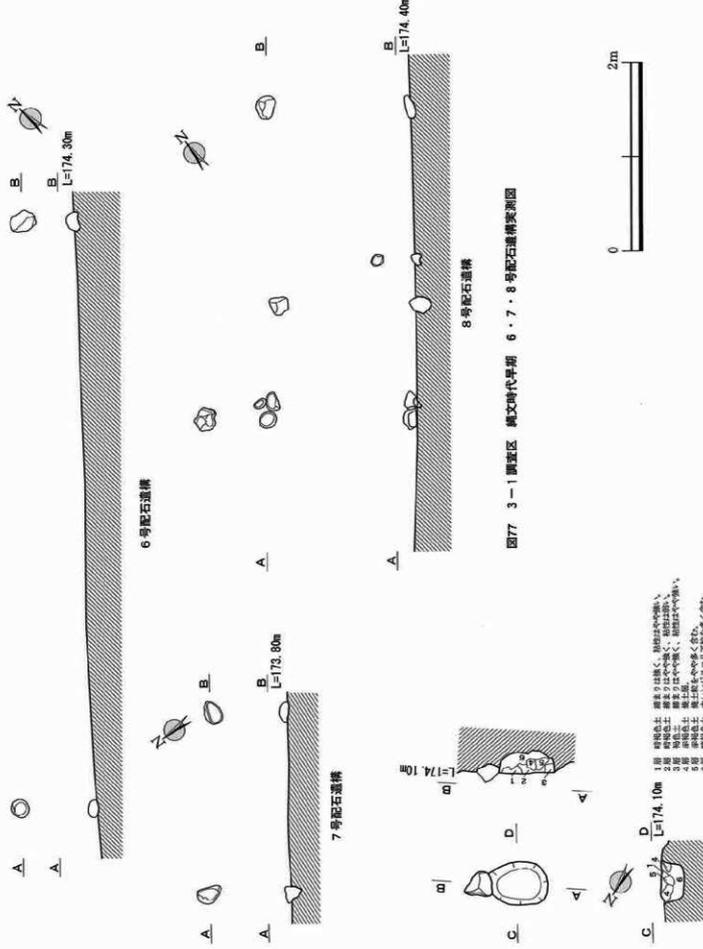


図77 3-1-1調査区 縄文時代早期 6・7・8号配石遺構実測図

1層 褐色土
 2層 暗褐色土
 3層 黒褐色土
 4層 黒土
 5層 赤褐色土
 6層 赤土

図76 3-1-1調査区 縄文時代早期 3号配石遺構実測図

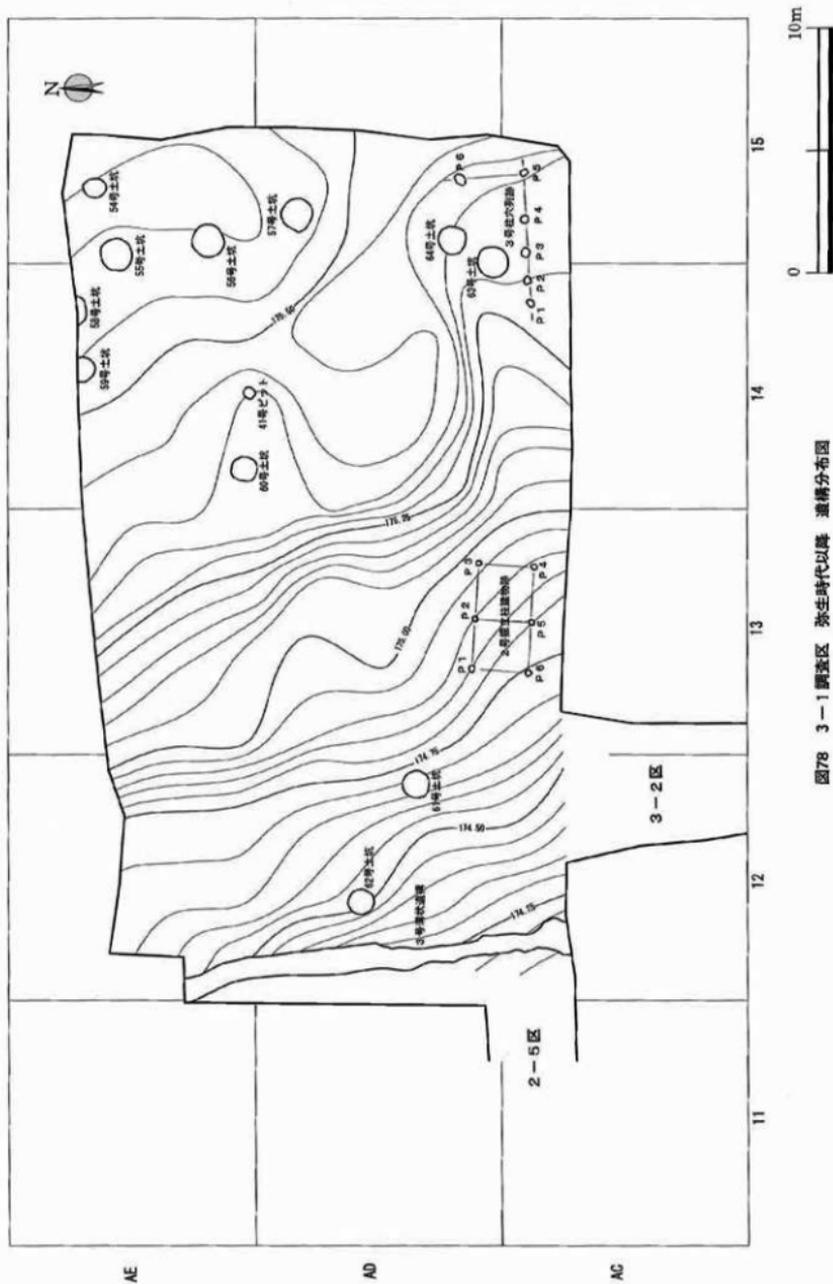


图78 3-1 黄土区 新生时代以降 堆积分布图

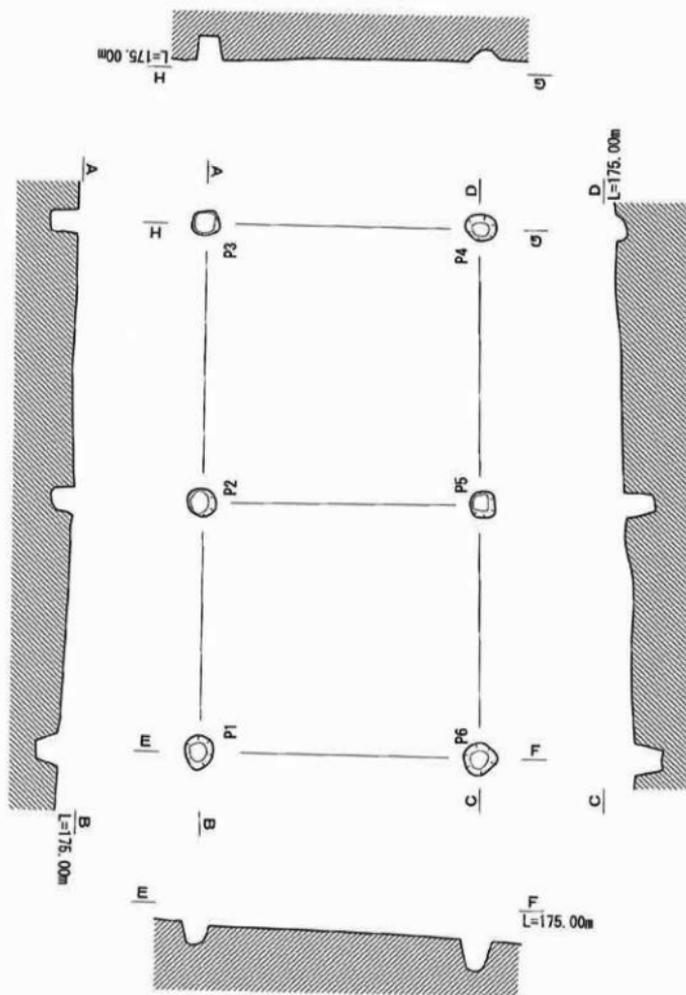
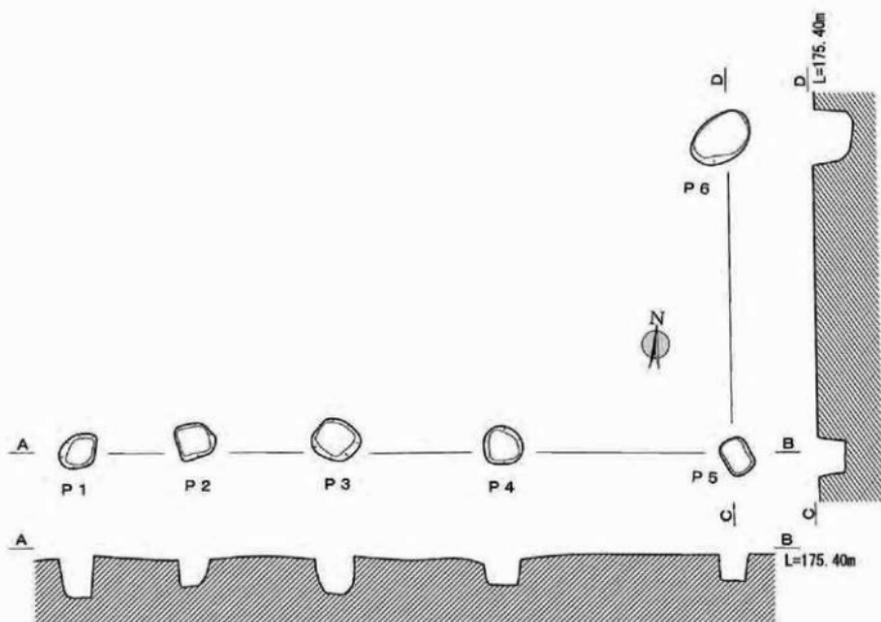
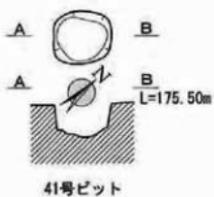


图79 3—1 调查区 新石器时代以降 2号独立柱基物部平面图



黄褐色土 粘りはやや強く、粘性は強い。層中に粒径1~2mmのオレンジスコリア粒、細かい砂をやや多く含む。

3号柱穴列跡



41号ピット



図80 3-1 調査区 弥生時代以降 3号柱穴列跡、41号ピット実測図

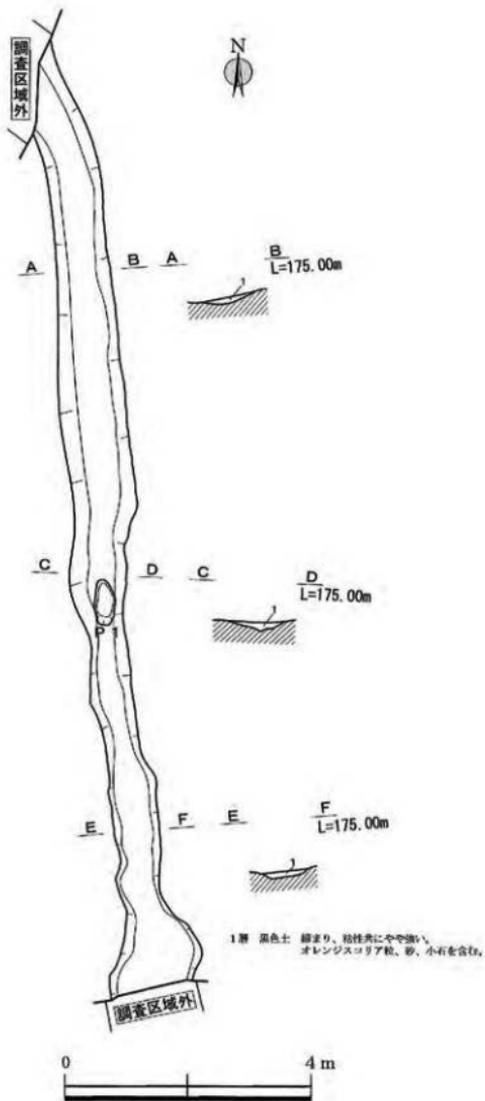


図81 3-1 調査区 弥生時代以降 3号溝状遺構実測図

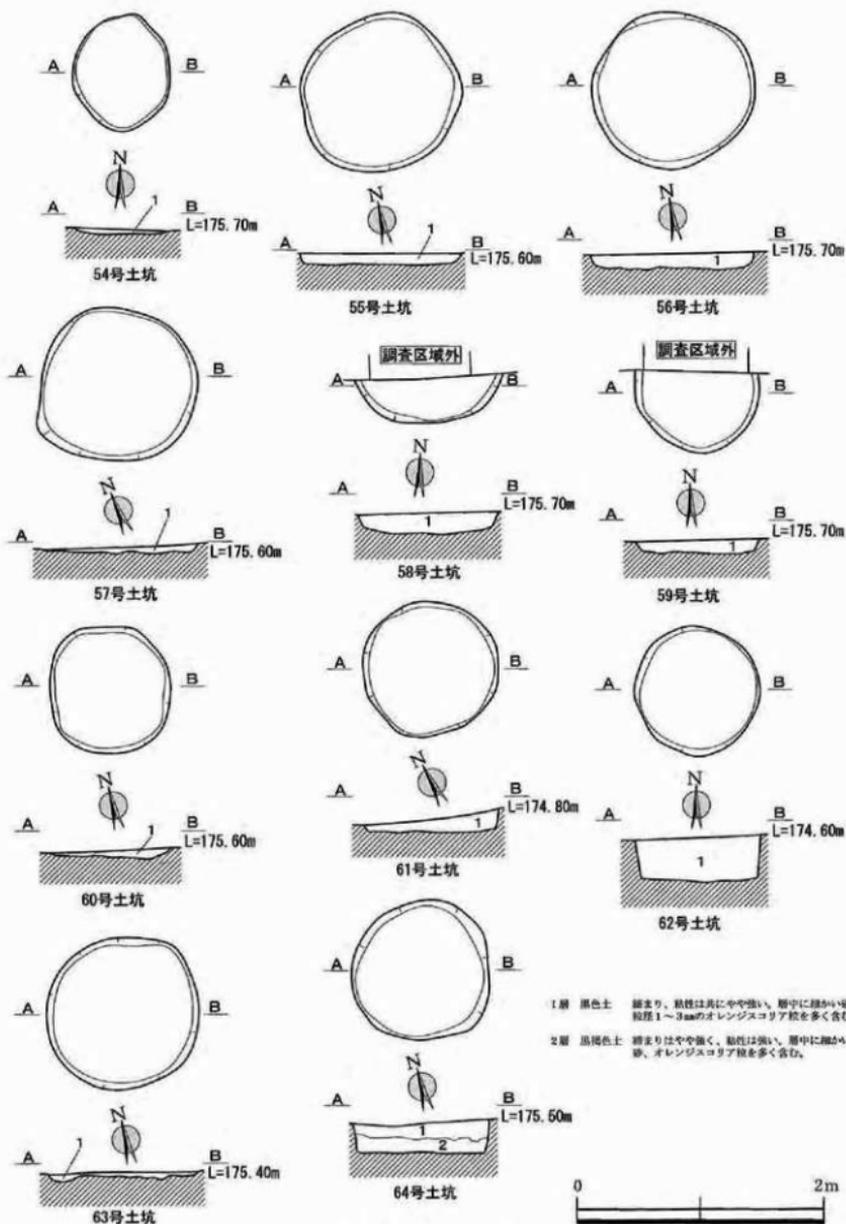


図2 3-1 調査区 弥生時代以降 土坑実測図

3-2A調査区

3-2A調査区は3-1調査区の南側に位置する。縄文時代草創期の配石遺構1基、集石遺構2基、縄文時代早期の集石遺構1基、焼土跡2基、配石遺構1基が検出された。

縄文時代草創期(図83)

配石遺構(表7)

9号配石遺構(図84)

調査区南側のAB-12・13グリッドにて検出された。広がりには長軸0.84m、短軸0.40mを測り、主軸方向はN-72°-Eである。20cm前後～30cm前後大の礫によって構築されている。

集石遺構(表8)

12号集石遺構(図85)

調査区北側のAC-12・13グリッドにて検出された。西側部分は調査区外へと広がり、北側部分は3-1区にかかる。平面形態は検出部分から不整楕円形を呈すと考えられ、検出部分の広がりには現況で長軸7.10m、短軸4.30mを測り、主軸方向はN-22°-Wである。大小の溶岩礫によって構築されており、中央から北側にかけては小から中規模の溶岩礫が、南側では大型の溶岩礫が大部分を占める。南側部分の大型の溶岩礫は地山に食い込んでいることから自然堆積によるものに腐葉による礫が混じりあった状況であると考えられる。大型の溶岩礫北側の小溶岩礫集中部分は現況で長軸4.56m、短軸3.60mを測り、平面形態は不整楕円形を呈すると考えられる。小礫の出土状況は3-1調査区で検出された7号竪穴状遺構の検出時と類似している。

13号集石遺構(図84)

調査区西側のAC-12・13グリッドにて検出された。北側部分は3-1調査区にかかり、北西側には6号竪穴状遺構が隣接している。平面形態は不整楕円形を呈し、広がりには長軸1.68m、短軸1.38mを測り、主軸方向はN-88°-Eである。中型の溶岩礫を中心にしてその周りを小型の溶岩礫で囲む様に構築されている。

縄文時代早期(図86)

焼土跡(表5)

4号焼土跡(図87)

AB-13グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形を、断面形態は丸底状を呈する。規模は長軸、覆土は2層に分層され、1層は焼土粒と細かい炭化物粒もやや含み、2層はスコリア粒、小石、細かい焼土粒を含んでいる。

5号焼土跡(図87)

AA-12グリッドにて検出された。調査区外にかかっており、平面形態は不明である。

規模は長軸、覆土は5層に分層された。

配石遺構(表7)

10号配石遺構(図88)

調査区中央のAB-12グリッドにて検出された。遺構の広がりには長軸1.15mを測り、主軸方向はN-83°-Wである。20cm～40cm前後の礫で構築されている。

集石遺構(表8)

14号集石遺構(図88)

調査区中央付近のAB-12・13グリッドにて検出された。北に10号配石遺構、東に4号焼土跡が位置する。平面形態は長楕円形を、広がりには長軸1.35m、短軸1.03mを測り、主軸方向はN-13°-Wである。主に小形の溶岩礫で構成されており、その中に中形の礫が点在し、礫の分布はやや散漫な広がりを示す。断面観察から東側の溶岩礫は地山にささるかたちで検出され、いずれの集中部でも地山を掘り穿めて構築した痕跡は確認されなかった。

3-2B調査区(図89)

3-2 B調査区は水路を挟んで3-2 A調査区南側に位置する。精査の結果、調査区南側にて溶岩塊の集中部分が確認されたが遺構・遺物は検出されなかった。

3-2 C調査区(図90)

3-2 C調査区は、3-2 B調査区の南側で福石神社の東側尾根の斜面部分に位置する。精査の結果、調査区中央付近にて溶岩が見られ地山は南に向かって下がっていることが確認された。調査地点は調査区東側の尾根の崩落による流れ込み土が厚く堆積しており、遺構・遺物は検出されなかった。また土層の堆積状況から川砂層が確認されたことから一時期この地点を水が流れていたと考えられる。

3-3 A調査区(図91)

3-3 A調査区は3-1調査区の北側に位置する。精査の結果、調査区の中央付近から東側にかけて溶岩帯が検出され、弥生時代以降の柱穴列跡2基、土坑2基が検出された。

弥生時代以降(図92)

柱穴列跡(表10)

4号柱穴列跡(図93)

調査区南側のAF-14グリッドにて検出された。精査の結果3基の柱穴が検出された。規模は長軸2.37m、短軸2.32mでL字状を呈する。柱間寸法はP1・P2間が2.37m、P1・P3間が2.32mを測る。主軸方向はN-42°-Wである。

5号柱穴列跡(図93)

調査区西側のAF-14・15グリッドにて検出された柱穴列である。規模は長軸5.04m、柱間寸法はP1・P2間が2.47m、P2・P3間が2.57mを測る。主軸方向はN-47°-Wである。

土坑(表12)

65号土坑(図94)

調査区の中央AF-14グリッドにて検出された。南側は調査区外に位置するが、検出部分から平面形態は楕円形を、断面形態は皿状を呈すると考えられる。規模は現況で長軸1.21m、短軸0.67m、深さ0.09mを測る。

66号土坑(図94)

調査区東側のAF-15グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形を、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.44m、短軸1.34m、深さ0.09mを測り、主軸方向はN-66°-Eである。

3-3 B調査区(図95)

3-3 B調査区は3-3 A調査区の東側に位置する。精査の結果、調査区の東側から中央付近にかけて富士溶岩流の堆積が、中央付近から西側にかけて規模の大きな2号埋没谷が検出された。調査区西側の2号埋没谷の中央付近に2m×2mのテストピットを設定し基盤(8)層まで掘り下げ、遺構・遺物確認を行なったが遺構・遺物は確認されなかった。

埋没谷

2号埋没谷

縄文時代遺構確認面全体が埋没谷であった。

3-3 C調査区

3-3 C調査区は3-3 B調査区の東側に位置する。精査の結果、西側で10号竪穴状遺構が検出された。また調査区中央付近を底にする3号埋没谷が確認された。調査区東側の斜面部分から調査区中央の谷底にかけて大小の溶岩礫が堆積しておりその下層には砂礫層が堆積している。遺構および遺物の分布は主に調査区西側の緩斜面に集中している。

精査の結果、草創期の埋没谷、竪穴状遺構1基、配石遺構1基、弥生時代以降の掘立柱建物跡1棟、柱穴列跡2基、溝状遺構1基、土坑1基、ピット1基が検出された。

縄文時代草創期(図96)

竪穴状遺構(表2)

10号竪穴状遺構(図97)

検出状況

調査区西側のAF-20・21グリッドの埋没谷に下がる斜面上にて検出され、西側は緩やかな埋没谷の斜面を掘り込んで壁としていたと推定される状況であった。南側部分は調査区外に位置している。

平面形態・規模

遺構の平面形態は隅丸の方形か長方形を呈しいると推定される。規模は現況で東西方向が5.56m、南北方向が3.08mを測る。

床面

床面は西側から東側にかけて僅かにさがるが、ほぼ平坦となっている。

柱穴

20基が検出された。P12・P1・P5・P7・P9は直線的に並び径が大きく、深さがあり、主柱として利用されていた可能性がある。北側には小径のピットが2ヶ所に纏まって検出された。

炉跡

検出されなかった。

覆土

縄文時代草創期の遺物包含層である7B層が認められた。3-1調査区竪穴状遺構の覆土の特徴である締まりのかなり強いものではなかった。

配石遺構(表7)

11号配石遺構(図98)

AG-21・22グリッドにて検出された。遺構の広がりには長軸0.65mを測り、主軸方向はN-77°Wである。20cm前後~30cm前後大の隙で構築されたいる。

3号埋没谷

AF・AG-22グリッドを底としている。上場幅が約45m、下場幅が約20m程を測る。

弥生時代以降(図99)

掘立柱建物跡(表9)

3号掘立柱建物跡(図100)

調査区東側のAG-23グリッドの埋没谷に下がる斜面上にて検出された。6基の柱穴が検出された。規模は長軸2.70m、短軸1.85mで平面形態は長方形を呈し、柱間寸法はP1・P2間が1.31m、P2・P3間が1.46m、P4・P5間が0.98m、P5・P6間が1.72m、P1・P4間が1.85m、P2・P5間が1.75m、P3・P6間が2.08mを測り、主軸方向はN-75°Eである。

柱穴列跡(表10)

6号柱穴列跡(図100)

調査区東側のAF・AG-23グリッドの、埋没谷に下がる斜面上にて検出された。3基の柱穴が検出されたが調査区内では対となる柱穴跡は検出されていない。規模は長軸1.40m、短軸1.20mを呈する。柱間寸法はP2・P3間が1.40m、P1・P2間が1.20mを測る。主軸方向はN-79°Wである。

7号柱穴列跡(図101)

調査区中央のAF・AG-22グリッドにて2基の柱穴が検出された。柱間寸法はP1・P2間が1.30mを測る。主軸方向はN-71°Wである。

溝状遺構(表11)

4号溝状遺構(図101)

調査区西側のAF-20グリッドの、埋没谷に下がる斜面上にて検出された。調査区の北から南南西に向かい、途中で南西方向に向かって流下している。北側部分でN-10°-E、中央付近でN-36°-Eを指向し、規模は長さ4.46m、最大幅が0.69m、最小幅が0.40m、深さ0.15mを測る。平面形態は緩やかな曲線を呈し、断面形態は皿状を呈する。

土坑 (表12)

67号土坑(図101)

調査区西側のAF-21グリッドの、埋没谷に下がる斜面上の南壁側に検出された。遺構の南側部分は調査区外に位置するが、検出部分から平面形態は楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸1.11m、短軸0.98m、深さ0.26mを測り、主軸方向はN-15°-Wである。

ピット (表15)

42号ピット(図101)

調査区東側のAG-23グリッドの埋没谷に下がる斜面上にて検出された。北西側に3号掘立柱建物跡が位置する。平面形態は不整形を、断面形態は丸底状を呈する。規模は長軸0.34m、短軸0.30m、深さ0.36mを測る。

3-3 D 調査区(図102)

3-3 D調査区は3-3 C調査区の東側に位置する。精査の結果、調査区は同区東側に設定した3-3 E調査区からはじまる4号埋没谷の底付近に当たり、調査区中央に2×2mのテストピットを設定し掘り下げを行ない遺構・遺物確認を行なったが地山層の上には溶岩流が堆積しており遺構・遺物は確認されなかった。

3-3 E 調査区

3-3 E調査区は今回の調査区域の最も東に位置する調査区で3-3 D調査区の東側に位置する。精査の結果、調査区は埋没谷の始まる緩傾斜面に当たり、調査区内全域にて溶岩帯が検出された。溶岩帯の斜面と平場を利用した縄文時代草創期の竪穴状遺構が2基検出された。

縄文時代草創期(図102)

竪穴状遺構 (表2)

8号竪穴状遺構(図103)

検出状況

調査区AI-28グリッドにて検出され、西側に13号竪穴状遺構が隣接する。北側部分は調査区外に位置している。当初は13号竪穴状遺構とともに自然地形と考えたが、床面から尖頭器のみが纏まって埋納状態で出土したことから、これら自然地形を利用・改変した遺構と認定した。

平面形態・規模

検出された部分から平面形態は不整形楕円形を呈すると推定され、規模は現況で東西約3.06m、南北約2.76m、深さ0.50mを測る。

床面

溶岩の流れが作り出した楕円形の窪みを利用して床面を構築している。壁面は溶岩の立ち上がりをもそのまま竪穴状遺構の壁面として使用している。

柱穴

検出されなかった。

炉跡

検出されなかった。

覆土

覆土中にはこぶし大までの溶岩礫を多量に含んでいる。

13号竪穴状遺構(図104)

検出状況

調査区AI-27・28グリッドにて検出された。東側に8号竪穴状遺構が隣接する。北側部分は調査区外に位置する。

平面形態・規模

平面形態は不整形を呈し、規模は現況で長軸約4.18m、短軸約3.12mを測る。

床面

溶岩を剥ぎ取り平坦面を構築しそれを床面としている。西壁は溶岩を剥ぎ取った結果できた溶岩の立ち上がりをもそのまま壁面として使用している。南壁は溶岩の平坦面を遺構側に向けて一列に並ぶように壁を構築している。

柱穴

8号竪穴状遺構と同様に溶岩流の上に遺構が構築されており、柱穴跡は検出されなかった。

炉跡

検出されなかった。

覆土

覆土中にはこぶし大までの溶岩礫を多くんでいる。

3-4 調査区

3-4 調査区は、3-1 調査区の北側に位置する。精査の結果、北側の約1/2は後世の農地改変により地山層まで削平を受けていた。調査区北側にて弥生時代以降の焼土跡1基、南側にて縄文時代草創期の配石遺構1基が検出された。

縄文時代(図105)

配石遺構(表7)

12号配石遺構(図106)

AF-12グリッドにて検出された。遺構の広がりには長軸0.95m、短軸0.60を測る。10~55cm前後大の礫で構築されている。

弥生時代以降(図105)

焼土跡(表14)

6号焼土跡(図106)

AI-12グリッドにて検出された。平面形態は不整形円形、断面形態は丸底状を呈する。覆土は暗赤褐色土(1層)と暗褐色土(2層)の2層に分層され、1層は粒径1~3mmの焼土粒を多く、細かい炭化物粒をやや含み、2層は細かい焼土粒を含んでいる。

(小金澤・武田・小谷)

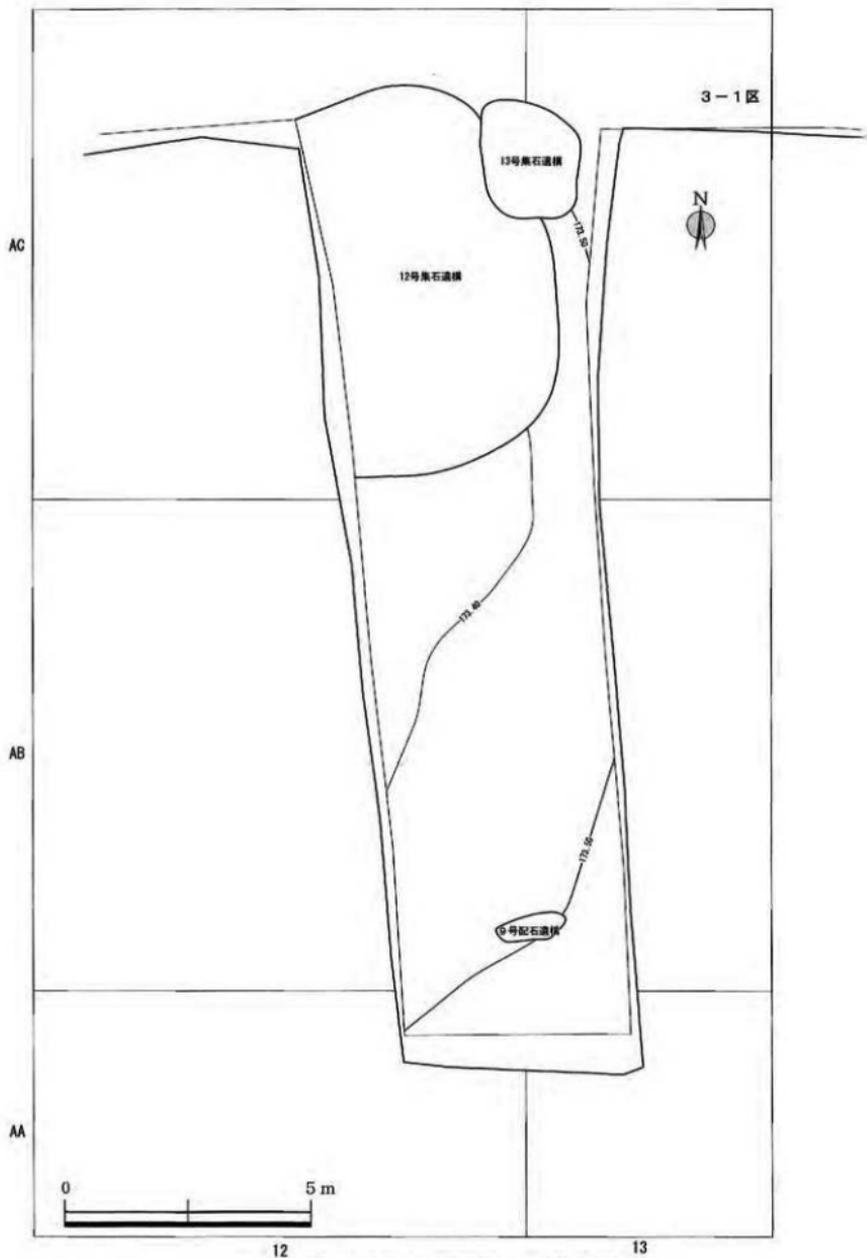
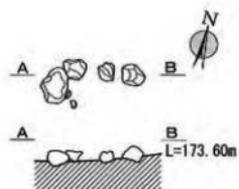
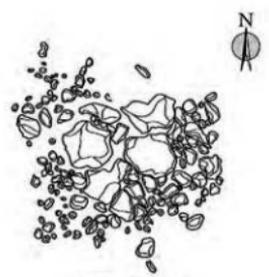


图83 3-2 A調査区 縄文時代草創期 遺構分布図



9号配石遺構



13号集石遺構



図84 3-2 A 調査区 縄文時代草創期 9号配石遺構、13号集石遺構実測図

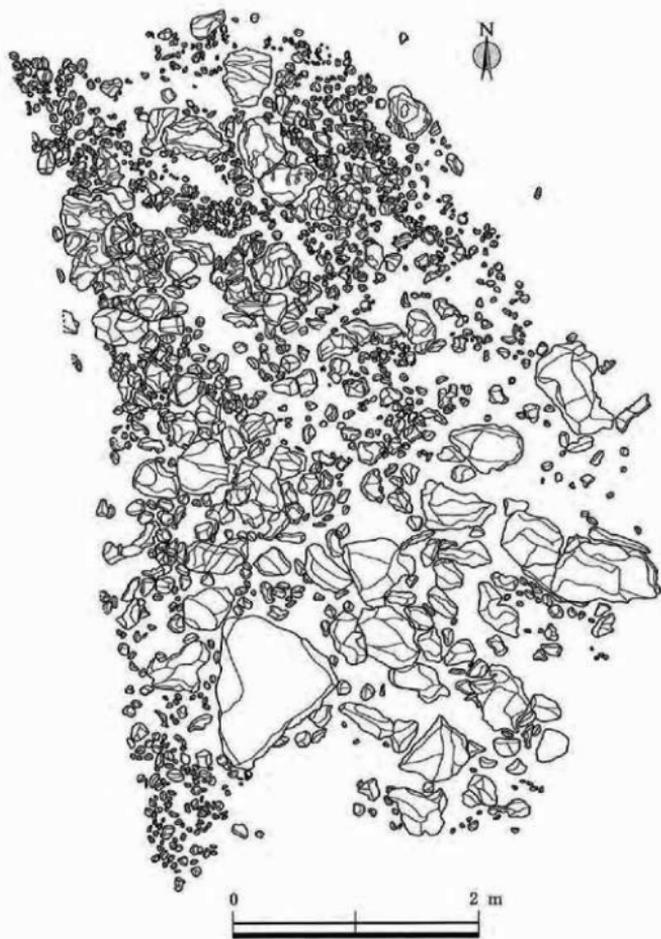


图85 3-2 A 调查区 绳文时代草创期 12号集石遺構実測図

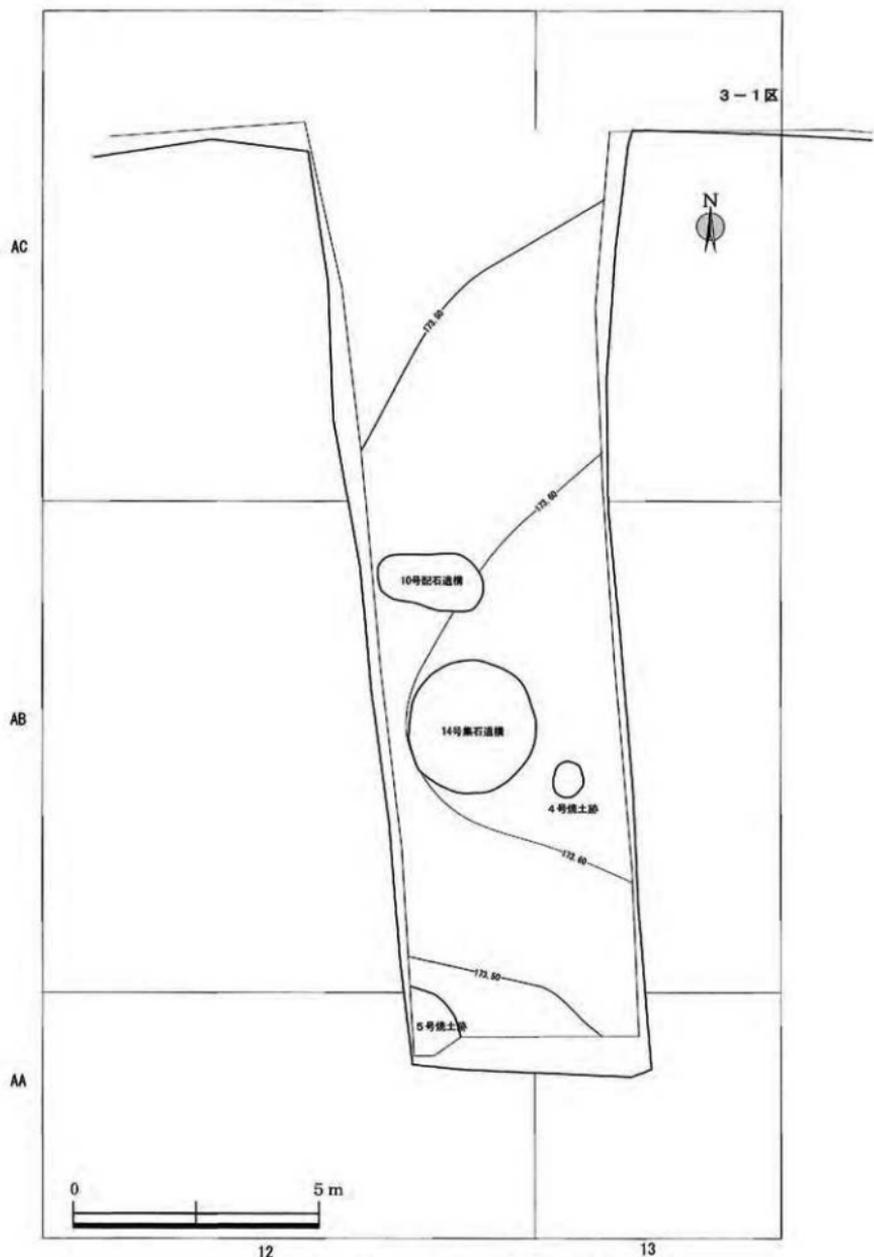
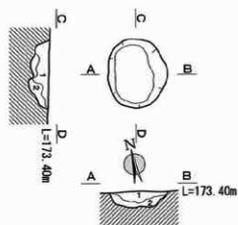
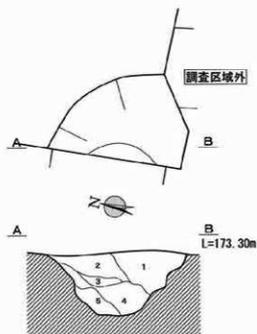


図06 3-2 A調査区 縄文時代早期 遺構分布図



- 1層 暗褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。層中に粒径1～3mmの焼土粒を多く含む。褐色土のフロック、細かな炭化物をやや含む。
- 2層 暗黄褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。層中に粒径1～3mmのスリヤ粒、やや細かい焼土粒、小石を含む。

4号焼土跡

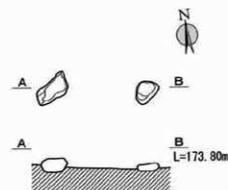


- 1層 褐色土 締まり、粘性共にやや弱い。層中に細かい砂、粒径1～2mmのオレンジスリヤ粒、粒径5～10mmの小石を含む。
- 2層 黒色土 締まり、粘性共に強い。層中に、細かい砂、粒径1～3mmの焼土粒を含む。
- 3層 赤褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。粒径1～2mmの石、焼土粒を多く含む。地土層。
- 4層 黄褐色土 締まりはやや強く、粘性は強い。細かい砂、粒径2～3cmの層状の小石を含む。
- 5層 褐色土 締まりはやや強く、粘性は強い。細砂、粒径2～3mmの層状の小石を含む。

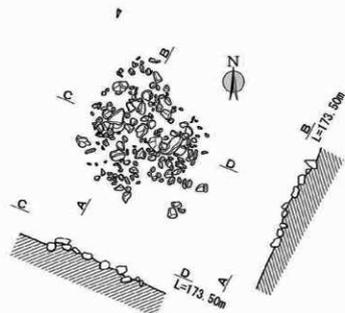
5号焼土跡



図87 3-2 A調査区 縄文時代早期 4・5号焼土跡実測図



10号配石遺構



14号集石遺構



図88 3-2 A調査区 縄文時代早期 10号配石遺構・14号集石遺構実測図

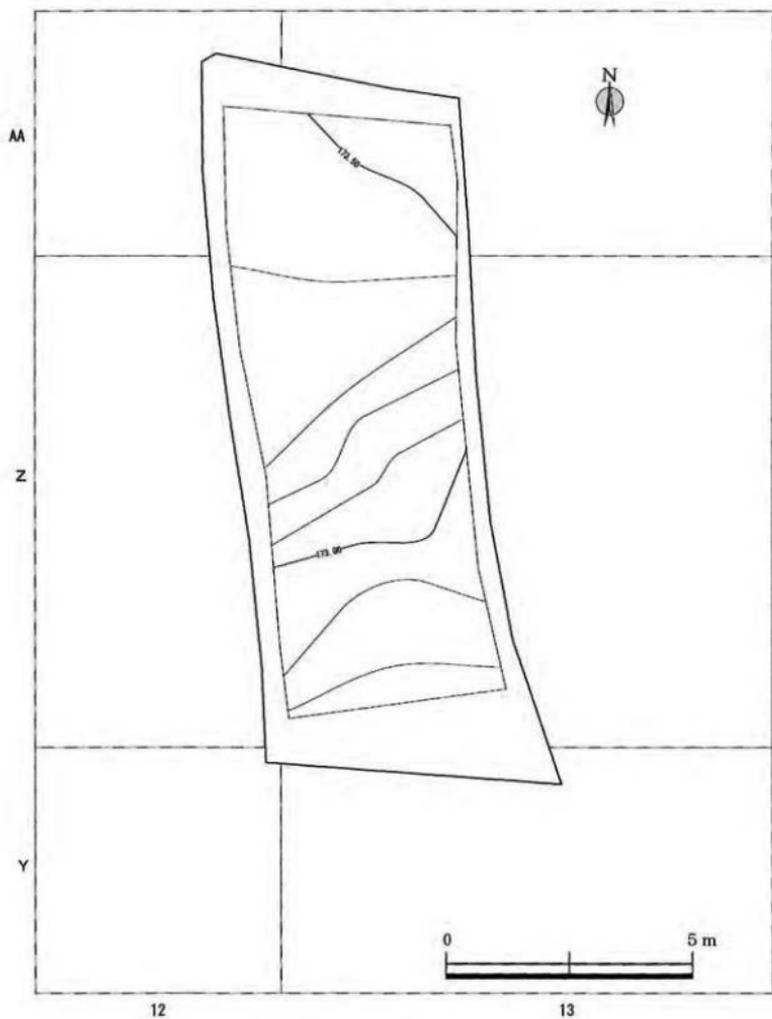


图09 3-2 B 調査区 縄文時代 平面図

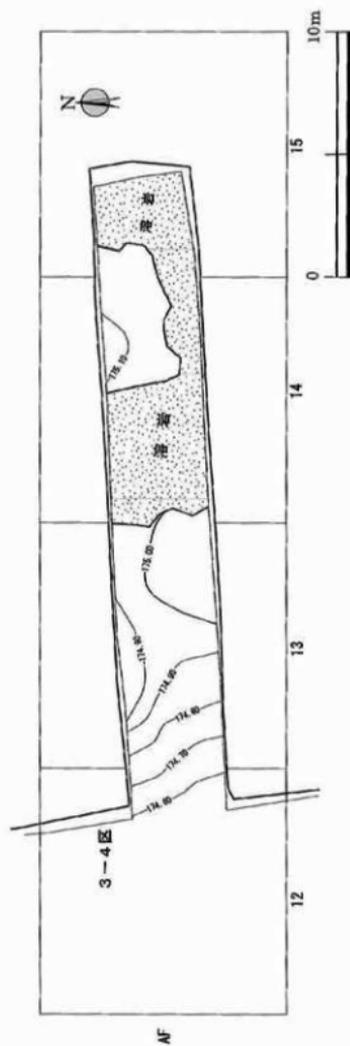


图91 3-3A 遗址区 绳文时代 平面图

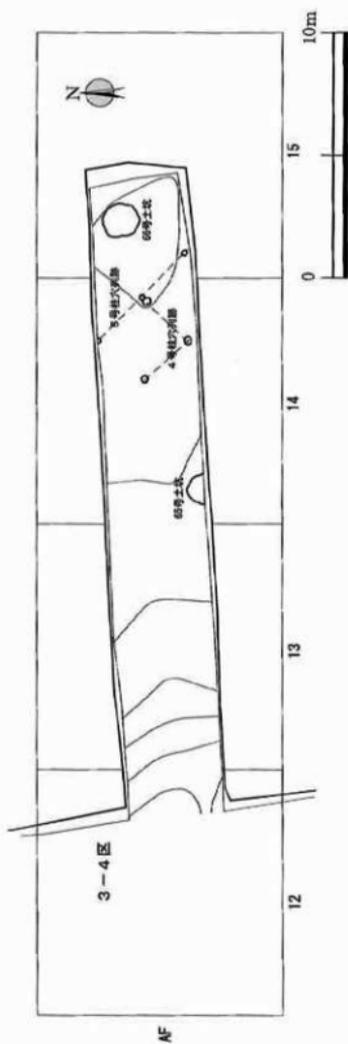
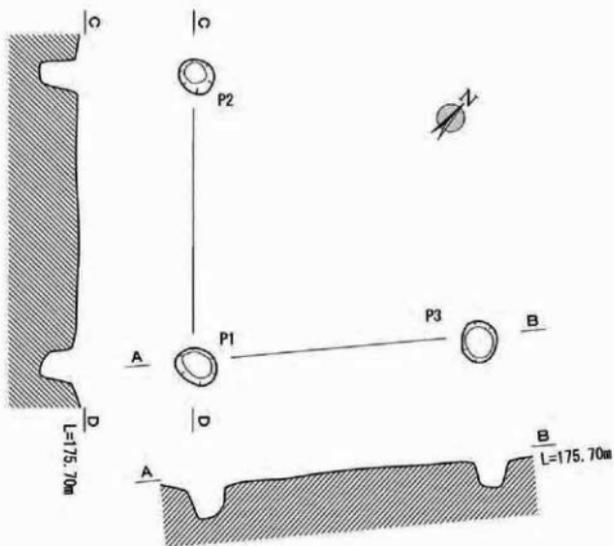
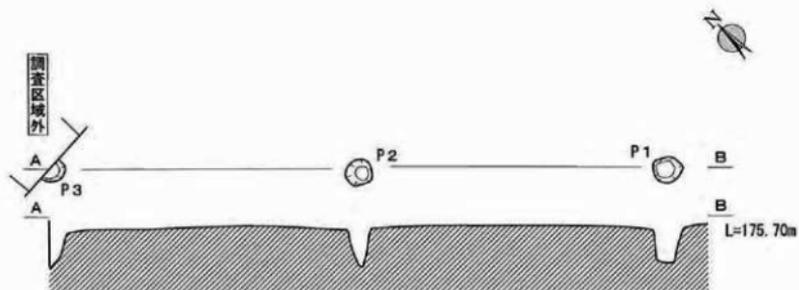


图92 3—3 A层探区 东周代以降 墓葬分布图



黒褐色土： 締まりはやや強く、粘性は強い。層中に粒径1～2mmのオレンジスコリア粒を多く含み、粒径2～3mmの小石、砂を含む。

4号柱穴列跡

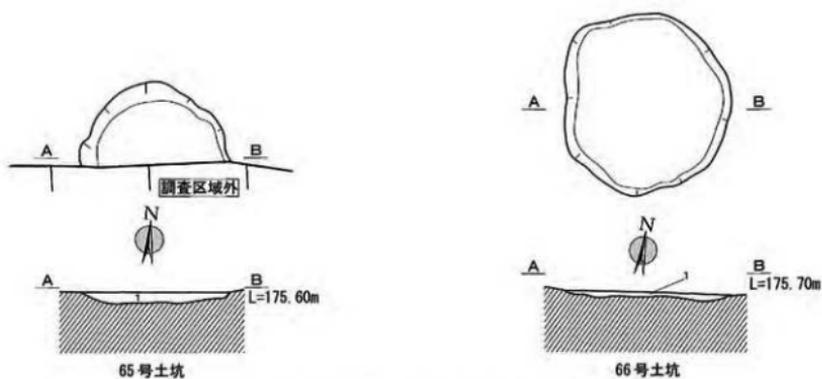


黒褐色土： 締まりはやや強く、粘性は強い。層中に粒径1～2mmのオレンジスコリア粒を多く含み、粒径2～3mmの小石、砂を含む。

5号柱穴列跡



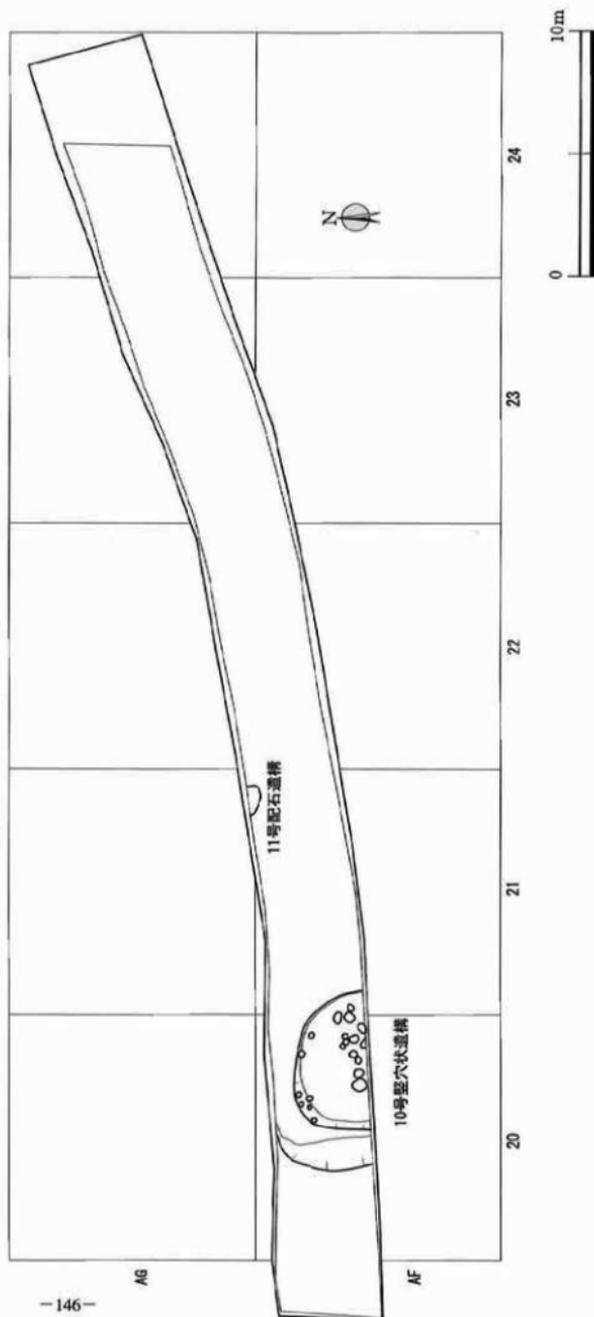
図93 3-3 A調査区 弥生時代以降 4・5号柱穴列跡実測図



1層 黒色土 締まり、粘性共にやや弱し、層中に砂、粒径2~3mmの小石を多く含む。



図94 3-3 A調査区 弥生時代以降 土坑実測図



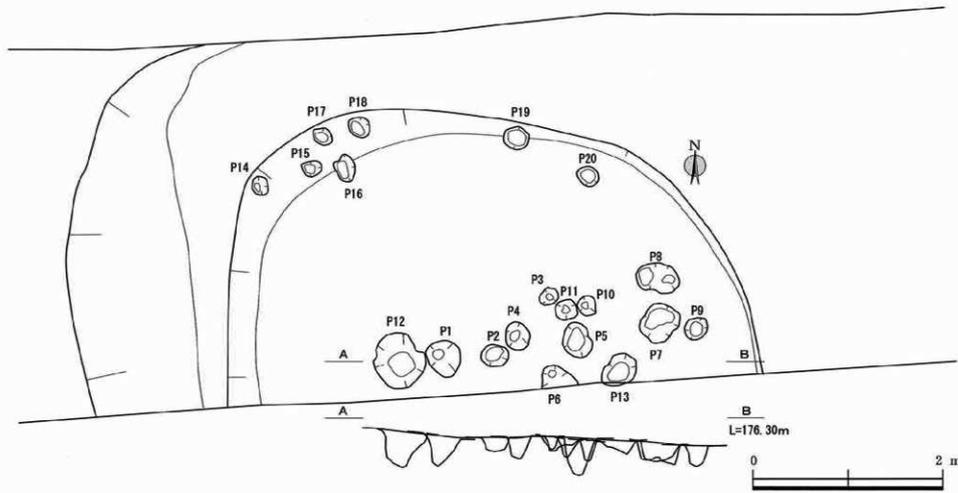


図97 3-3 C調査区 縄文時代草創期 10号壘穴状遺構実測図 (断面は見透図)

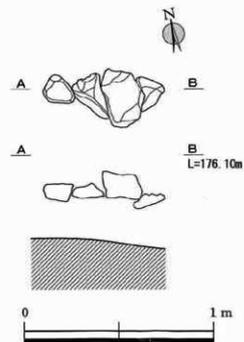
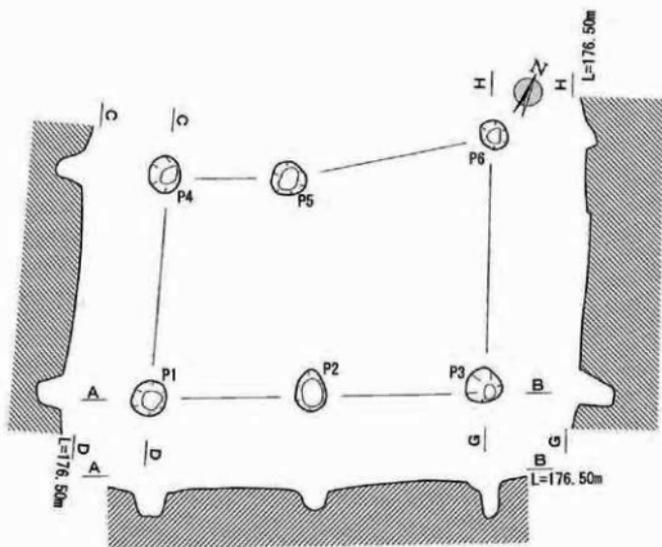
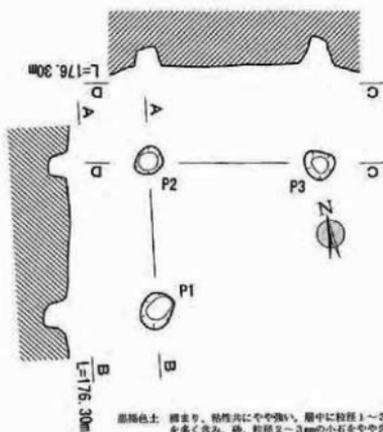


図98 3-3 C調査区 縄文時代草創期 11号配石遺構実測図



黒褐色土 硬まり、粘性共にやや強い、層中に粒径1~3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。砂、粒径2~3mmの小石をやや含む。

3号堀立柱建物跡

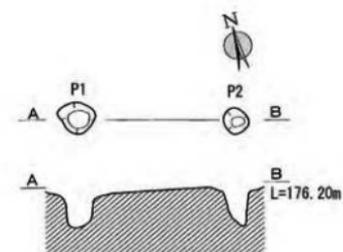


黒褐色土 硬まり、粘性共にやや強い、層中に粒径1~3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。砂、粒径2~3mmの小石をやや含む。

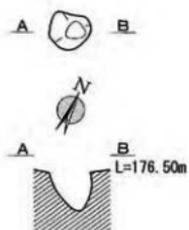
6号柱穴列跡



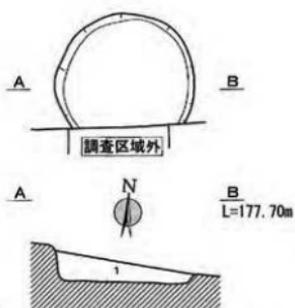
図100 3-3C調査区 弥生時代以降 3号堀立柱建物跡、6号柱穴列跡実測図



7号柱穴列跡

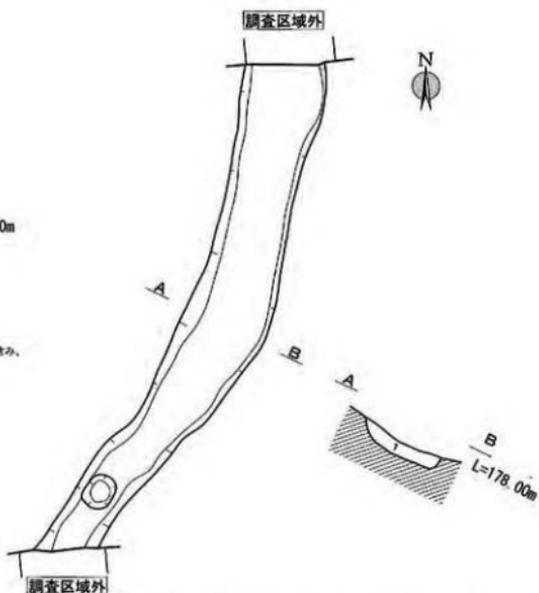


42号ピット



1層 黒褐色土 締まり、粘性共にやや強い。層中に粒径1～3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。砂、粒径2～3mmの小石をやや含む。

67号土坑



1層 黒褐色土 締まり、粘性共にやや強い。層中に粒径1～3mmのオレンジスコリア粒を多く含む。砂、粒径2～3mmの小石をやや含む。

2号溝状遺構

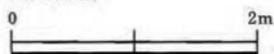


図101 3-3C調査区 弥生時代以降7号柱穴列跡、42号ピット、67号土坑、4号溝状遺構実測図

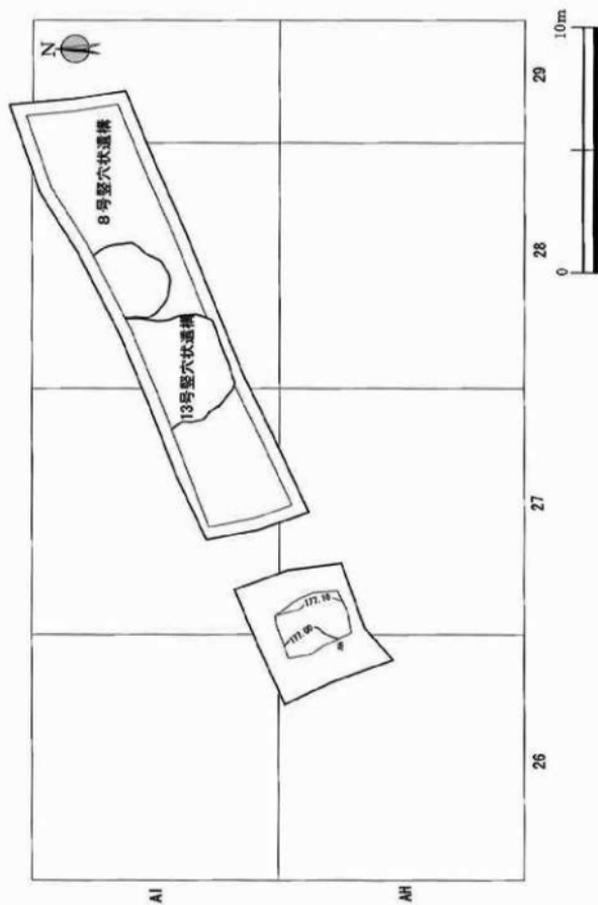


图102 3-3 D調査区 縄文時代 平面図、3-3 E調査区 縄文時代早期期 遺構分布図

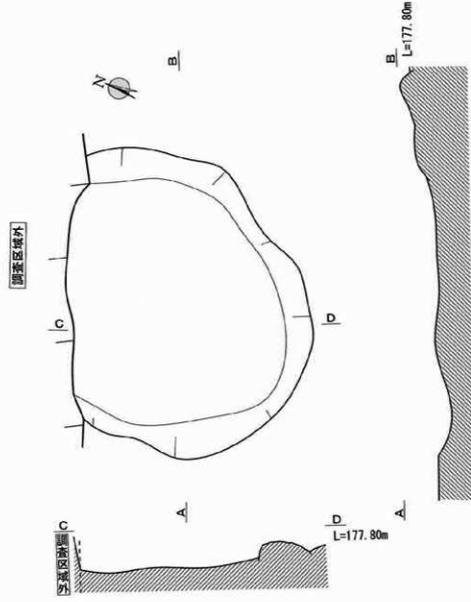


图103 3—3 E 窟壁画区 隋文帝开皇朝第 8号壁穴状窟佛龛剖面图

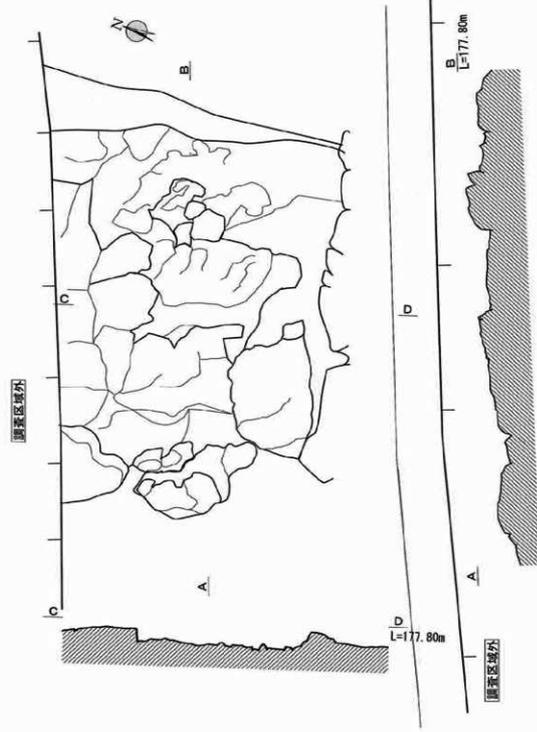


图104 3—3 E 窟壁画区 隋文帝开皇朝第 13号壁穴状窟佛龛剖面图



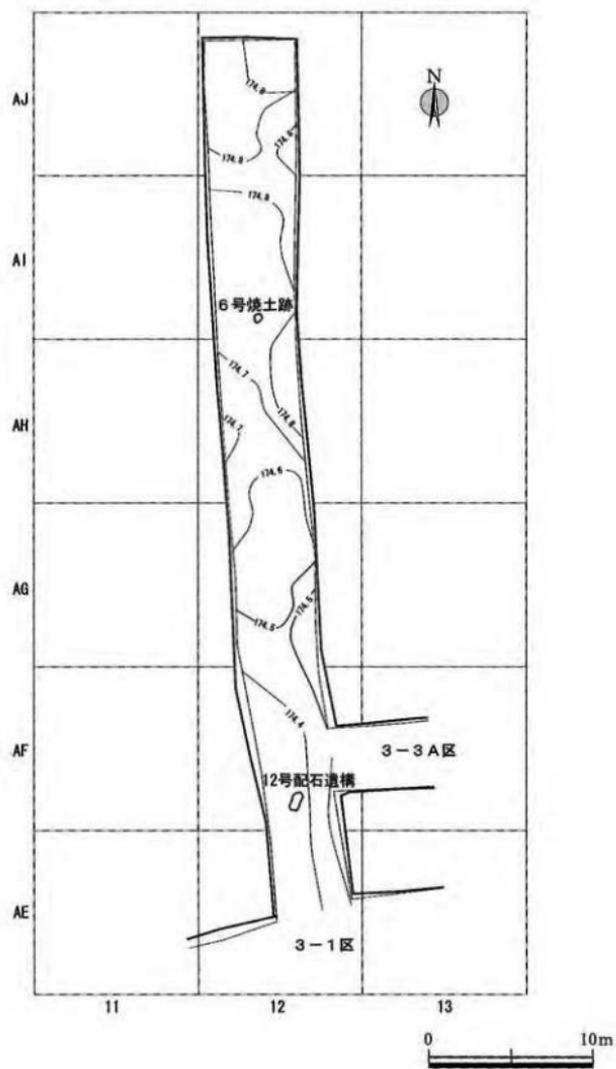
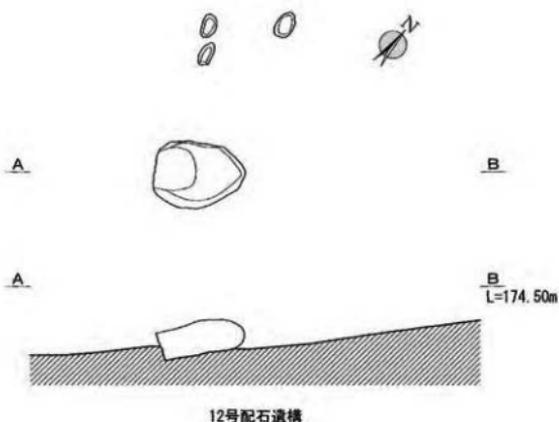
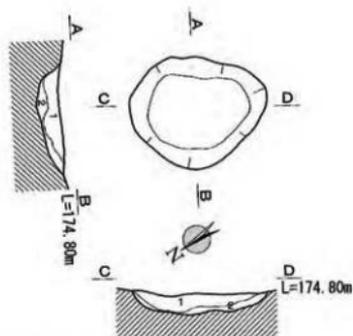


図105 3-4調査区 遺構分布図



12号配石遺構



- 1層 暗赤褐色土 跡よりはやや強く、粘性はやや強い。
層中に粒径1～2mmの焼土粒、炭化物をやや含み、細かい砂を多く含む。
- 2層 暗褐色土 跡まわり、粘性共に強い。層中に細かい焼土粒、砂を含む。

6号焼土跡



図106 3-4 調査区 12号配石遺構、6号焼土跡実測図

窪 B 遺 跡

5 調査概要

(1)調査の経過

発掘調査は平成13年11月5日～11月30日にかけて実施した。

11月5日(月)～9日(金)

重機による表土層の掘削後に、作業員による精査を始め、弥生時代以降の掘立柱建物跡・土坑等を検出・精査・測量・写真撮影等を行う。

11月12日(月)～16日(金)

縄文時代の集石遺構・土坑を検出・精査・測量・写真撮影等を行う。

11月19日(月)～11月22日(木)

縄文時代の集石遺構の検出・精査・測量・写真撮影等を行う。

11月26日(月)～11月30日(金)

縄文時代の集石遺構の検出・精査・測量・写真撮影等を行う。

11月30日で調査を終了する。

(2)層序(図107)

基本層序は大鹿産遺跡と同様である。

6 調査結果

(1)遺構

縄文時代(図108・109)

調査はほ場整備計画地の東西方向に計画されている水路建設部分を調査範囲とし、調査面積100㎡を対象に調査区全域に南北方向を軸として10×10mのグリッドを設定し調査を行なった。

調査の結果、遺構は縄文時代の土坑が21基検出され内1号土坑は8層が遺構確認面、2～21号は6C層が確認面である。ピット58基、集石遺構2基は6C層が遺構確認面で検出された。時期を明確に示す土器等の出土がなかったことから、各遺構の時期は遺構確認面の層序によった。

土坑(表16)

1号土坑(図110)

調査区東側のA-3・B-2・3グリッドにて検出された。平面形態は不整長楕円形、断面形態は浅い丸底状を呈する。規模は長軸1.19m、短軸0.50m、深さ0.29mを測り、長軸方向はN-25°-Wである。

2号土坑(図110)

調査区東側のB-3グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸0.52m、短軸0.43m、深さ0.24mを測り、主軸方向はN-54°-Eである。

3号土坑(図110)

調査区東側のB-2・3グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.60m、短軸0.54m、深さ0.13mを測り、主軸方向はN-8°-Eである。

4号土坑(図110)

調査区東側のB-2グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.57m、短軸0.44m、深さ0.18mを測り、主軸方向はN-19°-Eである。

5号土坑(図110)

調査区中央付近のA-2グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.50m、短軸0.46m、深さ0.12mを測り、主軸方向はN-45°-Wである。

6号土坑(図110)

調査区中央付近のB-2グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.85m、短軸0.69m、深さ0.10mを測り、主軸方向は南北方向である。

7号土坑(図110)

調査区中央付近のB-2グリッドにて検出された。平面形態は不整形、断面形態は浅い丸底状を呈する。規模は長軸0.50m、短軸0.48m、深さ0.13mを測り、主軸方向はN-5°-Wである。

8号土坑(図111)

調査区中央付近のA-2グリッドにて検出された。平面形態は不整長楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸0.69m、短軸0.43m、深さ0.20mを測り、主軸方向はN-28°-Eである。

9号土坑(図111)

調査区中央付近のB-2グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は上に開くV字状を呈する。規模は長軸0.65m、短軸0.55m、深さ0.23mを測り、主軸方向はN-20°-Wである。

10号土坑(図111)

調査区中央付近のA・B-2グリッドにて検出された。平面形態は不整長楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.79m、短軸0.50m、深さ0.11mを測り、主軸方向はN-20°-Eである。

11号土坑(図111)

調査区中央付近のA-1グリッドの南壁部分にて検出された。南側部分は調査区外に位置する。調査区内の検出部分からその平面形態は不整長楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長軸0.50m、短軸0.43m、深さ0.12mを測り、主軸方向はN-2°-Wである。

12号土坑(図111)

調査区西側のA・B-1グリッドの南壁部分にて検出された。南側部分は調査区外に位置する。調査区内の検出部分からその平面形態は不整長楕円形と考えられ、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は現況で長軸0.46m、短軸0.43m、深さ0.10mを測り、主軸方向はN-5°-Eである。

13号土坑(図111)

調査区西側のB-1グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸0.52m、短軸0.40m、深さ0.16mを測り、主軸方向はN-38°-Eである。

14号土坑(図111)

調査区西側のA・B-1グリッドにて検出され、その一部は調査区外に位置する。平面形態は不整長楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸1.09m、短軸0.78m、深さ0.21mを測り、主軸方向はN-20°-Eである。

15号土坑(図111)

調査区西側のB-1グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い丸底状を呈する。規模は長軸0.81m、短軸0.66m、深さ0.19mを測り、主軸方向はN-53°-Wである。

16号土坑(図111)

調査区東側のB-3グリッドにて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は片テラス状を呈する。

規模は長軸0.43m、短軸0.39m、深さ0.19mを測り、主軸方向はN-7° -Eである。

17号土坑(図112)

調査区東側のB-1・2グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈する。規模は長軸0.54m、短軸0.49m、深さ0.26mを測り、主軸方向はN-37° -Eである。

18号土坑(図112)

調査区東側のB-2グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.61m、短軸0.52m、深さ0.10mを測り、主軸方向はN-24° -Eである。

19号土坑(図112)

調査区西側のA-1グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は片テラス状を呈する。規模は長軸0.63m、短軸0.50m、深さ0.21mを測り、主軸方向はN-39° -Eである。

20号土坑(図112)

調査区西側のB-1グリッドの西壁部分にて検出された。大部分は調査区外に位置するためその平面形態は不明である。断面形態はテラス状を呈する。規模は検出範囲で長軸0.98m、短軸0.49m、深さ0.28mである。

21号土坑(図112)

調査区中央のA・B-2グリッドにて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸0.45m、短軸0.35m、深さ0.09mを測り、主軸方向はN-80° -Eである。

ピット (図113~116、表17)

1~58号までの58基が検出された。一覧表を参照されたい。

集石遺構 (表18)

1号集石遺構(図117)

調査区中央のA・B-2グリッドにて検出された。掘方の平面形態は不整長楕円形、断面形態は浅い皿状を呈する。範囲は長軸3.29m、短軸1.82m、深さ0.22mを測り、主軸方向はN-88° -Eである。

掘り込みは浅く覆土は暗褐色土の1層で掘り込みの立ち上がりは明瞭ではない。

礫は小礫によって構築されており大型礫は北側と西側に僅かにみとめられるだけで、その中心部分に2箇所礫のない空白部分がある。また断面観察からみて下層部分を暗褐色土で整地し、その上面に多量の小礫を積んで構築されたと思われる。使用された礫の数は869点をかぞえる。

2号集石遺構(図117)

調査区東側のB-3グリッドにて検出された。掘方の平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い皿状を呈する。範囲は長軸1.29m、短軸1.03m、深さ0.16mを測り、主軸方向はN-31° -Eである。

掘り込みは浅く覆土は暗褐色土の1層で西側の立ち上がりは明瞭ではない。

礫群は小礫によって構築されておりやや散漫な広がりみせる。使用された礫の数は176点をかぞえる。

弥生時代以降 (図118)

調査の結果、遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑5基、ピット2基検出された。いずれも遺構確認面が大沢スコリア層である。

掘立柱建物跡 (表19)

1号掘立柱建物跡(図119)

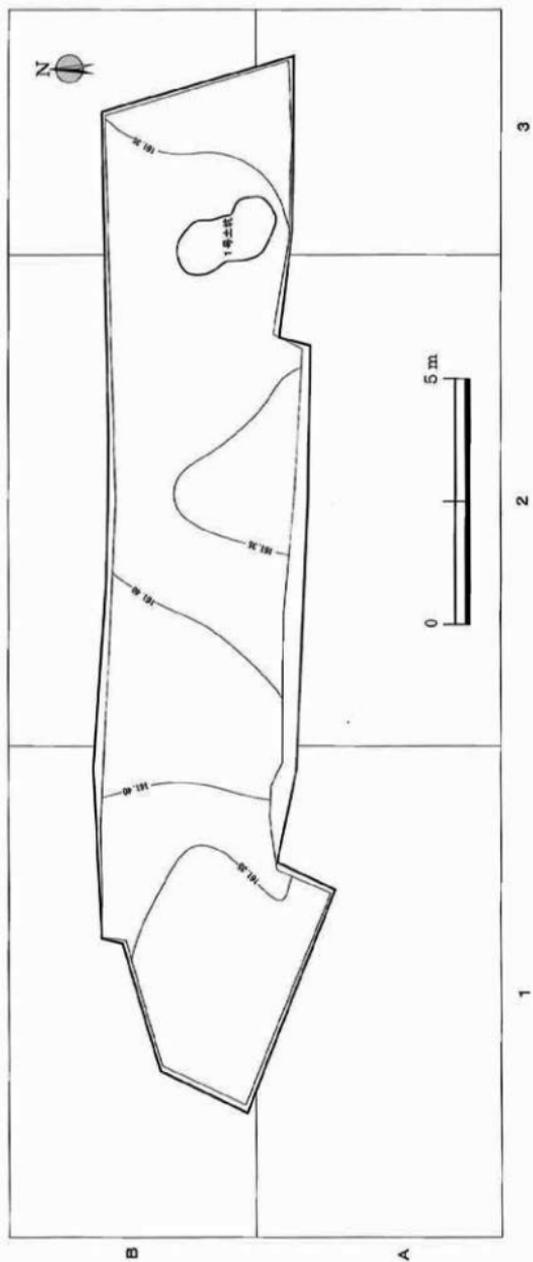


图108 濠B遺跡 縄文時代 遺跡分布図①

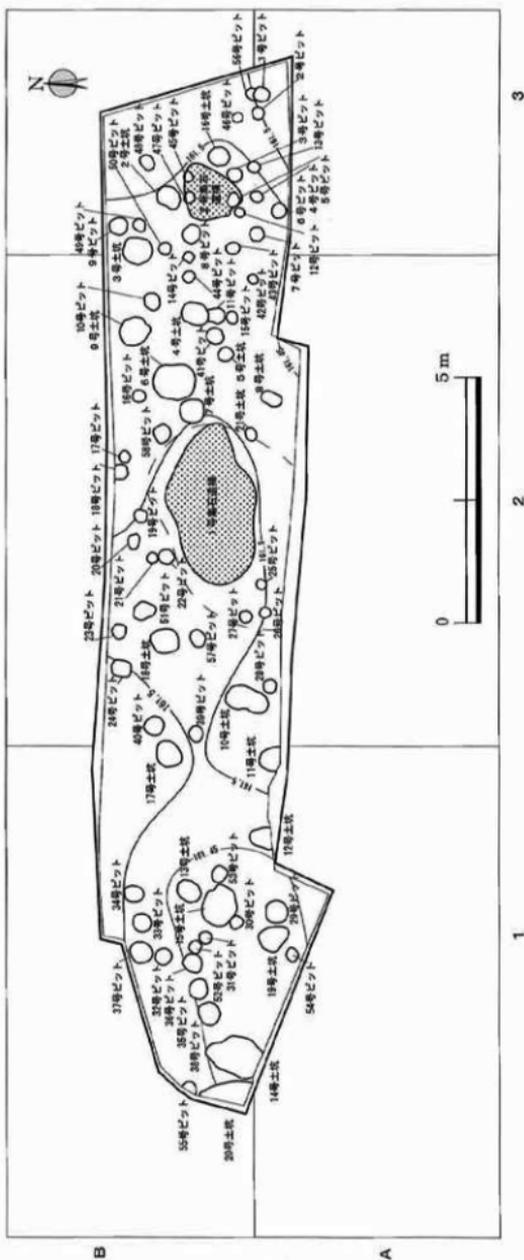
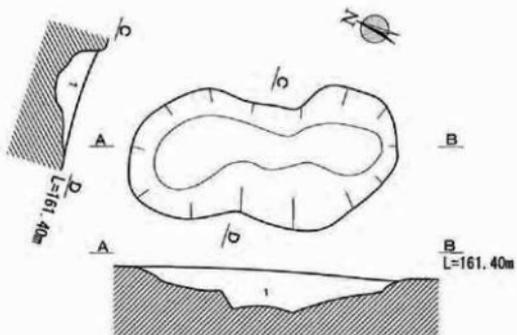
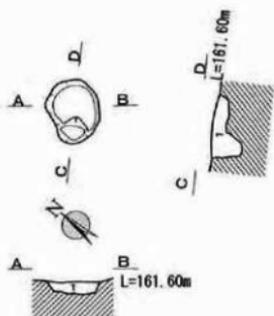


図109 窪B遺跡 縄文時代 遺構分布図②

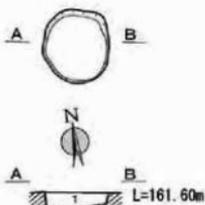


1層 暗褐色土 土の締まり、粘性共に強い。
層中に粒径1〜3mmのオレンジスコリア粒、砂、2〜5mmの小石をやや含む。

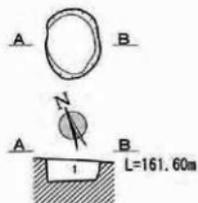
1号土坑



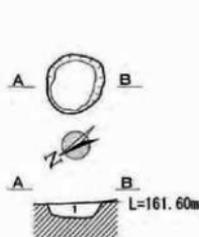
2号土坑



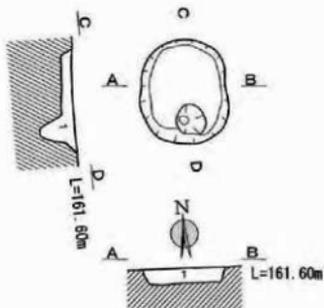
3号土坑



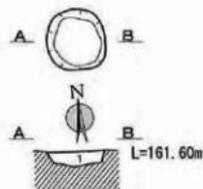
4号土坑



5号土坑



6号土坑



7号土坑

1層 暗褐色土 締まり、粘性共に強い。
層中に粒径1〜3mmのオレンジスコリア粒、砂、2〜5mmの小石をやや含む。

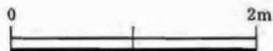
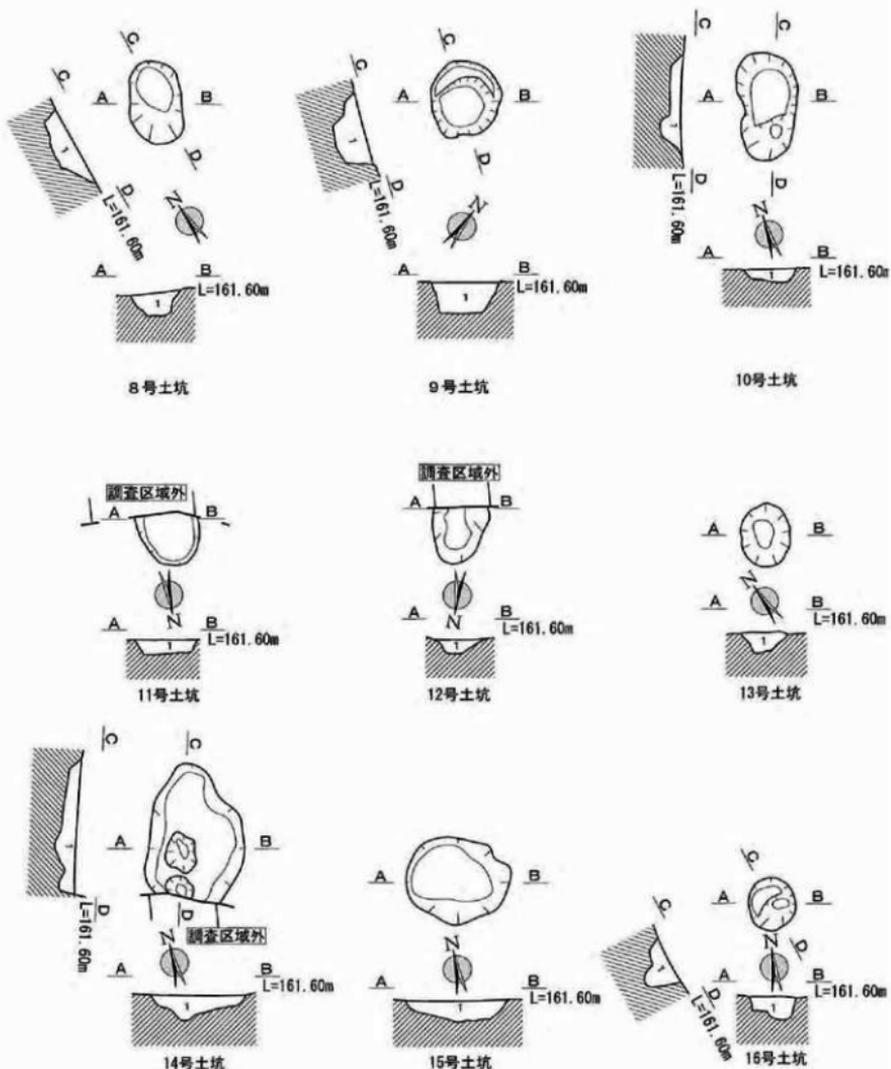


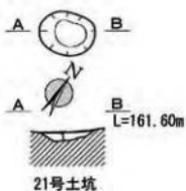
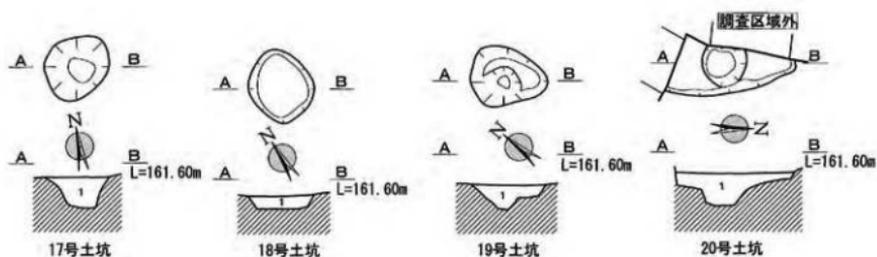
図110 窪B遺跡 縄文時代 土坑実測図①



1層 暗褐色土 粘まり、粘性共に強い。
層中に粒径1~2mmのオレンジスコリア粒、砂、2~5mmの小石をやや含む。



図111 窪B遺跡 縄文時代 土坑実測図②



1層 暗褐色土 硬直り、粘柱状に強い。
層中に直径1～3mmのオレンジスコーリア粒、砂、2～5mmの小石をやや多く含む。



図112 窪B遺跡 縄文時代 土坑実測図③

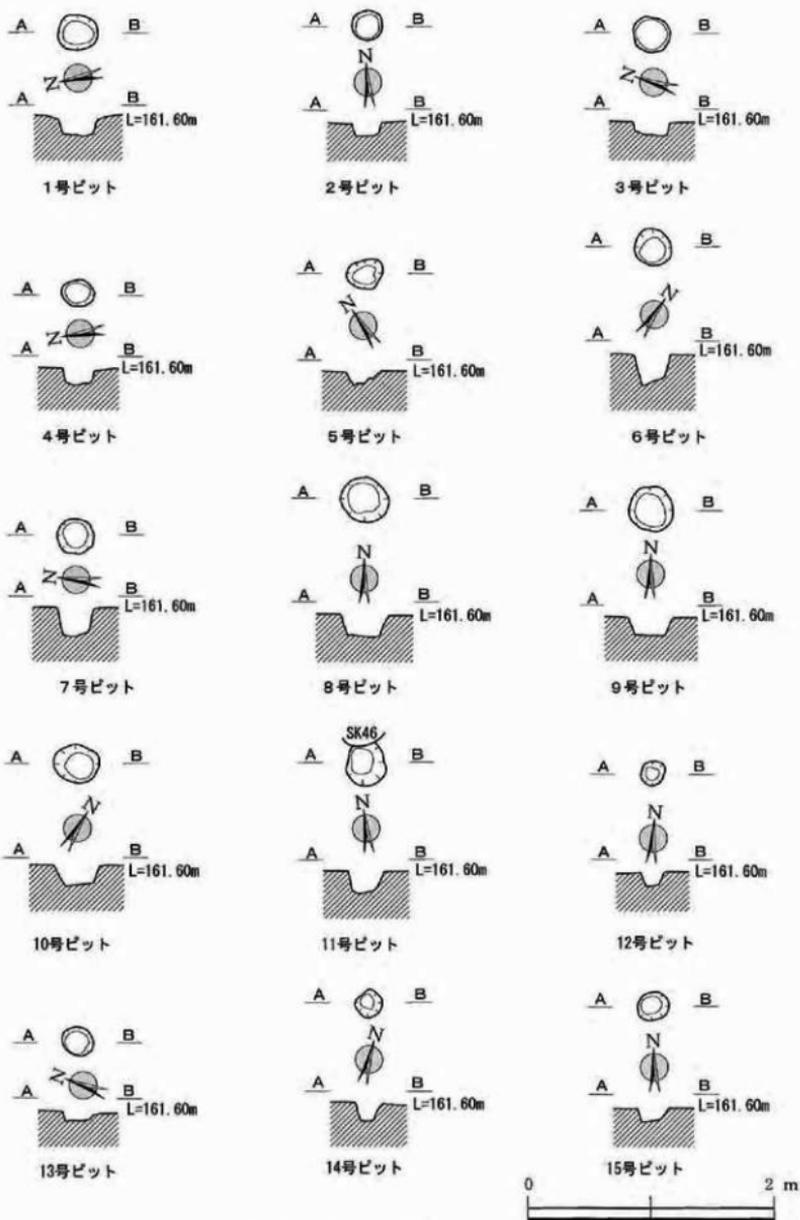


図113 窪B遺跡 縄文時代 ビット実測図①

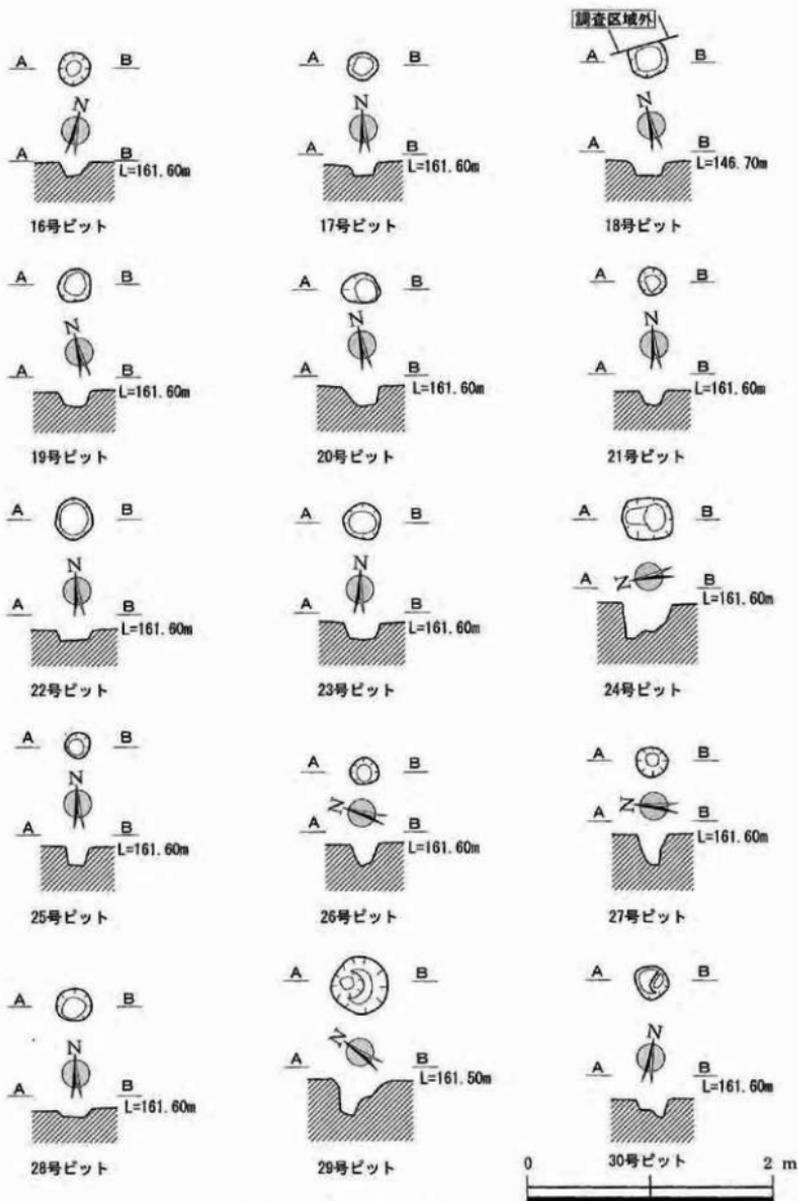


図114 竊B遺跡 縄文時代 ピット実測図②

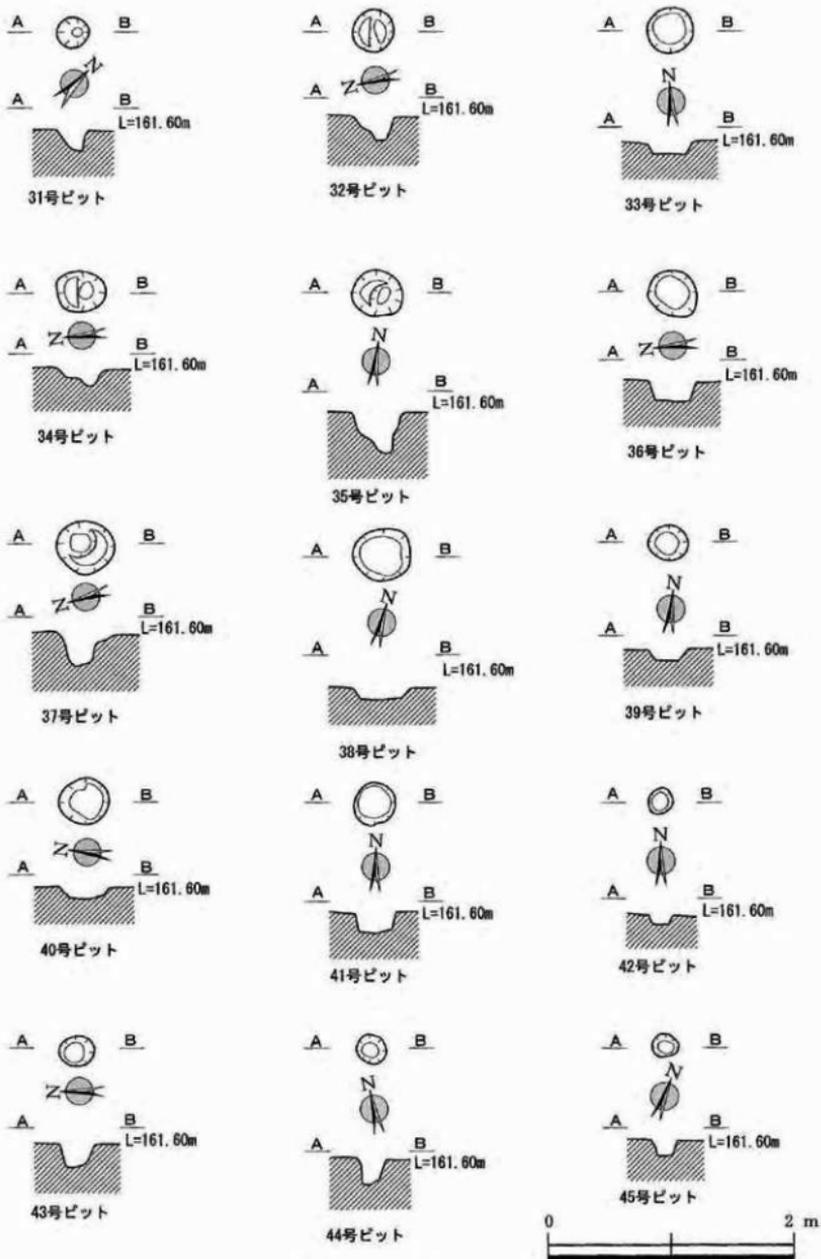


図115 窪B遺跡 縄文時代 ビット実測図③

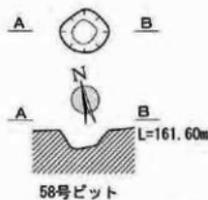
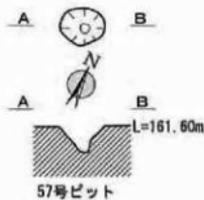
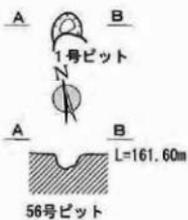
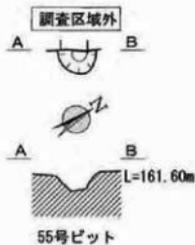
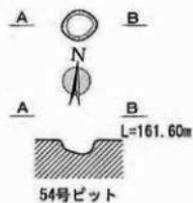
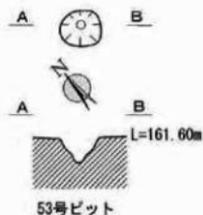
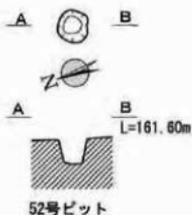
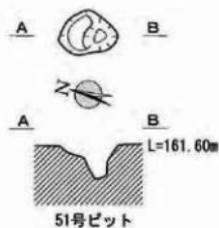
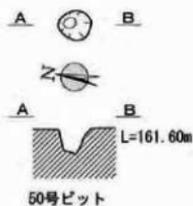
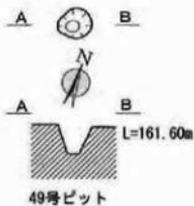
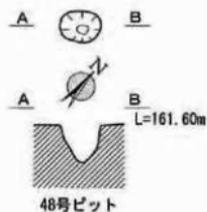
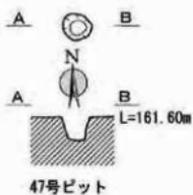
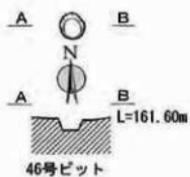


図116 窪B遺跡 縄文時代 ピット実測図④



調査区東側のB-2・3グリッドにて検出された。規模は長軸2.47m、短軸2.12mで方形を呈する。柱間寸法はP1・P2間が2.12m、P1・P4間が2.5m、P2・P3間が2.47m、P3・P4間が2.35mを測り、主軸方向はN-8°-Wである。

ピット (図119、表21)

59・60号の2基が検出された。一覧表を参照されたい。

土坑 (表20)

22号土坑(図120)

調査区東側のA・B-3グリッドにて検出された。南側部分は調査区外に位置する。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長軸1.16m、短軸0.82m、深さ0.18mを測る。

23号土坑(図120)

調査区西側のA-1グリッドにて検出された。平面形態は楕円形、断面形態はU字状を呈する。規模は長軸0.97m、短軸0.94m、深さ0.22mを測り、主軸方向はN-40°-Eである。

24号土坑(図120)

調査区西側のB-1グリッドにて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.18m、短軸1.08m、深さ0.16mを測り、主軸方向はN-76°-Eである。

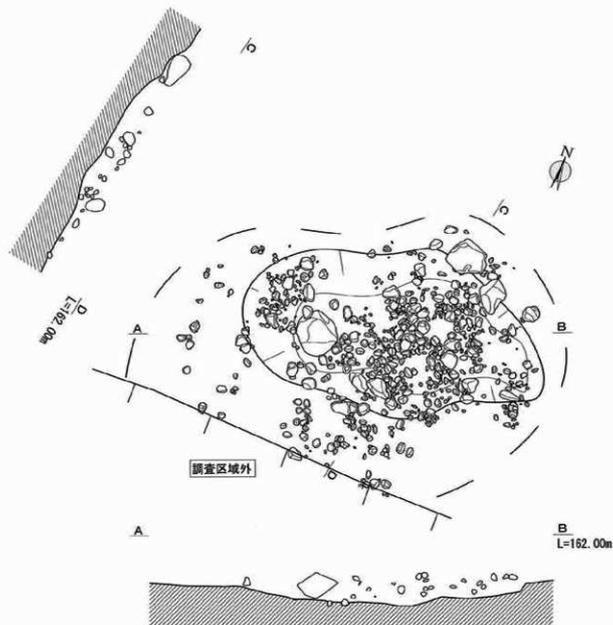
25号土坑(図120)

調査区西側のB-1グリッドにて検出された。北側部分は調査区外に位置する。平面形態は不整楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は現況で長軸1.04m、短軸0.61m、深さ0.18mを測る。

26号土坑(図120)

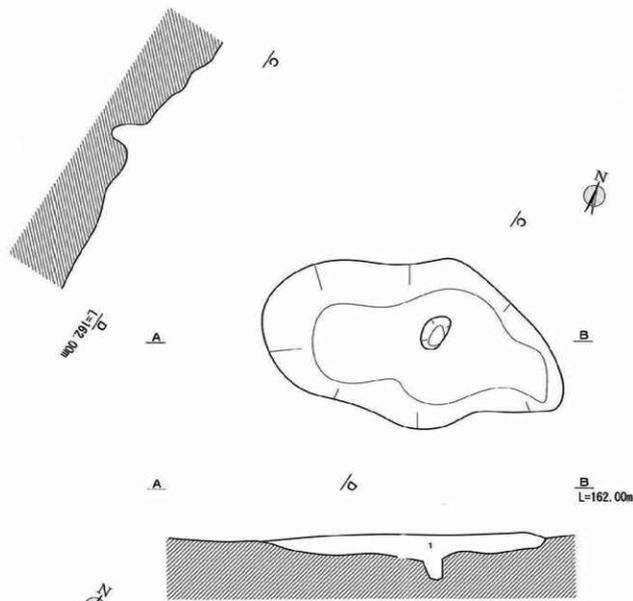
調査区西側のB-1グリッドにて検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態はU字状を呈する。規模は長軸0.94m、短軸0.87m、深さ0.27mを測り、主軸方向はN-4°-Wである。

(小金澤・武田)



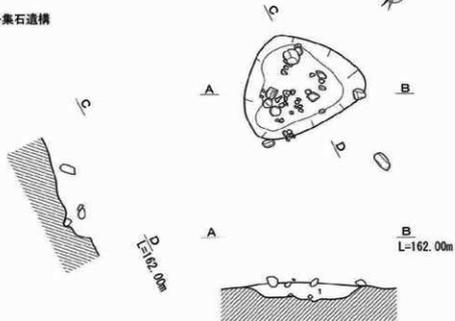
1号集石遺構

L=162.00m



1号集石遺構 (掘方平面図)

1層 暗褐色、粘り、粘り共にやや強い。層中に粒径1〜3mmのオレンジスコリア粒、砂、小石をやや含む。



2号集石遺構

1層 暗褐色土、粘り、粘り共にやや強い。層中に粒径1〜3mmのオレンジスコリア粒、砂、小石をやや含む。



図117 窪B遺跡 縄文時代 1・2号集石遺構実測図

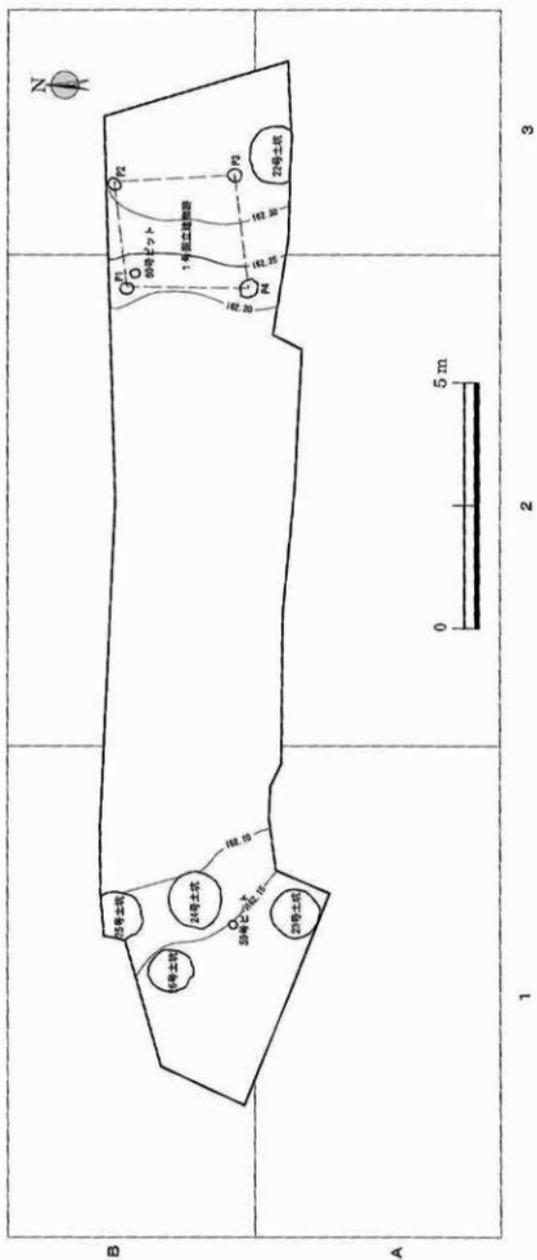
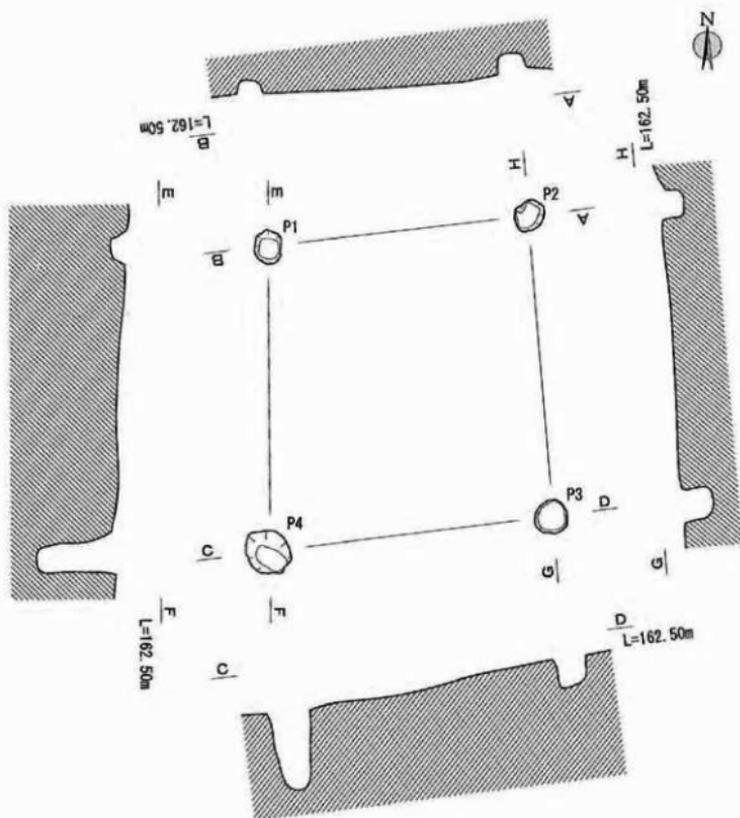
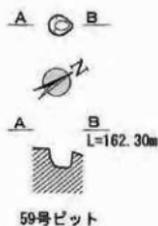


図118 青森道跡 弥生時代以降 遺構分布図

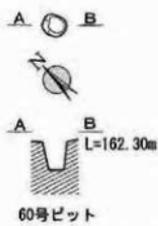


黄褐色土 締まりは強く、粘性はやや強い。
 黒かやせレンジスコリア質、砂、2~3mmの小石をやや含む。

1号掘立柱建物跡



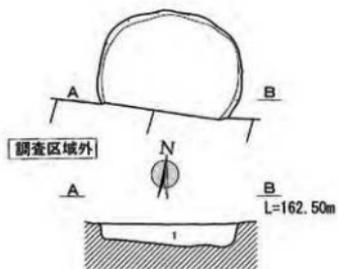
59号ビット



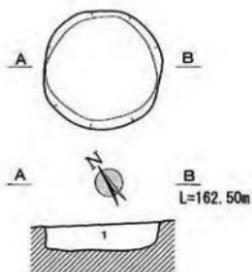
60号ビット



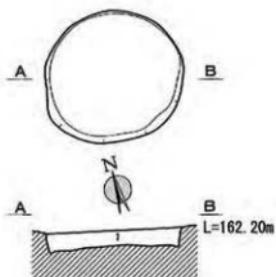
図119 竪B遺跡 弥生時代以降 1号掘立柱建物跡実測図
 59・60号ビット実測図



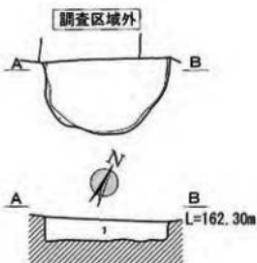
22号土坑



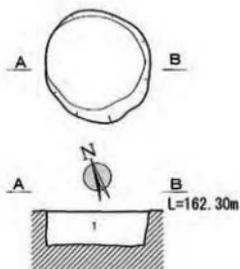
23号土坑



24号土坑



25号土坑



26号土坑

1層 黒色土層 締まり、粘性は共に強い、層中に細砂粒径1~3mmのオレンジスコリア粒をやや多く含む。

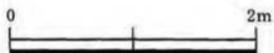


図120 窪B遺跡 弥生時代以降 土坑実測図

7 まとめ

ここでは大鹿窪遺跡・窪B遺跡で検出された遺構を一覧しまとめとする。

表2	大鹿窪遺跡	縄文時代	竪穴状遺構一覧	183
表3	大鹿窪遺跡	縄文時代	土坑一覧	184
表4	大鹿窪遺跡	縄文時代	溝状遺構一覧	185
表5	大鹿窪遺跡	縄文時代	焼土跡一覧	185
表6	大鹿窪遺跡	縄文時代	ピット一覧	186
表7	大鹿窪遺跡	縄文時代	配石遺構一覧	187
表8	大鹿窪遺跡	縄文時代	集石遺構一覧	188
表9	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	掘立柱建物跡一覧	188
表10	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	柱穴列跡一覧	189
表11	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	溝状遺構一覧	189
表12	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	土坑一覧	190
表13	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	土壌墓一覧	191
表14	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	焼土跡一覧	191
表15	大鹿窪遺跡	弥生時代以降	ピット一覧	191
表16	窪B遺跡	縄文時代	土坑一覧	192
表17	窪B遺跡	縄文時代	ピット一覧	194
表18	窪B遺跡	縄文時代	集石遺構一覧	195
表19	窪B遺跡	弥生時代以降	掘立柱建物跡一覧	195
表20	窪B遺跡	弥生時代以降	土坑一覧	195
表21	窪B遺跡	弥生時代以降	ピット一覧	195

これらの遺構と出土した遺物、遺構の切り合い関係は遺物・分析編にて考察する予定である。

表2 大鹿窟遺跡 縄文時代 竪穴状遺構一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	床面形態	備考
	調査区	グリッド	長軸	短軸	深さ					
1号竪穴状遺構	3-1	AD・AE-11・12	4.60	4.22	0.52	南北	173.5	不整楕円方形	平坦	
2号竪穴状遺構	3-1	AD-11・12	4.69	4.02	0.30	南北	173.4	不整楕円方形	平坦	3・11・12号竪穴状遺構・51・52号土坑と切り合い
3号竪穴状遺構	3-1	AD-11	5.91	1.72	—	—	173.0	不整楕円方形	—	2・11号竪穴状遺構・50号土坑と切り合い
4号竪穴状遺構	3-1	AC・AD-11・12	3.12	(2.40)	0.24	(N-37°-W)	173.3	(不整楕円形)	平坦	5・14号竪穴状遺構・53号土坑と切り合い
5号竪穴状遺構	3-1	AC-11・12	(3.68)	(1.88)	0.24	—	173.1	(不整楕円方形)	平坦	4・14号竪穴状遺構・53号土坑と切り合い
6号竪穴状遺構	3-1	AC・AD-12	3.36	3.16	0.38	南北	173.6	不整楕円形	平坦	
7号竪穴状遺構	3-1	AE-12・13	5.80	4.56	0.57	南北	173.7	不整長楕円形	平坦	
8号竪穴状遺構	3-3 E	A I-28	3.06	2.76	0.50	—	177.7	(不整楕円形)	楕円状	尖頭器の埋納遺構
9号竪穴状遺構	3-1	AD・AE-12	2.73	2.58	0.52	南北	173.4	不整楕円形	平坦	
10号竪穴状遺構	3-3 C	AF-20・21	5.56	3.08	—	—	176.1	楕円方形または長方形	ほぼ平坦	調査区外
11号竪穴状遺構	3-1	AD-11・12	4.11	3.59	0.55	N-88°-W	173.0	不整楕円方形	平坦	3号と切り合い
12号竪穴状遺構	3-1	AD-12	2.50	2.05	0.31	N-36°-W	173.3	不整長楕円形	凹凸あり	2・3・11号と切り合い
13号竪穴状遺構	3-3 E	A I-28	4.18	(3.12)	—	—	177.8	(不整方形)	平坦	溶岩上に構築する
14号竪穴状遺構	3-1	AC・AD-11・12	4.72	—	—	—	173.3	—	—	4・5号と切り合い

表3 大鹿窪遺跡 縄文時代 土坑一覧①

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
1号土坑	2-2	W-5	2.57	1.20	0.08	N-44° -W	170.8	(隅丸長方形)	皿状	
2号土坑	2-2	W-5	0.48	0.43	0.13	N-25° -E	170.9	不整楕円形	皿状	
3号土坑	2-2	W-5	0.50	0.34	0.35	N-76° -E	170.9	不整楕円形	U字状	
4号土坑	2-2	X-5	0.74	0.45	0.14	N-44° -E	170.9	不整楕円形	皿状	
5号土坑	2-2	W-5	0.37	0.31	0.31	N-87° -E	171.5	不整楕円形	U字状	
6号土坑	2-2	W-5	0.51	0.42	0.30	N-12° -W	170.8	不整楕円形	片テラス状	
7号土坑	2-2	W-5	0.58	0.33	0.35	N-72° -E	170.8	不整楕円形	(上縁く凹状)	
8号土坑	2-2	W-5	1.61	(1.10)	0.08	南北	170.8	不整楕円形	皿状	
9号土坑	2-2	X-5	0.46	0.41	0.34	N-49° -E	170.9	不整楕円形	U字状	
10号土坑	2-2	W-X-5	0.60	(0.33)	0.12	南北	170.9	不整楕円形	丸底状	
11号土坑	2-2	W-5	(0.52)	(0.20)	0.04	—	170.8	—	(皿状)	
12号土坑	2-2	W-5	(0.46)	(0.17)	0.04	—	170.9	—	—	
13号土坑	2-2	X-5	0.47	0.38	0.12	N-19° -E	171.0	不整楕円形	丸底状	
14号土坑	2-2	W-5	(0.67)	(0.26)	0.12	—	170.9	(不整楕円形)	上縁くU字状	
15号土坑	2-2	X-5	(1.02)	(0.53)	0.21	—	171.0	(不整楕円形)	(皿状)	
16号土坑	2-2	X-5	(0.45)	0.43	0.22	N-32° -E	171.0	(不整楕円形)	(皿状)	
17号土坑	2-2	X-5	0.52	(0.27)	0.16	N-70° -W	171.0	(不整楕円形)	(上縁く凹状)	
18号土坑	2-2	X-5	0.79	0.54	0.14	N-79° -E	171.0	(不整楕円形)	皿状	
21号土坑	2-4	AC-3	0.94	0.76	0.29	N-73° -W	171.17	不整楕円形	丸底状	
22号土坑	2-4	AB-4	1.11	(0.98)	0.13	N-51° -W	171.15	(不整楕円形)	皿状	
44号土坑	3-1	AD-12	0.74	0.67	0.11	南北	173.5	不整楕円形	皿状	51号土坑と 切り合い
45号土坑	3-1	AD-12	0.86	0.78	0.06	南北	173.4	楕円形	皿状	2号整穴状遺構、 51-52号土坑と切り合い
46号土坑	3-1	AD-12	2.59	2.13	0.19	N-60° -E	173.3	不整形	皿状	12号整穴状遺構と 切り合い
47号土坑	3-1	AD-11	1.49	1.13	0.33	南北	173.1	不整楕円形	丸底状	3号整穴状遺構と 切り合い
48号土坑	3-1	AD-12	0.83	0.66	0.27	N-47° -E	173.5	不整楕円形	丸底状	

表3 大鹿窪遺跡 縄文時代 土坑一覧②

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
49号土坑	3-1	AD-12	0.57	0.46	0.17	N-47°-E	173.6	不整楕円形	丸底状	
50号土坑	3-1	AD-11	2.24	1.75	0.50	南北	173.1	不整形	凹凸のある 皿状	風倒木跡と推定
51号土坑	3-1	AD-12	(2.20)	1.91	0.07	東西	173.5	(不整楕円形)	皿状	2号竪穴遺構 (4-6号坑土坑と併り合)
52号土坑	3-1	AD-12	1.43	1.28	0.54	南北	173.31	不整楕円形	U字形	11号竪穴 遺構と併り合(土坑部)
53号土坑	3-1	AC-11	(1.15)	(0.95)	—	東西	173.1	(不整形)	—	4・5・14号竪穴 遺構と併り合

表4 大鹿窪遺跡 縄文時代 溝状遺構一覧

遺構名	位置		規模 (m)			方位	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長さ	幅	深さ					
1号溝状遺構	2-2	W-5	(1.32)	0.30~0.36	0.06	N-31°-W	170.9	直線状	皿状	
2号溝状遺構	2-2	W-X-5	(7.70)	0.30~0.73	0.12	N-4°-W	171.0	直線状	皿状	

表5 大鹿窪遺跡 縄文時代 焼土跡一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
1号焼土跡	3-1	AC・AD-11	0.83	0.73	0.13	N-65°-W	173.1	不整楕円形	皿状	
2号焼土跡	3-1	AE-13	0.59	0.40	0.23	N-81°-W	174.1	楕円形	鍋底状	
3号焼土跡	3-1	AD-13	0.83	0.46	0.24	N-63°-E	174.0	楕円形	鍋底状	
4号焼土跡	3-2 A	AB-13	0.73	0.63	0.20	N-5°-E	173.3	不整楕円形	丸底状	
5号焼土跡	3-2 A	AA-12	—	—	—	—	173.1	(楕円形または円形)	(丸底状)	大部分が調査区域外

表6 大鹿窪遺跡 縄文時代 ビット一覧①

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
1号ビット	2-2	X-5	(0.27)	(0.20)	0.08	—	171.1	—	皿状	
2号ビット	2-2	X-5	0.2	0.20	0.05	—	171.0	円形		
3号ビット	2-2	W-5	0.32	0.27	0.19	—	171.0	不整形	片開き状	
4号ビット	2-2	X-5	0.27	0.20	0.26	—	171.0	不整形	片開き状	
5号ビット	2-2	X-5	0.23	0.20	0.22	—	171.0	不整形	上に深くU字状	
6号ビット	2-2	X-5	0.19	0.18	0.12	—	171.0	不整形	丸底状	
7号ビット	2-2	X-5	0.24	0.24	0.25	—	171.0	不整形	上に深くU字状	
8号ビット	2-2	X-5	0.24	0.20	0.14	—	171.0	不整形	片開き状	
9号ビット	2-2	X-5	0.28	0.23	0.29	—	171.1	不整形	丸底状	
10号ビット	2-2	X-5	0.27	0.23	0.10	—	170.9	楕円形	上に深くU字状	
11号ビット	2-2	X-5	0.26	0.25	0.24	—	171.0	円形	上に深くU字状	
12号ビット	2-2	X-5	0.20	0.17	0.13	—	171.0	不整形	上に深くU字状	
13号ビット	2-2	X-5	0.20	0.19	0.14	—	171.1	楕円形	上に深くV字状	
14号ビット	2-2	X-5	0.22	(016)	0.11	—	171.1	—	丸底状	
15号ビット	2-2	X-5	0.20	0.19	0.18	—	171.0	不整形	上に深くU字状	
16号ビット	2-2	X-5	0.26	0.22	0.26	—	171.0	不整形	上に深くV字状	
18号ビット	2-2	W-5	0.28	0.27	0.25	—	170.9	不整形	U字状	
19号ビット	2-2	W-5	0.33	0.23	0.21	—	170.9	不整形	片開き状	
20号ビット	2-2	W-5	0.36	0.28	0.31	—	170.9	不整形	上に深くU字状	
21号ビット	2-2	W-5	0.27	0.22	0.33	—	170.8	不整形	上に深くU字状	
22号ビット	2-2	W-5	0.31	0.25	0.10	—	170.9	不整形	片開き状	
23号ビット	2-2	W-5	0.26	0.22	0.11	—	162.1	不整形	片開き状	
24号ビット	2-2	W-5	0.38	0.30	0.23	—	162.1	不整形	片テラス状	
25号ビット	2-2	W-5	0.21	0.19	0.08	—	161.9	楕円形	上に深くU字状	
26号ビット	2-2	W-5	0.40	0.28	0.14	—	170.9	不整形	上に深くU字状	
27号ビット	2-2	X-5	0.53	0.47	0.09	—	171.0	不整形	皿状	
28号ビット	2-2	X-5	(0.46)	(0.17)	0.04	—	171.0	—	皿状	
29号ビット	2-2	X-5	(0.32)	(0.24)	0.06	—	171.0	—	皿状	
30号ビット	2-2	X-5	(0.38)	(0.15)	0.06	—	171.0	—	皿状	

表6 大鹿窪遺跡 縄文時代 ビット一覧②

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
31号ビット	2-2	W-5	(0.36)	(0.19)	0.07	—	171.1	—	皿状	
32号ビット	2-2	W-5	(0.37)	(0.16)	0.07	—	170.9	—	皿状	
33号ビット	2-2	W-5	(0.31)	(0.13)	0.04	—	170.9	—	皿状	
34号ビット	2-2	W-5	(0.40)	(0.11)	0.05	—	170.9	—	皿状	
35号ビット	2-2	W-5	(0.28)	(0.22)	0.05	—	170.8	—	皿状	
36号ビット	2-2	X-5	0.23	0.22	0.07	—	171.1	不整形	皿状	
39号ビット	3-1	AD-12	0.35	0.27	0.20	—	173.5	不整形	U字状	
40号ビット	3-1	AD-12	0.25	0.21	0.20	—	173.5	不整形	U字状	

表7 大鹿窪遺跡 縄文時代 配石遺構一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	床面形態	備考
	調査区	グリッド	長軸	短軸	深さ					
1号配石遺構	3-1	AD-13	1.87	1.76	—	—	174.4	円形	—	
2号配石遺構	3-1	AD-13	1.12	0.88	—	—	173.9	不整形円形	—	
3号配石遺構	3-1	AD-13	1.04	0.83	—	—	174.0	不整形	—	
4号配石遺構	3-1	AC-12	0.60	0.40	—	N-29°-W	173.5	不整形円形	—	
5号配石遺構	3-1	AD-12	1.26	—	—	東西	173.7	—	—	
6号配石遺構	3-1	AC-12・13	6.40	—	—	N-48°-E	174.2	—	—	
7号配石遺構	3-1	AD-11・12	4.30	—	—	N-59°-W	173.7	—	—	
8号配石遺構	3-1	AE-12	3.70	1.80	—	N-35°-E	174.3	不整形	—	
9号配石遺構	3-2 A	AB-12・13	0.84	0.40	—	N-72°-E	173.6	—	—	
10号配石遺構	3-2 A	AB-12	1.15	—	—	N-83°-W	173.7	—	—	
11号配石遺構	3-3 C	AG-21・22	0.65	—	—	N-77°-W	176.0	—	—	
12号配石遺構	3-4	AF-12	0.95	0.60	—	—	174.4	—	—	

表8 大鹿窪遺跡 縄文時代 集石遺構一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	床面形態	備考
	調査区	グリッド	長軸	短軸	深さ					
1号集石遺構	3-1	AD-13	0.97	0.42	—	N-19°-W	173.9	不整形長楕円形		
2号集石遺構	3-1	AD-13	1.28	0.94	—	N-36°-E	—	不整形	—	
3号集石遺構	3-1	AD-13	1.55	0.90	—	N-40°-E	173.6	不整形	—	
4号集石遺構	3-1	AC・AD-13	1.40	1.14	0.20	N-36°-E	173.8	楕円形	—	
5号集石遺構	3-1	AE-12・13	1.26	0.98	—	N-88°-W	174.1	不整形	—	
6号集石遺構	3-1	AD・AE-12・13	2.60	1.52	—	N-31°-E	174.2	不整形楕円形	—	
7号集石遺構	3-1	AD-12・13	1.35	0.80	—	N-35°-E	174.0	不整形楕円形	—	
8号集石遺構	3-1	AD-11	1.28	0.88	—	N-15°-W	173.2	不整形長楕円形	—	
9号集石遺構	3-1	AD-12	1.57	1.25	—	N-16°-E	—	不整形	—	
10号集石遺構	3-1	AD-12	1.20	1.00	—	N-42°-E	173.3	不整形	—	
11号集石遺構	3-1	AE-14	4.20	3.00	—	N-45°-W	174.8	不整形	—	
12号集石遺構	3-2 A	AC-12・13	7.10	(4.30)	—	N-22°-W	—	不整形楕円形	—	
13号集石遺構	3-2 A	AC-12・13	1.68	1.38	—	N-88°-E	—	不整形楕円形	—	
14号集石遺構	3-2 A	AB-12・13	1.35	1.03	—	N-13°-W	173.4	長楕円形	—	

表9 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 掘立柱建物跡一覧

遺構名	位置		間数	規模 (m)		主軸方位	標高 (m)	平面形態	備考
	区域	グリッド		長軸	短軸				
1号掘立柱建物跡	2-5	AC-6・7	1×2	5.02	2.16	N-88°-W	173.4	長方形	
2号掘立柱建物跡	3-1	AC・AD-13	1×2	4.30	2.27	N-87°-W	174.7	長方形	
3号掘立柱建物跡	3-3 C	AG-23	—	2.77	1.85	N-75°-E	176.3	長方形	

表10 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 柱穴列跡一覧

遺構名	位置		間数	規模 (m)		主軸方位	標高 (m)	平面形態	備考
	区域	グリッド		長軸	短軸				
1号柱穴列跡	2-3	Y-5	-	3.15	1.30	-	171.2	逆L字状	
2号柱穴列跡	2-5	AC-7	-	3.70	1.70	N-89°-E	173.5	-	
3号柱穴列跡	3-1	AC-14・15	-	5.36	-	N-86°-E	175.4	-	
4号柱穴列跡	3-3 A	AF-14	-	2.37	2.32	N-42°-W	175.7	方形	
5号柱穴列跡	3-3 A	AF-14・15	-	5.04	-	N-47°-W	175.7	-	
6号柱穴列跡	3-3 C	AF・AG-23	-	1.40	1.20	N-79°-W	176.2	-	
7号柱穴列跡	3-3 C	AF・AG-22	-	1.30	-	N-71°-W	176.1	-	

表11 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 溝状遺構一覧

遺構名	位置		規模 (m)			方位	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長さ	幅	深さ					
3号溝状遺構	3-1	AC~AD-12	14.53	0.60~1.10	0.14	N-7°-W~ N-22°-W	174.6	直線状	段状	
4号溝状遺構	3-3 C	AF-20	4.46	0.40~0.69	0.15	N-36°-E~ N-10°-E	177.9	緩やかな曲線	段状	

表12 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 土坑一覧①

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長さ	幅	深さ					
19号土坑	2-3	Y-5	(0.53)	0.48	0.31	—	171.3	不整円形	U字状	
20号土坑	2-3	Y-5	(0.42)	(0.13)	0.26	—	171.3	(楕円形)	—	
23号土坑	2-4	AB-5	(1.38)	(0.54)	(0.04)	—	172.5	—	(皿状)	
24号土坑	2-4	AB-5	1.63	(1.46)	0.14	—	172.6	(円形)	皿状	
25号土坑	2-4	AB-5	1.25	1.14	0.37	—	172.5	円形	皿状	
26号土坑	2-4	AB-5	1.86	(1.28)	0.10	—	172.6	(円形)	皿状	
27号土坑	2-4	AB-5	1.23	1.22	0.13	—	172.6	不整円形	皿状	
28号土坑	2-4	AB-5	(1.74)	(0.80)	0.13	—	172.7	(不整円形)	(皿状)	
29号土坑	2-4	AB-5	1.70	1.65	0.12	—	170.8	不整円形	皿状	
30号土坑	2-4	AB-5	(1.86)	(0.80)	(0.09)	—	172.6	(不整円形)	(皿状)	
31号土坑	2-4	AB-4・5	1.50	1.44	0.16	—	172.6	円形	皿状	
32号土坑	2-4	AB-4	1.18	1.10	0.35	—	172.3	円形	皿状	
33号土坑	2-4	AB-4	2.26	(1.84)	0.18	—	—	円形	皿状	
34号土坑	2-4	AB-4	1.14	1.06	0.09	—	172.2	不整円形	皿状	
35号土坑	2-4	AB-4	2.29	(2.16)	0.13	—	—	(円形)	皿状	
36号土坑	2-4	AB-4	1.26	1.21	0.15	—	172.3	円形	皿状	
37号土坑	2-4	AB-4	1.49	(0.71)	0.10	—	172.5	(不整円形)	皿状	
38号土坑	2-4	AC-4・5	1.44	(0.73)	0.06	—	172.7	(不整円形)	丸底状	
39号土坑	2-4	AC-4	0.55	0.52	0.22	—	172.6	円形	皿状	
40号土坑	2-4	AC-4	1.94	(1.44)	0.08	—	172.7	(円形)	皿状	
41号土坑	2-4	AC-4・5	1.80	(1.22)	0.05	—	172.8	(円形)	皿状	
42号土坑	2-4	AB-3	1.32	(1.08)	0.54	—	172.1	(円形)	上に窪くU字状	
43号土坑	2-4	AC-5	1.54	1.51	0.13	—	172.9	円形	皿状	
54号土坑	3-1	AE-15	0.97	0.80	0.06	南北	175.6	不整楕円形	皿状	
55号土坑	3-1	AE-14・15	1.35	1.28	0.11	—	175.6	不整円形	皿状	
56号土坑	3-1	AE-15	1.34	1.29	0.11	—	175.6	不整円形	皿状	
57号土坑	3-1	AD-15	1.37	1.31	0.08	—	175.6	不整円形	皿状	
58号土坑	3-1	AE-14	(1.21)	(0.36)	0.19	—	175.6	—	皿状	
59号土坑	3-1	AE-14	1.00	(0.66)	0.12	—	175.6	(円形)	皿状	
60号土坑	3-1	AD・AE-14	1.03	0.98	0.09	—	175.5	不整円形	皿状	
61号土坑	3-1	AD-12	1.11	1.09	0.17	—	174.7	円形	皿状	
62号土坑	3-1	AD-12	1.07	1.04	0.37	—	174.5	円形	皿状	
63号土坑	3-1	AC・AD-14-15	1.31	1.25	0.06	—	175.4	不整円形	皿状	
64号土坑	3-1	AD-15	1.15	1.13	0.27	—	175.4	不整円形	皿状	

表12 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 土坑一覧②

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
65号土坑	3-3 A	AF-14	1.21	(0.67)	0.09	—	175.6	—	皿状	
66号土坑	3-3 A	AF-15	1.44	1.34	0.09	N-66°-E	175.6	不整形円形	皿状	
67号土坑	3-3 C	AF-21	1.11	(0.98)	0.26	N-15°-W	177.3	楕円形	上に開口U字状	

表13 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 土墳墓一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
1号土墳墓	2-5	AC-7	1.42	1.27	0.18	N-2°-W	173.5	不整形円形	皿状	

表14 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 焼土跡一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
6号焼土跡	3-4	AI-12	0.95	0.60	0.09	N-15°-E	174.8	不整形円形	丸底状	

表15 大鹿窪遺跡 弥生時代以降 ビット一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
37号ビット	2-4	AC-4	0.42	0.37	0.34	N-57°-E	172.5	不整形円形	U字状	
38号ビット	2-4	AB-4	0.43	0.37	0.40	南北	172.3	楕円形	U字状	
41号ビット	3-1	AE-14	0.47	0.43	0.26	—	175.4	不整形	U字状	
42号ビット	3-3 C	AG-23	0.37	0.30	0.32	—	176.4	不整形	丸底状	

表16 窪B遺跡 縄文時代 土坑一覧

遺構名	位置		大きさ (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
1号土坑	窪B	A・B-2・3	1.19	0.50	0.29	N-25° -W	161.1	不整長楕円形	皿状	
2号土坑	窪B	B-3	0.52	0.43	0.24	N-54° -E	161.5	不整楕円形	皿状	
3号土坑	窪B	B-2・3	0.60	0.54	0.13	N-8° -E	161.5	不整楕円形	皿状	
4号土坑	窪B	B-2	0.57	0.44	0.18	N-19° -E	161.5	不整楕円形	皿状	
5号土坑	窪B	A-2	0.50	0.46	0.12	N-39° -W	161.5	不整楕円形	皿状	
6号土坑	窪B	B-2	0.85	0.69	0.10	南北	161.5	不整楕円形	皿状	
7号土坑	窪B	B-2	0.50	0.48	0.13	N-5° -W	161.5	不整長楕円形	浅い丸底状	
8号土坑	窪B	A-2	0.69	0.43	0.20	N-28° -E	161.5	不整長楕円形	上に深くU字状	
9号土坑	窪B	B-2	0.65	0.55	0.23	N-13° -W	161.5	不整楕円形	上に深くV字状	
10号土坑	窪B	A・B-2	0.79	0.50	0.11	N-20° -E	161.5	不整長楕円形	皿状	
11号土坑	窪B	A-1	0.50	0.43	0.12	N-2° -W	161.5	不整長楕円形	皿状	
12号土坑	窪B	A-1	0.46	0.43	0.10	N-5° -W	161.4	不整長楕円形	上に深くU字状	
13号土坑	窪B	B-1	0.52	0.40	0.16	N-38° -E	161.4	不整楕円形	上に深くU字状	
14号土坑	窪B	A・B-1	1.09	0.78	0.21	N-20° -E	161.4	不整長楕円形	上に深くV字状	
15号土坑	窪B	B-1	0.81	0.66	0.19	N-53° -W	161.5	不整楕円形	浅い丸底状	
16号土坑	窪B	B-1	0.43	0.39	0.19	N-7° -E	161.4	楕円形	片テラス	
17号土坑	窪B	B-1・2	0.54	0.49	0.26	N-74° -E	161.5	不整楕円形	上に深くU字状	
18号土坑	窪B	B-2	0.61	0.52	0.10	N-24° -E	161.5	不整楕円形	皿状	
19号土坑	窪B	A-1	0.63	0.50	0.21	N-39° -E	161.3	不整楕円形	片テラス	
20号土坑	窪B	B-1	(0.98)	(0.49)	0.28	—	161.4	—	テラス	
21号土坑	窪B	A・B-2	0.45	0.35	0.09	N-68° -E	161.4	楕円形	皿状	

表17 窪B遺跡 縄文時代 ビット一覧①

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
1号ビット	窪B	A-3	0.32	0.28	0.16	N-43° -E	161.5	不整な楕円形	皿状	
2号ビット	窪B	A-3	0.26	0.24	0.12	-	161.5	不整な楕円形	(皿状)	
3号ビット	窪B	B-3	0.30	0.28	0.10	-	161.5	不整な楕円形	(皿状)	
4号ビット	窪B	A-B-3	0.28	0.22	0.14	-	161.5	不整な楕円形	(皿状)	
5号ビット	窪B	B-3	0.30	0.24	0.12	N-90° -W	160.8	不整な長楕円形	上に深くU字状	
6号ビット	窪B	A-3	0.32	0.28	0.26	N-80° -E	161.5	不整な楕円形	上に深くU字状	
7号ビット	窪B	A-B-3	0.32	0.28	0.23	-	160.8	不整な楕円形	上に深くU字状	
8号ビット	窪B	B-3	0.40	0.36	0.20	N-88° -W	161.5	不整な楕円形	皿状	
9号ビット	窪B	B-3	0.38	0.36	0.14	N-40° -W	161.5	不整な楕円形	皿状	
10号ビット	窪B	B-2	0.38	0.32	0.18	N-41° -E	161.5	不整な長楕円形	皿状	
11号ビット	窪B	B-2	(0.35)	(0.30)	0.18	-	161.5	-	上に深くU字状	
12号ビット	窪B	B-3	0.20	0.19	0.10	-	161.5	(不整な楕円形)	上に深くU字状	
13号ビット	窪B	A-B-3	0.26	0.30	0.08	-	161.5	(不整な楕円形)	(皿状)	
14号ビット	窪B	A-2-B-3	0.22	0.22	0.14	N-18° -W	161.5	不整な楕円形	上に深くU字状	
15号ビット	窪B	B-2	0.28	0.22	0.10	N-53° -E	161.5	不整な楕円形	上に深くU字状	
16号ビット	窪B	B-2	0.25	0.24	0.12	-	161.6	(不整な楕円形)	上に深くU字状	
17号ビット	窪B	B-2	0.25	0.20	0.09	N-78° -E	161.5	不整な楕円形	皿状	
18号ビット	窪B	B-2	(0.32)	0.30	0.12	-	146.6	(不整な楕円形)	(皿状)	
19号ビット	窪B	B-2	0.26	0.25	0.12	-	161.5	(不整な楕円形)	上に深くU字状	
20号ビット	窪B	B-2	0.32	0.23	0.17	N-86° -W	161.5	不整な長楕円形	上に深くU字状	
21号ビット	窪B	B-2	0.22	0.21	0.12	N-34° -W	161.4	不整な円形	上に深くU字状	
22号ビット	窪B	B-2	0.32	0.30	0.06	N-90° -W	161.4	不整な楕円形	皿状	
23号ビット	窪B	B-2	0.30	0.28	0.12	N-82° -E	161.5	不整な楕円形	上に深くU字状	
24号ビット	窪B	B-2	0.44	0.34	0.28	N-36° -E	161.4	不整な楕円形	上に深くU字状	
25号ビット	窪B	A-2	0.21	0.20	0.14	-	161.5	(不整な円形)	上に深くU字状	
26号ビット	窪B	A-2	0.22	0.20	0.17	N-22° -W	161.5	不整な円形	上に深くU字状	
27号ビット	窪B	B-2	0.26	0.22	0.24	N-19° -W	161.5	不整な円形	上に深くU字状	
28号ビット	窪B	A-2	0.28	0.24	0.06	N-88° -E	161.5	不整な円形	皿状	
29号ビット	窪B	A-1	0.46	0.45	0.28	N-42° -W	161.4	不整な楕円形	片テラス	
30号ビット	窪B	B-1	0.30	0.26	0.14	N-92° -E	161.4	不整な楕円形	片テラス	
31号ビット	窪B	B-1	0.25	0.24	0.18	-	161.4	(不整な円形)	上に深くU字状	
32号ビット	窪B	B-1	0.34	0.33	0.20	N-26° -W	161.4	不整な円形	上に深くU字状	
33号ビット	窪B	B-1	0.38	0.37	0.10	-	161.5	(不整な円形)	(皿状)	
34号ビット	窪B	B-1	0.40	0.36	0.14	N-30° -E	161.4	不整な楕円形	上に深くU字状	

表17 窪B遺跡 縄文時代 ビット一覧②

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
35号ビット	窪B	B-1	0.40	0.36	0.34	N-77° -E	161.4	不整な楕円形	上に厚くU字状	
36号ビット	窪B	B-1	0.42	0.38	0.16	N-49° -E	161.4	不整な楕円形	皿状	
37号ビット	窪B	B-1	0.46	0.44	0.28	N-80° -W	161.4	不整な楕円形	片テラス	
38号ビット	窪B	B-1	0.46	0.43	0.10	N-66° -E	161.3	不整な楕円形	皿状	
39号ビット	窪B	B-2	0.32	0.30	0.10	N-76° -E	161.5	不整な楕円形	皿状	
40号ビット	窪B	B-2	0.40	0.38	0.10	N-17° -W	161.5	不整な楕円形	皿状	
41号ビット	窪B	B-2	0.34	0.32	0.16	N-5° -W	161.5	不整な円形	皿状	
42号ビット	窪B	A-B-2	0.22	0.20	0.08	N-85° -E	161.4	不整な円形	皿状	
43号ビット	窪B	B-3	0.28	0.26	0.20	N-19° -W	161.4	不整な楕円形	上に厚くU字状	
44号ビット	窪B	B-2	0.24	0.22	0.20	N-80° -W	161.5	不整な楕円形	上に厚くU字状	
45号ビット	窪B	B-3	0.20	0.18	0.13	N-64° -E	161.5	不整な楕円形	上に厚くU字状	
46号ビット	窪B	B-3	0.22	0.18	0.10	-	161.5	(不整な円形)	(皿状)	
47号ビット	窪B	B-3	0.23	0.22	0.20	-	161.5	(不整な楕円形)	上に厚くU字状	
48号ビット	窪B	B-1	0.32	0.26	0.30	N-54° -E	161.4	不整な円形	皿状	
49号ビット	窪B	B-3	0.28	0.24	0.24	N-65° -E	161.5	不整な円形	上に厚くU字状	
50号ビット	窪B	B-3	0.26	0.23	0.20	N-23° -W	161.5	不整な楕円形	上に厚くU字状	
51号ビット	窪B	B-2	0.48	0.36	0.28	N-22° -W	161.4	不整な長楕円形	片テラス	
52号ビット	窪B	B-1	0.28	0.22	0.20	-	161.4	(不整な円形)	上に厚くU字状	
53号ビット	窪B	B-1	0.34	0.28	0.20	N-35° -W	161.4	不整な楕円形	上に厚くU字状	
54号ビット	窪B	A-1	0.30	0.24	0.12	N-80° -E	161.4	不整な楕円形	皿状	
55号ビット	窪B	B-1	(0.32)	(0.20)	0.14	-	161.5	(不整な楕円形)	上に厚くU字状	
56号ビット	窪B	A-3・B-3	(0.24)	(0.16)	0.10	-	161.4	(不整な楕円形)	上に厚くU字状	
57号ビット	窪B	B-2	0.38	0.30	0.20	N-58° -E	161.4	不整な楕円形	上に厚くU字状	
58号ビット	窪B	B-2	0.40	0.35	0.15	N-85° -W	161.5	不整な楕円形	上に厚くU字状	

表18 窪B遺跡 縄文時代 集石遺構一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	床面形態	備考
	調査区	グリッド	長軸	短軸	深さ					
1号集石遺構	窪B	B-2	3.29	1.82	0.22	N-88° -E	161.5	不整な楕円形	浅い皿状	
2号集石遺構	窪B	B-3	1.29	1.03	0.16	N-31° -E	161.4	不整な楕円形	浅い皿状	

表19 窪B遺跡 弥生時代以降 掘立柱建物跡一覧

遺構名	位置		間数	規模 (m)		主軸方位	標高 (m)	平面形態	備考
	区域	グリッド		長軸	短軸				
1号掘立柱	窪B	B-2・3	1×1	2.47	2.12	N-6° -W	162.3	長方形	

表20 窪B遺跡 弥生時代以降 土坑一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
22号土坑	窪B	A-3	1.16	0.82	0.18	N-25° -W	162.3	不整な楕円形	皿状	
23号土坑	窪B	A-1	0.97	0.94	0.22	N-40° -E	162.2	不整な楕円形	皿状	
24号土坑	窪B	B-1	1.18	1.08	0.16	N-76° -E	162.1	楕円形	皿状	
25号土坑	窪B	B-1	1.04	(0.61)	0.18	-	162.2	不整な楕円形	皿状	
26号土坑	窪B	B-1	0.94	0.67	0.27	N-4° -W	162.1	不整な楕円形	U字状	

表21 窪B遺跡 弥生時代以降 ビット一覧

遺構名	位置		規模 (m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
	区域	グリッド	長径	短径	深さ					
59号ビット	窪B	B-1	0.20	0.16	0.15	N-30° -E	162.1	不整な楕円形	U字状	
60号ビット	窪B	B-2	0.20	0.17	0.22	N-18° -W	162.2	不整な楕円形	U字状	

引用・参考文献

個人論文等

- 秋本真澄 1995 「芝川町駿河小塚遺跡の縄文時代草創期の土器」(『加藤学園考古学研究所 14』所収)
- 雨宮端生 1998 「南九州の初期定住」(『月刊 考古学ジャーナル No.429』所収)
- 雨宮端生 2002 「温帯森林の初期定住・定住性判定の概要 —南九州縄文草創期中葉の越冬定住地・掃部山遺跡と早期前半の通年定住地・加菜山遺跡—」(『縄文時代 13』所収)
- 池谷信之 1995a 「豊豆地方縄文時代草創期の住居地について」(『日本考古学会第61回総会研究発表要旨』所収)
- 池谷信之 1995b 「愛鷹・箱根山麓の層序と出土土器」(『静岡県考古学尾学会シンポジウムⅩ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代福年』所収)
- 池谷信之 1996a 「愛鷹・箱根山麓の縄文時代草創期」(『静岡県考古学尾学会シンポジウムⅩ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代福年 収録集』所収)
- 池谷信之 1996b 「豊豆地方押縄文期の遺構と遺物」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る パート2』所収)
- 岡村道雄 1998 「縄文人の定住と定住を支えた文化」(『季刊 考古学 第64号』所収)
- 加藤勝仁 1996 「かながわの縄文時代草創期の遺跡分布」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る パート2』所収)
- 小金澤保雄 2002 「速報 芝川町窪A遺跡」(『月刊 考古学ジャーナル 11月号 (No.13)』所収)
- 小林達雄 1987 「縄文時代草創期について」(『大和のあけぼの —2万年の文化を発掘する—』所収)
- 坂本彰 1996 「花見山式土器とその周辺 —南武蔵—」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る』所収)
- 桜井準也 1996a 「隼線土器の居住活動 —湘南—」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る』所収)
- 桜井準也 1996b 「草創期遺構と定住性 —南関東と南九州の比較から—」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る パート2』所収)
- 渋谷昌彦・漆畑勉 1984 「神道A遺跡出土土器の問題 —絡糸体圧痕、縄文原体圧痕について—」(『静岡県考古学研究 16』所収)
- 渋谷昌彦・漆畑勉 1985 「神道A遺跡出土土器の縄文草創期の土器について」(『静岡県考古学研究 17』所収)
- 渋谷昌彦・坂巻隆一 1986 「旗指遺跡第1地点出土の草創期土器」(『静岡県考古学研究 19』所収)
- 白石浩之 1998 「縄文文化の起源を求めて」(『大和のあけぼの Ⅱ —上和田城山遺跡・上野遺跡出土品の神奈川県指定重要文化財指定記念集—』)
- 新東晃一 1999 「南九州の特殊性 —草創期を中心に—」(『季刊 考古学 第69号』所収)
- 鈴木忠司 1987 「先土器時代の家と村」(『大和のあけぼの —2万年の文化を発掘する—』所収)
- 鈴木保彦 2001 「縄文時代草創期の住居址と居住状遺構」(『縄文時代 第12号』所収)
- 岡野哲夫 1999 「東海地方の縄文時代初期の定住性」(『月刊 考古学ジャーナル No.429』所収)
- 高尾好之 1981 「駿河小塚出土の舟底形石椀」(『静岡県考古学研究 10』所収)
- 谷口康浩 1998 「縄文時代早期燃糸文期における集落の類型と安定性」(『月刊 考古学ジャーナル No.429』所収)
- 辻誠一郎 2000 「炭素年代から暦年代へ —二世紀の年代観確立が急務—」(『考古学クロニクル2000』)
- 戸田哲也 1983 「縄文時代草創期後半の壑穴住居について」(『大和史研究 9』所収)
- 林謙作 1996 「縄紋時代史 31.定住集落の成立と普及(1)」(『季刊 考古学 第57号』所収)
- 林謙作 1997a 「縄紋時代史 32.定住集落の成立と普及(2)」(『季刊 考古学 第59号』所収)
- 林謙作 1997b 「縄紋時代史 33.定住集落の成立と普及(3)」(『季刊 考古学 第61号』所収)
- 林謙作 1998a 「縄紋時代史 34.定住集落の成立と普及(4)」(『季刊 考古学 第63号』所収)
- 林謙作 1998b 「縄紋時代史 35.定住集落の成立と普及(5)」(『季刊 考古学 第64号』所収)
- 林謙作 1998c 「縄紋時代史 36.定住集落の成立と普及(6)」(『季刊 考古学 第65号』所収)
- 林謙作 1999a 「縄紋時代史 37.定住集落の成立と普及(7)」(『季刊 考古学 第66号』所収)
- 林謙作 1999b 「縄紋時代史 38.定住集落の成立と普及(8)」(『季刊 考古学 第67号』所収)
- 林謙作 2000 「縄紋時代史 39.定住集落の成立と普及(9)」(『季刊 考古学 第70号』所収)
- 向坂綱二 1992 「第一節 縄文時代の遺物の概観」(『静岡県史 資料編3 考古3』所収)
- 村沢正弘 1996 「いわゆる陰線土器以前の層相」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る』所収)
- 望月芳 1996 「藤沢市における縄文時代草創期の遺跡の立地について」(『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る パート2』所収)

注) 上記は静岡県を中心に掲載した。

書籍・報告書等

- 朝日新聞社編 2000 『考古学クロニクル2000』 朝日新聞社
- 麻生養・白石浩之 2001 『縄文土器の知識1 草創・早・前期』 東京美術
- 泉拓良・西田泰民 1999 『縄文世界の一万年』
- 稲田孝司 2001 『先史日本を復元する1 遊動する旧石器人』 岩波書店
- 今村啓爾 1999 『縄文時代の実像を求めて』 歴史文化ライブラリー76 吉川弘文館
- 今村啓爾 2002 『縄文の豊かさの限界』 日本史リブレット2 山川出版社
- 大塚達朗 2000 『縄文土器研究の新展開』 同成社
- 大塚初重・戸沢光剛・佐原眞編 1978 『日本考古学を学ぶ(1) 日本考古学の基礎【新版】』
- 大塚初重・戸沢光剛・佐原眞編 1979 『日本考古学を学ぶ(2) 原始・古代の生産と生活【新版】』
- 権原考古学研究所編 1994 『一万年前を撮る』 吉川弘文館
- 権原考古学研究所付属博物館編 2001 『秋季特別展 縄文文化の起源を探る ―はじめての土器を手にしたひとびと―』
- 神奈川県教育委員会 1980 『寺尾遺跡 県立綾瀬高等学校建設にとまう調査』 神奈川県埋蔵文化財調査報告18
- 神奈川考古学会 1996 『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る』
- 神奈川考古学会 1996 『考古学講座 かながわの縄文文化の起源を探る パート2』
- 群馬県立歴史博物館編 2002 『第71回企画展 縄文創生 東日本最古の土器文化』
- 国立歴史民族博物館編 2001 『縄文文化の扉を開く ―山内丸山遺跡から縄文列島へ―』
- 小林達雄編 1989 『縄文土器大観』
- 小林達雄・藤田富士夫会 1998 『シンポジウム日本の考古学② 縄文時代の考古学』 学生社
- 小林達雄編著 1999 『最新縄文の世界』 朝日新聞
- 小林達雄編著 1999 『普及版季刊考古学 縄文土器の編年と社会』
- 小林達雄編 2003 『週刊朝日百科36 日本の歴史 原始・古代① 山内丸山 縄文の世界』 朝日新聞
- 佐々木高明 1991 『日本の歴史① 日本史誕生』 集英社
- 佐原真・都山比呂志編 2000 『古代史の論点1 環境と食料生産』
- 白石浩之 1989 『旧石器時代の石槍 狩猟具の進歩』 考古学選書7 東京大学出版会
- 白石浩之 2002 『旧石器時代の社会と文化』 日本史リブレット1 山川出版社
- 鈴木道之助 1991 『図録 石器入門辞典 縄文』 柏書房
- 泉福寺洞穴研究編刊行会編集委員会 2002 『泉福寺洞穴研究編』
- 稲田孝司 2001 『遊動する旧石器人 先史日本を復元する1』 岩波書店
- 長野県 1988 『長野県史 考古資料編 全一巻(四) 遺構・遺物』 長野県史刊行会
- ニュー・サイエンス社編 1998 『月刊 考古学ジャーナル No.429 特集 縄文時代初期の定住化』
- 西田正規 1986 『定住革命』 新曜社
- 西田正規 1989 『縄文の生態史観』 東京大学出版会
- 沼津市教育委員会 1989・1990 『清水御北遺跡』
- 沼津市教育委員会 2001 『葛原沢第IV遺跡(a・b区)発掘調査報告書1 ―縄文時代草創期・縄文時代―』
- 原田昌幸 1991 『熱系文系土器様式』 考古学ライブラリー61 ニュー・サイエンス社
- 藤尾慎一郎 2002 『縄文論争』 講談社選書メチエ256
- 安田喜憲 1980 『環境考古学事始 日本列島2万年』 NHKブックス365 日本放送出版会
- 安田喜憲 1997 『縄文文明の環境』 歴史文化ライブラリー24 吉川弘文館
- 大和市教育局 1987 『大和のあけぼの ―2万年の文化を発掘する―』
- 大和市教育局 1988 『大和のあけぼの II ―上和田城山遺跡・上野遺跡出土品の神奈川県指定重要文化財指定記念集―』
- 山梨県 1999 『山梨県史 資料編 原始・古代1 考古(遺跡)』
- 山梨県 1999 『山梨県史 資料編 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』
- 雄山閣 1998 『季刊 考古学 特集 解明進む縄文文化の実像 第64号』
- 雄山閣 2000 『季刊 考古学 特集 縄文時代の東西南北 第69号』
- 雄山閣 2000 『季刊 考古学 特集 縄文時代研究の新動向 第73号』
- 横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター編 1996 『縄文時代草創期 資料集』

報告書抄録

ふりがな	おおしかくぼいせき・くぼびーいせき		
書名	大鹿窪遺跡・窪B遺跡		
副書名	県営中山間地域総合整備事業検野の型は場整備に伴う歴史文化財発掘調査報告書（遺構編）		
シリーズ名		シリーズ番号	
編著者名	小金澤保雄 武田英俊 小谷亮二 保竹貴幸		
編集機関	静岡県富士郡芝川町教育委員会		
所在地	静岡県富士郡芝川町長貫1211-1 TEL. 0544(65)0402		
発行年月日	西暦2003年3月20日		

所集遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村遺跡番号		経緯		㎡	
おおしかくぼいせき・くぼびーいせき	しげのちちよう おおしかくぼ	22316	35° 14' 10"		2001年10月27日	3,846	ほ場整備事業
大鹿窪遺跡・窪B遺跡	静岡県富士郡芝川町大鹿窪		138° 33' 51"		2002年3月22日		
所集遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大鹿窪遺跡	集落跡	縄文時代草創期 縄文時代早期 弥生時代以降	竪穴状遺構 土坑 配石遺構 象石遺構	縄文土器 石器 鉄貨	縄文時代草創期の集落跡が 検出された		
所集遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
窪B遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代以降	土坑 集石遺構 掘立柱建物跡	石器			

大鹿窪遺跡 窪B遺跡

2003年3月20日 発行

芝川町教育委員会
静岡県富士郡芝川町長貫1211-1
TEL. 0544-65-0402

印刷：みどり美術印刷株式会社

写 真 图 版



写真1 2-1調査区 調査前風景（南から）



写真2 2-1調査区 重機掘削（東から）



写真3 2-1・2・3調査区 空中写真（左が北）



写真4 2-2調査区 遺構検出状況（北西から）

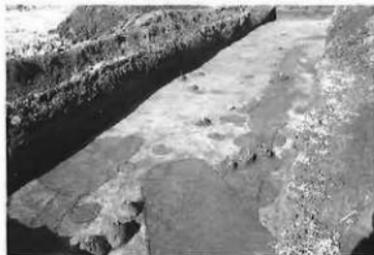


写真5 2-2調査区 遺構検出状況（南東から）



写真6 2-2調査区 1号土坑検出状況(南西から)



写真7 2-2調査区 1号土坑完掘状況(南西から)



写真8 2-2調査区 2号溝状遺構完掘状況(東から)



写真9 2-2調査区 完掘状況(南から)



写真10 2-3調査区 1号柱穴列跡完掘状況(西から)



写真11 2-4調査区 遺物出土状況(石版2点)



写真12 2-4調査区 土坑完掘状況(北西から)

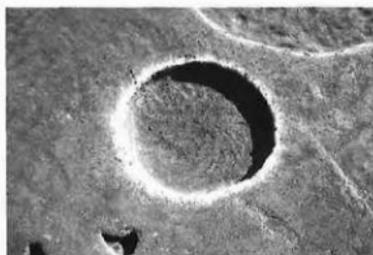


写真13 2-4調査区 36号土坑完掘状況(北から)

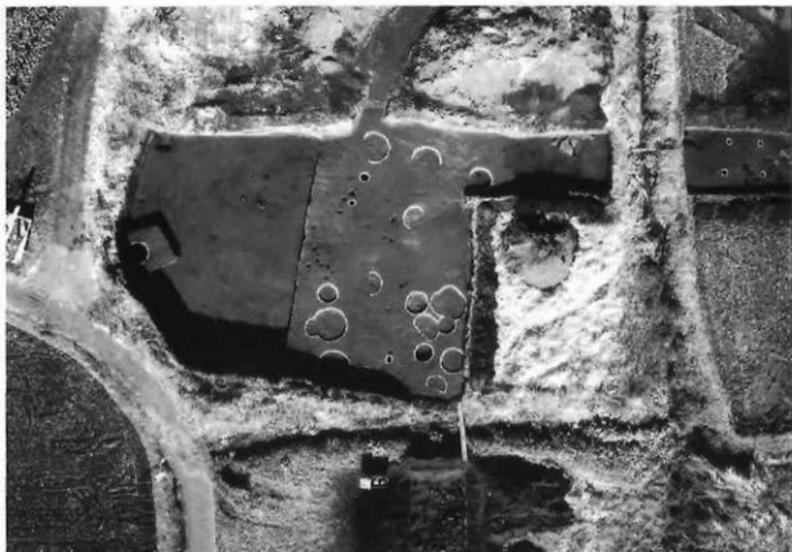


写真14 2-4調査区 弥生時代以降遺構検出状況(上が北)



写真15 2-5調査区 1号土墳墓完照状況(北から)



写真16 2-5調査区 1号土墳墓遺物出土状況(鉄貨)



写真17 2-5調査区 1号埋没谷完照状況(溶岩帯)



写真18 2-5調査区 1号埋没谷完照状況(庫)

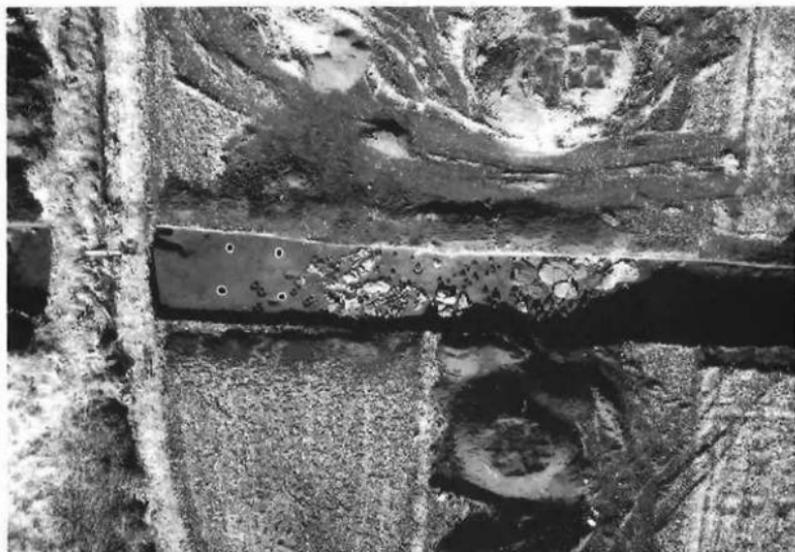


写真19 2-5調査区 遺構検出状況 右1号埋没谷(上が北)



写真20 2-5調査区 1号埋没谷から
3-1調査区 土層セクション(南から)



写真21 同左

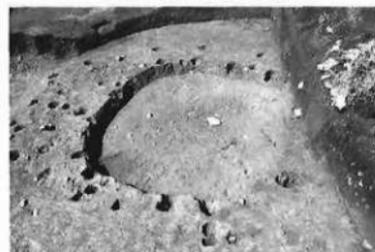


写真22 3-1調査区 1号整穴伏遺構完掘状況(東から)



写真23 同左(西から)



写真24 3-1調査区 縄文時代草創期遺構検出状況 左に1号埋没谷・右に溶岩帯（上が北）



写真25 3-1調査区 1号壑穴状遺構検出状況（西から）



写真26 同左 炉跡と石皿検出状況（南から）



写真27 3-1調査区 2号壑穴状遺構検出状況（西から）

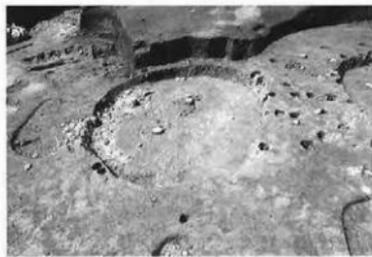


写真28 同左 完掘状況（東から）



写真29 3-1調査区 3号壁穴状遺構遺物検出状況
(南から)

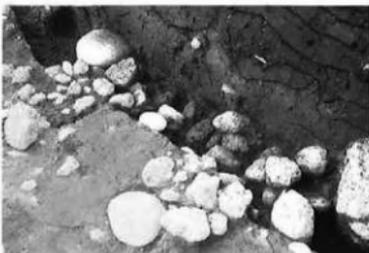


写真30 同左 石皿・磨石他(東から)



写真31 3-1調査区 4号壁穴状遺構遺物検出状況
(西から)



写真32 同左 石皿・磨石



写真33 3-1調査区 4・5号壁穴状遺構検出状況
(東から)



写真34 同左 (南から)



写真35 3-1調査区 5号壁穴状遺構検出状況(西から)



写真36 同左 完備状況(北から)



写真37 3-1調査区 近景（南西から）



写真38 同左 近景・溶岩帯と富士山（南西から）



写真39 3-1調査区 近景（南東から）



写真40 同左 近景（北西から）



写真41 3-1調査区 近景（北西から）



写真42 同左 近景（南西から）



写真43 3-1調査区と富士山



写真44 3-1調査区船の石塔と富士山



写真45 3-1調査区 6号竪穴状遺構検出状況(南から)



写真46 同左 石皿検出状況(東から)



写真47 3-1調査区 7号竪穴状遺構確認状況(南から)



写真48 同左 検出状況(南から)



写真49 3-1調査区 7号竪穴状遺構検出状況(北西から)



写真50 同左 (南から)



写真51 3-1調査区 9号竪穴状遺構確認状況(南西から)



写真52 同左 検出状況(南から)



写真53 3-1調査区 2・11号竪穴状遺構検出状況
(東から)



写真54 同左 (東から)



写真55 3-1調査区 12号竪穴状遺構検出状況 (東から)



写真56 同左 竪穴状遺構検出状況 (南東から)



写真57 3-1調査区 遠景・空中写真 (西から)



写真58 3-1調査区 46号土坑検出状況(西から)



写真59 3-1調査区 47号土坑完掘状況(南から)



写真60 3-1調査区 48号土坑完掘状況(南東から)

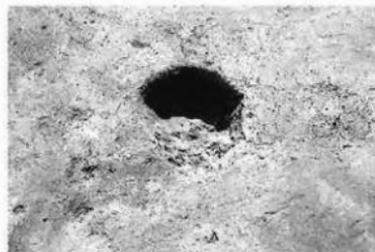


写真61 3-1調査区 49号土坑完掘状況(南西から)



写真62 3-1調査区 50号土坑半截状況(西から)



写真63 3-1調査区 51(左)・52号土坑(北から)



写真64 3-1調査区 51(右)・52号土坑(南から)



写真65 3-1調査区 52号土坑(東から)



写真66 3-1調査区 1号焼土跡セクション(東から)



写真67 3-1調査区 2号焼土跡セクション(南から)



写真68 3-1調査区 1号配石遺構検出状況(東から)



写真69 3-1調査区 1号配石遺構検出状況(西から)



写真70 3-1調査区 4号配石遺構検出状況(北から)



写真71 3-1調査区 集石遺構検出状況(南から)



写真72 3-1調査区 4号集石遺構検出状況(西から)

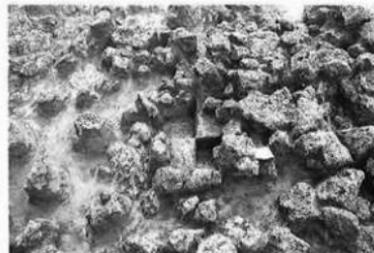


写真73 3-1調査区 11号集石遺構検出状況(東から)



写真74 3-1調査区 11号集石遺構と溶岩帯検出状況



写真75 3-1調査区 縄文時代早期包含層遺物出土状況
(南西から)



写真76 同左 (西から)



写真77 3-1調査区 3号坑土跡確認状況 (西から)



写真78 3-1調査区 3号坑土跡半数状況 (西から)



写真79 3-1調査区 弥生時代以降遺構検出状況



写真80 3-1調査区 2号掘立柱建物跡遺構検出状況
(西から)



写真82 3-1調査区
3号溝状遺構検出状況(北から)



写真81 3-1調査区 3号柱穴列跡と土坑検出状況
(東から)



写真83 3-1調査区と3-2調査区 遠景（北から）



写真84 3-2 A調査区 12号集石遺構検出状況（西から）



写真85 3-2 A調査区 遺物出土状況（尖頭鏃）



写真86 3-2 B調査区 完備状況（北から）



写真87 3-2 B調査区 東壁セクション



写真88 3-2C調査区 完掘状況（北から）



写真89 3-2C調査区 完掘状況（南から）



写真90 3調査区 完掘状況（上が北）



写真91 3-3A調査区 柱穴列跡完掘状況（南西から）



写真92 3-3B調査区 完掘状況（東から）



写真93 3-3B調査区 発掘状況(上が北)



写真94 3-3C調査区 北壁土層セクション(南から)



写真95 3-3C調査区 発掘状況(西から)



写真96 3-3C調査区 10号竪穴遺構発掘状況(北から)



写真97 3-3C調査区 10号竪穴遺構発掘状況(西から)



写真98 3-3C調査区 3号獨立柱建物跡完掘状況
(南から)



写真100 3-3C調査区 67号土坑完掘状況(北から)

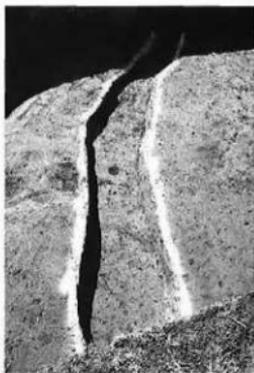


写真99 3-3C調査区
4号溝状遺構完掘状況(北から)



写真101 3-3C調査区 完掘状況(上が北)



写真102 3-3D・E調査区 遺構検出状況（上が北）



写真103 3-3D調査区 完掘状況（南から）



写真104 3-3E調査区 完掘状況（西から）



写真105 3-3E調査区 8号堅穴状遺構完掘状況（南から）



写真106 同左（南西から）



写真107 3-3 E調査区 8号竪穴遺構
遺物出土状況(尖頭器)

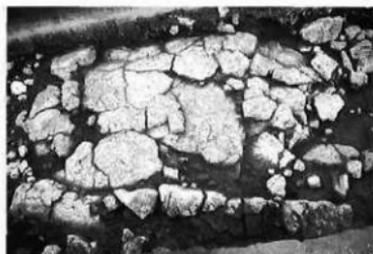


写真108 3-3 E調査区 13号竪穴遺構
遺構検出状況(南から)



写真109 3-4調査区 完掘状況(左が北)



写真110 3-4調査区 6号焼土跡半截状況(東から)



写真111 3-3 E調査区 保存埋め戻し状況(南西から)



写真112 環日遺跡 遠景（南西から）



写真113 環日遺跡 遠景（上が北）



写真114 窪B遺跡 調査前風景（南から）



写真115 窪B遺跡 重機掘削（南東から）



写真116 窪B遺跡 北壁土層セクション（南から）



写真117 窪B遺跡
縄文時代遺構検出状況（東から）



写真118 窪B遺跡 縄文時代遺構検出状況（北東から）



写真119 窪B遺跡 1号掘立柱建物跡検出状況（東から）



写真120 窪B遺跡 完備状況（西から）

自然科学分析編

芝川大鹿窪遺跡と富士山芝川溶岩流

静岡大学名誉教授 地球科学

土 隆 一

1. まえがき：

芝川町の大鹿窪遺跡は大鹿窪南部の水田地帯に位置し、そこには富士山の芝川溶岩流 SW 1 が北方から流下し、その上に約 1 m の厚さで火山灰および火山灰質土壌が載っているが、遺跡は溶岩のほぼ直上から見出され、この溶岩とその周辺環境を生活の場としていたと思われる。今回、この芝川溶岩 SW 1 の年代に深く関係する窪遺跡および遺物に付着する炭化物の 14 C 年代を得ることができたので、ここに報告すると共に、周辺の地学的環境について若干の考察を述べる。

2. 芝川大鹿窪遺跡とその地形的位置：

大鹿窪遺跡のある水田地帯の標高は約 170 m、東西の幅約 500 m (図 1)、西方には新第三紀の砂岩・礫岩からなる急峻な天守山地の稜線 (標高 450 ~ 470 m) が南北にのび、その間に芝川衝上断層 (活断層) が南北に走り、芝川溶岩流 SW 1 も截られているが、芝川はほぼその断層線上を南流している。東方にはほぼ同年代かやや古いと考えられる芝川溶岩流 SW 3 の丘 (標高約 200 m)、さらに古富士火山泥流がつくる羽扇丘陵 (標高約 300 m) がひろがり、その東縁は急崖となって安居山衝上断層 (活断層) がほぼ南北に走り、それから東へ富士山麓斜面につづく。また、すぐ南側は、北東から流下してきた芝川溶岩流 SW 3 の丘と古富士火山泥流の小さな丘 (標高 208 m) がそれに連なり、水田地帯の南側は塞がれたようになっている (土、1995、2002)。このように、大鹿窪遺跡からは富士山の中腹以上はよく眺められるが、東と南は丘陵で囲まれ、西は山地が迫り、北にやや開いた溶岩台地上に位置していることになる (写真 1)。また、この地域は現在と同じように東西の南北に走る活断層に挟まれた地域である。東側の安居山衝上断層の活動度を考えると、およそ 20,000 年前の古富士火山泥流面が標高約 300 m の西傾斜した丘陵面となっているので、約 10,000 年前にはやや低い標高 200 m 前後の西側へ傾いた斜面であった可能性が高い。芝川も当初は富士山からの湧水が現在ほど顕著ではなかったと考えられるので、流量はやや少なかったであろうが、天守山地を刻む谷水を集めてほぼ同じところを流下していたと考えられる。

芝川町教育委員会によると、平成 13 年 10 月から 14 年 3 月にかけて、芝川町大鹿窪地先のほ場整備事業に伴い、埋蔵文化財発掘調査をおこなったところ、縄文時代草創期から縄文時代早期にかけての遺物である土器、石器、石材等が多数出土し、大鹿窪・窪 B 遺跡と呼ぶことになったが、その中には約 12,000 ~ 11,000 年前と考えられる縄文時代草創期に属する隆起線文土器、微隆起線文土器、爪形文土器、押圧縄文土器等が堅穴状遺構や遺物包含層からまとまって出土した。

縄文時代草創期の遺構は堅穴状遺構が 14 基検出されたが、このうち 11 基が広場を囲むように馬蹄形に検出され、さらに配石遺構、集石遺構、焼土跡の遺構が広場を取り囲んで検出され、その外側に溶岩帯の自然地形が見られ、さらにその東方にも縄文時代草創期の遺構が見出され、同時代の大規模な集落跡遺跡と考えられている。

3. 大鹿窪遺跡および遺物に付着する炭化物の年代：

遺跡の調査の担当者が採集した大鹿窪遺跡の 7 号堅穴状遺構内炭化物および 52 号土抗の隆起線文土器付着炭化物を採取することができた。そこで、それらの年代測定を(株)地球科学研究所に依頼し、AMS - Standard Analysis により、それぞれ、10910 ± 60yBP (H 14. 7. 3)、および 11390 ± 50yBP (H 14. 10. 7) の 14 C 年代が得られた。

4. 遺跡周辺の溶岩とその年代:

遺跡の発掘調査によって直下の芝川溶岩流も各所で姿を現したが、前述したように、この付近は地形的に南側が塞がれているので溶岩流の末端付近にあたることになり、ゆるやかな溶岩の凹凸地形となっていて、何れも表面は縄状溶岩を示し、南へ、あるいは南西へ流れる末端近くの様子が見られる(写真2)。これらの溶岩のうち、大鹿窪遺跡3-1調査区と3-3E調査区に見られる溶岩と西方の芝川河岸で採取した溶岩は、富士常葉大学の佐野貴司博士の鑑定によると、いずれも ol, pl, cpx, opx (カンラン石、斜長石、単斜輝石、斜方輝石)を斑晶としてもつ芝川溶岩流 SW 1で、SW 2、SW 3とは明らかに異なっている。この芝川溶岩流 SW 1は芝川沿いではさらに南流して富士川本流にはいり、より下流の富士川沿岸にも露出して見られる。富士山は新富士火山の初期 11,000 ~ 8,000 年前に、現在の山頂付近から、御殿場方面を除く四方八方に大量の玄武岩溶岩を流し、現在の富士山の裾野の形態をほぼつくったが、芝川溶岩流 SW 1は遺跡の推定噴出年代は 11000 ~ 10000yBP とされている(富樫ほか、1991)。また、富士川沿岸古田の浜石岳れき岩層、蒲原れき岩層が接する入山断層破砕帯は芝川断層の南方延長と考えられているが、そこでは 10,730 ± 90yB.P. (Gak-7392) の木片を含む粘土層が西側地盤の隆起によって大きく変化していたことが報告されている(山崎、1981)。このことは断層による変位がこの年代以降のおそらく沖積世にあったことを暗示している。

5. まとめ:

以上述べてきたように、芝川大鹿窪遺跡の隆起線文土器着炭化物から 11,390 ± 50yBP の 14 C 年代が得られたが、遺跡は古富士芝川溶岩流 SW 1 のほぼ直上から見出され、この溶岩とその周辺環境を生活の場としていたと思われるので、これまで同溶岩流の年代は火山灰層序などから 11,000 ~ 10,000 年 BP と推定されてきたが、富士山西側の火山灰堆積は東側のように多量かつ詳細に得ることは難しいので、溶岩の年代は上記炭化物の年代直前までさかのぼる可能性があると考えたい。

また、この芝川溶岩流 SW 1は遺跡の付近では南側が芝川溶岩流 SW 3 や古富士火山の丘で閉ざされているためか、末端近くのなだらかな凹凸のある形状を示し、パホイホイ溶岩に見られる縄状溶岩になっているので、堆積後しばらくすれば乾燥したやや固い地盤として生活には利用しやすかったとも考えることができる。また、近くに芝川の前身が流れ、富士山を眺めることが出来、富士山が火山活動したとしても火山灰の降灰は卓越する西風のために西側では少なく、溶岩流は古富士泥流の丘にさえぎられるだろうと考えれば、火山の近くとしては安全性の高い場所といえる。問題点としては 1つは、芝川溶岩流 SW 3 は SW 1 より古いと考えたが、より新しいとも考えられるので、その場合には富士山の火山活動の影響が遺跡の近くまで迫ってきたということになる。もう 1つは、両側を走る活断層の活動度であるが、これも地震に対して安定度の高い溶岩地盤を考えれば、起こったとしてもそれほど震点にはならなかったかも知れない。これらの点については今後の研究の進展によって当時の生活の状況との関連性が明らかになることを期待したい。

【文献】

- 富樫茂子・宮地直道・山崎晴雄 1991 新富士火山初期の大きなソレライトマグマだまりにおける結晶文化。火山, v.36 (2), p.269-280。
土 隆一編 1995 芝川町芝川流域の水環境。芝川町, p.84。
土 隆一編 2002 静岡県地質図 1:200,000 改訂版および同説明書, 静岡県・内外地図館
津屋弘達 1971 富士山の地形・地質。富士山, 富士山総合学術報告書, 富士急行㈱, p.1-73。
山崎晴雄ほか 1981 駿河湾北岸部における活断層の地質学的研究。東海地震の地震予知に関する総合研究報告書, 科学技術庁研究調査局, p.179-207。



図1 大鹿窪遺跡周辺の地形図

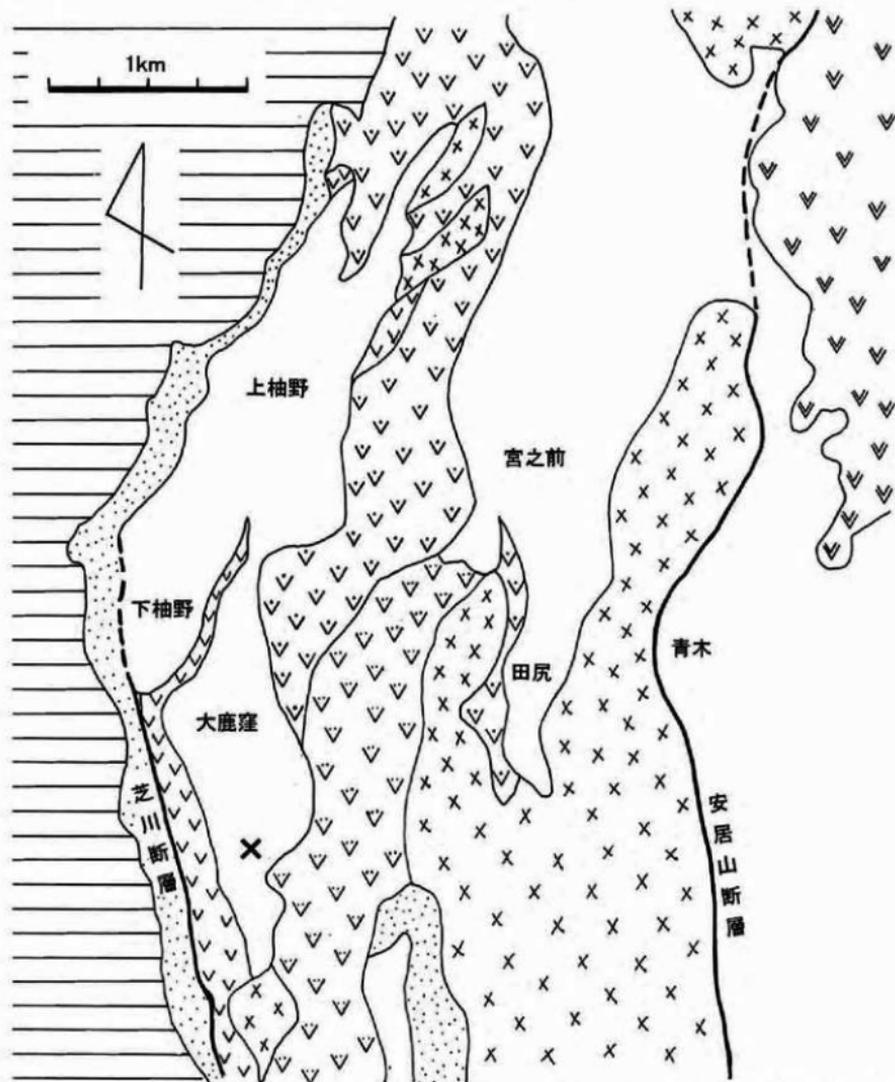


図2 大鹿窪道路周辺の地質図(津屋, 1971から作成)



写真1 芝川溶岩SW3の丘の上から北方を望む
手前が大鹿窪遺跡発掘調査現場と水田、向こう側に見える山地が天守(天子)山地



写真2 大鹿窪遺跡3-1調査区中央部の芝川溶岩流
溶岩表面の縄状の彫筋から末端部にあたり南(手前側)への流路を示す

大鹿窪遺跡・窪B遺跡に堆積するテフラについて

静岡県立大仁高等学校

増島 淳

目 的

本遺跡には新富士火山の基底溶岩上に、およそ2mのテフラが堆積している。(図1) マサ状の大沢スコリア層から溶岩直上にかけてサンプリングを行い、11試料を得た。(図2) これらの重鉱物組成を調べることによりテフラの主たる供給源を特定し、またカワゴ平バミスや鬼界赤赤火火山灰の堆積層を確認することを目的とした。

方 法

試料の分析は以下の方法で行った。

- 1 各試料を約100gずつ蒸発皿に取り、水を加え土壌粒子を洗い流す作業を繰り返し行い、砂粒鉱物を得る。
- 2 砂粒鉱物に希塩酸を加え、約10分間煮沸し、鉱物粒子のクリーニングを行う。
- 3 再度水洗いし、自然乾燥させた後、篩い分けにより105mm～250mmの粒子を得る。
- 4 3で得た粒子をカナダバルサムとキシレンの混液で加熱封入し、検鏡試料とする。
- 5 検鏡試料は100倍の鉱物顕微鏡で重鉱物組成を中心に調べ、1試料につき重鉱物200粒以上を検鏡し、No.3～No.7については火山ガラスの同定も行う。

結 果

1 肉眼観察結果

肉眼観察の結果は図1の柱状図に示しておいた。

- I層 最上部は、暫移帯も含め約40cmの褐黒色土からなり、スコリアが点在する。
耕作のため、表土層は削除されている。
- II層 層厚約30cmの暗褐色のスコリア帯、1～3mmの角の取れた発泡の悪いスコリア(大沢スコリア)なる。下部の暫移帯には白色の小粒子(カワゴ平バミス)が散在している。
- III層 厚約30cm強の極暗褐色土からなる。同層には2～3cmの溶岩片が点在し、上部には発泡したスコリアが散在している。
- IV層 約50cmの暗褐色土で下部ほど脱色している。上部には2～3mmの赤色スコリアが散在し、2～3cmの溶岩片も点在する。下部には明確な帯とはならないが2～5mmの赤色スコリアが多量に混入している。

2 検鏡結果

検鏡結果は図2と表1に示しておいた。

テフラの主たる供給源

重鉱物組成では全試料ともに、カンラン石に圧倒的に富み両輝石(斜方輝石と単斜輝石)がこれに次ぐ特徴で共通していることから、主たる供給源は富士火山である。

大沢スコリア層(Os)

肉眼観察において、約30cmのマサ状の大沢スコリア層が観察された。供給源は新富士火山の中央火口付近とされている。時代は約3,000年前である。

カワゴ平バミス層(KgP)

本遺跡の乾いた露頭を丁寧に観察すると1～2 mmの白色粒子が散在するのが肉眼でも観察できる。検鏡結果ではNo.2試料にカワゴ平バミス起源の重鉱物量（斜方輝石・角セン石・磁鉄鉱に火山ガラスが付着している）のピークが認められた。層位的には大沢スコリア層直下の暫移帯にあたる。供給源は天城火山の棚火口カワゴ平で、時代は約3,000年前、大沢スコリアの噴出直前である。

鬼界赤ホヤ火山灰（K-A h）

鬼界赤ホヤ火山灰の層位は肉眼観察では確認できない。No.3～No.7の試料から作ったプレバート全体に含まれている火山ガラスの同定結果を表1に示しておいたが、No.5で2点の鬼界赤ホヤ火山灰起源の火山ガラス（板状でやや褐色がかった）が検出された。本遺跡においてNo.5の層位には縄文早期土器が包含されており、鬼界赤ホヤ火山灰の噴出時代が約6,300年前、縄文早期～前期であることと矛盾しない。

3 その他の特徴

大沢スコリア層の下位に堆積する極暗褐色の上部に発泡の良いスコリアの散在帯がある。層位的には、富士宮市の千居遺跡において縄文中期の遺物を覆う千居スコリア層の可能性が高い。同じく同層下部の極暗褐色土が富士山東麓に一般的に分布する富士黒土層に当たるのだろう。

最下部の暗褐色土層には、カワゴ平バミス中の角セン石とは異なる特徴の角セン石が検出されるが、これは愛鷹ローム層の富士黒土層下部から休場層上部にかけて検出される角セン石と同一起源のものと思われる。

【文献】

- 1 町田 洋 1996 小山町史第6巻 自然編 小山町
- 2 増島 淳 1978 富士・愛鷹山麓の火山灰層と先史時代遺跡の関係 静岡地学第38号 静岡地学会
- 3 同 1986 富士市及びその周辺地域に堆積するローム層 富士市の自然 富士市

芝川町 ローム層の重厚物組成

		ol	opx	gopx	cpx	cho	oho	gho	op	gop	ep	合計	kgp鉱物量	kgp	火山ガラス量
No.1	68	82	4	40	0	0	1	4	1	0	0	200	3.0%		
No.2	109	108	16	44	1	0	0	8	2	1	289	6.2%			
No.3	168	22	5	23	1	0	1	5	0	1	226	2.7%	12	0	0
No.4	153	27	2	25	0	0	0	5	0	0	212	0.9%	21	0	0
No.5	131	28	1	46	1	0	0	2	0	0	209	0.5%	22	2	0
No.6	136	22	2	50	0	0	1	2	0	0	213	1.4%	7	0	0
No.7	76	31	0	92	0	1	0	4	0	0	204	0.0%	2	0	0
No.8	132	34	0	59	3	0	0	4	0	1	233	0.0%			
No.9	163	18	0	48	5	0	0	8	0	0	242	0.0%			
No.10	153	29	0	35	2	0	0	4	0	0	223	0.0%			
No.11	160	20	0	37	0	0	0	3	0	0	220	0.0%			

ol=カンラン石 opx=斜方輝石 gopx=絹絲輝石 cho=普通角閃石 oho=普通角閃石 ghо=高北角閃石 op=不透明鉱物 ep=綠輝石 kgp=緑泥石

表1 大鹿窪遺跡・黒石遺跡ローム層重厚物組成表

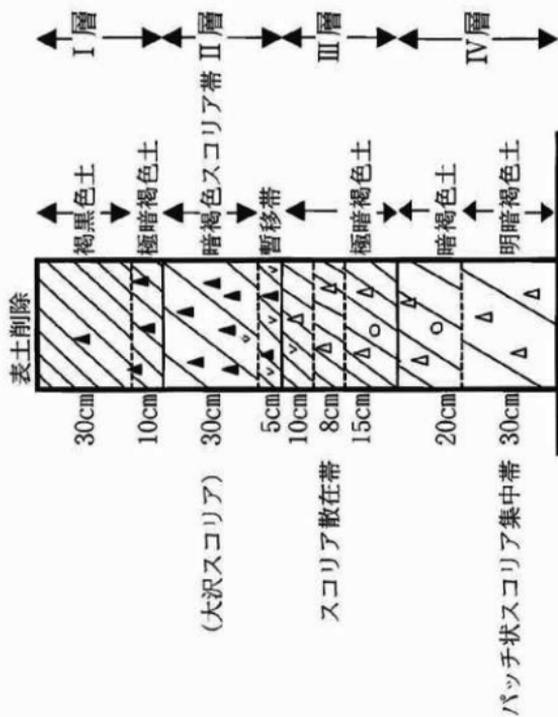


図1 大野証遺跡・家B遺跡土層状況

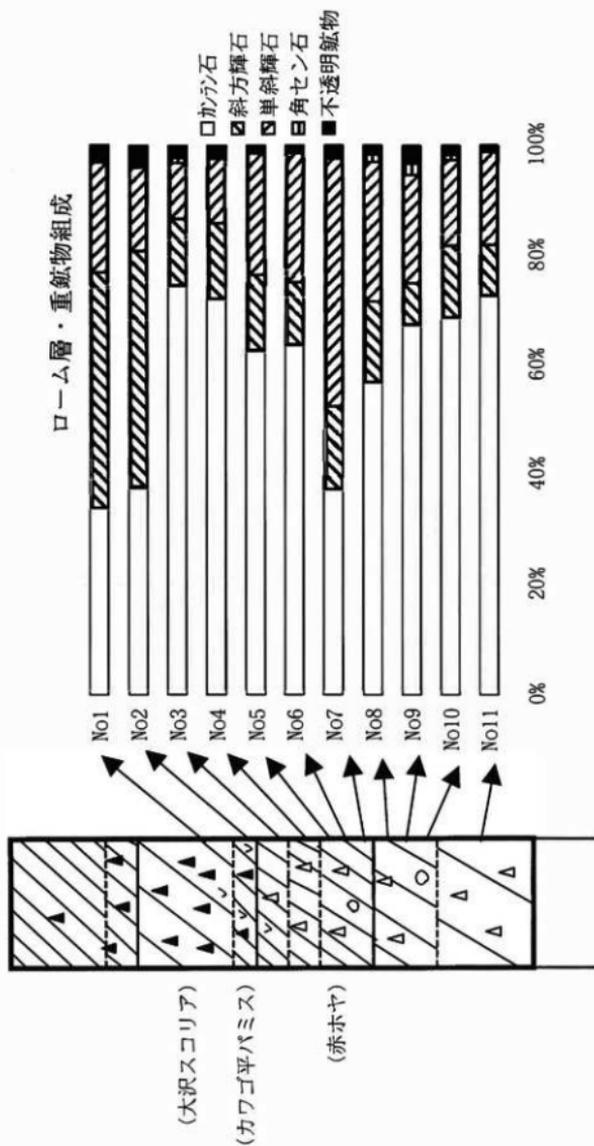


図2 大塚窪遺跡・窪田遺跡ローム層重鉱物組成グラフ

年代測定分析の結果

本遺跡の遺構・遺物の年代を知る科学的方法として炭素14年代測定法を使用した。

分析の方法

測定方法はAMS（加速器質量分析）による液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法による。

14C年代は試料14C/12C比から、リビーの半減期5568年を使用して、単純に1950年ADから何年前BPを計算している年代である。

補正14C年代は試料の炭素同定比（13C/12C）を測定して試料の同位体分別を知り、14C/12Cの測定値に補正を加えた上で、算出した年である。

暦年代は年代概値の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代比の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出したものである。

年代分析結果の概要（表1）

年代測定結果の概要は表1を参照されたい。

① 52号土坑出土土器付着炭化物

この試料は土坑内出土した隆起線文土器に付着していた炭化物から年代を測定した。従来の年代で11380±50年が得られている。この年代はキャリブレーション曲線年代では13400年前になる。

土器は従来の型式年代観は縄文時代草創期前半代の隆帯文土器である。この土器に付着していた炭化物は分析者の推定で食物滓であるとされた。

② 7号竪穴状遺構内出土炭化物

この試料は7号竪穴状遺構から出土した炭化物から年代を測定した。従来の年代で10940±60年が得られている。この年代はキャリブレーション曲線年代では12960年前になる。

この竪穴状遺構からは縄文時代草創期の押圧縄文土器が出土している。

③ 5号竪穴状遺構内出土炭化物

この試料は5号竪穴状遺構から出土した炭化物から年代を測定した。従来の年代で10890±40年が得られている。

この竪穴状遺構からは縄文時代草創期の押圧縄文土器が出土している。

④ 3号焼土跡出土炭化物

この試料は3号焼土跡から出土した炭化物から年代を測定した。従来の年代で7590±40年が得られている。

この焼土跡は縄文時代早期の遺構で、この包含層からは縄文時代早期の条痕文土器を中心に出土している。

課題

これの年代は縄文時代草創期と早期の従来分析・考察された年代を多くの点で一致している。

以上の点を踏まえ、従来の分析と今回の分析結果と遺物編での遺物分析のなかで考察する。

（小金澤）

資料No.	通稱名	内 容	14C年代	δ 13C	補正年代	暦年代				
						2 Sigma	95%確率	1 Sigma	68%確率	キャリブレーション曲線年代
Beta-167672	52号土坑	隆誌雄文土器付燐炭化物	11380±50	-24.1	11380±50	13780-13680	13490-13150	13760-13700	13470-13160	キャリブレーション曲線年代 13400
Beta-167428	7号型穴状遺構	燧土炭化物	10940±60	-26.7	10910±60	2 Sigma	95%確率	1 Sigma	68%確率	キャリブレーション曲線年代 12960
Beta-170267	5号型穴状遺構	燧土炭化物	10890±40	-27.2	10850±40	7.50%	64.80%	23.00%		
Beta-167428	9号燧土器	燧土炭化物	7590±40	-25.7	7580±40	0.40%	92.10%	0.60%	2.40%	